上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅱ

推定 上野国府

～平成24年度調査報告～

2013.12

前橋市教育委員会

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅱ
推定 上野国府
～平成24年度調査報告～
前橋市教育委員会

推定上野国府

～平成24年度調査報告～

墨書土器「大館」
（元総社蒼海遺跡群(26) 2010より）

2013．12

前橋市教育委員会

1　13トレンチ　W－1号溝跡　全景（南から）

２　元総社蒼海遺跡群（35）出土　螺旋状暗紋を有する坏形土器

３　元総社蒼海遺跡群（33）出土　高盤形土器

はじめに

前橋市の総社・元総社地区周辺は、宝塔山古墳や蛇穴山古墳をはじめ山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺などの諸施設が立ち並ぶ古墳時代から律令期にかけての上野国の中枢地域と考えられ、上野国府もその一角にあったと推定されています。

国府とは、律令制の下、各国ごとに置かれた国の役所で、特に上野国府は平安時代の中頃に起きた平将門の乱の舞台となるなど、記録にも度々その名前が登場します。しかしながら、その中心施設の国庁の位置や、国府域の範囲など、その内容については、詳しいことが分かっていません。

この問題を解決し、後世にわたり保存・活用するための基礎的な資料を得るために文化庁、群馬県教育委員会の指導を受け、すでに調査が終了した山王廃寺の調査委員会を「上野国府等調査委員会」として検討課題を変更し、毎年検討会を開催しながら、平成23年度から５カ年計画で継続的な確認調査を行うことになりました。

今回、上梓する報告書は、その２ヵ年目の調査内容をまとめたものです。今回の報告では、上野国府推定案のうち１ヵ年目とは違う推定案で実施された調査内容を報告することとあわせて、これまで国府推定地周辺で実施された発掘調査で出土した国府に関連すると考えられる遺物について、さらに詳しくまとめ、上野国府を考えていく上での参考資料としたものです。

最後に、本事業の推進にあたり、国・県・市の関係各位のご理解とご協力に対して深く感謝する次第です。また、地元の元総社町各自治会をはじめ土地所有者の皆さんからも全面的な協力をいただくことができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成25年12月

前橋市教育委員会
教育長　佐　藤　博　之

例　　言

1．本報告書は、上野国府等範囲内容確認調査計に基づき、５ヵ年の調査計画（平成23～27年度）の２年次調査として、平成24年度に実施した発掘調査の報告書である。

2．遺跡は群馬県前橋市元総社町2115番地１号ほかに所在する。

3．発掘調査は、上野国府等調査委員会の指導のもと前橋市教育委員会が実施した。調査の要項は以下のとおりである。

①発掘調査期間　　平成24年７月２日～平成25年２月８日

②整理・報告書作成期間　　平成25年２月４日～平成24年３月31日

③調査組織（平成24年度）

上野国府等調査委員会

⑴　委員会

委員長　松島榮治（前橋市文化財調査委員）

副委員長　須田　勉（国士舘大学文学部教授）

委　　員　林部　均（国立歴史民俗博物館准教授）、阿久津宗二（前橋市文化財調査委員）、梅澤重昭（同）、井上唯雄（同）、右島和夫（群馬県文化財保護審議会委員）

幹　　事　高島英之（群馬県教育委員会文化材保護課文化財活用係主幹）、石田　真（同埋蔵文化財係指導主事）、関口久美（前橋市教育委員会管理部長）、角田文明（同総務課長）、能登　健、松村親樹

顧　　問　佐藤博之（前橋市教育委員会教育長）

指　　導　文化庁文化財部記念物課文化財調査官
西田健彦（群馬県教育委員会文化財保護課長）

⑵　調査部会

幹　　事　松田　猛（高崎市立倉渕川浦小学校長）、田中広明（埼玉県埋蔵文化財調査事業団主査）、出浦　崇（伊勢崎市教育部文化財保護課埋蔵文化財担当主査）

⑶　事務局（担当課　前橋市教育委員会文化財保護課）

課長(幹事)　松村親樹　　文化財整備指導員　能登　健

課長補佐　小島純一（兼文化財保護係長）、前原　豊（兼埋蔵文化財係長）

係　　員　岩丸展久、藤坂和延、並木勝洋、福田　貫之、阿久澤智和

④発掘・整理担当者　阿久澤智和、並木勝洋、寺内勝彦

4．本書の編集は阿久澤・並木・寺内が行った。原稿の執筆分担は下記のとおりである。

第１章…阿久澤智和・並木勝洋・寺内勝彦　　第２章…眞下　晃、阿久澤智和

5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

石倉稔夫、石原由紀、大木伸二、岡田三津子、下平勇樹、小畑憲治、佐藤修、瀧上政信、武井洋子、竹内　恵、田辺　昇、髙澤京子、多田啓子、津久田奈津美、仲野正人、奈良啓子、橋本ちづる、星野和子、町田敏彦、真庭武志、山田哲也、矢島　忠

6．発掘調査にあたり、松田充雄氏、宮下雅夫氏、礒田ハルヱ氏、宮下博雄氏、都木勝夫氏の土地を借用した。

7．調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導・御協力があった。

文化庁記念物課、群馬県教育委員会文化課

阿久津宗二、出浦　崇、井上唯雄、須田　勉、都木勝夫、都木周彌、田中広明、松島榮治、松田　猛、右島和夫

8．発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の１：200,000地形図（宇都宮、長野）、１：50,000地形図（前橋）を使用した。

3．本遺跡の略称は、24A147である。略称の後に枝番を付し、トレンチ番号を示した。

4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ…古墳～奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｂ…建物跡　　Ｗ…溝跡

Ｄ…土坑　　Ｐ…ピット・柱穴・貯蔵穴　　Ｏ…落ち込み

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構　　全体図・遺構配置図…１：100、１：200などを適宜用いた

遺構断面図…１：60　　住居跡…１：60（竈…１：30）　　溝…１：60、１：80などを適宜用いた。

遺物　　土器…1/3・1/4

6．計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。

7．遺物観察表については、以下のとおり記述した。

①層位は遺構出土の場合、「床直」・「底面」：遺構底面より10cm未満の層位からの検出、「覆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。

②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。

③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、基本的に極良・良好・不良の三段階とした。ただし、須恵器について酸化焔焼成によるものは「酸化焔」と記載した。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帳』（小山・竹原1967）によった。

8．遺構平面図の－－－－は推定線を表し、－‐－‐－は堅緻面の範囲を表す。

9．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。特別な場合は図版ごとに凡例を設けた。

遺構平面図　　版築…　　粘土分布…　　炭化物分布…　　灰分布…

遺構断面図　　構築面…　　版築…

遺物実測図　　須恵器断面…　　煤付着…

10．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　　次

第１章　平成24年度発掘調査

Ⅰ　調査に至る経緯……1

Ⅱ　遺跡の位置と環境……1

1　遺跡の立地……1

2　歴史的環境……3

Ⅲ　調査方法と経過……6

1　調査方法……6

2　調査経過……8

Ⅳ　基本層序……9

Ⅴ　遺構と遺物……10

1　各トレンチの概要……10

2　各トレンチの検出遺構……13

Ⅵ　ま と め……34

1　成果について……34

2　今後の課題……35

第２章　上野国府に関連する主要遺物の分布について……37

Ⅰ　上野国府に関連する主要遺物の分布について……37

1　集成作業について……37

2　各主要遺物の分布について……37

3　まとめ……39

Ⅱ　上野国府関連遺物分布図……40

Ⅲ　既出資料集成……62

挿図目次

Fig. 1　推定上野国府位置図……2
Fig. 2　周辺遺跡……5
Fig. 3　２m小グリッドの呼称……6
Fig. 4　グリッド設定図と平成24年度調査区……7
Fig. 5　基本層序模式図と各トレンチ土層柱状図……9
Fig. 6　各トレンチ全体図(1)……11
Fig. 7　各トレンチ全体図(2)……12
Fig. 8　８トレンチ各遺構……20
Fig. 9　８・９トレンチ各遺構……21
Fig.10　９・10トレンチ各遺構……22
Fig.11　10・11・12トレンチ各遺構……23
Fig.12　12・13トレンチ各遺構……24
Fig.13　13トレンチ各遺構……25
Fig.14　13トレンチ各遺構……26
Fig.15　13・14・15トレンチ各遺構……27
Fig.16　15トレンチ各遺構……28
Fig.17　16トレンチ各遺構……29
Fig.18　各トレンチ出土遺物(1)……30
Fig.19　各トレンチ出土遺物(2)……31
Fig.20　螺旋状暗紋を有する坏形土器の分布図……40・41
Fig.21　盤・高盤形土器の分布図……42・43
Fig.22　須恵器長頸瓶の分布図……44・45
Fig.23　墨書土器の分布図……46・47
Fig.24　文字瓦の分布図……48・49
Fig.25　硯の分布図……50・51
Fig.26　腰帯具の分布図……52・53
Fig.27　緑釉陶器の分布図……54・55
Fig.28　青磁、白磁、三彩、銅椀の分布図……56・57
Fig.29　特殊金属製品の分布図……58・59
Fig.30　その他貴重遺物の分布図……60・61
Fig.31　螺旋状暗紋を有する坏形土器(1)……62
Fig.32　螺旋状暗紋を有する坏形土器(2)……63
Fig.33　螺旋状暗紋を有する坏形土器(3)……64
Fig.34　螺旋状暗紋を有する坏形土器(4)……65
Fig.35　螺旋状暗紋を有する坏形土器(5)……66
Fig.36　螺旋状暗紋を有する坏形土器(6)……67
Fig.37　螺旋状暗紋を有する坏形土器(7)……68
Fig.38　螺旋状暗紋を有する坏形土器(8)……69
Fig.39　螺旋状暗紋を有する坏形土器(9)……70
Fig.40　螺旋状暗紋を有する坏形土器(10)……71
Fig.41　螺旋状暗紋を有する坏形土器(11)……72
Fig.42　盤・高盤形土器(1)……73
Fig.43　盤・高盤形土器(2)……74
Fig.44　盤・高盤形土器(3)……75
Fig.45　盤・高盤形土器(4)……76
Fig.46　盤・高盤形土器(5)……77
Fig.47　盤・高盤形土器(6)……78
Fig.48　盤・高盤形土器(7)……79
Fig.49　盤・高盤形土器(8)……80
Fig.50　盤・高盤形土器(9)……81
Fig.51　盤・高盤形土器(10)……82
Fig.52　盤・高盤形土器(11)……83
Fig.53　盤・高盤形土器(12)……84
Fig.54　盤・高盤形土器(13)……85
Fig.55　盤・高盤形土器(14)……86
Fig.56　硯(1)……87
Fig.57　硯(2)……88
Fig.58　硯(3)……89
Fig.59　腰帯具（石・金属）(1)……90
Fig.60　腰帯具（石・金属）(2)……91
Fig.61　緑釉陶器(1)……92
Fig.62　緑釉陶器(2)……93
Fig.63　緑釉陶器(3)……94
Fig.64　緑釉陶器(4)……95
Fig.65　緑釉陶器(5)……96
Fig.66　緑釉陶器(6)……97
Fig.67　緑釉陶器(7)……98
Fig.68　緑釉陶器(8)……99
Fig.69　緑釉陶器(9)……100
Fig.70　緑釉陶器(10)……101
Fig.71　緑釉陶器(11)……102
Fig.72　緑釉陶器(12)……103
Fig.73　緑釉陶器(13)……104
Fig.74　緑釉陶器(14)……105
Fig.75　緑釉陶器(15)……106
Fig.76　三彩・銅椀……107

表　目　次

Tab. 1　各トレンチの面積と調査目的 ……6
Tab. 2　調査経過表 ……8
Tab. 3　土坑・ピット・落ち込み計測表……32
Tab. 4　遺物観察表……33

図 版 目 次

【巻頭図版】

1　13トレンチW―１号溝跡全景（南から）
2　元総社蒼海遺跡群（35）出土
　螺旋状暗紋を有する坏形土器
3　元総社蒼海遺跡群（33）出土　高盤形土器

【遺　構】

PL. 1　8トレンチ
2　8・9・10トレンチ
3　10・11トレンチ
4　12・13トレンチ
5　13トレンチ
6　13トレンチ
7　13・14・15トレンチ
8　15・16トレンチ、調査風景

【遺　物】

PL. 9　各トレンチ出土遺物

第１章　平成24年度発掘調査

Ⅰ　調査に至る経緯

前橋市の元総社・総社地区は総社古墳群、山王廃寺、上野国分僧寺・尼寺等が存在し、古代上野国の中心地として栄えた地域である。また、上野国府についてもこれまでの研究で元総社町付近に設置されていたと考えられている。こうした歴史的な環境をふまえて、前橋市教育委員会では元総社・総社地区の歴史遺産を有機的に関連付けた保存・活用を目指し、平成18年度から22年度までの５年間山王廃寺の範囲内容確認調査を実施し、伽藍配置の解明等の成果を収めることができた。その一方で元総社町では元総社蒼海土地区画整理事業の進行にともない発掘調査を継続してきたが、存在が推定される上野国府に関連する遺構の確認には至っていなかった。区画整理事業が進行していく中で上野国府の実態について早急な解明が急務となったことから、平成23年度から５ヵ年計画で上野国府等範囲内容確認調査が計画され、実施されるに至った。

平成23年度の調査では、国庁推定地Ａ案の内容確認を目的として、９ヶ所にトレンチを設定し309㎡調査した。調査の結果、国庁に直接関連した遺構の確認には至らなかったが、６トレンチで古代の大溝が検出された。

平成24年度の調査では、国庁推定地４案のうちＣ案（宮鍋神社の南）の内容確認を中心に、６トレンチ検出の古代の大溝の延長の確認や総社神社西側周辺での内容確認調査を実施した。宮鍋神社は、総社神社の故地の伝承を持ち、酷似した名称の神社が武蔵・下野国府に存在することから、宮鍋神社と上野国府との関連が考えられてきた。また宮鍋神社の南は平坦な地形となっていることが、この付近を国庁推定地Ｃ案とした理由の１つである。なお、宮鍋神社の北東で、元総社宅地遺跡23トレンチとして平成12年度に発掘調査が実施されているが、その際に古墳時代と平安時代の集落のほか掘立柱建物と古代の溝が検出されている。

その他に、区画整理区域内に設定した国庁推定地４案以外にも、元総社町内では人形や「国厨」「曹司」などの墨書土器が出土するエリアや、緑釉陶器が多く出土するエリアなど、国府関連施設の存在を想定させる地点が存在する。こうしたことも踏まえ、これまで調査を実施していなかった区画整理区域外での内容確認調査が必要となり、総社神社西側付近でも内容確認調査を実施した。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３㎞の地点、前橋市元総社町地内に所在している。西側は関

Fig. 1　推定上野国府位置図

越自動車道が南北に走り、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、総社古墳群、山王廃寺、上野国分僧寺・尼寺のほか、蒼海城跡があり、歴史的環境に優れている。また継続して実施されている埋蔵文化財発掘調査によって新しい知見が集積されている。

縄文時代　縄文時代の遺跡としては、上野国分僧寺・尼寺中間地域や元総社蒼海遺跡群で前期・中期の集落跡が検出されているほか、元総社蒼海遺跡群（9）で晩期の住居が検出されている。

弥生時代　弥生時代の遺跡は、水田・集落跡等が検出された日高遺跡のほか、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけで少ない。

古墳時代　古墳としては総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を構成する主な古墳としては、前方後円墳の遠見山古墳、川原石を用いた積石塚の王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室と石棺をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳終末期の方墳である宝塔山古墳や蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには、平成18年度から５ヵ年計画で実施した範囲内容確認調査の結果、約80m四方を回廊で囲み、講堂・金堂・塔が法起寺様式で伽藍配置された山王廃寺跡（放光寺）がある。山王廃寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺院を建立した氏族と宝塔山古墳・蛇穴山古墳の被葬者は同一の氏族と考えられている。この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、山王廃寺の下層で北西に主軸をもつ基壇建物や掘立柱建物跡が検出されているが、これらの建物は、寺院の変遷を考える上で重要なものと考えられている。

その他、古墳時代の集落は４世紀代と６世紀代を中心に展開しており、大屋敷遺跡や元総社蒼海遺跡群で集落が確認されている。元総社蒼海遺跡群では、牛池川沿いの低地で古墳時代の水田が検出されているほか、墓域や祭祀跡も確認されており、同時代の集落・生産域・墓域がそれぞれ展開していたことがうかがえる。

奈良・平安時代　奈良・平安時代になると、国分僧寺、国分尼寺が建立されるなど、本地域は古代の政治・経済・文化の中心地としての様相を呈する。大正15年に国指定史跡となった上野国分僧寺は昭和55年から本格的な調査を実施し、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認された。また上野国分尼寺は、昭和44・45年の調査で伽藍配置が推定できるようになり、さらに平成12年に実施された寺域確認調査によって東南隅と南西隅の築垣とそれに平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

なお、元総社地域には総社神社が鎮座するほか、上野国府が存在したことが推定されているが、掘立柱建物跡が元総社蒼海遺跡群、元総社小学校校庭遺跡で確認されている。これらの建物の性格については不明であるが、元総社町周辺で掘立柱建物が確認された事例が現在少ないことから、特筆される遺構である。また、国府推定域でも西に位置する鳥羽遺跡では、神社遺構とされる周囲に方形の溝をもつ掘立柱建物が存在するほか、大規模な工房跡も確認されている。また、牛池川沿いの元総社明神遺跡Ⅷと元総社寺田遺跡Ⅲでは、それぞれ人形が出土しているほか、元総社寺田遺跡Ⅲでは「国厨」「曹司」などの国府関連施設名が墨書された須恵器が出土している。その他に、国府との関連が指摘されるものとして大溝がある。この遺構は閑泉樋遺跡・元総社明神遺跡・元総社蒼海遺跡群等で確認されており、上野国府等範囲内容確認調査の平成23年度調査（１次）でも確認されている。これらの大溝は覆土上部に浅間Ｂ軽石を包含するという時期的な特徴をもち、規模も同様であることや、確認された地点が連続することから、一連のものと考えられる大溝も存在する。その規模から国府との関連性が検討さ

れている。天神遺跡・弥勒遺跡・元総社蒼海遺跡群の西寄りの調査地点どの染谷川周辺では緑釉陶器が多数出土するほか、銅椀等の遺物が出土する傾向が強いことが指摘されており、こうした点から国府に関連した何かしらの施設の存在がうかがえる。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、元総社町の南部にＮ―64°―Ｅ方向の東山道駅路（国府ルート）が存在したことが推定されている。その他に推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を北方へ延長したもので、これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

なお、こうした遺構のほかに、国庁をとりまく「国府」を構成すると考えられる当時の集落も確認されており、元総社町周辺では至るところで奈良・平安時代の住居跡が確認されている。また、こうした集落から「大館」の墨書土器などのほか、螺旋状暗紋を有する坏形土器や盤・高盤などの特殊な遺物も少なからず出土しており、その出土数は上野国内の周辺地域よりも多いことから、上野国府の周辺という地域性がうかがえる。

中世　中世に至り、永享元年(1429)、この地には上野国守護代の長尾氏によって蒼海城が築城されるが、この城は県内でも最古級の城郭に位置づけられるとあわせて県内初の城下町を形成したとも考えられている。現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測されるほか、元総社蒼海遺跡群の調査で青白磁梅瓶や青磁・白磁片が出土しているほか、蒼海城に関連する堀跡の検出も相次いでいる。

1．推定上野国府　2．上野国分僧寺跡　3．上野国分尼寺跡　4．山王廃寺　5．上野国分僧寺・尼寺中間地域
6．鳥羽遺跡　7．中尾遺跡　8．国分境遺跡　9．北原遺跡　10．下東西遺跡　11．稲荷山古墳　12．大小道山古墳
13．遠見山古墳　14．二子山古墳　15．愛宕山古墳　16．宝塔山古墳　17．蛇穴山古墳　18．王山古墳　19．大屋敷遺跡
20．閑泉樋遺跡　21．元総社蒼海遺跡群　22．元総社蒼海遺跡群(9)　23．推定上野国府6トレンチ　24．元総社明神遺跡Ⅷ
25．元総社明神遺跡Ⅰ・Ⅱ　26．元総社小学校校庭遺跡　27．元総社寺田遺跡　28．天神遺跡　29．弥勒Ⅱ遺跡
30．上野国分尼寺北辺遺跡　31．元総社西川・塚田中原遺跡　32．国府南部遺跡群　33．日高遺跡　34．推定東山道
35．日高道

Fig. 2　周辺遺跡

Ⅲ　調査方法と経過

１　調査方法

上野国府の範囲内容確認調査にあたっては国庁の推定地として４案を提示し、平成23年度はそのうちのＡ案の調査を行った。平成24年度はＣ案の範囲内と総社神社西方付近において合計９ヵ所でトレンチ調査を行った。総調査面積は705㎡である（Tab.１）。調査は、平成18年度から５ヵ年計画で実施した山王廃寺の調査の際に定めた調査基準を基に作成した「上野国府等範囲内容確認調査基準」に基づいて行った。以下、調査方法について要点を記す。

Tab.１　各トレンチの面積と調査目的

トレンチ	調査面積（㎡）	主な調査目的
8	140	Ｃ案の範囲確認
9	76	Ｃ案の範囲確認
10	64	Ｃ案の範囲確認
11	68	Ｃ案の範囲確認
12	40	Ａ案周辺（北西部）の範囲確認
13	140	Ｃ案周辺（北東部）の範囲確認
14	52	Ｃ案の範囲確認
15	80	総社神社西側における範囲確認
16	45	総社神社西側における範囲確認
計	705	

グリッド設定（Fig.３）　調査区のグリッド設定は以下のとおりである。①単位は４ｍ四方とする。②国家座標第Ⅸ系（旧日本測地系）を用い、Ｘ＝＋44.800、Ｙ＝－77.200を基点（Ｘ０、Ｙ０）とする。③西から東へ４ｍごとにＸの数値が増大し（Ｘ157、Ｘ158、Ｘ159……）、北から南へ４ｍごとにＹの数値が増大する（Ｙ44、Ｙ45、Ｙ46……）。④各グリッドの呼称基点は北西杭とする。

なお、このグリッド設定は、区画整理に伴い継続的に調査が行われている元総社蒼海遺跡群のグリッド設定と共通するものである。

トレンチ設定　各トレンチの設定幅については、これまで掘立柱建物の柱穴間隔を考慮して原則３ｍとしていたが、平成24年度の調査から４ｍ幅へと拡大した。トレンチ名は、原則として調査順に数字で呼称することとし、23年度からの通し番号とした。

遺構の確認　遺構確認については、基本層序Ⅰ層およびⅡ層直下で行い、その後、上野国府の遺構面が存在するⅢ層（Hr-FP・As-C混土層）を細分しながら確認することとした。遺構の確認にあたって、必要な場合はサブトレンチを設定することにし、サブトレンチの規模は遺構保護のため必要最小限とした。

測量　遺構平面図については縮尺１/20を原則とし、必要に応じて１/10～１/50の縮尺を適宜使用することとした。また、土層図についても縮尺１/20とし、遺構毎の図面とは別に、グリッド杭のあるトレンチ壁面ですべて作成することにした。

出土遺物の取り上げ　遺構毎を原則とし、遺構に属さない遺物は４ｍグリッド単位で記録を作成し取り上げることとした。なお、状況に応じて４ｍグリッドをFig.３のように４分割し、２ｍの小グリッド一括で取り上げた遺物もある。小グリッドの呼称は、北西から反時計回りでＡ～Ｄとした。なお現位置を保つ礎石等、施設を構成する遺物については、原則として現状保存することとした。

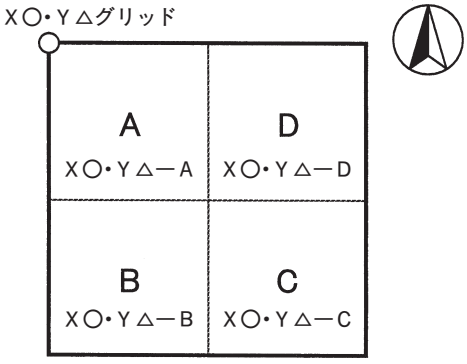


Fig.３　２ｍ小グリッドの呼称

写真撮影　遺構の写真撮影については、35㎜フィルム（モノクロ、カラーリバーサル）およびデジタルデータを常時使用した。また、必要に応じて６×９サイズフィルムを使用した。空中写真撮影には６×６サイズフィルムを使用した。

埋め戻し　調査終了後は、今後の調査と区別できるように石灰を散布してから埋め戻しをおこなった。

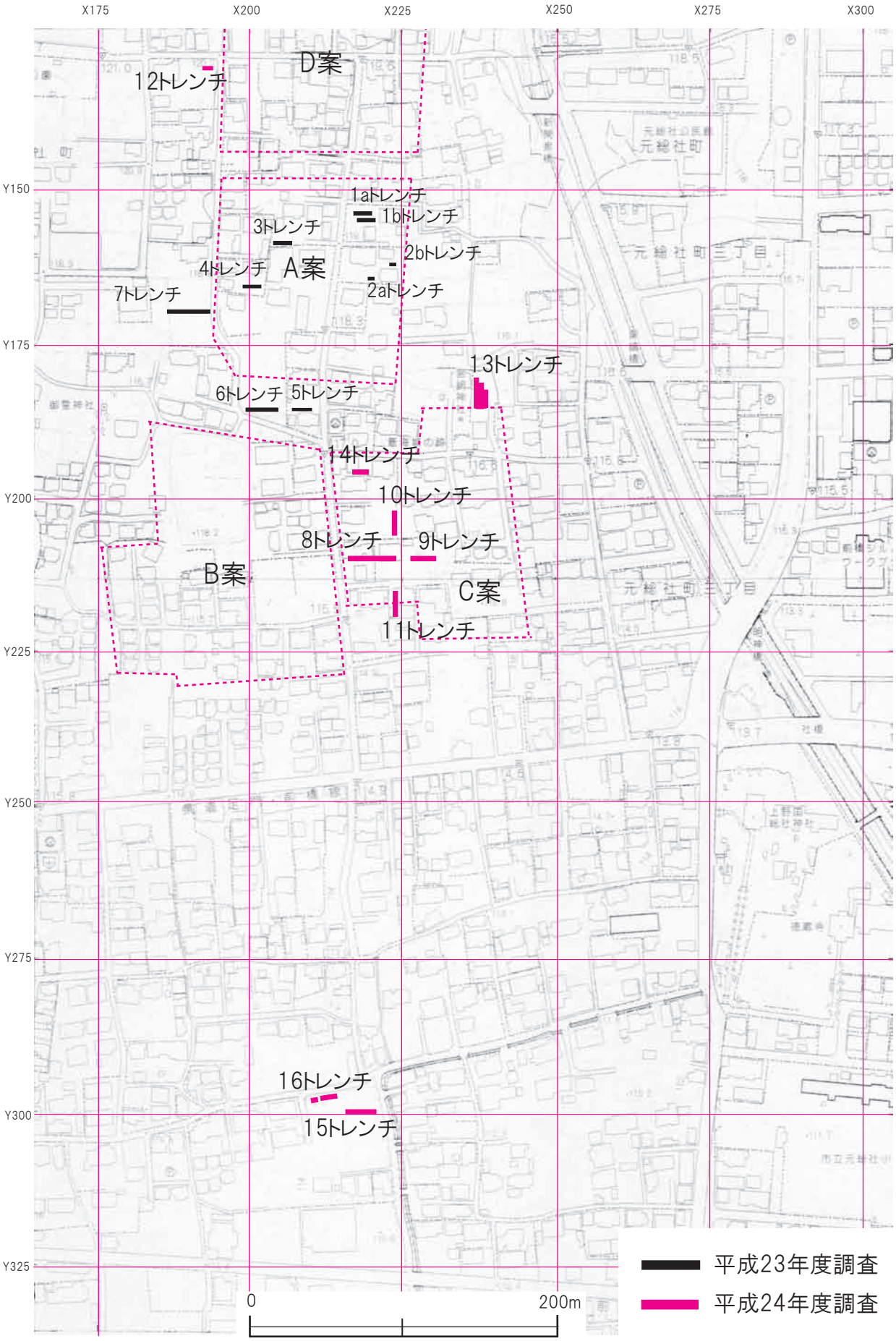
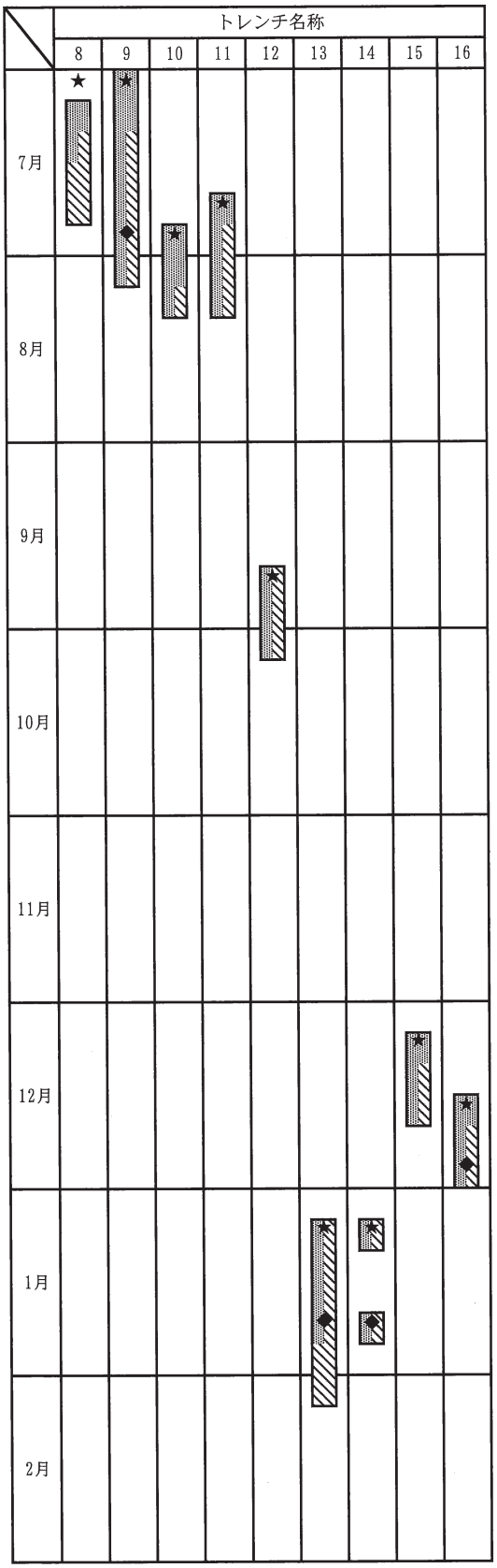


Fig. 4　グリッド設定図と平成24年度調査区

2　調査経過

本年度の調査は７月２日から開始し、２月８日に終了した。調査経過は、以下のとおりである。

Tab. 2　調査経過表



★　表土掘削　　◆　トレンチ拡張

グリッド設定・遺構確認・遺構掘下げ

写真撮影・図面作成

７月２日に８トレンチ、３日に９トレンチの表土掘削を行った。７月いっぱい両トレンチの遺構確認および掘下げを実施した。９トレンチから、古代の溝の可能性のある遺構が検出されたため、26日にトレンチの拡張を行った。25日に８トレンチの埋め戻しと併せて、11トレンチの表土掘削を行い、26日に10トレンチの表土掘削を行った。７月下旬から８月上旬にかけて10・11トレンチの遺構確認および掘り下げを実施した。８月10日、９・10・11トレンチの埋め戻しを実施した。

８・９・11トレンチにおいて検出された遺構は、溝・ピットが主体であり、これらは出土品や形状から中世に属すると考えられる。その他、古墳時代後期と考えられる住居跡が９トレンチで１軒、10トレンチで２軒検出された。

９月から他地域の発掘調査もすることになり、９月下旬から10月上旬にかけて、12トレンチのみ調査し、13・14・15・16トレンチは、12月以降の調査となった。

９月24日に12トレンチの表土掘削を行った。遺構確認および掘り下げを実施し、古墳時代の住居跡１軒、平安時代の住居跡１軒等を検出した。10月５日、埋め戻しを行った。

12トレンチ調査終了から、Ｃ案周辺を中心として調査地区の再度の選定を行い、有効な情報を得られると考えられる地点にトレンチを設定し、12月からの調査の準備をすすめた。

12月10日に15トレンチ、18日に16トレンチの表土掘削を行った。12月中下旬に遺構確認および掘り下げを実施し、27日に16トレンチの拡張を行った。両トレンチから、平安時代の住居跡７軒、中世の溝や井戸等を検出した。12月27日、15・16トレンチの埋め戻しを行った。

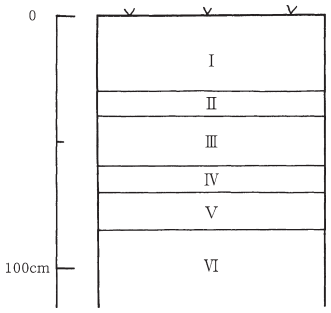
１月７日に13・14トレンチの表土掘削を行った。遺構確認および掘り下げを実施したところ、13トレンチ北端部に住居跡の存在が予想されたため、22日にトレンチの拡張を行った。同日、14トレンチも蒼海城の溝部分を少し拡張した。13トレンチから古墳時代後期、平安時代の集落・溝、14トレンチから溝１条を検出した。２月８日、13・14トレンチの埋め戻しを行い、今年度の発掘調査が終了した。

検出された遺構の詳細は、第Ⅵ節にて述べることとする。

Ⅳ　基本層序

調査は先述のとおり８から16トレンチまで設定して実施した。いずれのトレンチも牛池川の右岸段丘面上に立地しているが、８から14までのトレンチは平成23年度の調査を実施した各トレンチと同一の台地上に立地し、15・16トレンチは、東へ向かい傾斜する台地の東側斜面に立地する。

各トレンチの堆積状況は、国庁推定地Ｃ案の範囲内である８・９・11・14トレンチでは表土の直下が地山の総社砂層となっていた。しかし同じＣ案の範囲内に設定した10トレンチでは土層の乱れはあったが元総社地区における基本的な土層堆積は確認できた。12トレンチにおいては今回の調査地点で一番安定した土層堆積が確認できた。13トレンチでは当初調査区北及び東半分が盛土による造成が考えられたが、調査の結果、本来の地形であることが判明した。ただし、後述のとおり古墳時代から平安時代にかけて集落が形成されたためか、総社砂層への漸移層は確認できなかった。総社神社西側に位置する15・16トレンチでは、中世と考えられる造成により土層の堆積が乱れていた。また、地山の総社砂層が粘土化していた。



Ⅰ層		As-B 軽石が混入する耕作土・表土層。 混入量の多寡により、ａ（新）・ｂ（旧）に分けられる。 Ⅰａ層：灰黄褐色砂質土。現在の表土・耕作土 Ⅰｂ層：灰黄褐色砂質土。旧表土・耕作土。いわゆる As-B 混土層
Ⅱ層		As-B 軽石純層
Ⅲ層	暗褐色土	As-C、Hr-FP などの軽石粒を５～10％程度含む。 場所により粘性が変化する。（奈良・平安時代の遺物包含層）
Ⅳ層	黒褐色土	As-C を10～30％程度含む。場所により粘性が変化する。 この層上面で、古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構が確認しやすくなる。
Ⅴ層	総社砂層への漸位層	上部黒色土(a)から下へ行くにつれて、黄褐色土(b)へ漸位する。 場所によっては、黒褐色粘質土～褐色粘質土へ漸位する。
Ⅵ層	総社砂層	場所により色調・土質が異なり、黄褐色土でロームに近いところと、明褐色もしくは白色に近い色調を呈する粘質土のところがある。

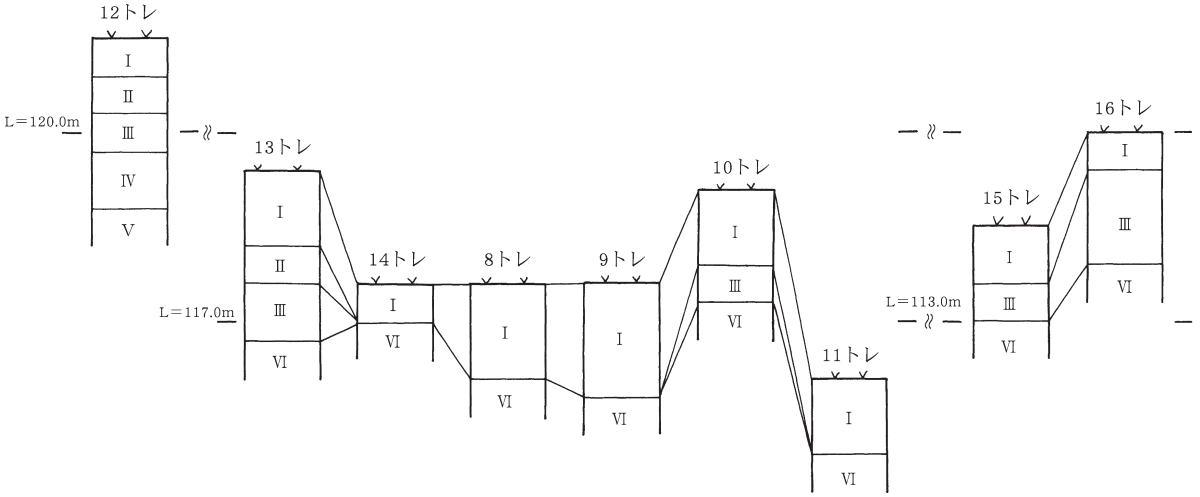


Fig. 5　基本層序模式図と各トレンチ土層柱状図

Ⅴ　遺構と遺物

１　各トレンチの概要

８トレンチ（Fg. 6 、PL. 1 ・ 2 ）

８トレンチは国庁推定地Ｃ案の内容を確認するため、東西35m、南北４ｍの140㎡の範囲を調査した。このトレンチにおいては溝が４条検出された。これらの溝の時期は中世と考えられるが縄張等では未確認の溝である。その他、井戸１基、土坑６基、ピット12基が検出された。

９トレンチ（Fig. 6 、PL. 2 ）

９トレンチは国庁推定地Ｃ案の内容を確認するため、当初東西17m、南北４ｍの規模であったが北東隅を拡張したため、最終的には範囲76㎡を調査した。調査地点は撹乱を受けていたが、６世紀の住居跡１軒、中世の溝２条が検出された。

10トレンチ（Fig. 6 、PL. 2 ・ 3 ）

10トレンチは国庁推定地Ｃ案の内容を確認するため、東西４ｍ、南北16ｍの64㎡の範囲を調査した。調査の結果、６世紀の住居跡２軒、８世紀の住居跡２軒、土坑２基、ピット１基が検出された。

11トレンチ（Fig. 6 、PL. 3 ）

11トレンチは国庁推定地Ｃ案の内容を確認するため、東西４ｍ、南北17ｍの28ｍの範囲を調査した。調査の結果、中世の溝１条、ピット３基が検出された。溝はその位置などから９トレンチで検出された溝の延長と考えられる。

12トレンチ（Fig. 7 、PL. 4 ）

12トレンチは国庁推定地Ａ案の北西部に位置し、平成23年度調査６トレンチで検出された古代の大溝の延長を確認するため東西10m、南北４ｍの40㎡を調査した。調査の結果、６世紀の住居跡１軒、10世紀の住居跡１軒、井戸２基、土坑１基、落ち込み１ヶ所が検出された。

13トレンチ（Fig. 7 、PL. 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ）

13トレンチは宮鍋神社周辺の内容を確認するため、東西24m、南北３ｍの140㎡を調査した。調査の結果、６世紀の住居跡３軒、平安時代の住居跡10軒、古代の溝１条、中世の溝１条、土坑１基が検出された。古代の溝は、ほぼ南北方向に走行を持つが、若干西へ湾曲している。遺構の重複関係から古墳時代以降で平安時代以前の溝と考えられる。

14トレンチ（Fig. 7 、PL. 7 ）

14トレンチは国庁推定地Ｃ案の内容を確認するため東西14m、南北４ｍの規模で一部拡張し合計52㎡を調査した。調査の結果、中世の溝１条が検出された。

15トレンチ（Fig. 7 、PL. 7 ・ 8 ）

15トレンチは総社神社西方の内容確認として東西20m、南北４ｍの80㎡を調査した。調査の結果、平安時代の住居跡３軒、溝１条、井戸２基、ピット12基のほか、中世の造成面を検出した。

16トレンチ（Fig. 7 、PL. 8 ）

16トレンチは総社神社西方の内容確認として東西15m、南北３ｍの45㎡を調査した。調査の結果、平安時代の住居跡４軒、溝２条、土坑１基、ピット５基が検出された。

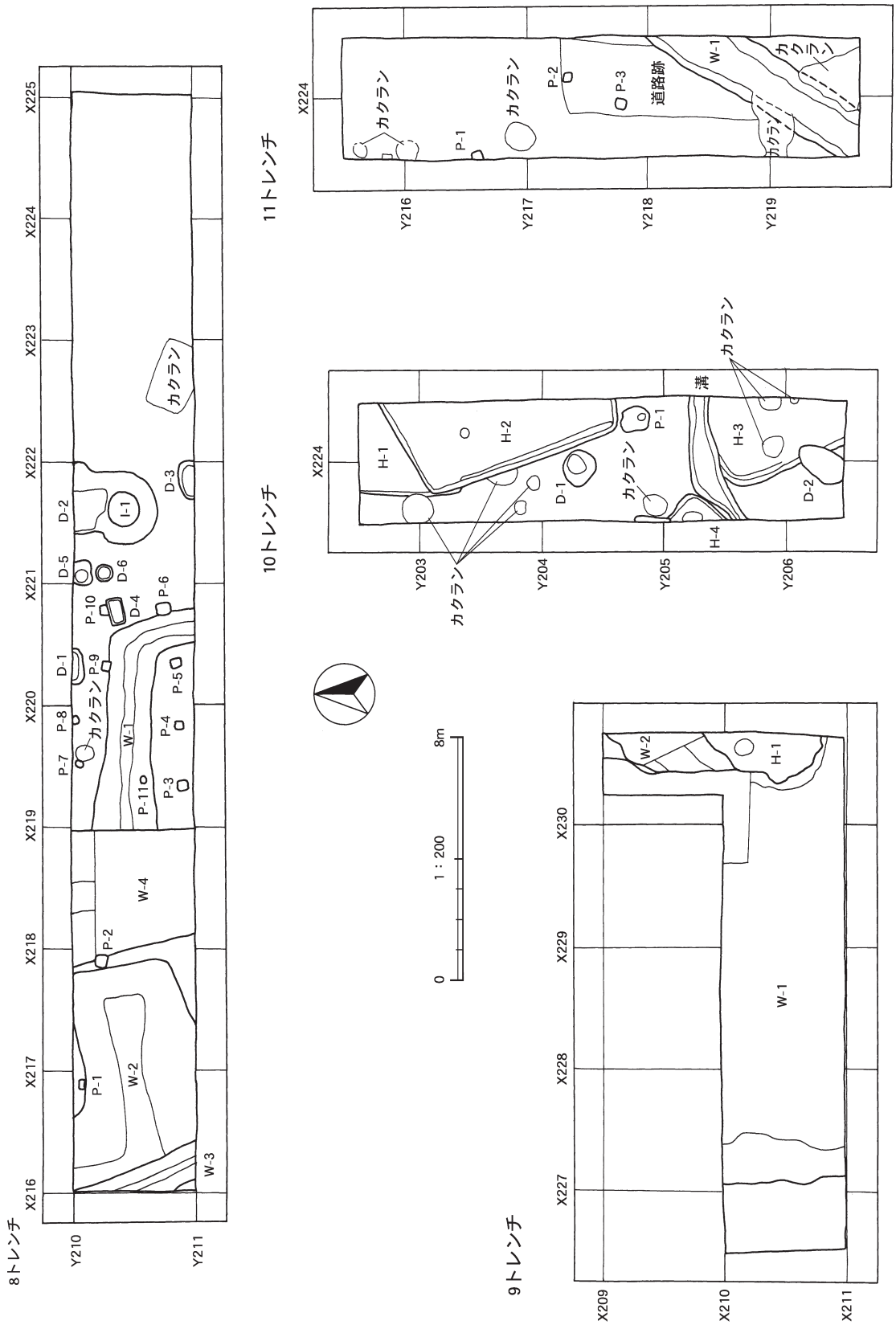


Fig. 6　各トレンチ全体図(1)

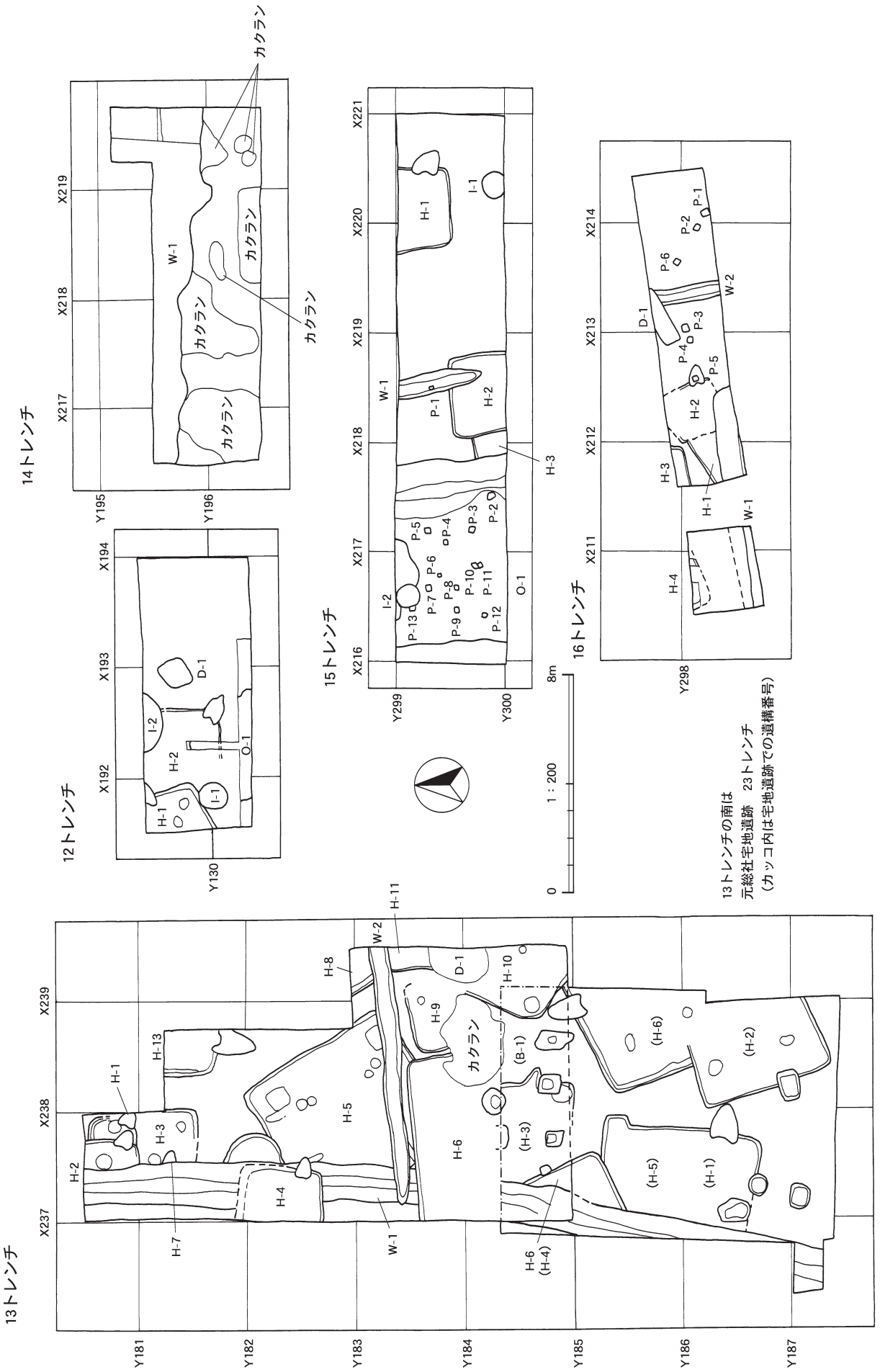


Fig.7　各トレンチ全体図(2)

2　各トレンチの検出遺構

8トレンチ

⑴　溝跡

W－1号溝跡（Fig. 8、PL. 1）

位置　X219･220、Y210グリッド。　**主軸方向**　N－90°－W。ただしX220でN－175°－Wの走行に曲がる。　**形状等**　長さ(8.9)m　最大深さ107㎝　最大上幅212㎝、最大下幅37㎝。断面は薬研状。　**重複**　W－4号溝跡と重複する。重複関係は本溝跡がW－4号溝跡より古い。　**出土遺物**　土師器片、須恵器片、軟質土器片、石臼片が出土。このうち茶臼は破損させた状態で覆土中から出土した。　**その他**　覆土最下部に炭が堆積していた。　**時期**　中世と推定される。

W－2号溝跡（Fig. 8、PL. 1）

位置　X216･217、Y210グリッド。　**主軸方向**　N－98°－E。ただしX219でN－10°－Wの走行に曲がる。　**形状等**　長さ(9.5)m　最大深さ143㎝　最大上幅(360)m、最大下幅70㎝。断面は逆台形。　**重複**　W－3号溝跡と重複する。重複関係は本溝跡がW－3号溝跡より古い。　**出土遺物**　土師器片、須恵器片、軟質土器片、石臼片、石鉢片が出土。　**時期**　中世と推定される。

W－3号溝跡（Fig. 8、PL. 1）

位置　X216、Y210グリッド。　**主軸方向**　N－20°－W。　**形状等**　長さ(4.3)m　深さ96㎝　最大上幅190㎝、最大下幅18㎝。断面は薬研状。　**重複**　W－2号溝跡と重複する。重複関係は本溝跡がW－2号溝跡より新しい。　**出土遺物**　軟質土器片、かわらけ。　**時期**　中世と推定される。

W－4号溝跡（Fig. 8、PL. 1）

位置　X218、Y210グリッド。　**主軸方向**　N－4°－W。　**形状等**　長さ(4.3)m　深さ233㎝　最大上幅453㎝、最大下幅65㎝。断面は薬研状。　**重複**　W－1号溝跡と重複する。重複関係は本溝跡がW－1号溝跡より新しい。　**出土遺物**　土師器、須恵器、軟質土器片、石臼片が出土。　**時期**　中世と推定される。

⑵　井戸跡

I－1号井戸跡（Fig. 9、PL. 8）

位置　X221、Y210グリッド。　**形状等**　南北1.1m×東西1.1mの円形で、平面形状が確認できる深さまで調査した。　**その他**　D－2号土坑と並んで存在する。覆土中に人頭大の川原石が含まれていた。　**時期**　状況から中近世以後と推定される。

⑶　土坑、ピット

土坑が6基、ピットが11基検出された。規模等については計測表（Tab. 3）に記載した。

9トレンチ

⑴　竪穴式住居

H－1号住居跡（Fig. 9、PL. 2）

位置　X230、Y209･210グリッド。　**主軸方向・形状等**　大半がW－1号・2号溝跡により破壊されており、床面の一部と貯蔵穴が1基確認されたのみ。主軸方向の詳細は不明だが、貯蔵穴の検出状況から北東方向と推定される。残存する床面の規模は東西(0.70)m、南北(0.90)m。　**床面**　砂層の地山に構築されているが堅緻面は未検出。　**竈**　東壁に存在することが推定されるが不明。　**重複関係**　W－1号・2号溝跡と重複する。重複関係は本住居が一番古い。　**出土遺物**　なし。　**時期**　検出状況から6世紀頃を考えたい。

⑵　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.10、PL.２）

位置　Ｘ217・218、Ｙ153～155グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－５°－Ｅ。ただしトレンチ南側付近で鍵の手に東へ曲がっていることが考えられる。　**形状等**　長さ(3.9)ｍ、最大上幅(1,307)㎝、部分的に地表から約３ｍ掘り下げたが、底部は確認できなかった。よって深さ及び断面形状等は不明。　**重複**　Ｈ－１号住居及びＷ－２号溝跡と重複する。重複関係はＨ－１号住居跡が一番古く、ついでＷ－２号溝跡、本遺構の順で古い。　**出土遺物**　なし。　**時期**　中世と考えられる。

Ｗ－２号溝跡（Fig.９、PL.２）

位置　Ｘ230、Ｙ210グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－42°－Ｅ。　**形状等**　長さ(4.0)ｍ　深さ67㎝　最大上幅242㎝、最大下幅119㎝。断面は逆台形。　**重複**　Ｈ－１号住居及びＷ－１号溝跡と重複する。重複関係はＨ－１号住居跡が一番古く、ついで本溝跡、Ｗ－１号溝跡の順で古い。　**出土遺物**　土師器片が少量出土。　**その他**　同一と推定される溝跡を11トレンチで検出（Ｗ－１号溝跡）。　**時期**　中世と考えられる。

10トレンチ

⑴　竪穴式住居

Ｈ－１号住居跡（Fig.10、PL.３）

位置　Ｘ223・224、Ｙ202・203グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ。　**形状等**　方形と推定される。東西(3.09)ｍ、南北(3.32)ｍ。確認面までの壁高28㎝。　**面積**　(9.99)㎡。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床で、一部は地山床。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**貯蔵穴等**　柱穴と推定されるピットを１基検出。　**重複関係**　Ｈ－２号住居跡と重複する。重複関係は本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器片。　**時期**　住居の構造や遺物から６世紀後半頃を考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.10、PL.３）

位置　Ｘ223・224、Ｙ203・204グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－71°－Ｅ。　**形状等**　方形。東西(2.66)ｍ、南北(5.6)ｍ。確認面までの壁高44㎝。　**面積**　(9.74)㎡。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床で一部は地山床。堅緻面は住居中央付近で検出。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**貯蔵穴等**　柱穴と推定されるピットを１基検出。　**周溝**　西壁で検出。　**重複関係**　Ｈ－１号住居跡と重複する。重複関係は本住居跡が新しい。　**出土遺物**　須恵器、土師器片。　**時期**　住居の構造や遺物から８世紀前半を考えたい。

Ｈ－３号住居跡（Fig.10、PL.３）

位置　Ｘ223・224、Ｙ205・206グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－67°－Ｅ。　**形状等**　方形。東西(3.45)ｍ、南北(4.68)ｍ。確認面までの壁高34.5㎝。　**面積**　(10.65)㎡。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床で一部は地山床。堅緻面は住居中央部から南にかけて検出。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**周溝**　北壁及び西壁の一部で検出。　**重複関係**　Ｄ－２号土坑と重複する。重複関係は本住居跡が古い。　**出土遺物**　須恵器、土師器片。　**時期**　住居の構造や遺物から８世紀頃を考えたい。

Ｈ－４号住居跡（Fig.11、PL.３）

位置　Ｘ223、Ｙ204・205グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－43°－Ｅ。　**形状**　方形。東西(1.57)ｍ、南北(1.46)ｍ。確認面までの壁高46㎝。　**面積**　(1.15)㎡。　**床面**　貼床で、堅緻面が貯蔵穴付近で検出された。　**竈**　北壁に構築されている。主軸方向はＮ－22°－Ｅ、全長1.1ｍを測る。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴を１基検出。　**出土遺物**　須恵器、土師器片。　**時期**　住居の構造や遺物から６世紀後半頃を考えたい。

⑵　土坑、ピット

土坑が２基、ピットが１基検出された。規模等については計測表（Tab.３）に記載した。

11トレンチ

⑴　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.11、PL. 4 ）

位置　X223･224、Y218･219グリッド。　**主軸方向**　N－42°－E。　**形状等**　長さ9.9m、深さ24㎝、最大上幅87㎝、最大下幅15㎝。断面は逆台形。　**出土遺物**　須恵器、土師器片。　**その他**　同一と推定される溝跡を９トレンチで検出（W－２号溝跡）。　**時期**　中世と考えられる。

⑵　ピット

ピットが３基検出された。規模等については計測表（Tab. 3 ）に記載した。

12トレンチ

⑴　竪穴式住居

Ｈ－１号住居跡（Fig.11、PL. 4 ）

位置　X191、Y129グリッド。　**主軸方向**　N－71°－E。　**形状**　方形。東西(2.00)m、南北(2.47)m。確認面までの壁高14㎝。　**面積**　(3.48)㎡。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床。　**竈**　東壁に構築されている。主軸方向はN－82°－E、全長0.48mを測る。袖石に凝灰質の砂岩切石を用いる。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴１基、柱穴１基検出。　**重複関係**　Ｉ－１号井戸跡と重複する。重複関係は本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器小片。　**時期**　住居の構造や遺物から６世紀後半頃を考えたい。

Ｈ－２号住居跡（Fig.11、PL. 4 ）

位置　X192、Y129･130グリッド。　**主軸方向**　N－90°－E。　**形状**　方形。東西(1.85)m、南北[2.80]m。確認面までの壁高25.5㎝。　**面積**　[3.53]㎡。　**床面**　漸移層及びO－１号落ち込み覆土に構築された地山床。　**竈**　住居南東隅に構築される。主軸方向N－123°－E、全長0.67m、最大幅0.44m、焚口部幅0.29mを測る。　**重複関係**　Ｉ－２号井戸跡、O－１号落ち込みと重複する。O－１号落ち込み、本住居跡、Ｉ－２号井戸跡の順で古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器坏。　**時期**　住居の構造や遺物から10世紀後半頃を考えたい。

⑵　井戸跡

Ｉ－１号井戸跡（Fig.12）

位置　X191･192、Y191グリッド。　**形状等**　南北(1.0)m×東西1.7mのほぼ円形で、平面形状が確認できる深さまで調査した。　**重複関係**　H－１号住居跡と重複する。重複関係は本井戸が新しい。　**時期**　状況から近世以後と推定される。

Ｉ－２号井戸跡（Fig.12）

位置　X192、Y192グリッド。　**形状等**　一部が調査区外となるが、南北(1.0)m×東西1.7mのほぼ円形で、平面形状が確認できる深さまで調査した。　**時期**　状況から近世以後と推定される。

⑶　土坑、落ち込み

土坑が１基、落ち込みが１ヶ所検出された。土坑の規模等については計測表（Tab. 3 ）に記載した。

13トレンチ

⑴　竪穴式住居

Ｈ－１号住居跡（Fig.12、PL. 5 ）

位置　X237、Y180グリッド。　**主軸方向**　N－84°－E。　**形状**　方形と推定される。東西(0.92)m、南北[1.91]m。確認面までの壁高７㎝。　**面積**　[1.30]㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　住居南東隅に構築される。構築材は確認できず、竈の構築部分が窪み地山の砂層が被熱により赤化していた痕跡のみ残す。主軸方向N－119°－E、全長0.47m、最大幅0.42mを測る。　**重複関係**　H－２号･３号住居跡と重複する。H－２号

住居跡、本住居跡、Ｈ－３号住居跡の順で古い。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　住居の構造等から11世紀頃を考えたい。

Ｈ－２号住居跡（Fig.12、PL.５）

位置　X237、Y180グリッド。　**主軸方向**　N－88°－E。　**形状**　方形と推定される。東西[2.91]m、南北(1.91)m。確認面までの壁高2.5㎝。　**面積**　[5.72]㎡。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床。　**竈**　住居南東隅に構築される。構築材は確認できず、竈の構築部分が窪み地山の砂層が被熱により赤化していた痕跡のみ残す。主軸方向N－114°－E、全長0.5m、最大幅0.58m、焚口部幅0.35mを測る。　**重複関係**　W－１号溝跡、Ｈ－１号・３号・７号住居跡と重複する。W－１号溝跡、Ｈ－７号住居跡、本住居跡、Ｈ－１号住居跡、Ｈ－３号住居跡の順で古い。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　住居の構造等から11世紀頃を考えたい。

Ｈ－３号住居跡（Fig.12、PL.５）

位置　X237、Y181･182グリッド。　**主軸方向**　N－86°－E。　**形状**　方形と推定される。東西(1.33)m、南北4.03m。確認面までの壁高18㎝。　**面積**　(4.42)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出（調査区外に存在すると推定される）。　**重複関係**　Ｈ－１号･２号･７号住居跡と重複する。Ｈ－２号住居跡、Ｈ－１号住居跡・Ｈ－７号住居跡、本住居跡の順で古い。　**出土遺物**　土釜片。　**時期**　住居の構造や遺物から11世紀頃を考えたい。

Ｈ－４号住居跡（Fig.12、PL.５）

位置　X237、Y182グリッド。　**主軸方向**　N－88°－E。　**形状**　方形。東西(2.25)m、南北2.88m。確認面までの壁高15㎝。　**面積**　(5.93)㎡。　**床面**　地山の漸移層及びW－１号溝跡の覆土上に造られた貼床。　**竈**　東壁南端部に構築される。主軸方向N－95°－E、全長0.44m、最大幅0.43mを測る。　**重複関係**　W－１号溝跡と重複する。W－１号溝跡、本住居跡の順で古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器坏。　**時期**　住居の構造や遺物から11世紀頃を考えたい。

Ｈ－５号住居跡（Fig.13、PL.５）

位置　X237･238、Y182、183グリッド。　**主軸方向**　N－59°－E。　**形状**　方形。東西5.59m、南北6.17m。確認面までの壁高７㎝。　**面積**　(28.89)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　東壁に構築されていると推定されるが未検出。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴を東壁北隅・南隅で１ヶ所ずつ検出。柱穴をW－１号溝跡と重複する北西隅以外で検出する。柱穴はそれぞれ２ヶ所ずつ確認された。貯蔵穴や柱穴の状況から建て直しが推定される。　**周溝**　南壁の一部で検出。その他間仕切り溝を検出。　**重複関係**　W－１号・２溝跡、Ｈ－６号・９号住居跡と重複する。本住居跡、W－１号溝跡、Ｈ－６号住居跡、Ｈ－９号住居跡、W－２溝跡の順で古い。　**出土遺物**　推定竈前面で高坏脚部が出土。　**時期**　６世紀後半と考えたい。

Ｈ－６号住居跡（Fig.13、PL.５）

位置　X237･238、Y183･184グリッド。　**主軸方向**　N－85°－E。　**形状**　方形。東西(5.83)m、南北(3.37)m。確認面までの壁高26㎝。　**面積**　(19.82)㎡。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床。　**竈**　東壁に構築されていたと推定されるが撹乱により未検出。　**重複関係**　W－１号溝跡と重複する。W－１号溝跡、本住居跡の順で古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器坏。　**その他**　規模が大きいことや、住居平面中程の床面に被熱により赤化していたことから、２軒の住居跡の重複の可能性がある。　**時期**　住居の構造や遺物から11世紀頃を考えたい。

Ｈ－７号住居跡（Fig.13、PL.５）

位置　X237、Y181グリッド。　**主軸方向・形状等**　竈跡のみの検出のため、規模等詳細は不明であるが、竈は東向きで構築されていることから、主軸は東と推定される。　**竈**　構築材は確認できず、竈の構築部分が窪み地山の砂層が被熱により赤化していた痕跡のみ残す。主軸方向N－99°－E、全長0.47m、最大幅0.53mを測る。　**重**

複関係　W－１号溝跡、H－２号・３号住居跡と重複する。W－１号溝跡、本住居跡、H－２号住居跡、H－３号住居跡の順で古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器坏など。　**時期**　住居の構造や遺物から11世紀頃を考えたい。

H－８号住居跡（Fig.13、PL.５）

位置　X239、Y183グリッド。　**主軸方向**　N－58°－E。　**形状**　方形と推定される。東西(1.54)m、南北(3.43)m。確認面までの壁高２㎝。　**面積**　(2.58)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出（調査区外に存在すると推定される）。　**周溝**　西壁で検出。　**重複関係**　W－２号溝跡、H－11号住居跡と重複する。本住居跡、H－11号住居跡、W－２号溝跡の順で古い。　**出土遺物**　なし。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため判断が難しいが、６世紀頃と考えたい。

H－９号住居跡（Fig.14、PL.５）

位置　X238・239、Y183・184グリッド。　**主軸方向**　N－77°－E。　**形状**　方形。東西［2.62］m、南北(1.81)m。確認面までの壁高17㎝。　**面積**　［4.6］㎡。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床。　**竈**　南半分が撹乱されているため未検出。　**出土遺物**　なし。　**時期**　住居の構造や遺物から11世紀頃を考えたい。

H－10号住居跡（Fig.14、PL.６）

位置　X238・239、Y184グリッド。　**主軸方向**　N－118°－E。　**形状**　方形。東西(3.06)m、南北(2.92)m。確認面までの壁高15㎝。　**面積**　(7.11)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　東壁南端に構築されているが、主体が調査区外のため詳細は不明。　**重複関係**　D－１号土坑と重複する。本住居跡、D－１号土坑の順で古い。　**出土遺物**　土釜片、須恵器甕胴部の転用硯、小刀など。　**時期**　住居の構造や遺物から11世紀頃を考えたい。

H－11号住居跡（Fig.13、PL.６）

位置　X239、Y183グリッド。　**主軸方向**　N－88°－E。　**形状**　方形と推定される。東西(0.9)m、南北(0.8)m。確認面までの壁高10㎝。　**面積**　(0.63)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出（調査区外に存在すると推定される）。　**重複関係**　H－８号住居跡、W－２号溝跡、D－１号土坑と重複する。H－８号住居跡、本住居跡、W－２号溝跡・D－１号土坑の順で古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器坏。　**時期**　住居の構造や遺物から11世紀頃を考えたい。

H－12号住居跡（Fig.14）

位置　X237、Y184グリッド。　**主軸方向**　N－67°－E。　**形状**　方形と推定される。東西(1.0)m、南北(1.95)m。確認面までの壁高17.5㎝。　**面積**　(0.92)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出。　**重複関係**　W－１号溝跡と重複する。本住居跡、W－１号溝跡の順で古いと考えられる。　**出土遺物**　なし。　**その他**　元総社宅地遺跡23トレンチのH－４号住居跡と同一の住居。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため判断が難しいが、住居の構造から６世紀頃と考えたい。

H－13号住居跡（Fig.14、PL.６）

位置　X238、Y181グリッド。　**主軸方向**　N－163°－W。　**形状**　方形。東西(2.18)m、南北(1.85)m。確認面までの壁高44㎝。　**面積**　(3.68)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床であるが竈前面付近は貼床で堅緻面が検出された。　**竈**　南壁西端部に構築される。主軸方向N－156°－W、全長1.29m、最大幅0.7m、焚口部幅0.38mを測る。袖石及び天井部に凝灰質の砂岩の切石を用い、煙道部には自然石を用いて構築する。　**周溝**　西壁で検出。　**出土遺物**　土釜片、砥石等。　**時期**　遺物から11世紀頃を考えたい。

⑵　溝跡

W－１号溝跡（Fig.15、PL.６）

位置　X237、Y180～184グリッド。　**主軸方向**　ほぼ南北方向。　**形状等**　長さ(3.04)m　深さ137.0㎝　最大上幅308㎝、最大下幅182㎝。断面は開いた薬研状で底部は狭い平坦面を持つ。Y182グリッド付近では２段構造となる。覆土中に硬化した層が面的な広がりをもって検出され、その直上に砂の堆積が見られた。　**重複関係**　H

―２号・４号・５号・６号・７号・12号住居跡、W―２号溝跡と重複する。本溝跡よりも古い遺構はH―５号・12号住居のみ。その他の住居跡や溝跡は本遺構より新しい。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　遺構の重複関係から古墳時代後期（６世紀）よりも新しく、平安時代（11世紀）よりも古いと考えられる。

W―２号溝跡（Fig.14、PL.７）

位置　X237～239、Y183グリッド。　**主軸方向**　N―85°―W。　**形状等**　長さ(2.95)m　深さ0.26㎝　最大上幅140㎝、最大下幅84㎝。断面は「U」字状。　**出土遺物**　土師器、須恵器、軟質土器片が少量出土。　**時期**　中世と考えられる。

⑶　土坑、ピット

土坑が１基検出された。規模等については計測表（Tab.３）に記載した

14トレンチ

W―１号溝跡（Fig.15、PL.７）

位置　X216～219、Y195･196グリッド。　**主軸方向**　N―90°―W。　**形状等**　長さ(3.04)m　深さ137.0㎝　最大上幅308㎝、最大下幅182㎝。断面は薬研状であるが法面上半分は垂直に近く、崩落していた。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　中世と考えられる。

15トレンチ

⑴　竪穴式住居

H―１号住居跡（Fig.15、PL.７）

位置　X219･220、Y299グリッド。　**主軸方向**　N―85°―E。　**形状**　方形。東西3.06m、南北(2.12)m。確認面までの壁高15.5㎝。　**面積**　(5.81)㎡。　**床面**　地山の粘質土層に造られた地山床。　**竈**　東壁南端部に構築される。主軸方向N―119°―E、全長0.88m、最大幅0.98m、焚口部幅0.35mを測る。　**出土遺物**　酸化焰焼成の須恵器坏、羽釜片。　**時期**　住居の構造や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H―２号住居跡（Fig.16、PL.７）

位置　X218、Y299グリッド。　**主軸方向**　N―85°―E。　**形状**　方形。東西3.05m、南北(2.12)m。確認面までの壁高12㎝。　**面積**　(5.91)㎡。　**床面**　地山の粘質土層に造られた地山床。　**竈**　未検出。(調査区外に存在すると推定される。)**重複**　H―３号住居跡、W―１号溝跡と重複する。H―３号住居跡、本溝跡、W―１号溝跡の順で古い。　**出土遺物**　土師器・須恵器片が少量出土。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため判断が難しいが、住居の構造から10世紀代と考えられる。

H―３号住居跡（Fig.16、PL.７）

位置　X217･218、Y299グリッド。　**主軸方向**　N―78°―E。　**形状**　方形と推定される。東西(0.92)m、南北(1.29)m。確認面までの壁高7.5㎝。　**面積**　(1.08)㎡。　**床面**　地山の粘質土層に造られた地山床。　**竈**　未検出。　**重複**　H―２号住居跡、O―１号整地面と重複する。本遺構が一番古い。　**出土遺物**　なし。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため判断が難しいが、住居の構造から10世紀代と考えられる。

⑵　井戸跡

I―１号井戸跡（Fig.16）

位置　X220、Y229グリッド。　**形状等**　一部が調査区外となるが、南北(0.79)m×東西0.98mの円形で、深さ約60㎝まで掘り下げた。　**出土遺物**　なし。　**時期**　中世以後と推定される。

I―２号井戸跡（Fig.16）

位置　X216、Y299グリッド。　**形状等**　南北0.84m×東西0.85mの円形で、形状が確認できる深さまで掘り下げた。周囲に浅い掘りこみをもつ。　**出土遺物**　なし。　**時期**　中世以後と推定される。

⑶　造成面（Ｏ－１号落ち込み）（Fig.16、PL. 8 ）

位置　X216･217、Y299グリッド。　**形状等**　地山の粘質土層を浅い溝状に掘りこんでいる。検出状況から南北方向に続くことが推定される。　**その他**　範囲内にピット12基、Ｉ－２号井戸跡が存在する。　**時期**　状況から中世以後と推定される。

⑷　ピット

ピットが13基検出された。規模等については計測表（Tab. 3 ）に記載した。

16トレンチ

⑴　竪穴式住居

Ｈ－１号住居跡（Fig.17、PL. 8 ）

位置　X211･212、Y298グリッド。　**主軸方向**　N－58°－E。　**形状**　方形と推定される。東西[2.19]m、南北[1.99]m。確認面までの壁高６㎝。　**面積**　[3.18]㎡。　**床面**　地山の粘質土層に造られた地山床。　**竈**　未検出。　**重複関係**　Ｈ－２号住居跡、W－１号溝跡と重複する。本遺構が一番古い。　**出土遺物**　須恵器甕片が出土。　**時期**　住居の構造から10世紀頃と推定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig.17、PL. 8 ）

位置　X212、Y297･298グリッド。　**主軸方向**　N－62°－E。　**形状**　方形。東西1.82m、南北(2.00)m。確認面までの壁高６㎝。　**面積**　(3.63)㎡。　**床面**　地山の粘質土層に造られた地山床。　**竈**　東壁南端部に構築される。主軸方向N－87°－E、全長0.54m、最大幅0.4m、焚口部幅0.3mを測る。　**重複関係**　Ｈ－１号住居跡、W－１号溝跡と重複する。Ｈ－１号住居跡、本遺構、W－１号溝跡の順で古い。　**出土遺物**　須恵器甕片が出土。　**時期**　住居の構造から10世紀頃と推定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig.17、PL. 8 ）

位置　X211、Y297･298グリッド。　**主軸方向**　N－80°－E。　**形状**　方形。東西(1.51)m、南北(0.52)m。壁高3.5㎝。　**面積**　(0.70)㎡。　**床面**　地山の粘質土層に造られた地山床。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**出土遺物**　なし。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため判断が難しいが､住居の構造から10世紀頃と考えたい。

Ｈ－４号住居跡（Fig.17、PL. 8 ）

位置　X210･211、Y298グリッド。　**主軸方向**　N－66°－E。　**形状**　方形。東西(2.25)m、南北(0.90)m。壁高４㎝。　**面積**　(0.98)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出（調査区外に存在すると推定される)。　**出土遺物**　須恵器甕片が出土。　**時期**　住居の構造や出土遺物から６世紀頃と推定される。

⑵　溝跡

W－１号溝跡（Fig.17）

位置　X210～212、Y298グリッド。　**主軸方向**　N－80°－E。　**形状等**　長さ(3.04)m　深さ137.0㎝　最大上幅308㎝、最大下幅182㎝。断面は薬研状。　**重複関係**　Ｈ－１号･２号住居跡と重複する。本遺構が一番新しい。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　中世と考えられる。

W－２号溝跡（Fig.17）

位置　X213､Y297･298グリッド。　**主軸方向**　N－10°－W。　**形状等**　長さ(2.95)m　深さ0.26㎝　最大上幅140㎝、最大下幅84㎝。断面は浅い「U」字状。　**出土遺物**　土師器片が少量出土。　**時期**　中世以後と考えられる。

⑶　土坑・ピット

土坑が１基、ピットが６基検出された。規模等については計測表（Tab. 3 ）に記載した。

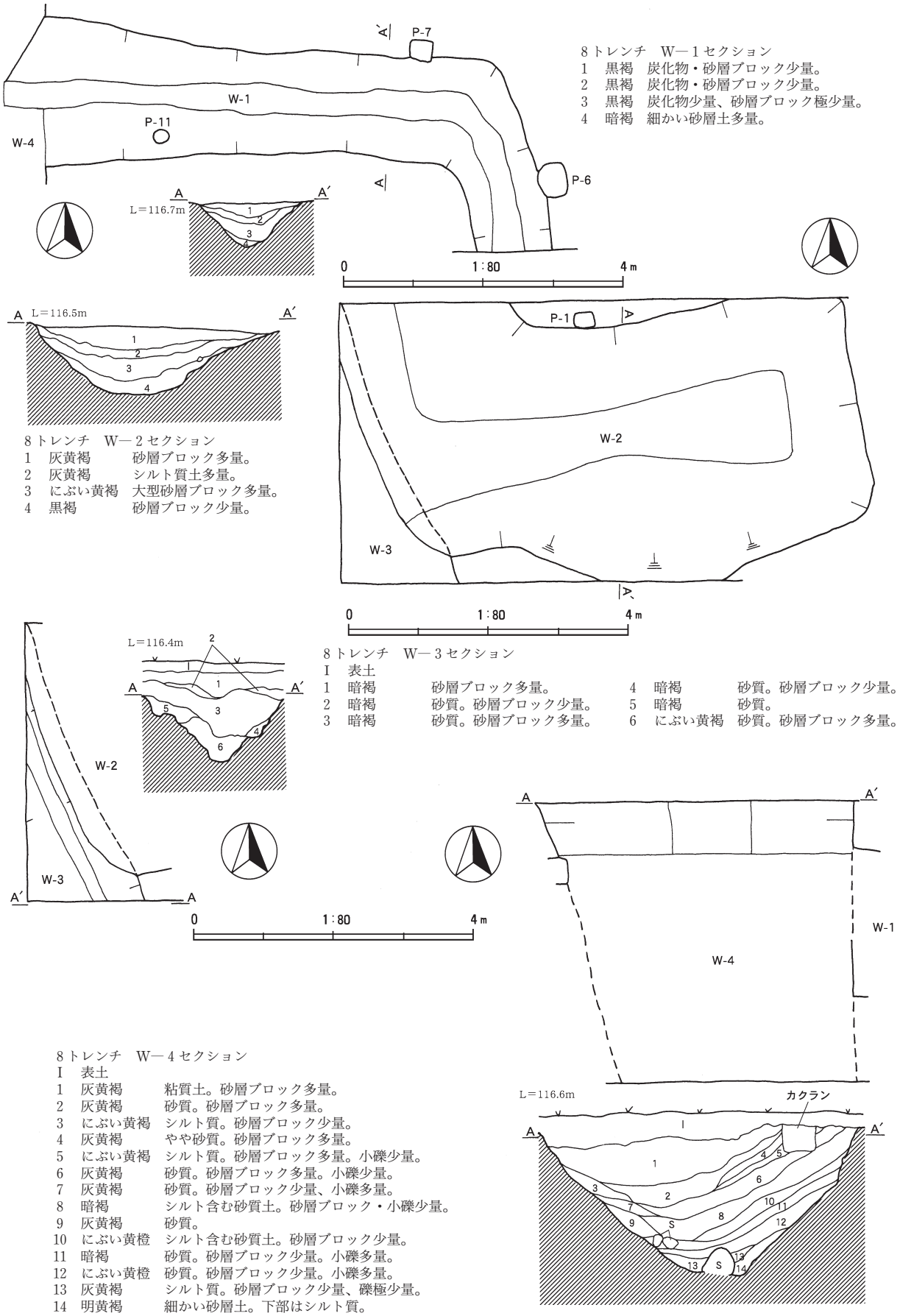
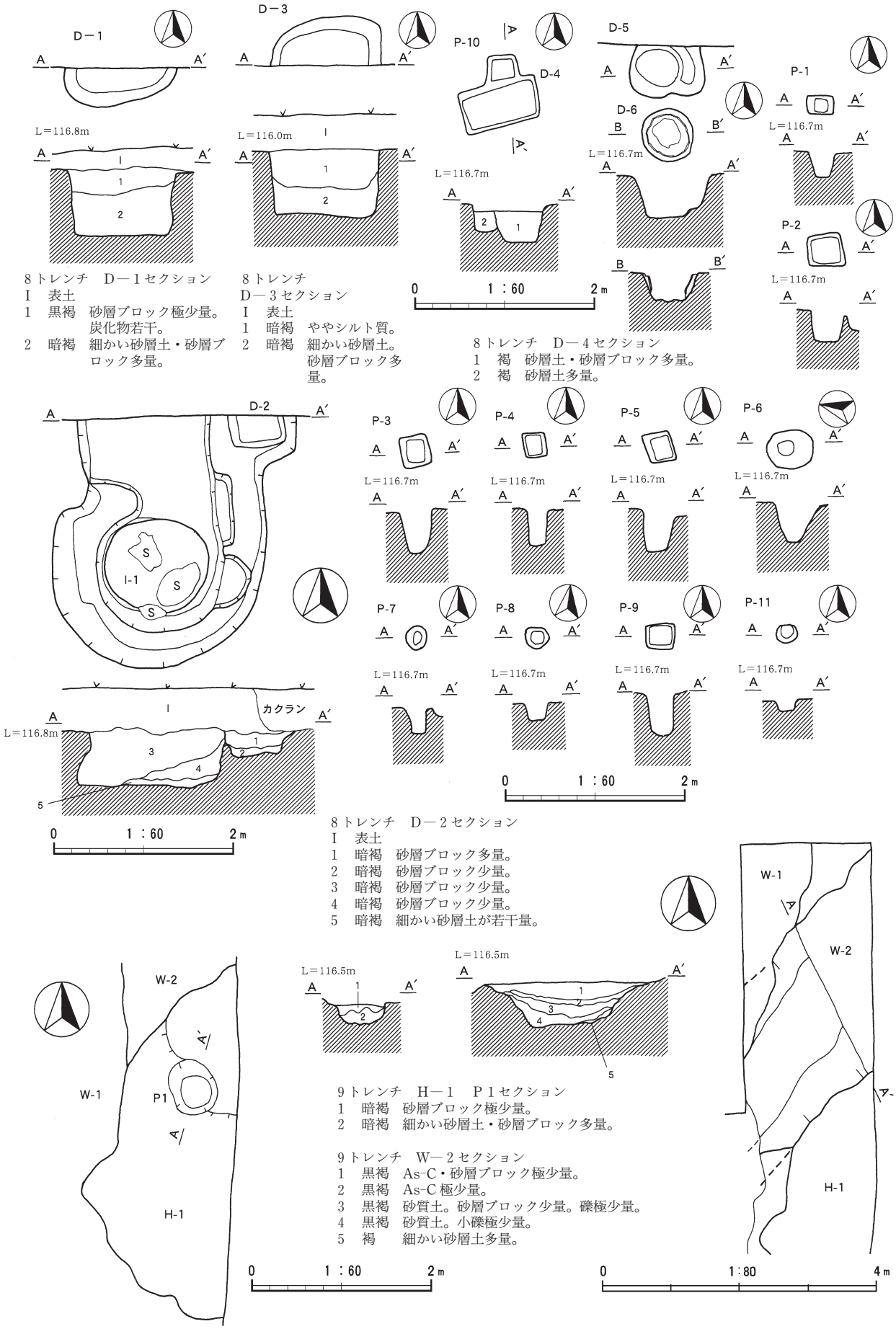


Fig. 8　８トレンチ各遺構



8トレンチ　D－1セクション
Ⅰ　表土
1　黒褐　砂層ブロック極少量。炭化物若干。
2　暗褐　細かい砂層土・砂層ブロック多量。

8トレンチ
D－3セクション
Ⅰ　表土
1　暗褐　ややシルト質。
2　暗褐　細かい砂層土。砂層ブロック多量。

8トレンチ　D－4セクション
1　褐　砂層土・砂層ブロック多量。
2　褐　砂層土多量。

8トレンチ　D－2セクション
Ⅰ　表土
1　暗褐　砂層ブロック多量。
2　暗褐　砂層ブロック少量。
3　暗褐　砂層ブロック少量。
4　暗褐　砂層ブロック少量。
5　暗褐　細かい砂層土が若干量。

9トレンチ　H－1　P1セクション
1　暗褐　砂層ブロック極少量。
2　暗褐　細かい砂層土・砂層ブロック多量。

9トレンチ　W－2セクション
1　黒褐　As-C・砂層ブロック極少量。
2　黒褐　As-C極少量。
3　黒褐　砂質土。砂層ブロック少量。礫極少量。
4　黒褐　砂質土。小礫極少量。
5　褐　細かい砂層土多量。

Fig. 9　8・9トレンチ各遺構

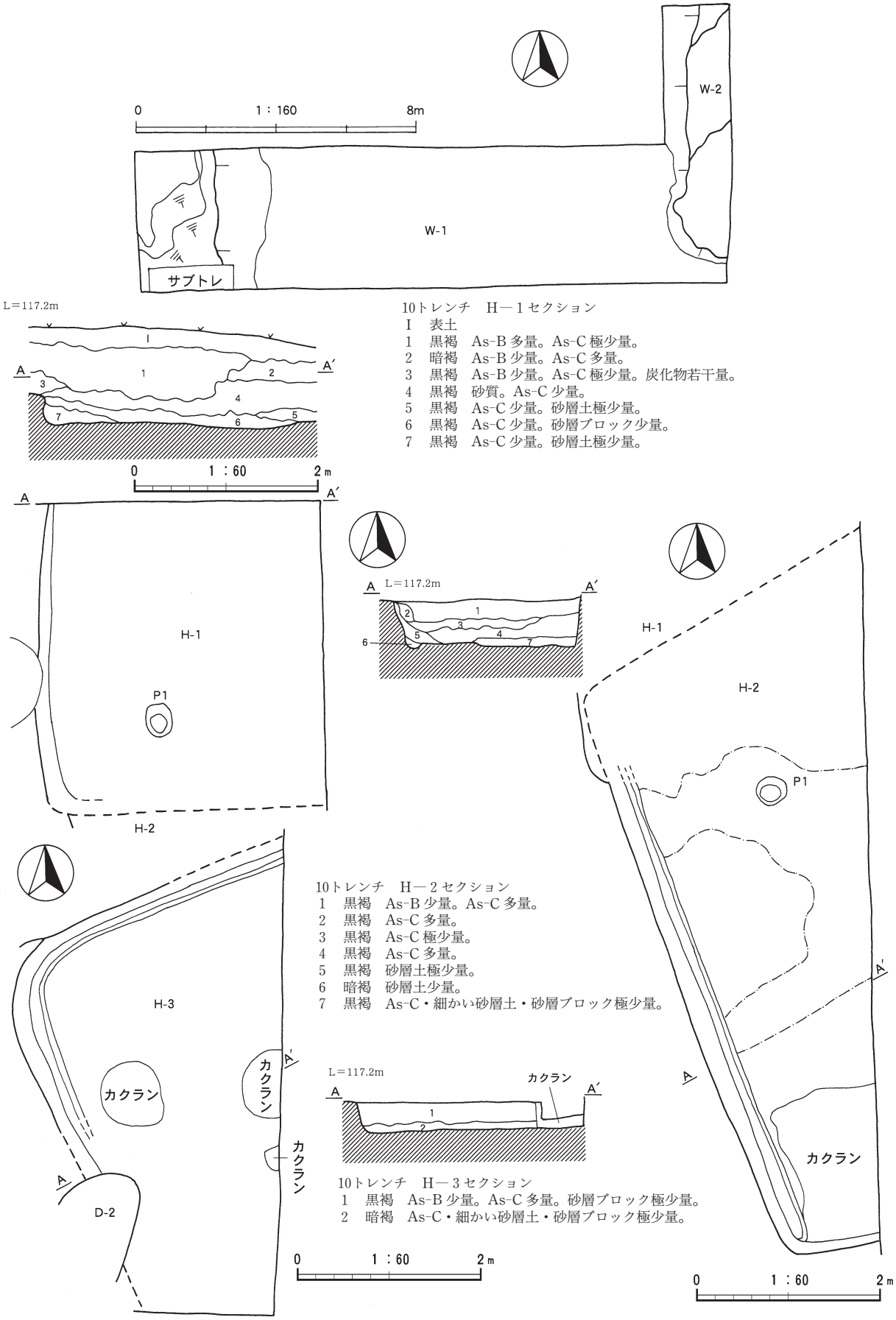
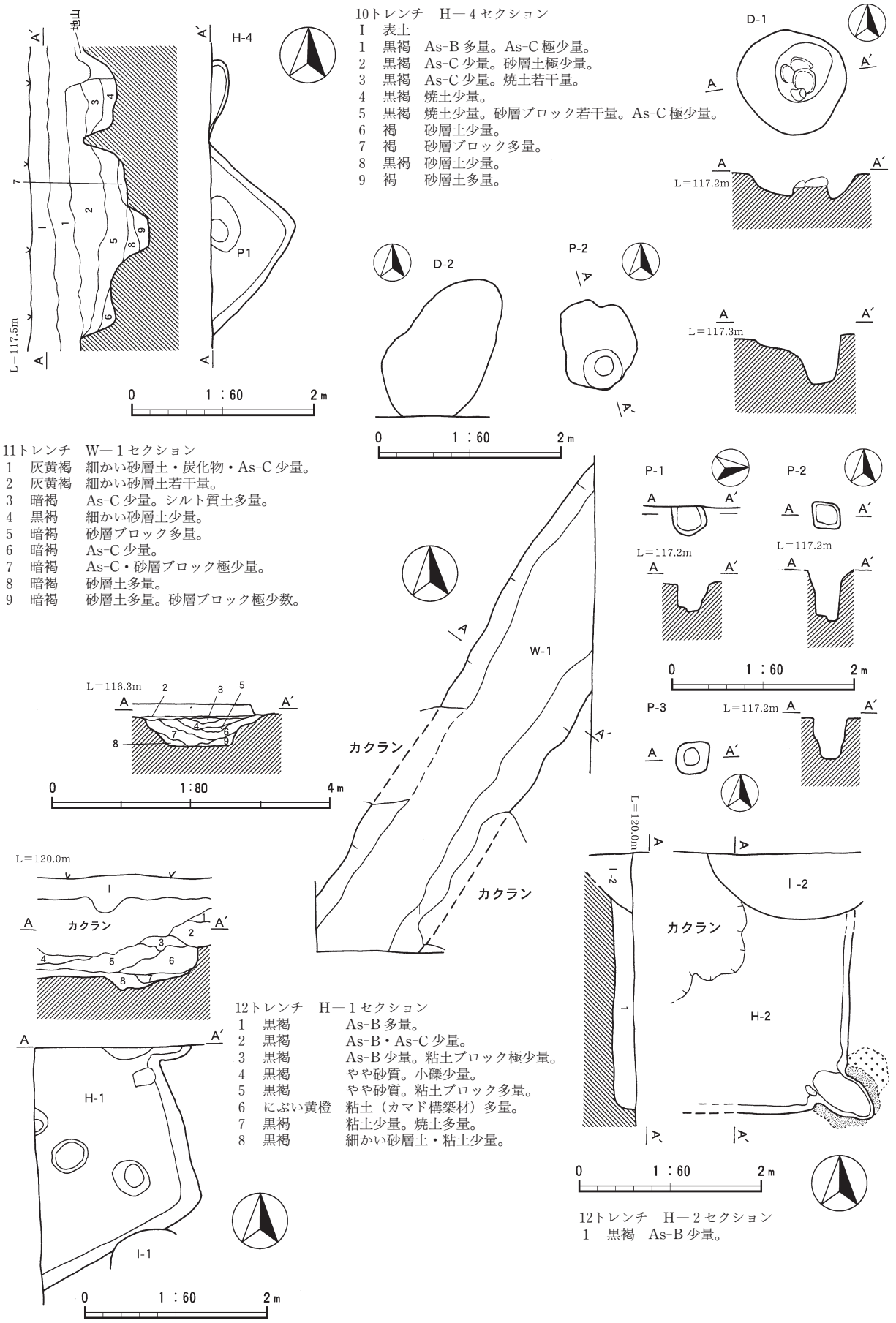


Fig.10　9・10トレンチ各遺構



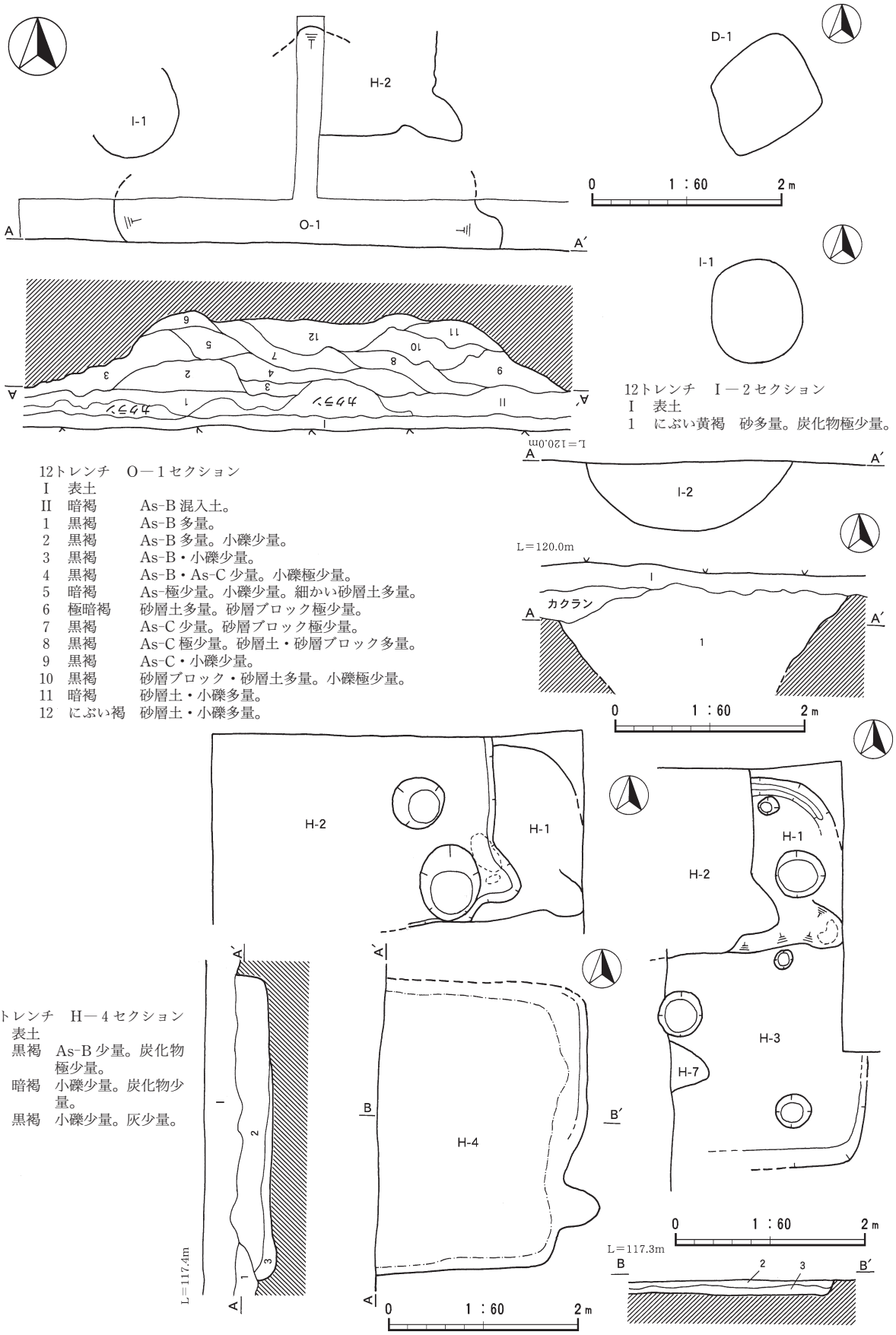
10トレンチ　H―4セクション
Ⅰ　表土
1　黒褐　As-B多量。As-C極少量。
2　黒褐　As-C少量。砂層土極少量。
3　黒褐　As-C少量。焼土若干量。
4　黒褐　焼土少量。
5　黒褐　焼土少量。砂層ブロック若干量。As-C極少量。
6　褐　砂層土少量。
7　褐　砂層ブロック多量。
8　黒褐　砂層土少量。
9　褐　砂層土多量。

11トレンチ　W―1セクション
1　灰黄褐　細かい砂層土・炭化物・As-C少量。
2　灰黄褐　細かい砂層土若干量。
3　暗褐　As-C少量。シルト質土多量。
4　黒褐　細かい砂層土少量。
5　暗褐　砂層ブロック多量。
6　暗褐　As-C少量。
7　暗褐　As-C・砂層ブロック極少量。
8　暗褐　砂層土多量。
9　暗褐　砂層土多量。砂層ブロック極少数。

12トレンチ　H―1セクション
1　黒褐　As-B多量。
2　黒褐　As-B・As-C少量。
3　黒褐　As-B少量。粘土ブロック極少量。
4　黒褐　やや砂質。小礫少量。
5　黒褐　やや砂質。粘土ブロック多量。
6　にぶい黄橙　粘土（カマド構築材）多量。
7　黒褐　粘土少量。焼土多量。
8　黒褐　細かい砂層土・粘土少量。

12トレンチ　H―2セクション
1　黒褐　As-B少量。

Fig.11　10・11・12トレンチ各遺構

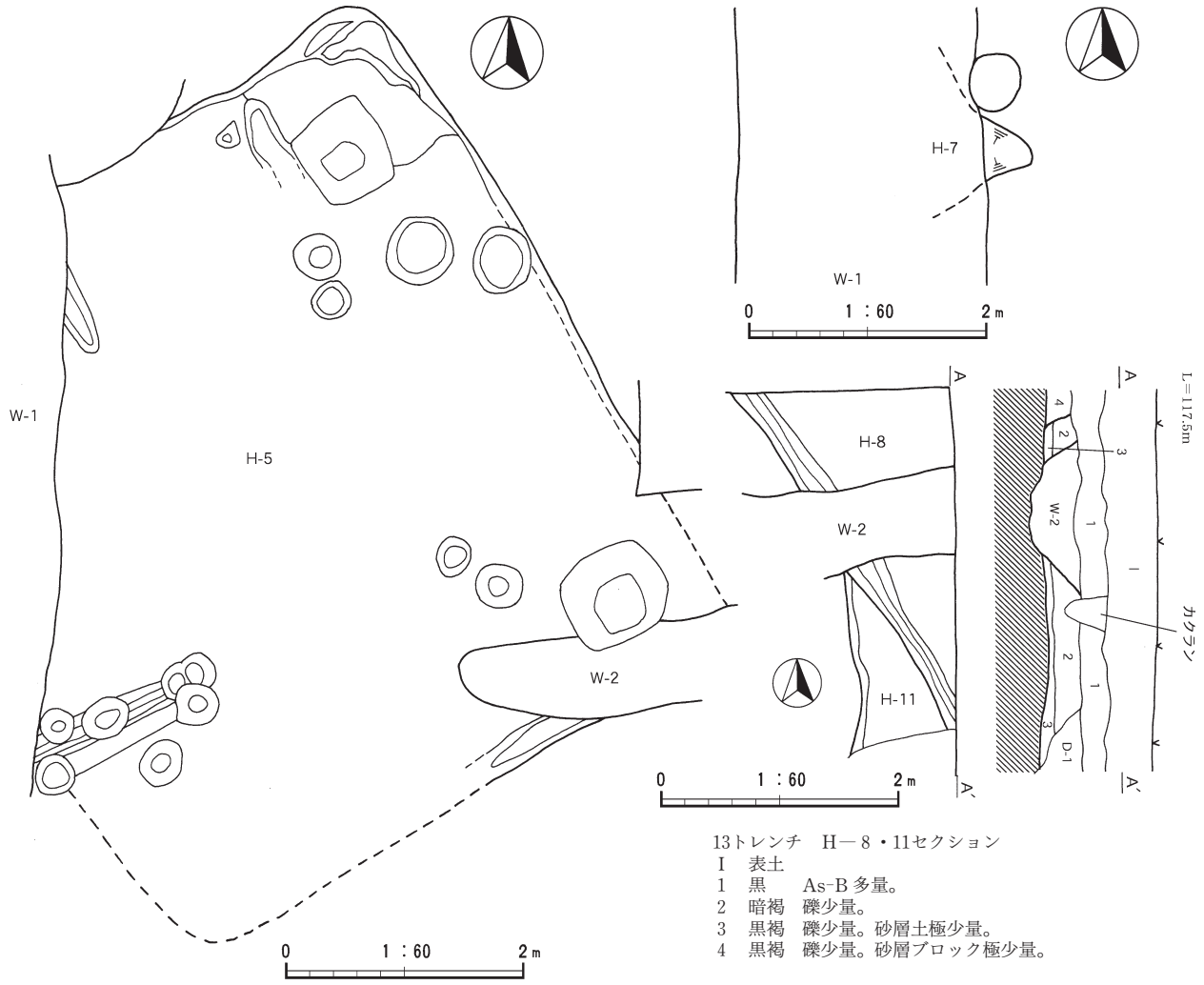


12トレンチ　Ｏ―１セクション
Ⅰ　表土
Ⅱ　暗褐　　As-B 混入土。
1　黒褐　　As-B 多量。
2　黒褐　　As-B 多量。小礫少量。
3　黒褐　　As-B・小礫少量。
4　黒褐　　As-B・As-C 少量。小礫極少量。
5　暗褐　　As-極少量。小礫少量。細かい砂層土多量。
6　極暗褐　砂層土多量。砂層ブロック極少量。
7　黒褐　　As-C 少量。砂層ブロック極少量。
8　黒褐　　As-C 極少量。砂層土・砂層ブロック多量。
9　黒褐　　As-C・小礫少量。
10　黒褐　　砂層ブロック・砂層土多量。小礫極少量。
11　暗褐　　砂層土・小礫多量。
12　にぶい褐　砂層土・小礫多量。

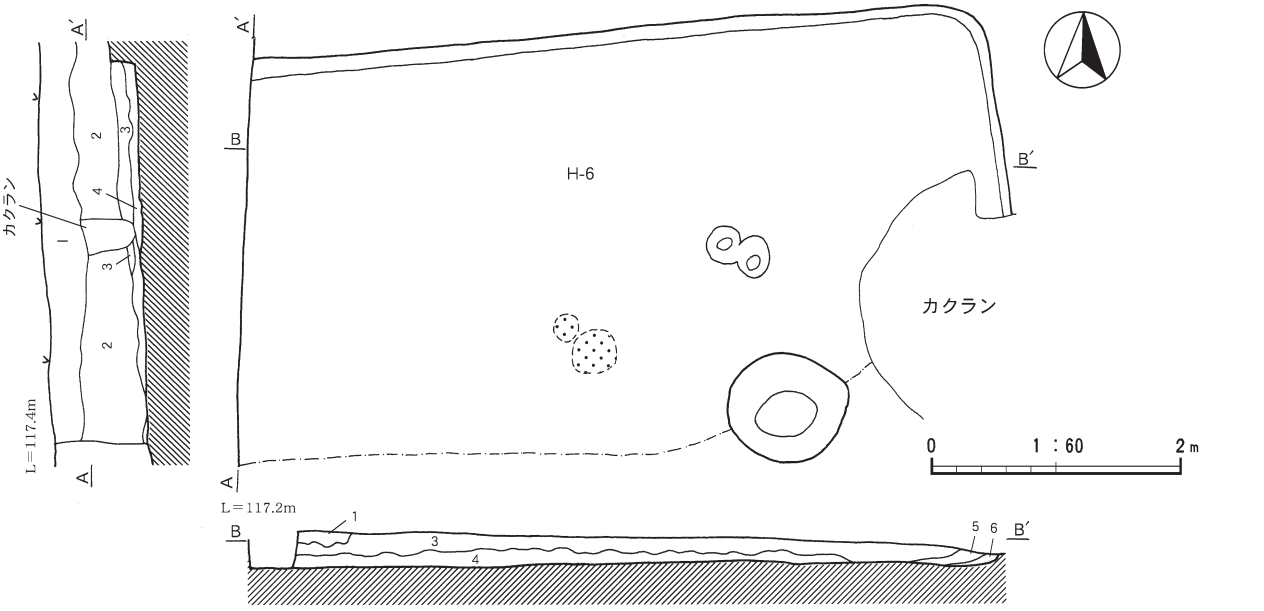
12トレンチ　Ｉ―２セクション
Ⅰ　表土
1　にぶい黄褐　砂多量。炭化物極少量。

13トレンチ　Ｈ―４セクション
Ⅰ　表土
1　黒褐　As-B 少量。炭化物極少量。
2　暗褐　小礫少量。炭化物少量。
3　黒褐　小礫少量。灰少量。

Fig.12　12・13トレンチ各遺構



13トレンチ　H―8・11セクション
Ⅰ　表土
1　黒　　As-B 多量。
2　暗褐　礫少量。
3　黒褐　礫少量。砂層土極少量。
4　黒褐　礫少量。砂層ブロック極少量。



13トレンチ　H―6セクション
Ⅰ　表土
1　黒褐　締まり強い。堅緻面状。
2　暗褐　As-C・炭化物極少量。
3　黒褐　As-C 極少量。
4　黒　　炭化物極少量。灰多量。
5　黒褐　砂層土・炭化物少量。
6　暗褐　砂層土少量。

Fig.13　13トレンチ各遺構

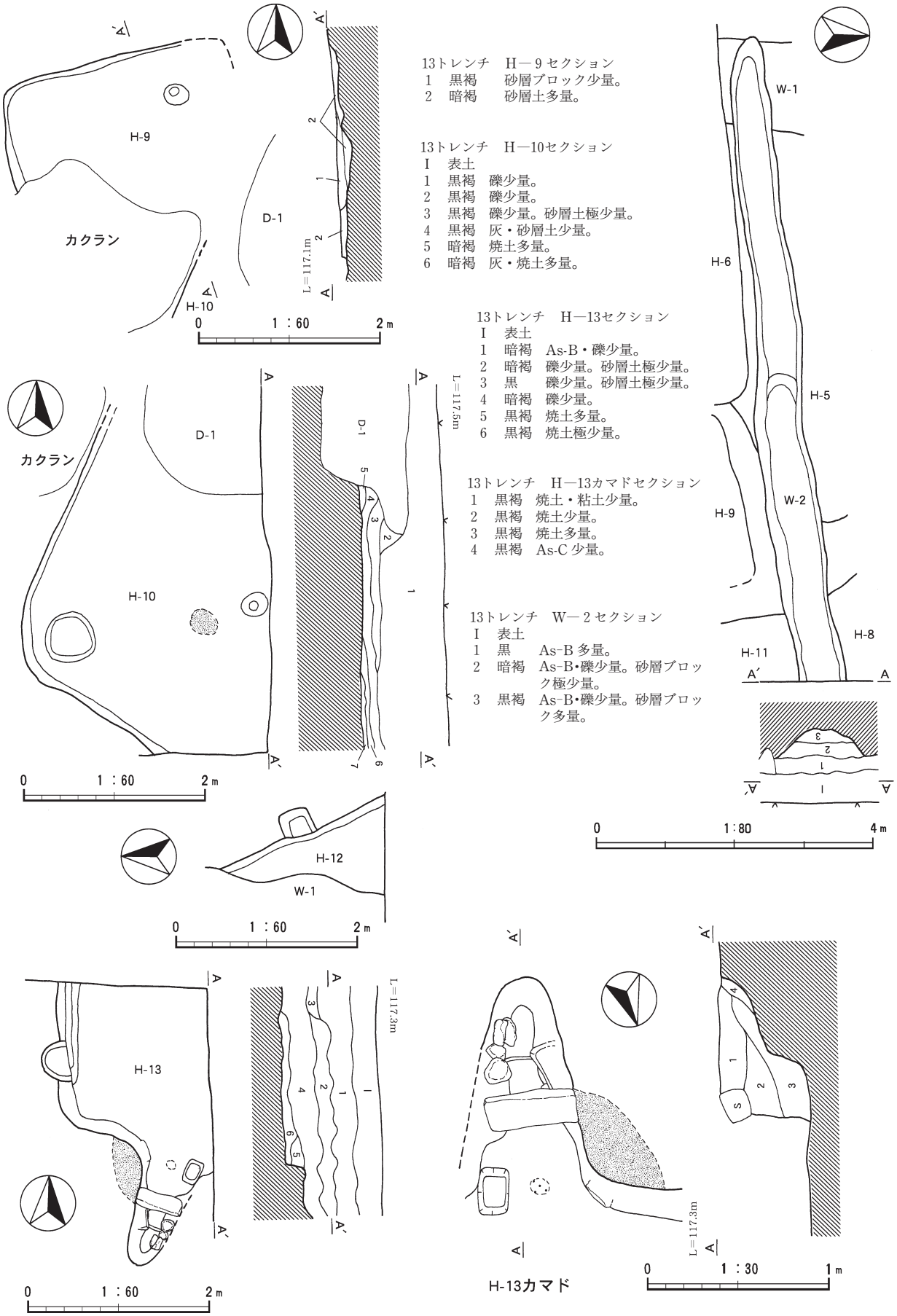


Fig.14　13トレンチ各遺構

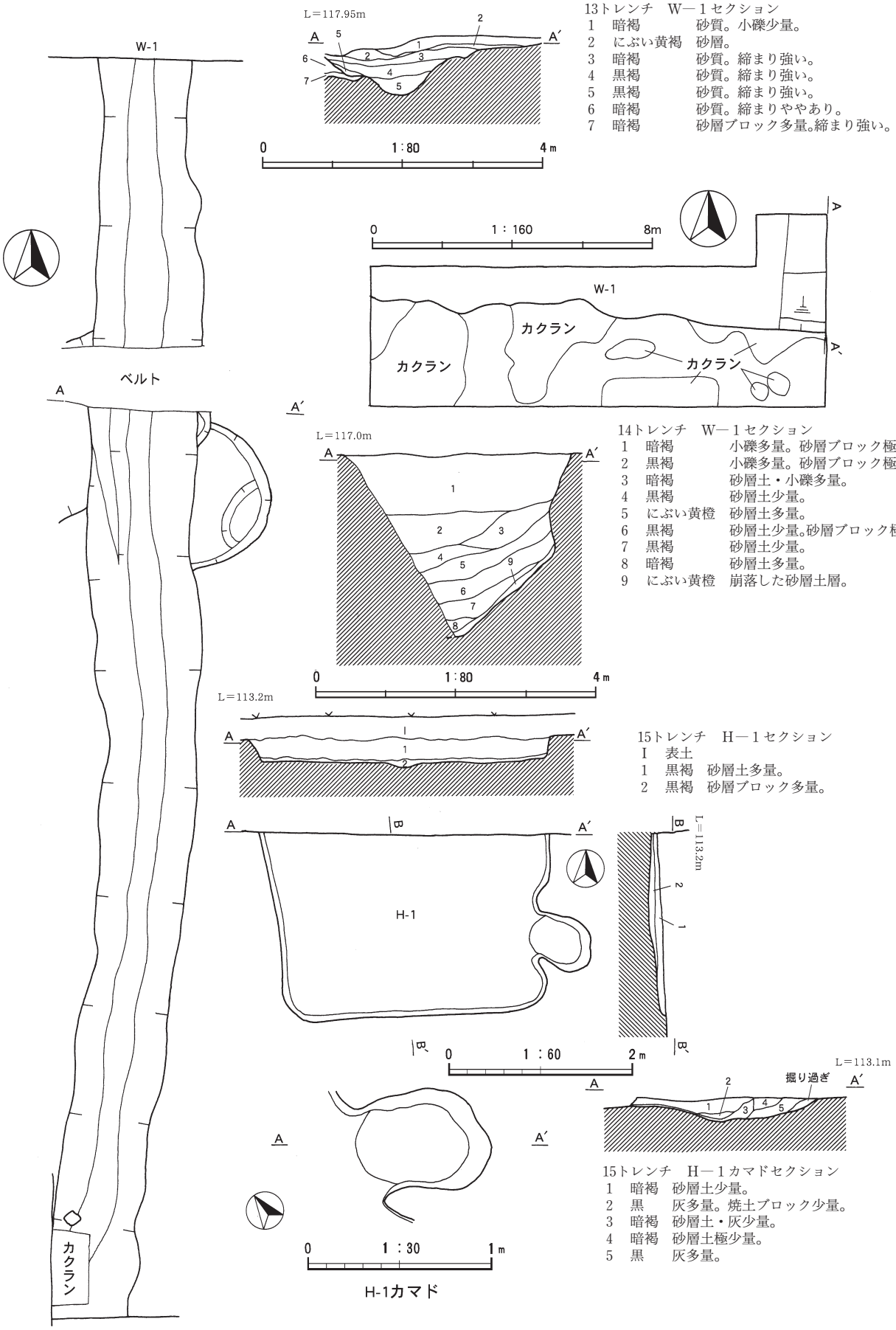
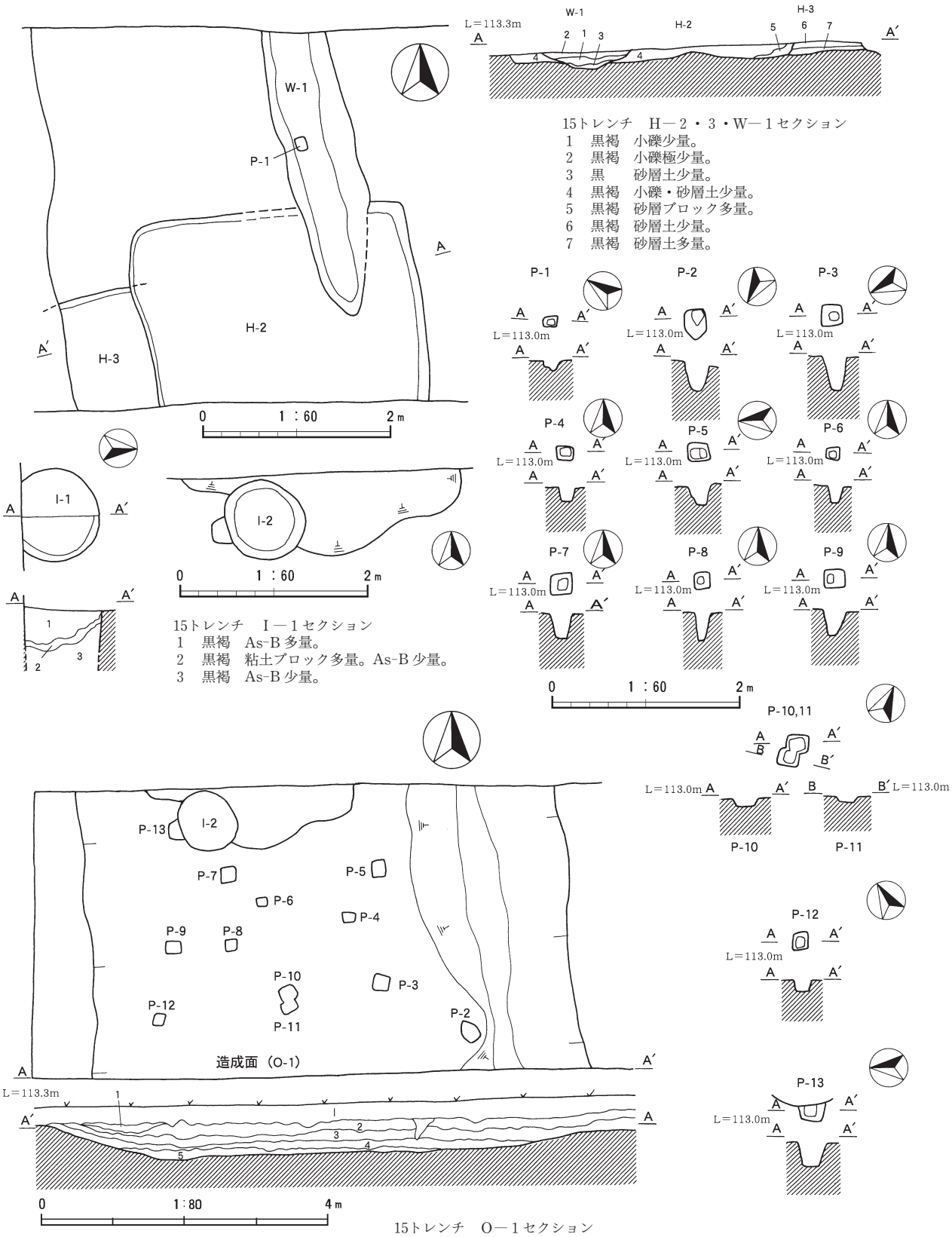


Fig.15　13・14・15トレンチ各遺構



15トレンチ　Ｈ－２・３・Ｗ－１セクション
1　黒褐　小礫少量。
2　黒褐　小礫極少量。
3　黒　　砂層土少量。
4　黒褐　小礫・砂層土少量。
5　黒褐　砂層ブロック多量。
6　黒褐　砂層土少量。
7　黒褐　砂層土多量。

15トレンチ　Ｉ－１セクション
1　黒褐　As-B 多量。
2　黒褐　粘土ブロック多量。As-B 少量。
3　黒褐　As-B 少量。

15トレンチ　Ｏ－１セクション
Ｉ　表土
1　黒褐　As-B 多量。
2　暗褐　As-B 少量。砂層土多量。炭化物若干量。
3　黒褐　As-B 少量。砂層土多量。炭化物若干量。
4　黒褐　As-C 少量。炭化物極少量。
5　黒褐　砂層土少量。

Fig.16　15トレンチ各遺構

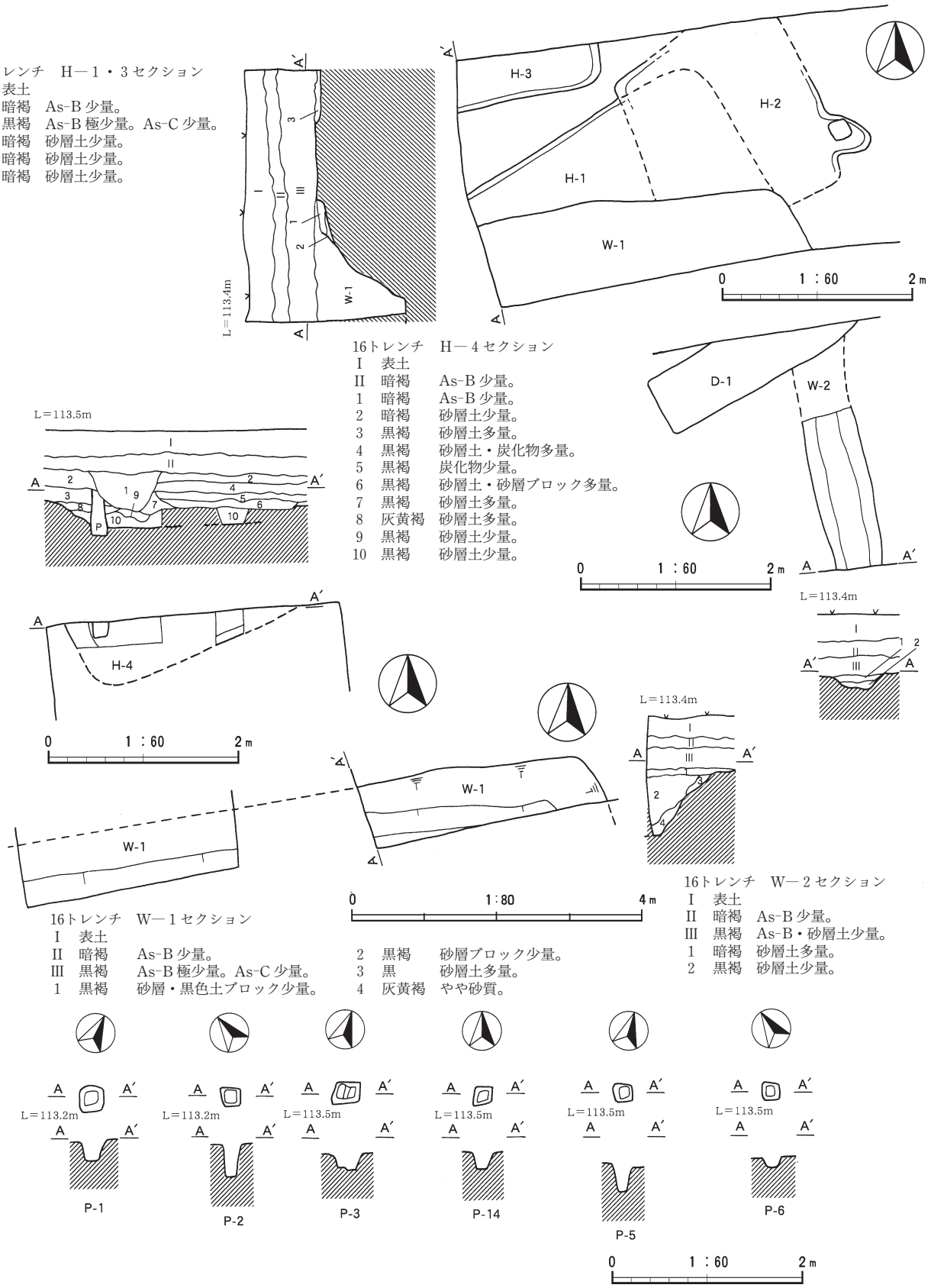


Fig.17　16トレンチ各遺構

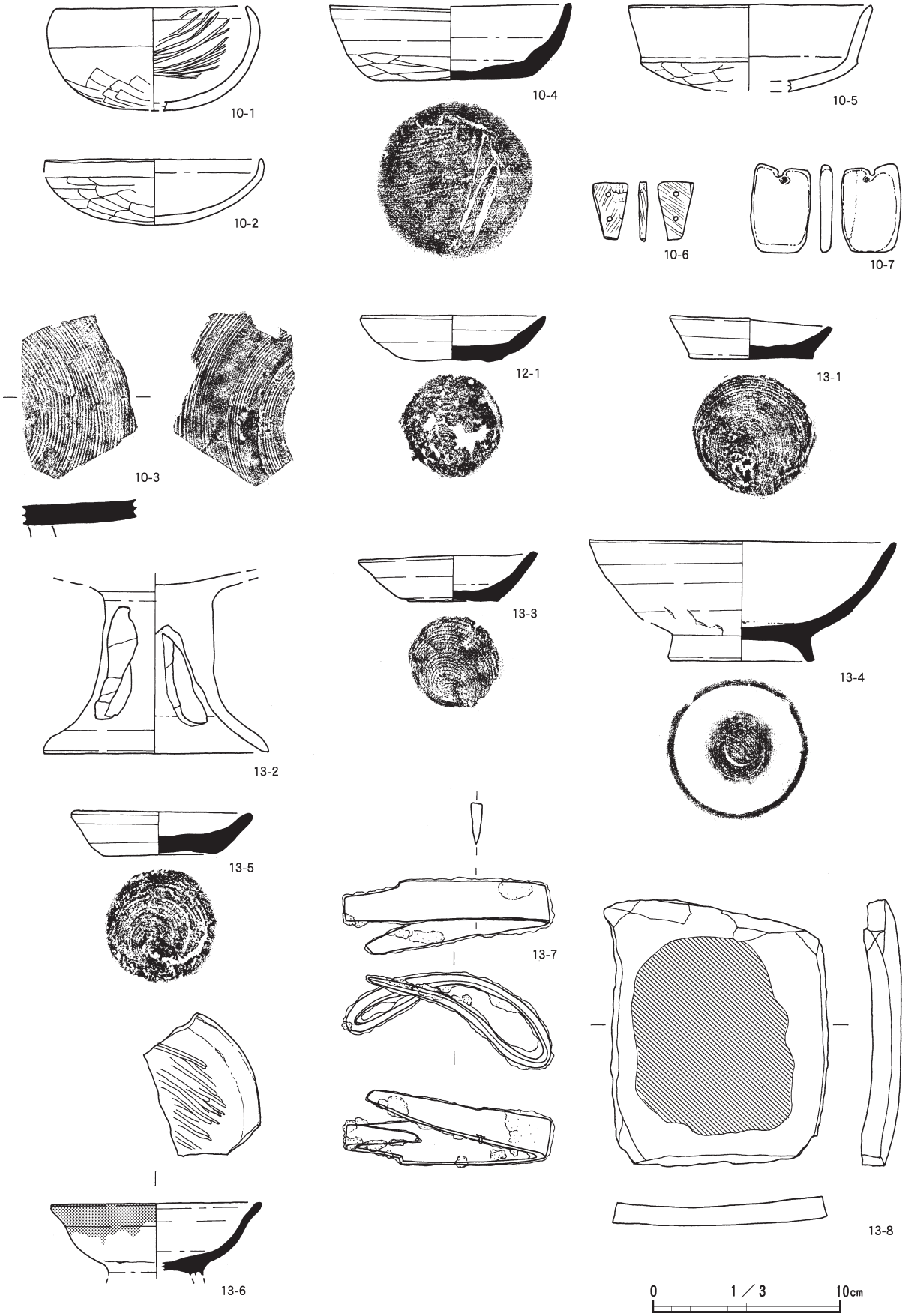


Fig.18　各トレンチ出土遺物(1)

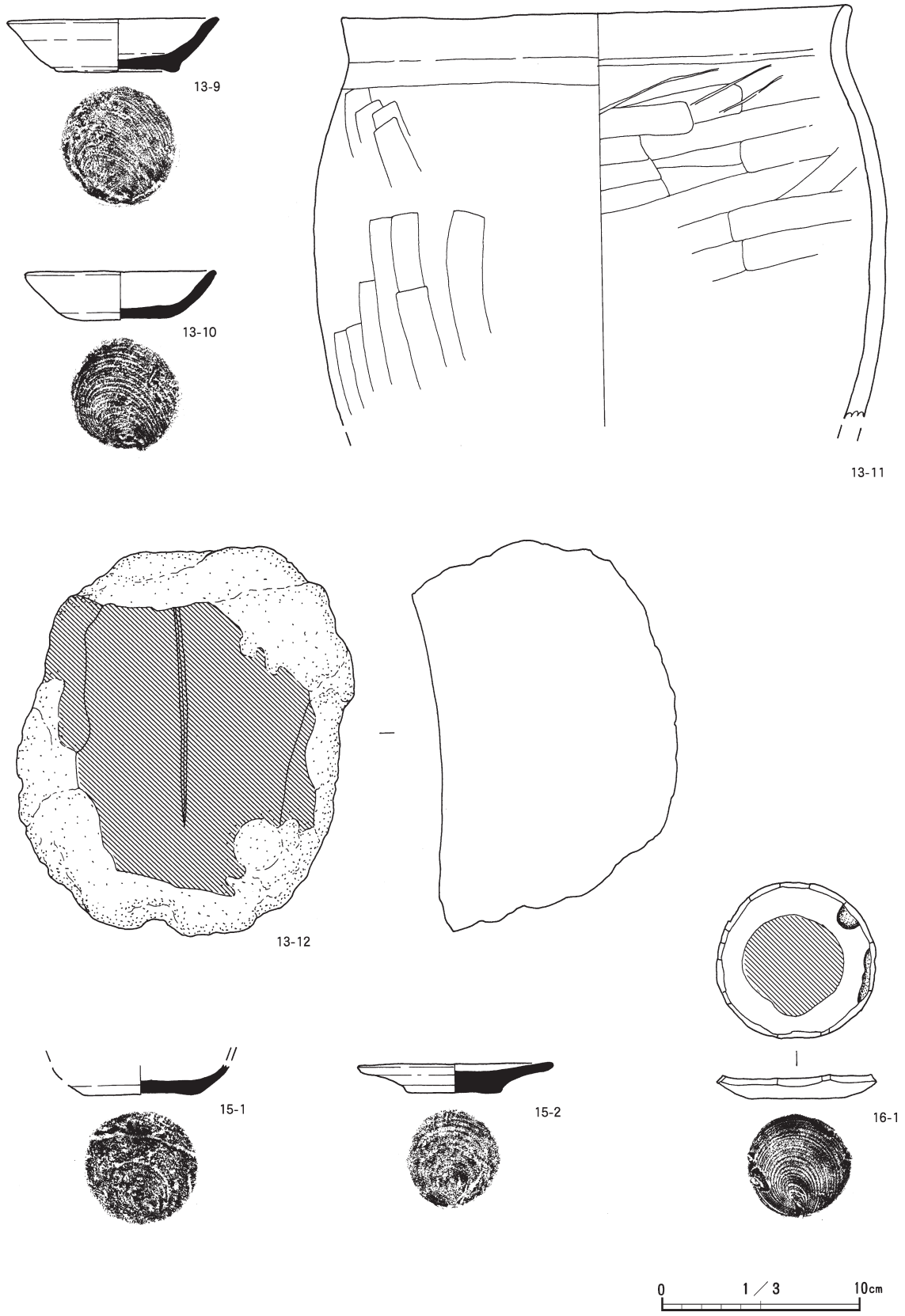


Fig.19　各トレンチ出土遺物(2)

Tab. 3　土坑・ピット・落ち込み　計測表

【土　坑】

8 トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X220　Y210	122.0	(42.0)	67.5	楕円形		
D－2	X221　Y210	237.0	(115.0)	60.0	方形		
D－3	X221　Y210	118.0	(53.0)	66.5	楕円形		
D－4	X220　Y210	85.0	50.0	42.0	長方形		
D－5	X220･221　Y210	82.0	(56.0)	47.0	円形		
D－6	X221　Y210	58.0	56.0	31.0	円形	常滑焼大甕	

10トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X223･224　Y204	116.0	113.0	25.0	円形		
D－2	X223･224　Y206	[173.0]	105.0	33.0	楕円形		中世か

12トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X192･193　Y129	110.0	95.0	未調査	方形		

13トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X239　Y183･184	226.0	(126.0)	47.0	楕円形		

16トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X212･213　Y297	(217.0)	62.0	未調査	方形		

【ピット】

8 トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X216　Y210	30.0	20.0	31.0	方形
P－2	X217　Y210	40.0	35.0	29.0	方形
P－3	X219　Y210	35.0	32.0	47.0	方形
P－4	X219　Y210	27.0	25.0	39.5	方形
P－5	X220　Y210	35.0	29.0	47.5	方形
P－6	X220　Y210	51.0	42.0	42.5	円形
P－7	X219　Y210	26.0	22.0	26.0	円形
P－8	X219　Y210	(25.0)	25.0	18.5	円形
P－9	X220　Y210	31.0	28.0	48.0	方形
P－10	X220　Y210	40.0	25.0	28.0	方形
P－11	X219　Y210	22.0	20.0	12.0	円形

10トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X224　Y204	97.0	80.0	56.0	楕円形

11トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X223　Y216	40.0	(32.0)	25.0	円形
P－2	X224　Y217	30.0	30.0	50.0	方形
P－3	X223　Y217	35.0	35.0	42.0	方形

15トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X218　Y299	15.0	11.0	9.5	方形
P－2	X217　Y299	32.0	14.0	34.0	楕円形
P－3	X217　Y299	23.0	23.0	30.0	方形
P－4	X217　Y299	18.0	15.0	15.0	方形
P－5	X217　Y299	25.0	20.0	20.5	方形
P－6	X216　Y299	15.0	9.0	17.5	方形
P－7	X216　Y299	22.0	21.0	25.5	方形
P－8	X216　Y299	18.0	17.0	32.0	方形
P－9	X216　Y299	23.0	19.0	28.0	方形
P－10	X216　Y299	24.0	22.0	7.0	方形
P－11	X216　Y299	22.0	17.0	6.0	方形
P－12	X216　Y299	19.0	16.0	13.0	方形

16トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X214　Y298	29.0	25.0	21.0	方形
P－2	X213　Y298	20.0	20.0	34.0	方形
P－3	X212･213　Y298	32.0	23.0	12.5	方形
P－4	X212　Y298	20.0	20.0	13.0	方形
P－5	X212　Y298	32.0	26.0	26.0	方形

Tab. 4　遺物観察表

10トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
10-1	H－1 覆土	土師器 坏	①[10.0]②(5.4) ③　—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④1/3	外面は口縁部が横撫で。体部から底部にかけて篦削りで丸底に整形する。内面は撫でで整形し、暗文状の磨きをもつ。		
10-2	H－2 覆土	土師器 坏	①[11.5]②　3.4 ③　—	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	外面は口縁部が横撫で。体部から底部にかけて篦削りで丸底に整形する。内面は撫でで整形する。		
10-3	H－2 覆土	須恵器 盤	①　— ②　— ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④底部の一部	轆轤整形で内面・底部に渦巻き状のカキ目。脚部は体部整形後に貼り付け。		
10-4	H－3 床直	須恵器 坏	① 12.6 ②　4.0 ③　8.3	①細粒　②良好 ③黒褐　④完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部外面は水平糸切りの後に回転篦削りで整形。	5	
10-5	H－4 覆土	土師器 坏	①[12.8]②(4.5) ③　—	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	外面は口縁部が横撫で。体部から底部にかけて篦削りで丸底に整形する。内面は撫でにより整形する。	1	
10-6	H－2 覆土	石製 模造品	長さ3.1cm、幅1.8cm、厚さ0.4cm。滑石製。平面形態は三角形状。２ヶ所に孔を穿つ。				
10-7	トレンチ 覆土	石製品	長さ4.6cm、幅3.1cm、厚さ0.6cm。ホルンフェルス製。角の丸い方形。孔を２つ穿つが、１つは未貫通。				

12トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
12-1	H－2 覆土	須恵器 坏	①[9.7]②(2.4) ③　5.0	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	1	酸化焔

13トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
13-1	H－4 床直	須恵器 坏	①(8.6)②　2.3 ③　6.5	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	3	酸化焔
13-2	H－5 覆土	土師器 高坏	①　— ②(9.5) ③ 11.8	①細粒　②良好 ③橙　④脚のみ	脚部は轆轤整形の後に坏部と接着。４ヶ所に長方形を意識した形状の透かし。	1	
13-3	H－6 覆土	須恵器 坏	①　9.4 ②　2.5 ③　4.7	①細粒　②良好 ③橙　④完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	1	酸化焔
13-4	H－6 覆土	須恵器 高台坏	①[16.0]②　6.3 ③　7.6	①細粒　②良好 ③黒褐　④1/2	内面・外面ともに轆轤整形後に磨き。底部は回転糸切り後に高台部を張り付け。	3	酸化焔
13-5	H－7 床直	須恵器 坏	①　9.5 ②　2.4 ③　5.8	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	2	酸化焔
13-6	H－10 床直	須恵器 高台坏	①[11.0]②(3.8) ③　—	①細粒　②良好 ③灰黄褐　④1/4	内面・外面ともに轆轤整形。内面はその後に磨き。	2	酸化焔
13-7	H－10 床直	鉄製品 刀	長さ31.5cm、刃渡り22cm、刃部最大幅22.5cm。目釘穴なし。∞状に折れ曲がるが完形。			4	
13-8	H－10 床直	転用硯	長さ13.9cm、幅11.6cm、高さ２cm。須恵器大甕の胴部破片を転用し、粗く方形に整形したもの。磨り面はすべすべしている。			5	
13-9	H－11 床直	須恵器 坏	①[10.5]②　2.6 ③　6.1	①細粒　②良好 ③灰白　④3/4	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	1	酸化焔
13-10	H－13 覆土	須恵器 坏	①　9.5 ②　2.4 ③　5.0	①細粒　②良好 ③橙　④完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。		酸化焔
13-11	H－13 覆土	土師質 土釜	①[25.2]② 20.5 ③　—	①細粒　②良好 ③にぶい赤褐　④1/5	胴部はやや膨らみ、内部は篦による横方向のナデ、外部は斜めの後に縦の撫で。口縁部はやや外反し、内外面ともに横撫で。		
13-12	H－13 床直	砥石	粗流安山岩の亜角礫の２面を砥ぎ面として使用したもの。			1	

15トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
15-1	H－1 床直	須恵器 坏	①　— ②(1.4) ③　5.8	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④底部のみ	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	2・3	酸化焔
15-2	H－1 覆土	須恵器 坏	①[9.7]②　1.5 ③　4.7	①細粒　②良好 ③橙　④4/5	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。		酸化焔

16トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
16-1	全体 覆土	転用硯	長さ7.7cm、幅7.7cm、高さ1.2cm。陶器の底部の周囲を欠き、円形に加工して硯に転用。磨り面はすべすべしている。素材の陶器は轆轤成形で底部は回転糸切り。				

Ⅵ　ま と め

１　成果について

⑴　推定国府Ｃ案及び宮鍋神社周辺について

平成23年度の国庁推定地Ａ案の調査に引き続き、平成24年度は国庁推定地Ｃ案の範囲内で調査を実施したが、掘立柱建物等の国府関連遺構は検出されなかった。国庁推定地Ｃ案は、総社神社の故地の伝承をもち、さらにその名称から国府との関連が指摘される宮鍋神社の南側に広がる平坦な区域に国庁の存在を想定したものであったが、今回の調査では、６世紀代と８世紀代の住居、中世の溝・大溝などが検出されるにとどまり、国庁に関連する遺構は検出されなかった。地形については、現況で平坦地となっているが、表土直下の層が総社砂層の地山となっていたことから、この付近はある時期に造成によって土が削り取られていることが考えられる。土が削り取られていることについては、昨年度実施した国庁推定地Ａ案周辺の調査においても、南へ行くほど土が削り取られていた。このことから、蒼海城の本丸周辺では大規模な土取りが行われたことが推測できる。

宮鍋神社は国庁推定地Ｃ案の北端に位置しているが、宮鍋神社北側に設定した13トレンチにおいては６世紀代の住居及び11世紀代の住居などのほか、古代の溝（Ｗ―１）が検出された。溝は遺構の重複関係から６世紀の住居よりも新しく11世紀の住居よりも古いことが考えられる。また、覆土は締まりが非常に強く、硬化面が確認できた部分もあることから、埋没していく過程で道路として使用されたことが想定される。この溝については、元総社宅地遺跡23トレンチの調査でも検出されており、その際は覆土の状況から建物の暗渠と位置づけしている。この溝の性格として暗渠のほかに区画溝的な要素も推測できるが、調査区途中から西側へ向けてやや弓なりに湾曲しており、区画溝としては規格性に乏しい側面もある。いずれにしても、時期的には古墳後期以後に掘削され、平安時代中期以前には廃絶したものであることから、国府が機能した時期に存在した溝であると考えて良いだろう。

⑵　平成23年度調査６トレンチ検出の古代の大溝について

平成23年度に調査した６トレンチにおいて古代の大溝（Ｗ―２）が検出されている。この大溝の北への延長部分は６トレンチの北側に位置する元総社蒼海遺跡群（14）の５トレンチでも確認されているが、この大溝の規模を確認するために、さらに北へ延長した想定線上で調査を行った（12トレンチ）が、大溝は検出されなかった。

この結果から、いくつかの可能性が想定できる。一つ目は、溝はまだ北へ伸びているが、12トレンチを設定した地点を通っていないこと。二つ目は12トレンチを設定した地点よりも手前で走行が変わること。三つ目は同様に12トレンチ手前で止まることである。現段階では元総社蒼海遺跡群（14）５トレンチよりも北へ続いていることは間違いないが、今回調査した12トレンチの範囲内は通っていないと考えるしかない。

古代の大溝については、閑泉樋遺跡、閑泉明神北遺跡、元総社明神遺跡Ⅰ・Ⅱ、寺田遺跡、元総社蒼海遺跡群（2）・（3）・（7）・（9）で検出されている。国庁推定地４案付近では、牛池川の対岸になる左岸側で元総社蒼海遺跡群(2)・(3)・(7)・(9)、閑泉明神北遺跡、閑泉樋遺跡で東西に並んで検出されている。この大溝の延長については、国庁推定地付近では現在のところ検出されていないため、牛池川右岸での状況は不明である。元総社蒼海遺跡群（31）・（38）で東西方向に走行をもつ中世の堀が検出されているが、この堀のある位置と、古代の大溝の延長の位置が近いため、状況によっては中世の堀によって大溝が消滅している可能性がある。今後、区画整理事業にともなう発掘調査も含めた調査の進捗により、古代の大溝の全体像も解明されるであろう。

なお、平成20年度に実施された元総社蒼海遺跡群（21）の27地点及び同遺跡群24地点において、両遺跡の調査区中央を南北に縦貫するように古代の溝が検出されている。この溝と６トレンチの大溝は走行が共通しているが、元総社蒼海遺跡群（21）の溝のほうが小規模で、断面が逆台形にならない点や、覆土の堆積状況から２時期に分

けられる点など、6トレンチの大溝との差異も幾つか存在することから、同一の溝である可能性は低いにしても、掘削に関して何らかの同一の意識があったことが推定される。

このように、古代の大溝が国府域の区画に関係するとするならば、その様相の解明が、国府の解明に資するところは大きいと考えられる。

⑶　総社神社西側周辺について

平成24年度の範囲確認調査では、国庁推定地４案以外の場所として、総社神社西方400m付近において調査を実施した。この地点は推定東山道駅路国府ルートと交わる通称「日高道」の西側に位置することや、緑釉陶器等の高級陶器や銅椀等の遺物を多く出土する弥勒・天神地区の東側に位置しているため、国府関連施設の検出が期待されたが、平安時代の集落、中世の溝、井戸、ピット群のほか中世の造成面が検出されるにとどまった。また、遺物も少量で、特筆される遺物も出土しなかった。このことから、この地点は国府域には含まれるものの、平安時代には一般の集落エリアであったと考えられる。

この付近についても、中世の造作により土の堆積が良好でなかったことから、遺構の残存状況もあまりよいとは言えなかった。しかしながら、平安時代以前の遺構や遺物も見られなかったことから、住居が営まれた以前の状態は不明でありつつも、集落域ではなかった可能性も指摘できるため、この周辺での調査も引き続き行う必要があろう。

なお、16トレンチで検出された中世の溝については、方形に廻る区画溝の北東隅付近を検出したものと推定できる。この地点は蒼海城の堀が北側及び東側を走り、あたかも方形に取り囲むような状況にある。今回確認された溝と蒼海城の溝との時期的な前後関係は不明であるが、いずれにせよ中世この場所を方形に区画する施設が存在していたと考えられる。なお、調査地点の南西には五輪塔や石造物の集積が存在し、この付近に「最教寺」という名前の寺院が存在したという伝承(1)があることから、この溝は寺院に関連した施設と考えることもできる。

2　今後の課題

平成23年度に国庁推定地Ａ案、平成24年度に国庁推定地Ｃ案を中心に調査を行ってきた。宮鍋神社北側で古代の溝の検出という成果は得られたものの、国府関連施設の検出には至っていない。

国庁推定地４案のうち、国庁推定地Ｄ案については元総社蒼海遺跡群の調査が推定地北側で大々的に実施されているが、国府関連施設は未検出となっている。蒼海城本丸を中心とした国庁推定地Ｂ案についても未調査である。蒼海城本丸は、国庁の跡地に造られたという伝承のほか、周辺よりも現況で高く、土取りされていないことが考えられることから遺構の保存状態を考慮しても、今後調査を行う必要がある。

それと並行して元総社明神遺跡Ⅷ及び元総社寺田遺跡で人形や「国厨」「曹司」の墨書土器が出土している点や、元総社小学校校庭遺跡で掘立柱建物が検出されている点などから、総社神社及び元総社小学校周辺も国府関連施設が存在したことが推測されることから、こうした地点の調査も必要と思われる。

また、閑泉樋遺跡、元総社明神遺跡、元総社蒼海遺跡群、推定上野国府６トレンチ等で検出された古代の大溝についても、その規模や性格を調査により解明すること。さらには国府域南端付近を東西に通過していると推定される東山道駅路国府ルートを調査により確定することによって、国府域の大枠が解明されることが期待でき、国庁の確認調査とあわせて国府解明のために実施することが必要と思われる。

註（１）　地元の都木勝男氏と都木周彌氏のご教示による。また、蒼海城絵図によっても寺院が存在したことが確認できる。調査区南の「早道」の地名の由来についても、最教寺にちなんだ伝承に因るという。

【主要参考文献】

山崎　一	1971	『群馬県古城塁址の研究』上巻　群馬県文化事業振興会
深澤　靖幸	2002	「国庁跡に建てられた社―ミヤノメ神社小考―」『府中市郷土の森博物館紀要』15
前橋市教育委員会	1982	「閑泉樋遺跡」『文化財調査報告書』13
	1982	『元総社明神遺跡Ⅰ』
	1984	『元総社明神遺跡Ⅱ』
	1986	『元総社明神遺跡Ⅲ．Ⅳ』
	2010	『元総社蒼海遺跡群（31）』
	2012	『元総社蒼海遺跡群（38）』
	2013	『推定上野国府～平成23年度調査報告～』
	2013	『元総社蒼海遺跡群（44）・元総社蒼海遺跡群（45）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	1986	『寺田遺跡』
	1990	「閑泉明神北遺跡」『元総社明神遺跡Ⅷ』
	2000	『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』
	2005	『元総社蒼海遺跡群（３）・元総社小見Ⅶ遺跡』
	2006	『元総社蒼海遺跡群（２）』
	2006	『元総社蒼海遺跡群（７）』
	2007	『元総社蒼海遺跡群（９）・(10)』
	2008	『元総社蒼海遺跡群（14）・元総社蒼海遺跡群（19）』
	2009	『元総社蒼海遺跡群（21）』
	2009	『元総社蒼海遺跡群（23）』
	2010	『元総社蒼海遺跡群（29）』
	2011	『元総社蒼海遺跡群（36）』

第２章　上野国府に関連する主要遺物の分布について

Ⅰ　上野国府に関連する主要遺物の分布について

はじめに

上野国府等範囲内容確認調査の実施とあわせて、上野国府に関連する既出資料の集成作業を行い、その成果を元総社蒼海遺跡群内における７世紀から10世紀の住居分布とあわせて平成23年度調査報告書に掲載した。その際は、既出資料のうち、掘立柱建物跡、古代の大溝、神社遺構、鍛冶工房跡など国府との関連が推定される遺構と、墨書土器、人形、畿内系暗紋土器、硯、盤、腰帯具、青白磁類などの遺物を掲載した。

上野国府に関連する主要遺物については、平成23年度報告書に掲載した資料以外にも出土していることから、再度遺物集成を行うこととした。

１　集成作業について

対象とした区域は平成23年度報告書掲載時と同じ範囲を対象とした。具体的には元総社町を中心として、周辺地域を含めた範囲である。範囲内の主な遺跡としては、元総社蒼海遺跡群、天神遺跡、弥勒遺跡、元総社明神遺跡、元総社寺田遺跡、元総社西川・塚田中原遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡などの遺跡を対象とした。なお、対象とした遺跡（使用報告書）は一覧のとおりである。なお、集成作業にあたっては遺物の実測図と遺物一覧表を作成し、さらに出土点数を分布図にまとめた。抽出した遺物は螺旋状暗紋を有する坏形土器、盤・高盤形土器、須恵器長頸瓶、墨書土器、文字瓦、硯、腰帯具、緑釉陶器、青磁、白磁、三彩、銅椀、特殊金属製品、その他の貴重遺物（人形等）とした。

２　各主要遺物の分布について

⑴　螺旋状暗紋を有する坏形土器

螺旋状暗紋を有する坏形土器は対象範囲内で142点確認されている。その中で上野国分僧寺･尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡、元総社西川遺跡での出土が多く、元総社蒼海遺跡群でも西寄りの地域で出土している。その他では元総社小学校周辺でも数点出土している。多く出土している地点では国分僧寺・尼寺中間遺跡で調査した染谷川河川敷で34点出土し、鳥羽遺跡Ｈ区のＨ１号掘立柱建物跡（神社遺構）の区画溝から合計で25点出土している。鳥羽遺跡ではその他にＭ・Ｎ区第２台地下から５点出土している。染谷川河川敷については具体的な遺構は確認されていないが、７世紀後半以後の土師器坏や須恵器坏が集中して出土しており、その中に混ざり出土している。Ｍ・Ｎ区第２台地下も弥生時代後期・古墳時代初頭から奈良・平安時代に至る各時期の土器が多量に廃棄されていた。

その他の螺旋状暗紋を有する坏形土器は住居跡から出土する例が多い。

⑵　盤・高盤形土器

盤･高盤形土器は対象範囲内で189点確認されている。基本的には螺旋状暗紋を有する坏形土器と似た分布をしており、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡、鳥羽遺跡、元総社西川遺跡で多く出土している。また元総社蒼海遺跡群の西寄りの地域でも出土している。その他では元総社小学校周辺でも数点出土しているほか、天神遺跡でも出土

しており、螺旋状暗紋を有する坏形土器よりも、やや広い範囲に分布している。多く出土する地点・遺構では元総社寺田遺跡の牛池川の河道や、鳥羽遺跡のＭ・Ｎ区第２台地下が挙げられる。前者では盤のほかに、螺旋状暗紋を有する坏形土器、墨書土器、硯、人形なども出土している。後者については前述のとおり多量に廃棄された土器に含まれていたという状態である。

⑶　須恵器長頸瓶

須恵器長頸瓶は対象範囲内で29点確認され、鳥羽遺跡や元総社西川遺跡など、西寄りの地域で出土している。その他に元総社明神遺跡でも出土している。多く出土する地点や遺構はなく、住居跡から出土している。

⑷　墨書土器

墨書土器は対象範囲内で144点確認されている。墨書土器に記された個々の文字の分析まで行っていないため、客観的な分布を把握するのみとなってしまうが、遺跡レベルでの多少の集中はあるものの、全体的に対象地域全体に分布するが散漫に分布する傾向がある。ただし、元総社寺田遺跡では河道から多くの墨書土器が出土しており、その中には「国厨」「曹司」等の国府関連施設が書かれた墨書土器が含まれている。また、国分僧寺と国分尼寺の中間付近に位置する元総社蒼海遺跡群㉖では、住居の覆土からの出土ではあるが「大館」の墨書土器が出土している。大館は国司館を示すと考えられ、周辺で掘立柱建物跡等は検出されていないため、国司館の詳細の位置は不明であるが、国府関連遺物として特筆される。

⑸　文字瓦

文字瓦は対象範囲内で332点確認されている。文字瓦についても墨書土器と同様に対象地域全体に分布が広がる傾向を示す。出土点数では国分僧寺と国分尼寺の付近が多いが、国府域で国庁・国衙以外で存在した主な瓦葺建物としては国分僧寺と国分尼寺が挙げられるが、この出土状況は両寺院で使用された瓦の影響と考えられるだろう。国分僧寺・国分尼寺周辺以外で文字瓦が多く出土した地点・遺構はほぼなく、元総社蒼海遺跡群の調査でも、文字瓦も含め瓦の出土は住居のカマドの構築材への転用した例が多い。

⑹　硯（円面硯・蹄脚硯・風字硯・転用硯）

硯は円面硯・蹄脚硯・風字硯・転用硯が出土しているが、対象範囲内で円面硯26点、蹄脚硯１点、風字硯９点、転用硯61点確認されており、点数的には転用硯が一番多く、出土した硯の約63％を占める。分布については硯の形態に大きな差はなく、国分僧寺・国分尼寺中間遺跡や鳥羽遺跡などの西寄りと、元総社明神遺跡周辺に集中している。多く出土した地点・遺構はなく、各住居や溝から出土している。

⑺　腰帯具（丸鞆・巡方・鉈尾・帯金具）

腰帯具としては丸鞆・巡方・鉈尾・帯金具（鉸具等）が出土しており、対象範囲内で丸鞆10点、巡方12点、鉈尾５点、帯金具４点確認されている。分布は鳥羽遺跡や元総社蒼海遺跡群を中心に出土しているが、散漫な状態で出土している。遺物が多く出土が集中する地点・遺構も検出されておらず、住居から出土する例が大部分を占める。

⑻　緑釉陶器

緑釉陶器は対象範囲内で緑釉陶器は点数に差はあるものの国府域全域から出土している。特筆されるのは天神遺跡から120点出土しており、一つの遺跡からの出土点数としては群を抜いている。その他に鳥羽遺跡や元総社蒼海遺跡群の染谷川寄りで多く出土している。よって点数的な分布としては国府域の南東に集中する傾向がある。

⑼　青磁・白磁・三彩・銅椀

青磁と白磁については国府域全域から出土している。青磁は点数的にも出土が集中する地点はないが、白磁は元総社明神遺跡や元総社西川遺跡などグリッドで多く出土している。三彩と銅椀については出土例も少なく、分布についても鳥羽遺跡や元総社西川遺跡を中心に出土する程度である。

⑽　特殊金属製品

特殊金属製品として鉄製品、銅製品、金銅製品を挙げた。鉄製品は鋏・鉋・毛抜形鉄製品などの道具自体が鉄を素材としたもの、刀装具・留め金具などの鉄製の部品、その他の板状や環状の鉄製品に分けられる。銅製品は鈴などの銅製品、刀装具・刀館具などの銅製の部品、銅粒や銅原料地金と思われるものなどの原材料に分けられる。金銅製品は基本的には道具の一部もしくは部品であるが、部分的な出土であるため詳細が不明な場合がある。

分布は僧寺・尼寺中間地域、鳥羽遺跡、元総社西川遺跡など国府域の西寄りに分布している。出土した遺構も住居や溝が中心であり、特殊な遺構からの出土はみられない。

⑾　その他の貴重遺物

その他の少数ながら出土した貴重遺物としては、人形、須恵器獣脚、水瓶、水注須恵器を挙げた。

人形は元総社明神遺跡や寺田遺跡から出土している。いずれも牛池川の河道から出土している。須恵器獣脚は天神遺跡と堰越遺跡から出土している。水瓶は頸部のみの出土であるが、元総社蒼海遺跡群と元総社明神遺跡から出土している。水注は１点のみ元総社蒼海遺跡群から出土している。

3　ま と め

以上のように上野国府に関連する主要遺物の分布状況をみてきたが、全体的な傾向としては、主要遺物の出土は国府域でも西寄りの国分僧寺・尼寺中間遺跡や鳥羽遺跡から、東寄りでは元総社明神遺跡や寺田遺跡など、総社神社や元総社小学校周辺から出土する傾向が強い。

出土状況については大きく３つのケースに分けることができる。

一つは、住居跡の覆土から出土するケースで、大概の遺物はこのケースに該当する。各住居と遺物の出土状況について今後の検討課題となるため詳細が不明であるが、文字瓦と竈の構築材の関係のように遺物と出土した遺構が直接的に関係を持たない例があることは考慮したい。

二つめは、溝や染谷川や牛池川の河道や河川敷から出土するケースで、螺旋状暗紋を有する坏形土器、盤・高盤形土器、人形、一部の墨書土器が該当する。出土状況を詳しく見てみると、河川に面した台地の下部でまとまって出土した土器の中に含まれていた例や、調査で確認された河道で出土した例が多い。人形については、その祓において罪・穢等を人形に移し、流れに投じたという使用方法から河道で出土することも十分想定できる。螺旋状暗紋を有する坏形土器や盤・高盤形土器などの土器類についても、使用後に河川敷や河道に廃棄したことが考えられる。また、鳥羽遺跡のＨ１号掘立柱建物跡（神社遺構）の区画溝（W―10～12）から螺旋状暗紋を有する土器が多く出土している。比較的完形の坏形土器が出土していることから、遺構と土器との関連性について検討する必要がある。

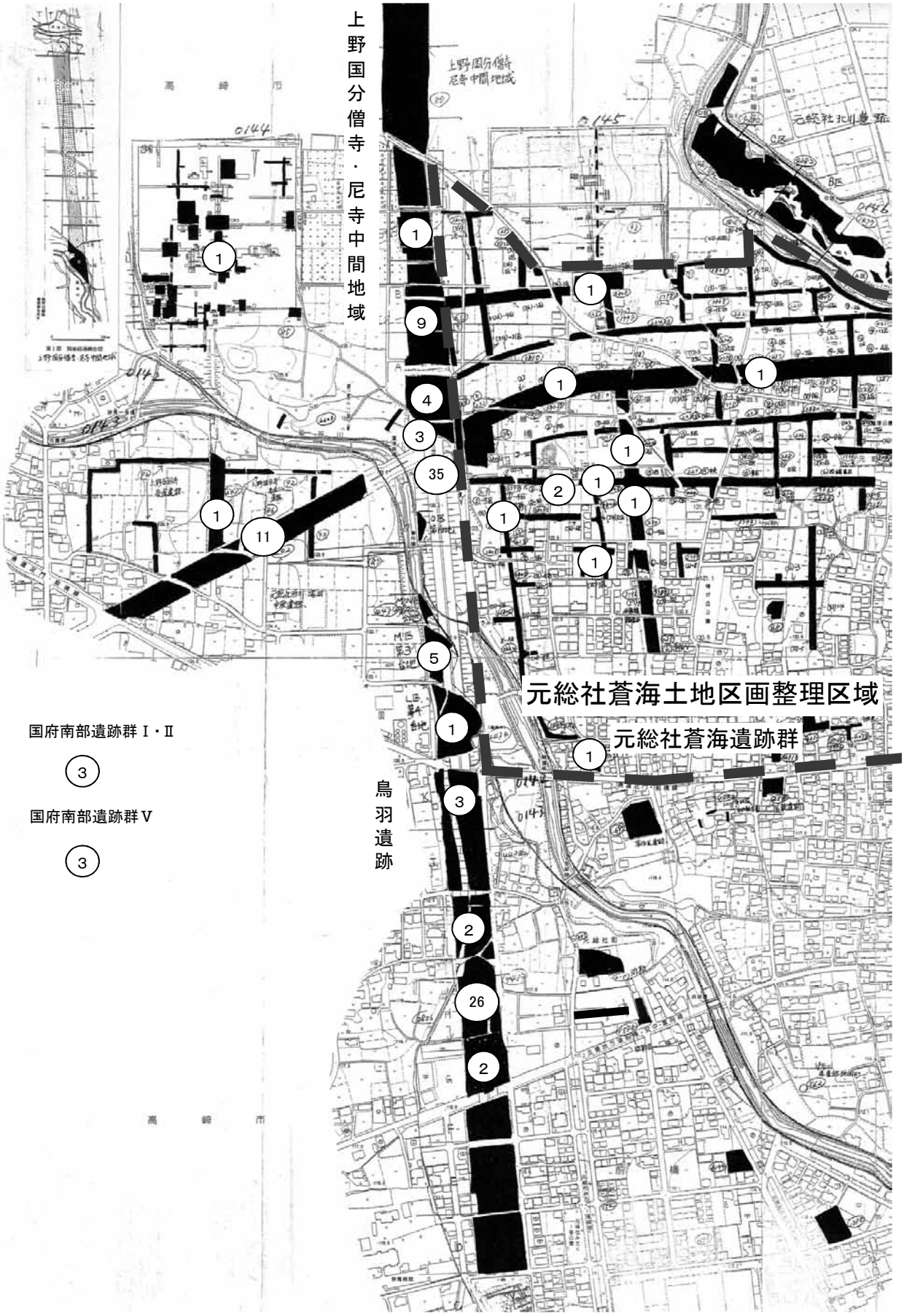
三つめは遺構などに伴わず調査区の覆土から出土するケースで、緑釉陶器、青磁、白磁に多く見られる。特に、青磁と白磁については、元総社明神遺跡から多く出土しており、他の遺物と分布の状況に差がある。

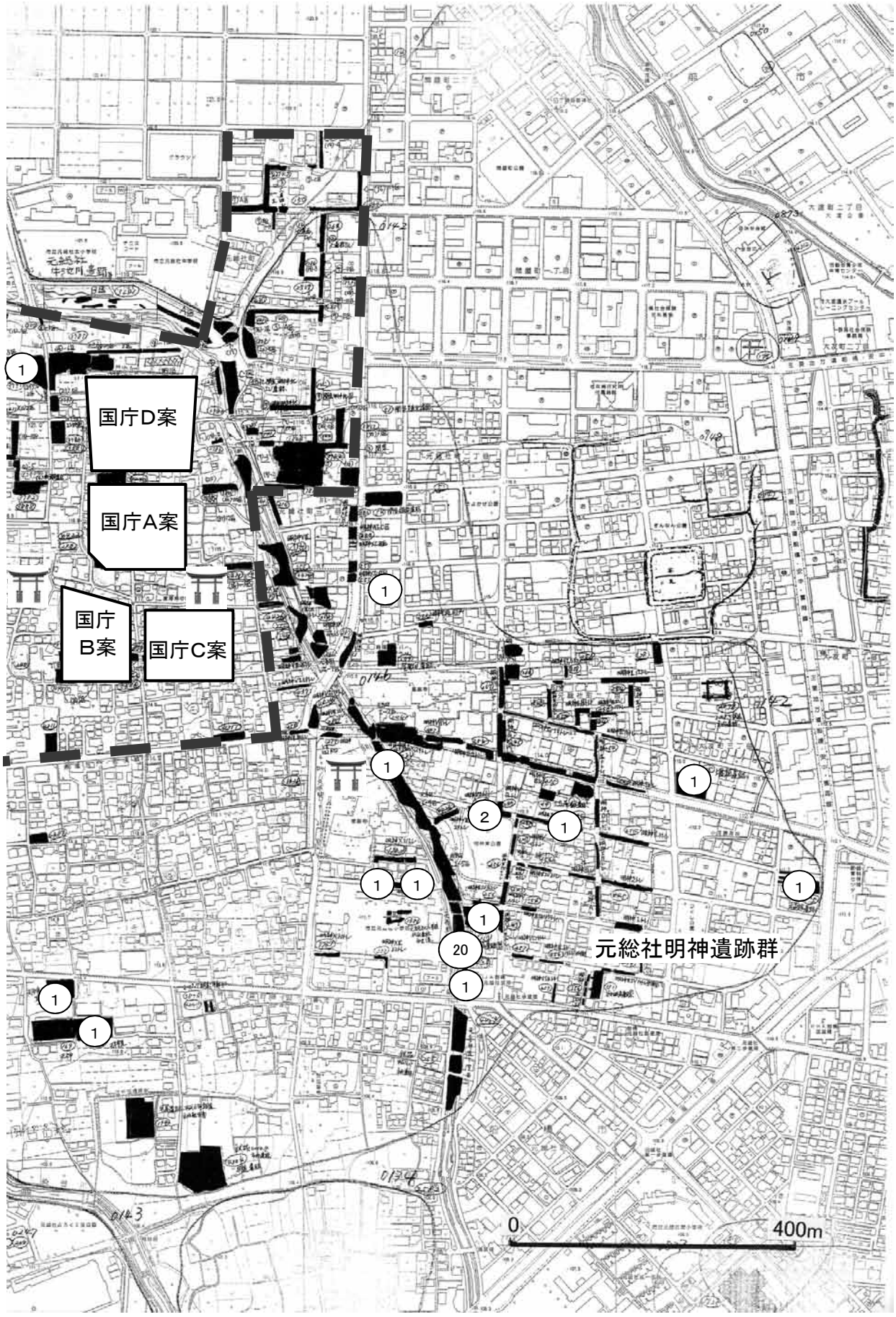
このように、遺物によって出土状況にある程度の傾向があると思われる。特に土器等が廃棄された溝や河川敷の存在については、住居跡の覆土から出土する例と性格が異なると思われ、今後さらなる性格の検証が必要と思われる。

参考文献

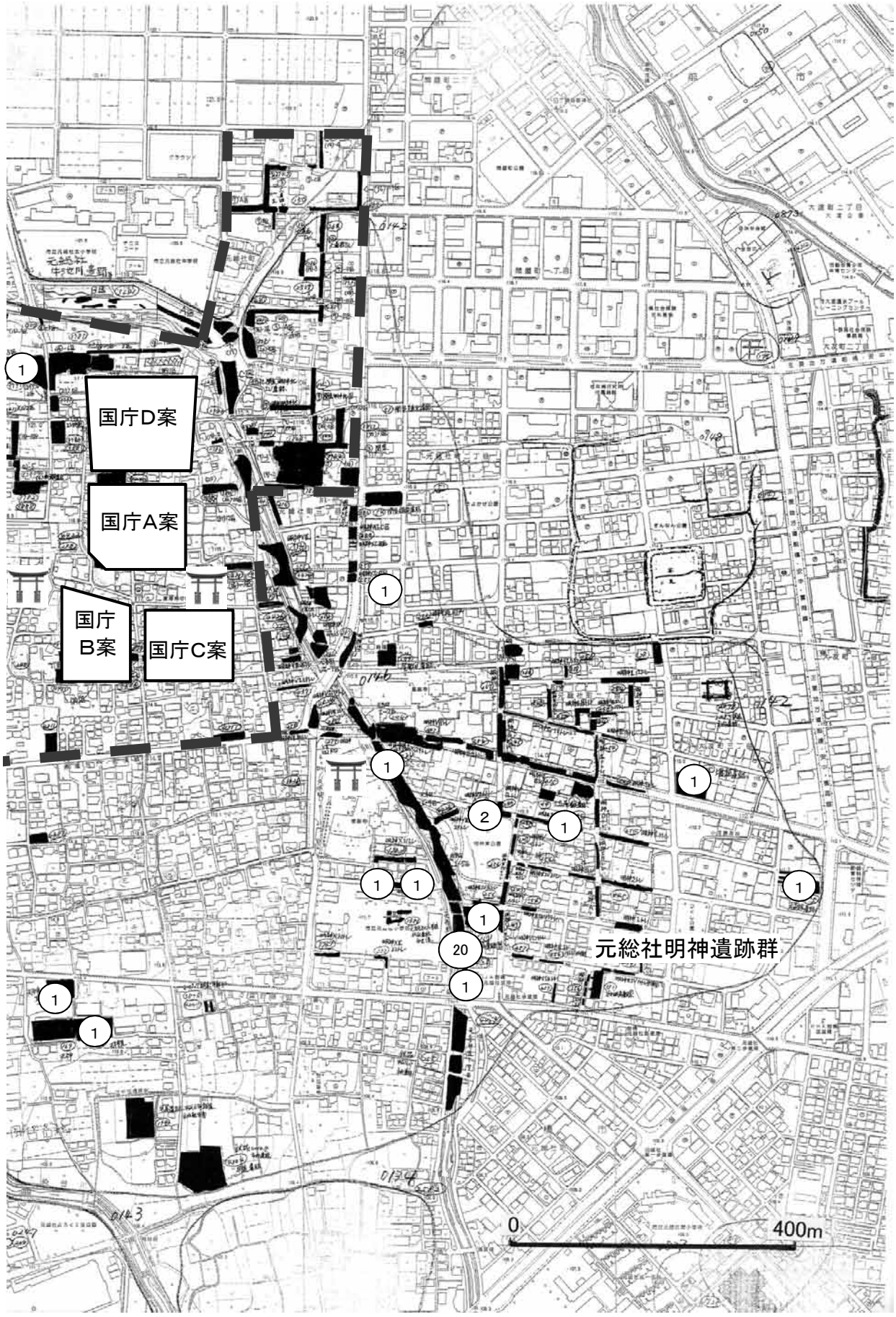
江口　桂　2002 「武蔵国府関連遺跡出土墨書土器の基礎的検討」『府中市郷土の森博物館紀要』15
㈶府中文化振興財団・府中市郷土の森博物館　2005 『古代武蔵国府』府中市郷土の森博物館ブックレット６
奈良文化財研究所　2004 『古代の官衙遺跡』Ⅱ　遺物・遺跡編
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会　1999 『武蔵国府の調査22　―平成11年度府中市内調査概要』
なお、報告書については一覧のとおり

01 螺旋状暗紋を有する坏形土器の分布図

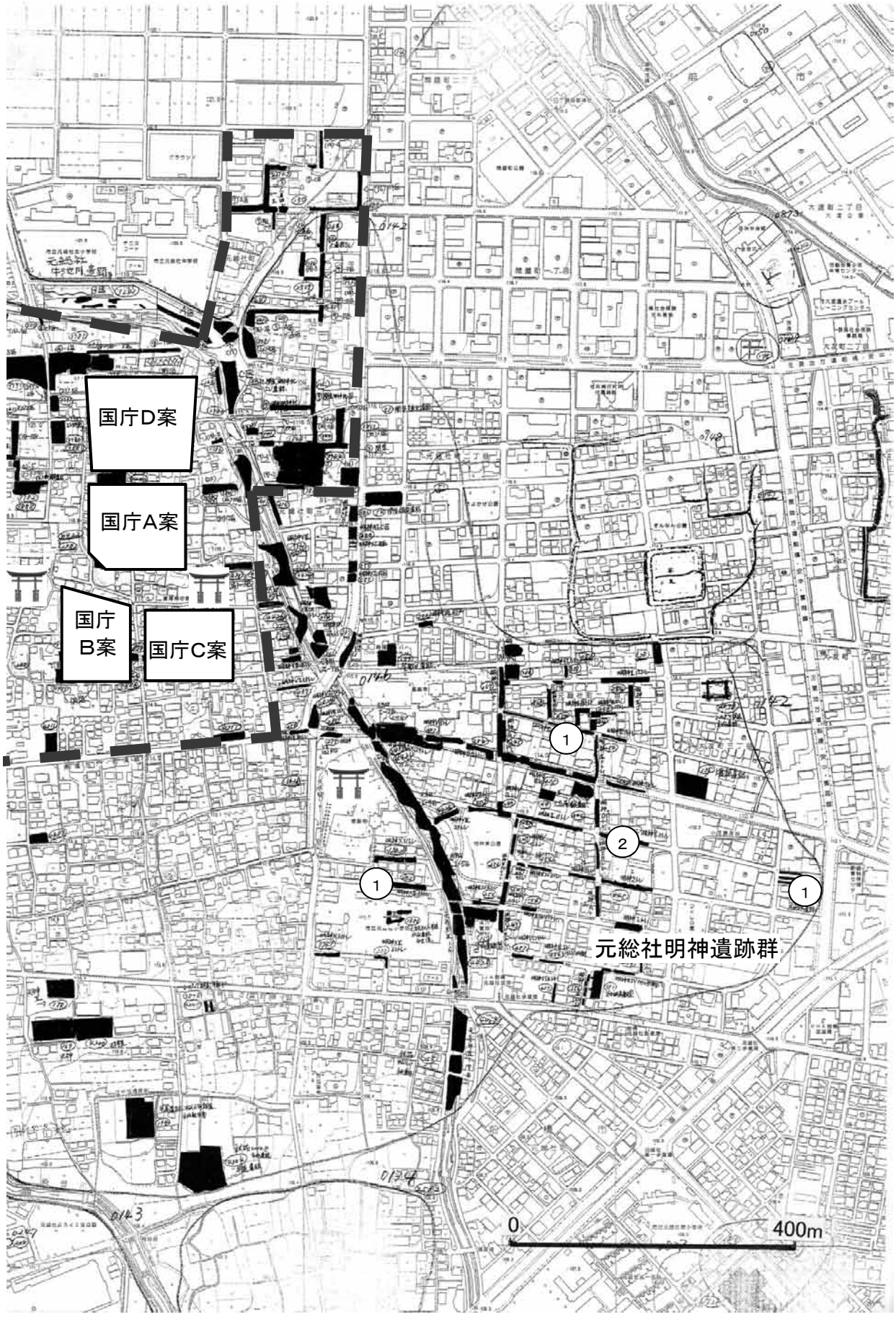



国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

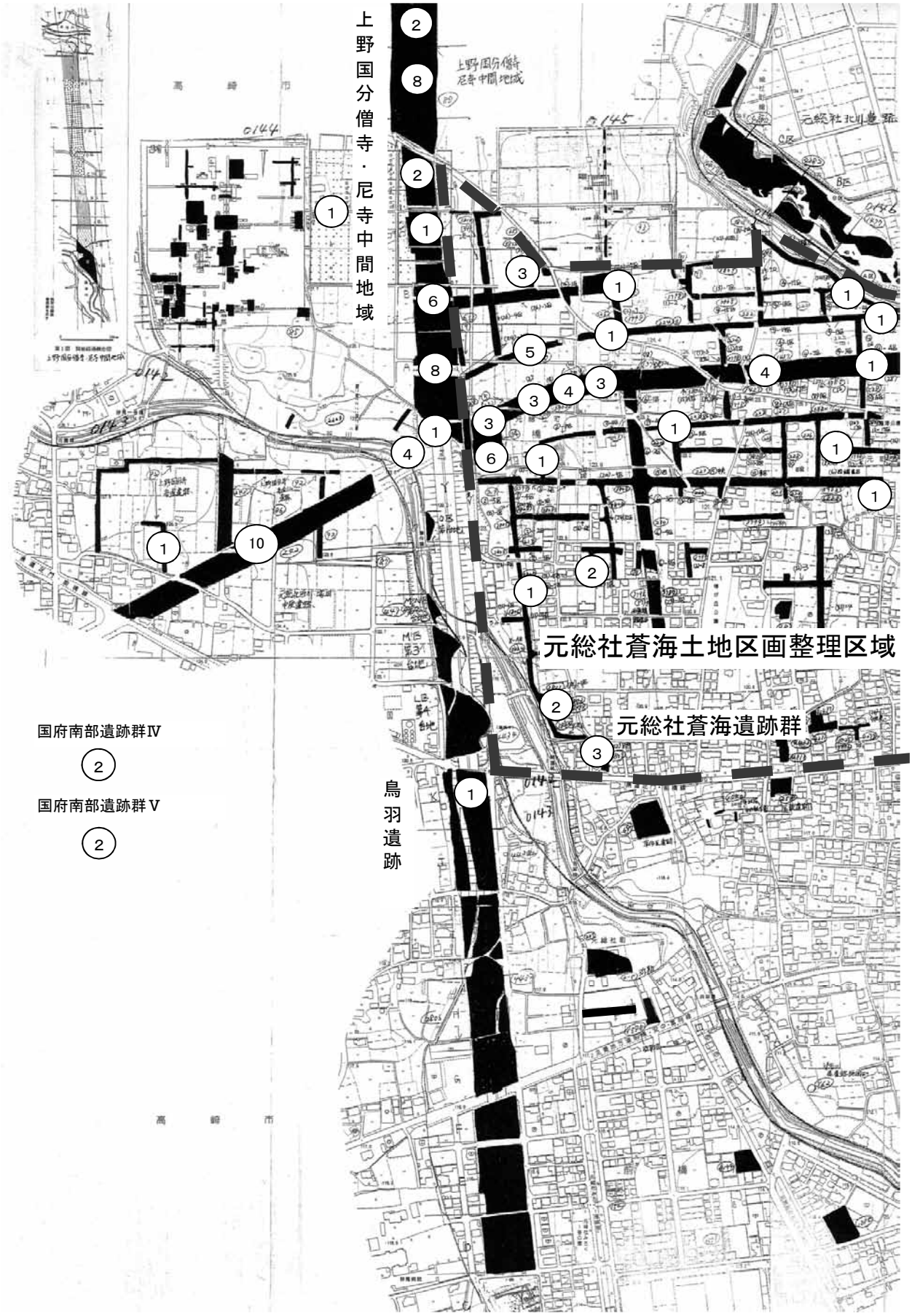
02 盤・高盤形土器の分布図

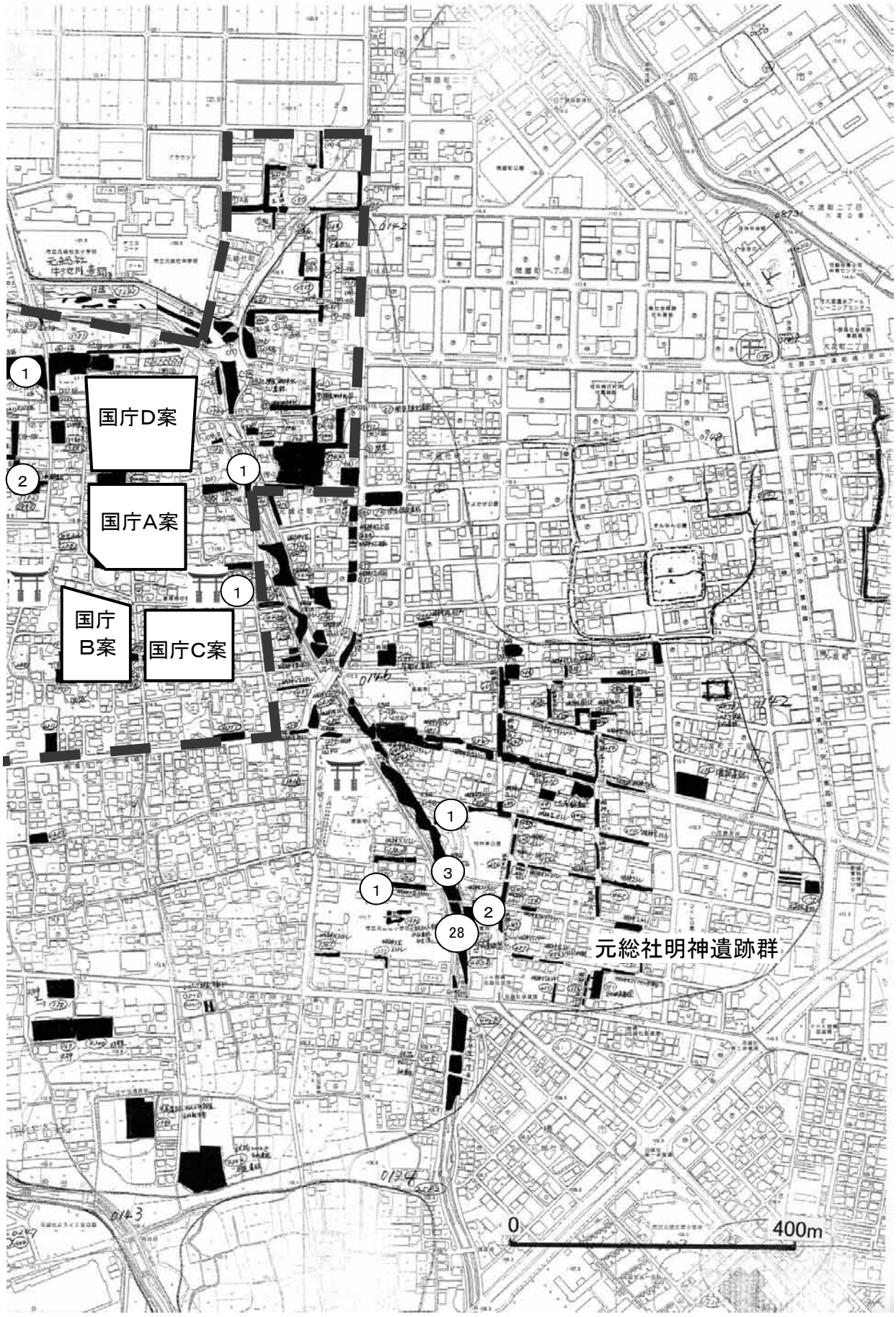

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

03 須恵器長頸瓶の分布図

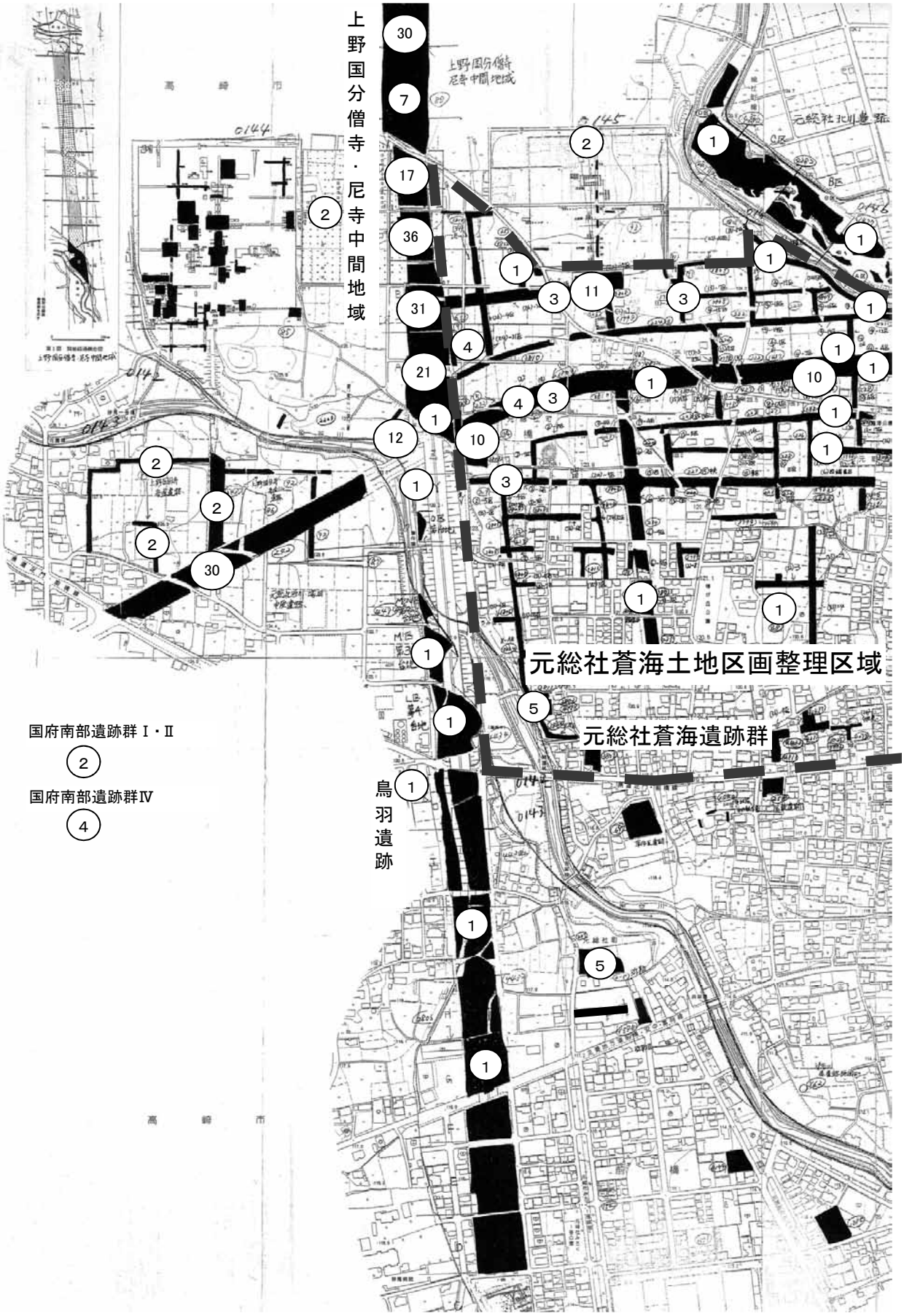

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
1
2
1
1
0
400m

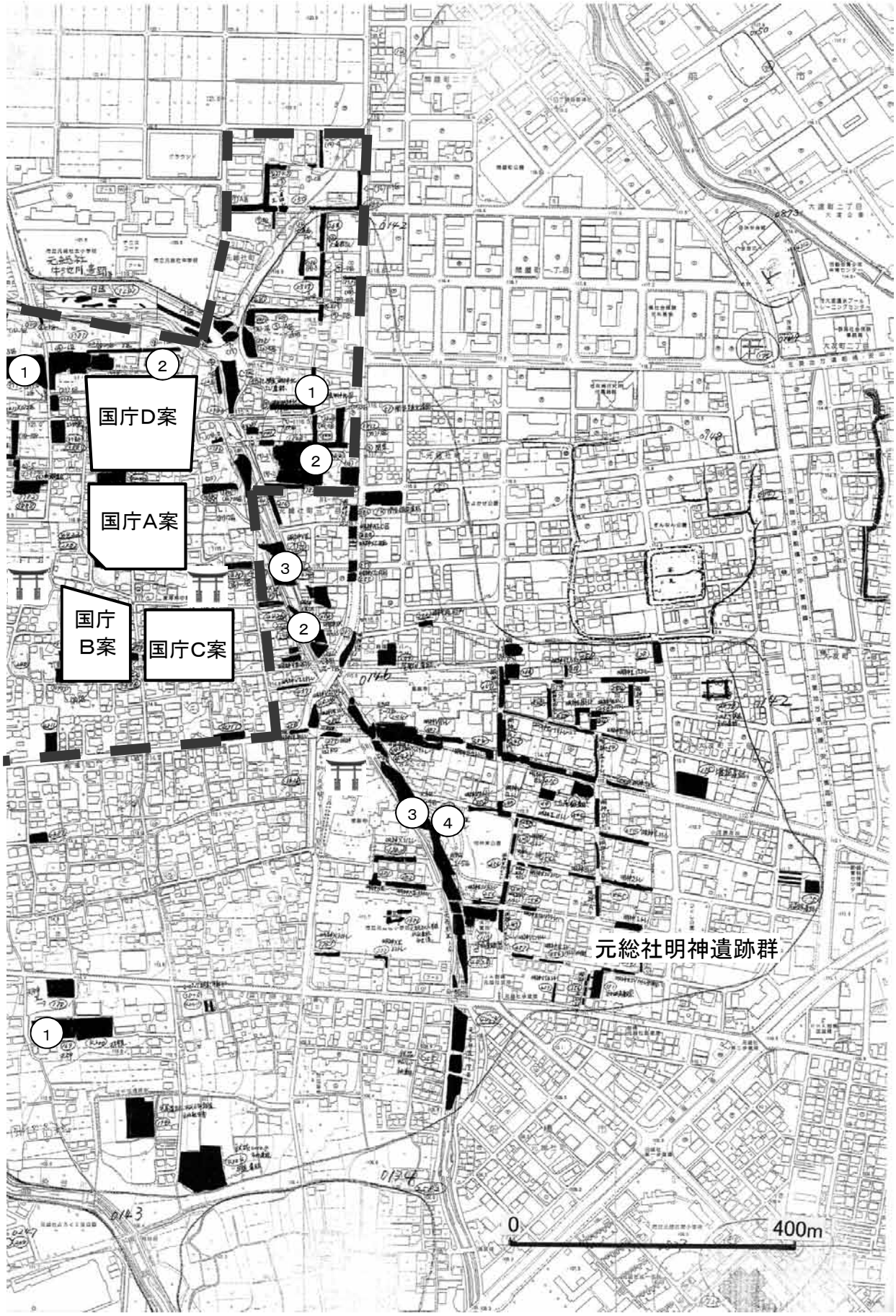
04 墨書土器の分布図


上野国分僧寺・尼寺中間地域
元総社蒼海土地区画整理区域
元総社蒼海遺跡群
鳥羽遺跡
国府南部遺跡群Ⅳ
2
国府南部遺跡群Ⅴ
2

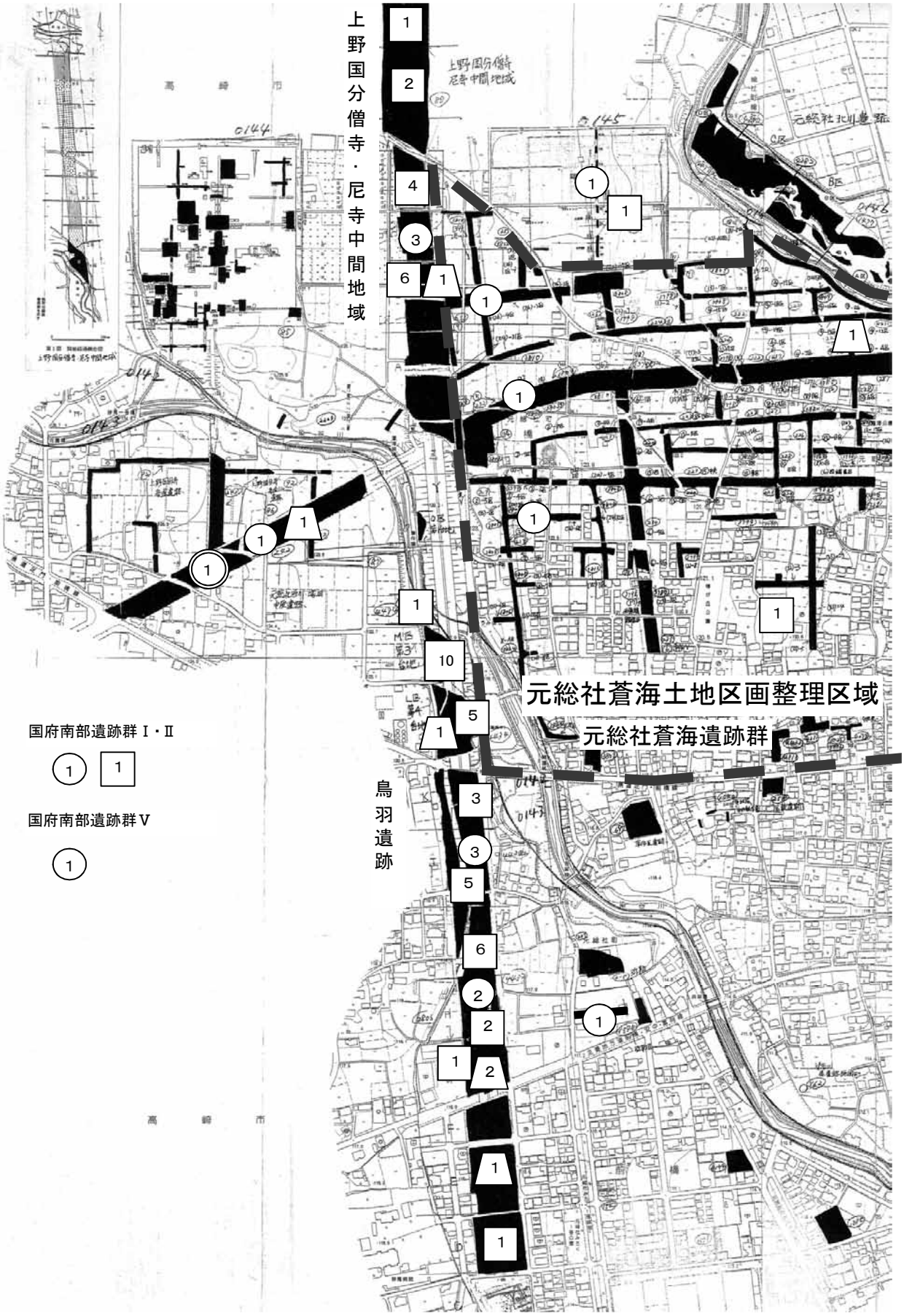

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

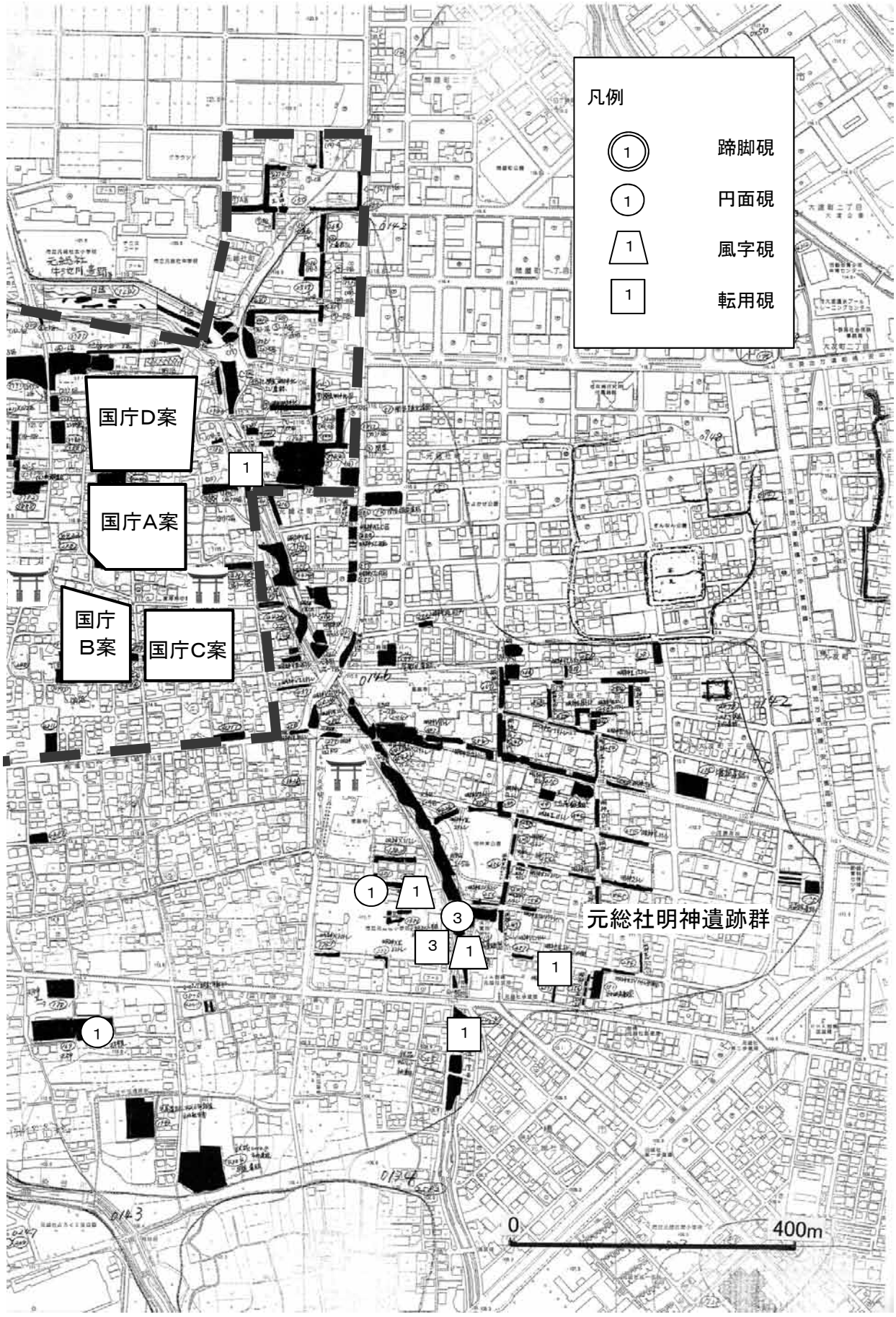
05 文字瓦の分布図


上野国分僧寺・尼寺中間地域
元総社蒼海土地区画整理区域
元総社蒼海遺跡群
鳥羽遺跡
国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ
2
国府南部遺跡群Ⅳ
4

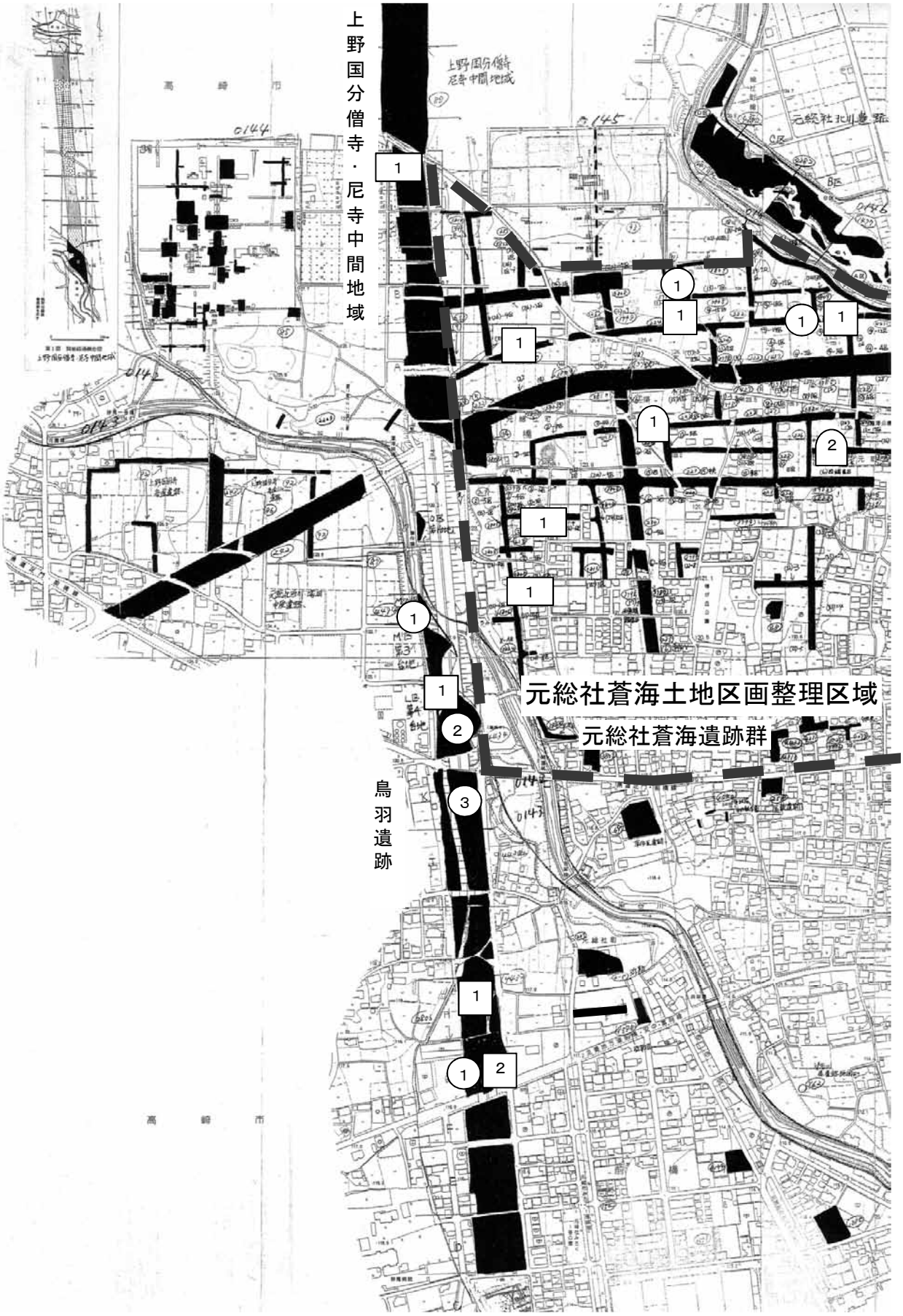

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

06, 07, 08 硯（円面硯・風字硯・転用硯）の分布図

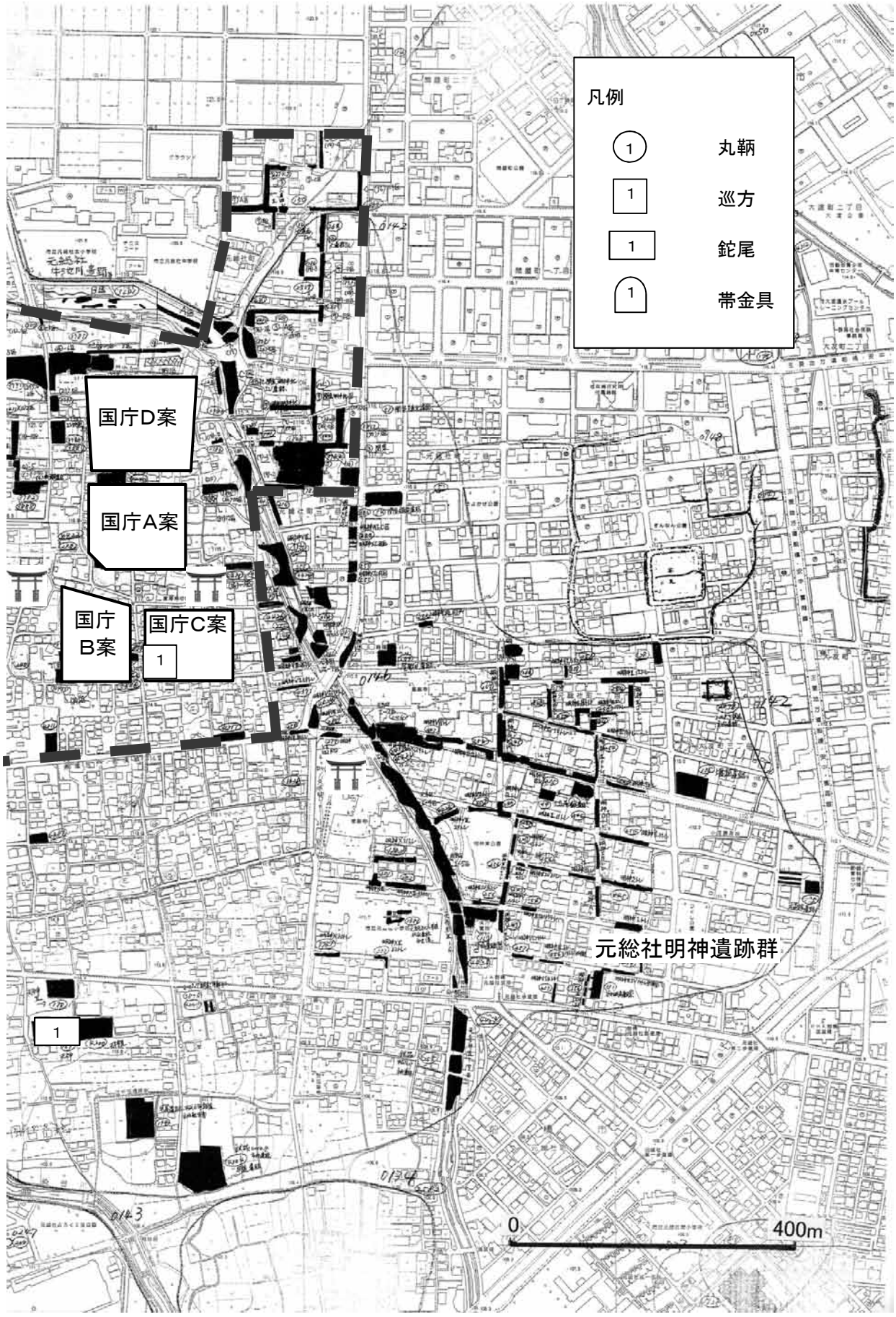



凡例
1 蹄脚硯
1 円面硯
1 風字硯
1 転用硯
国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

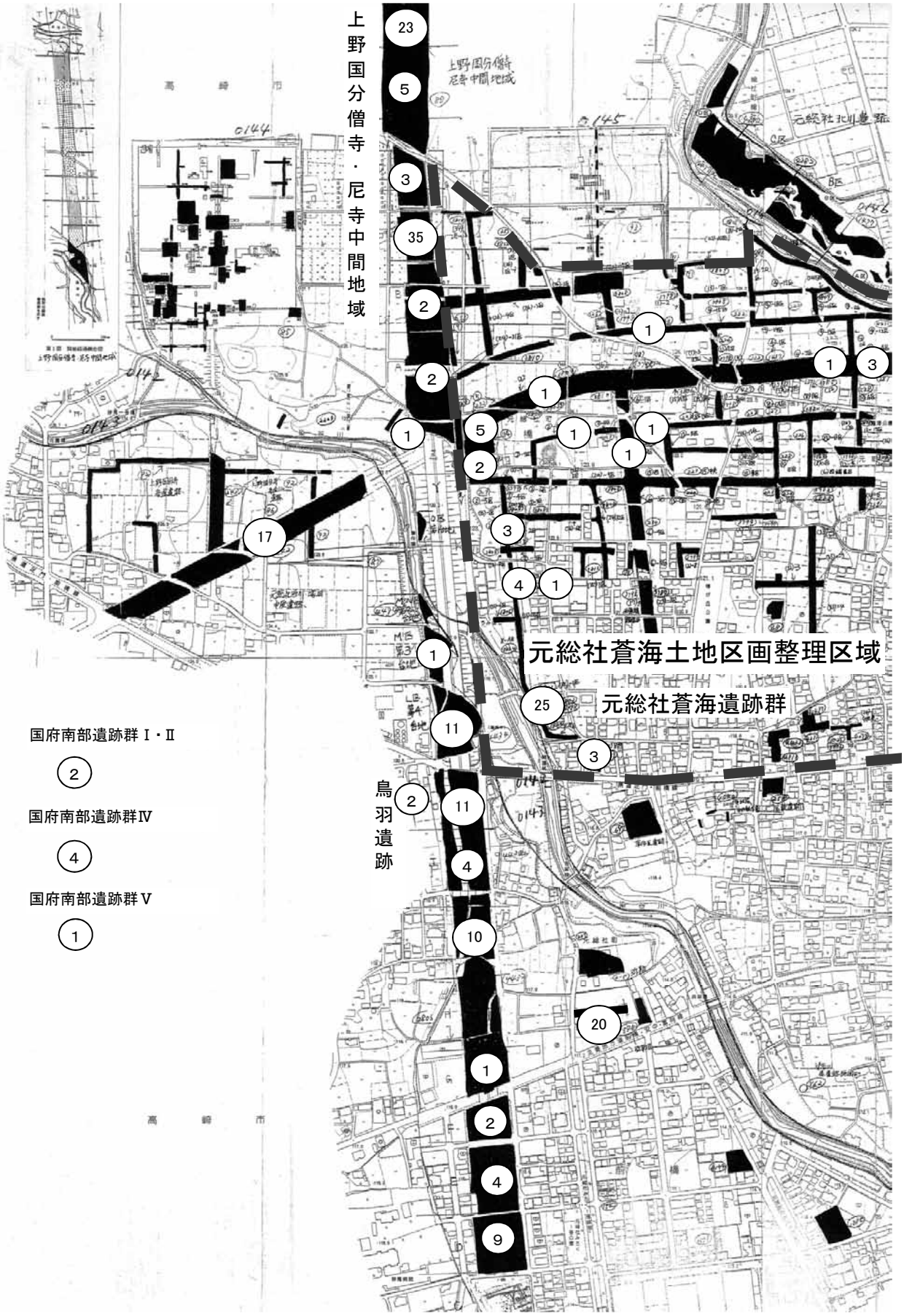
09, 10, 11, 12 腰帯具（丸鞆・巡方・鉈尾・帯金具）

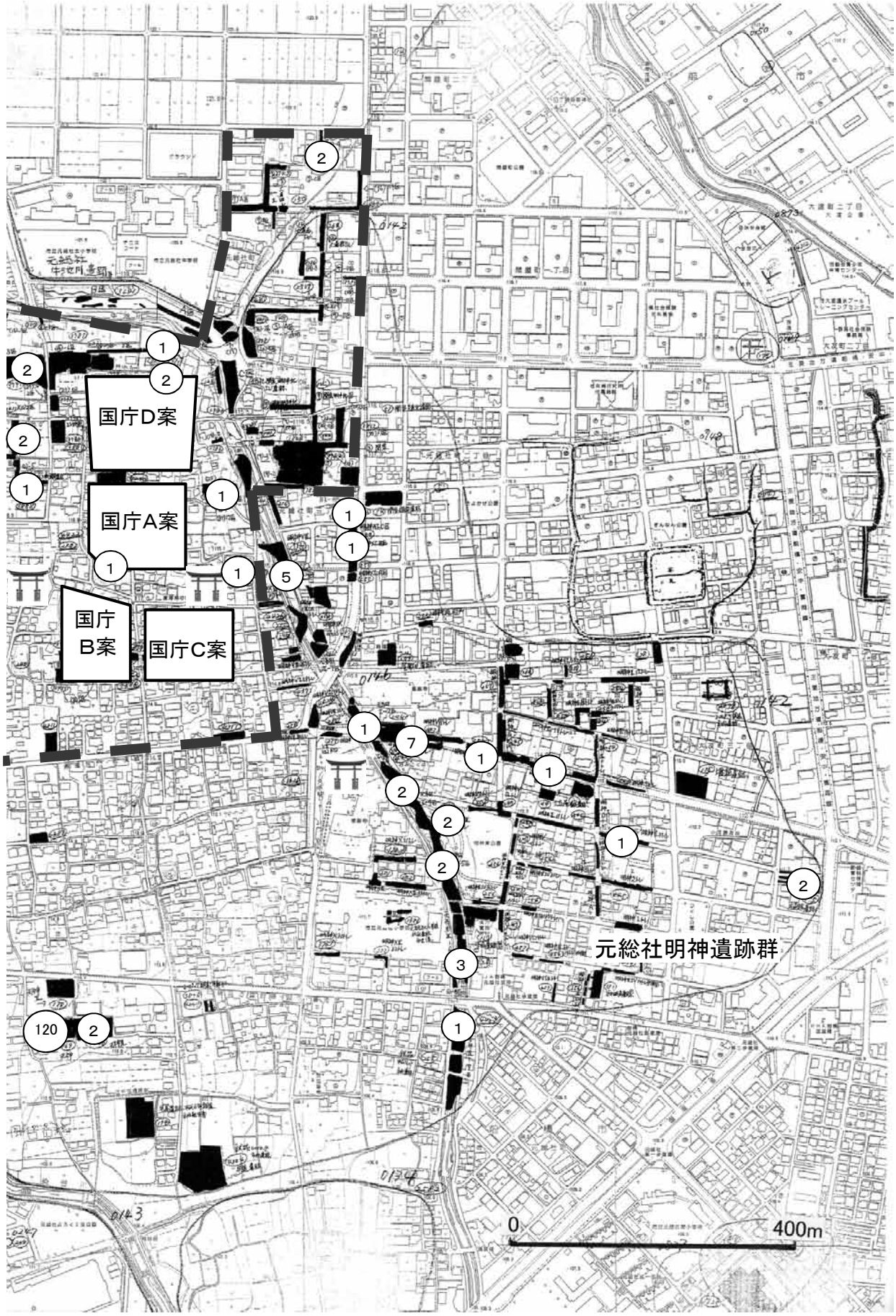


の分布図

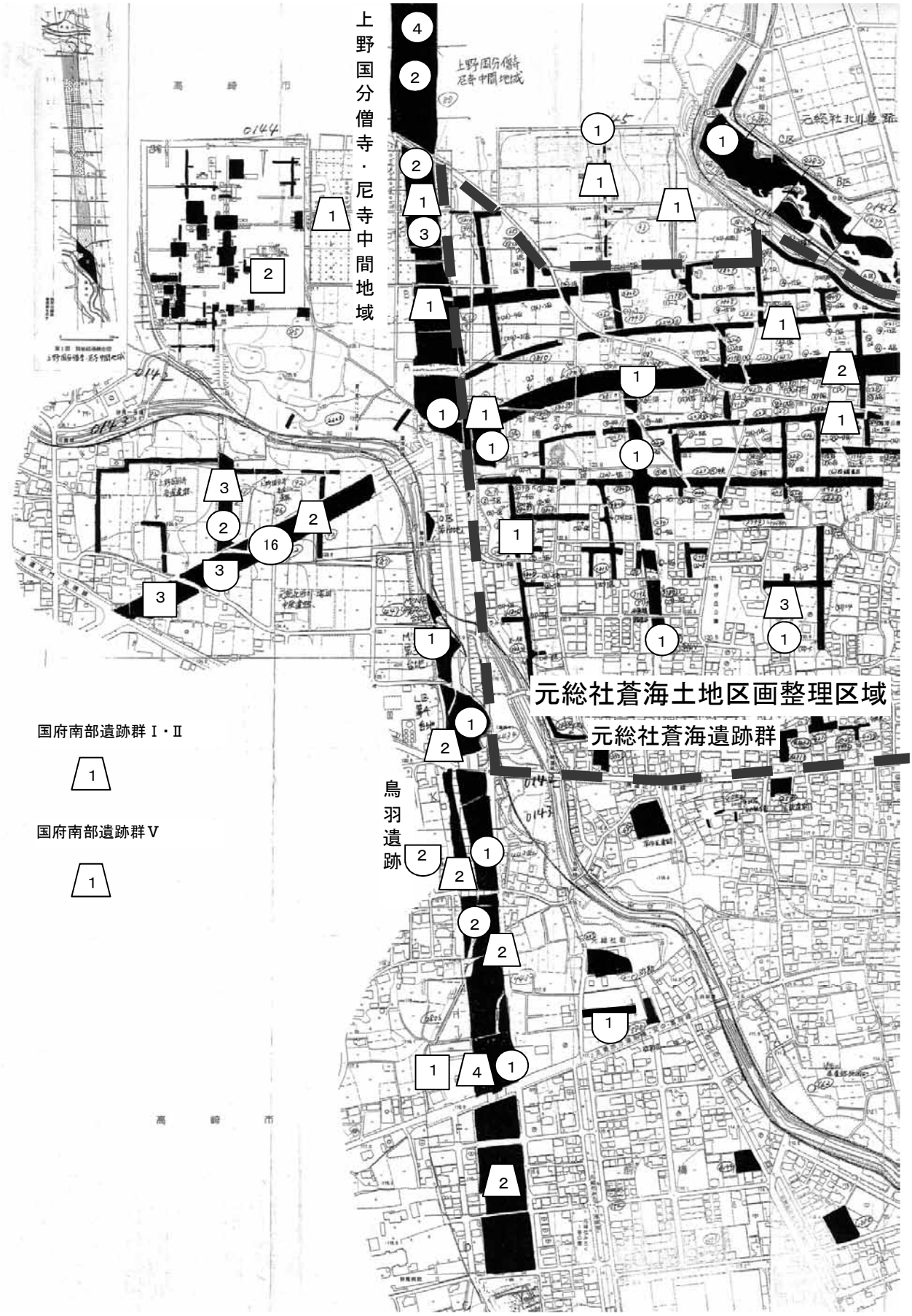


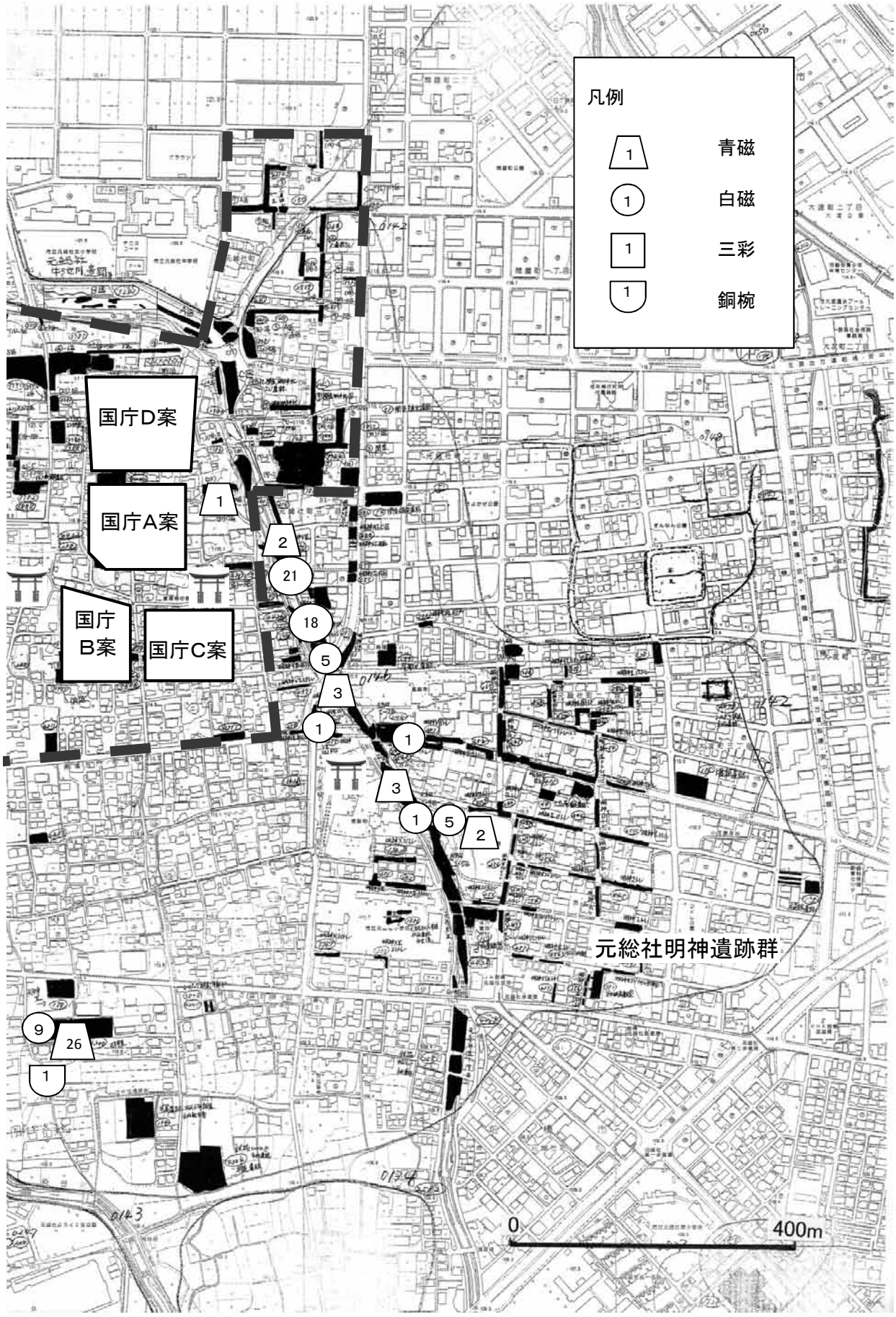
13 緑釉陶器の分布図


上野国分僧寺・尼寺中間地域
元総社蒼海土地区画整理区域
元総社蒼海遺跡群
鳥羽遺跡
国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ
2
国府南部遺跡群Ⅳ
4
国府南部遺跡群Ⅴ
1

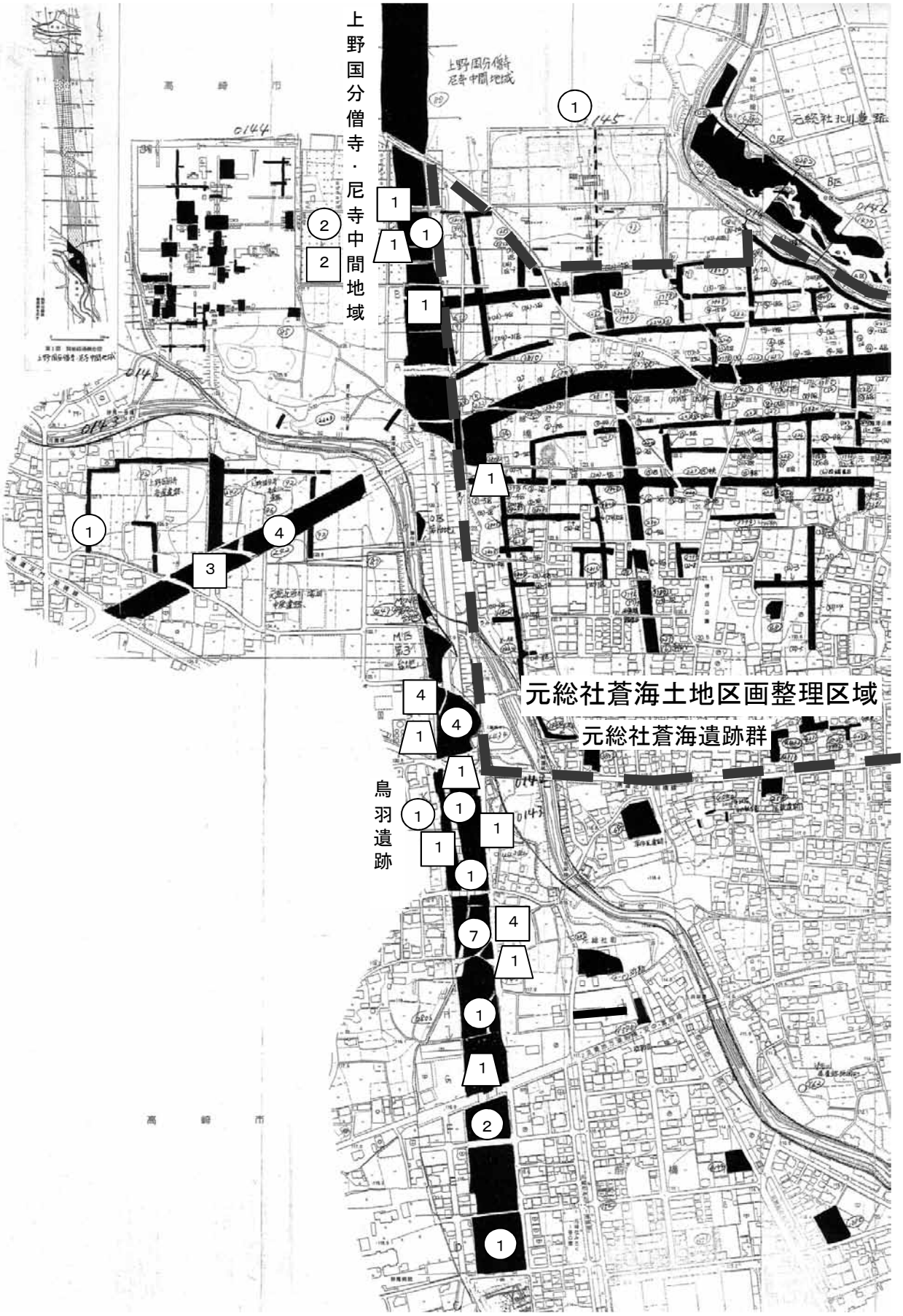

国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

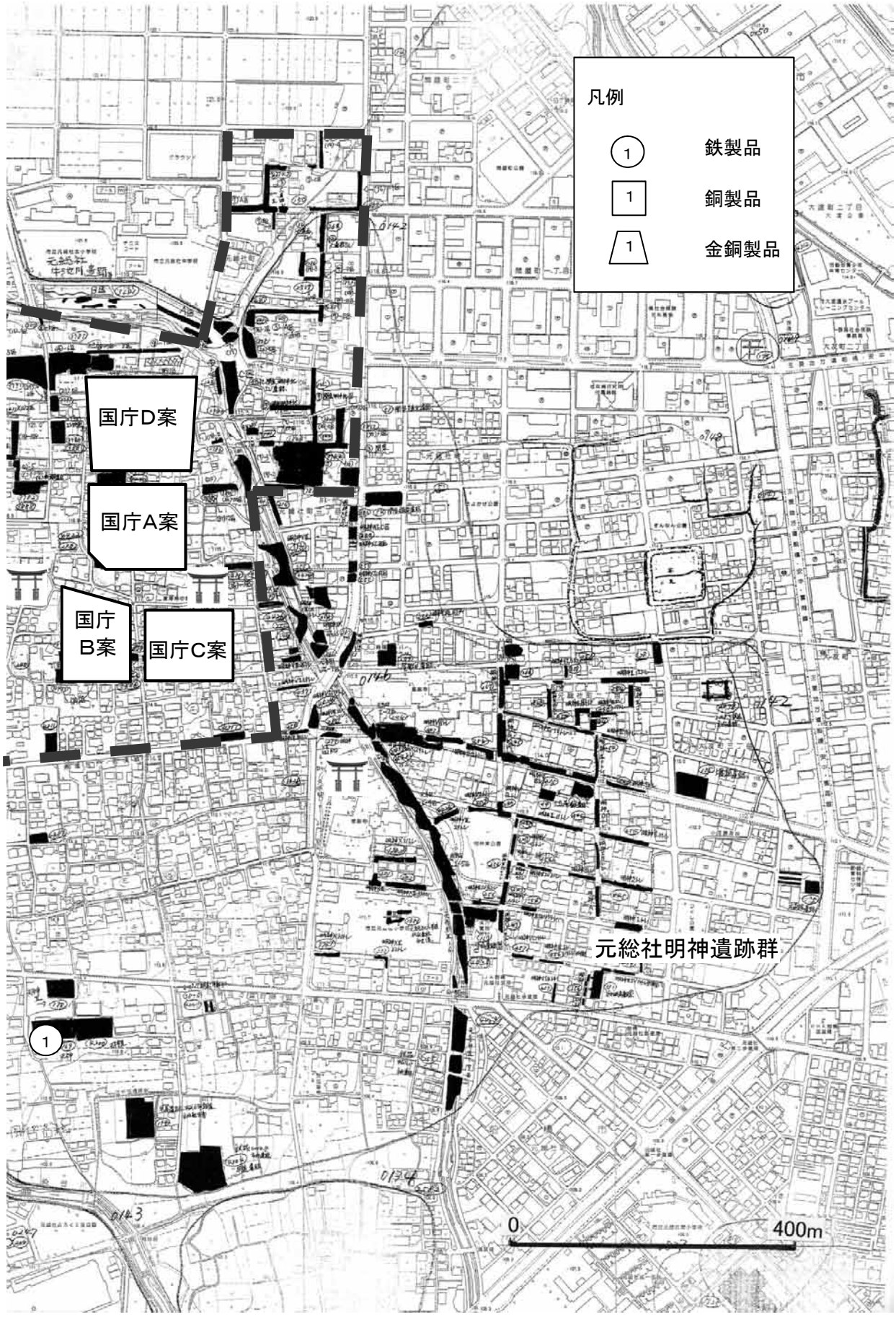
14, 15, 16, 17 青磁、白磁、三彩、銅椀の分布図



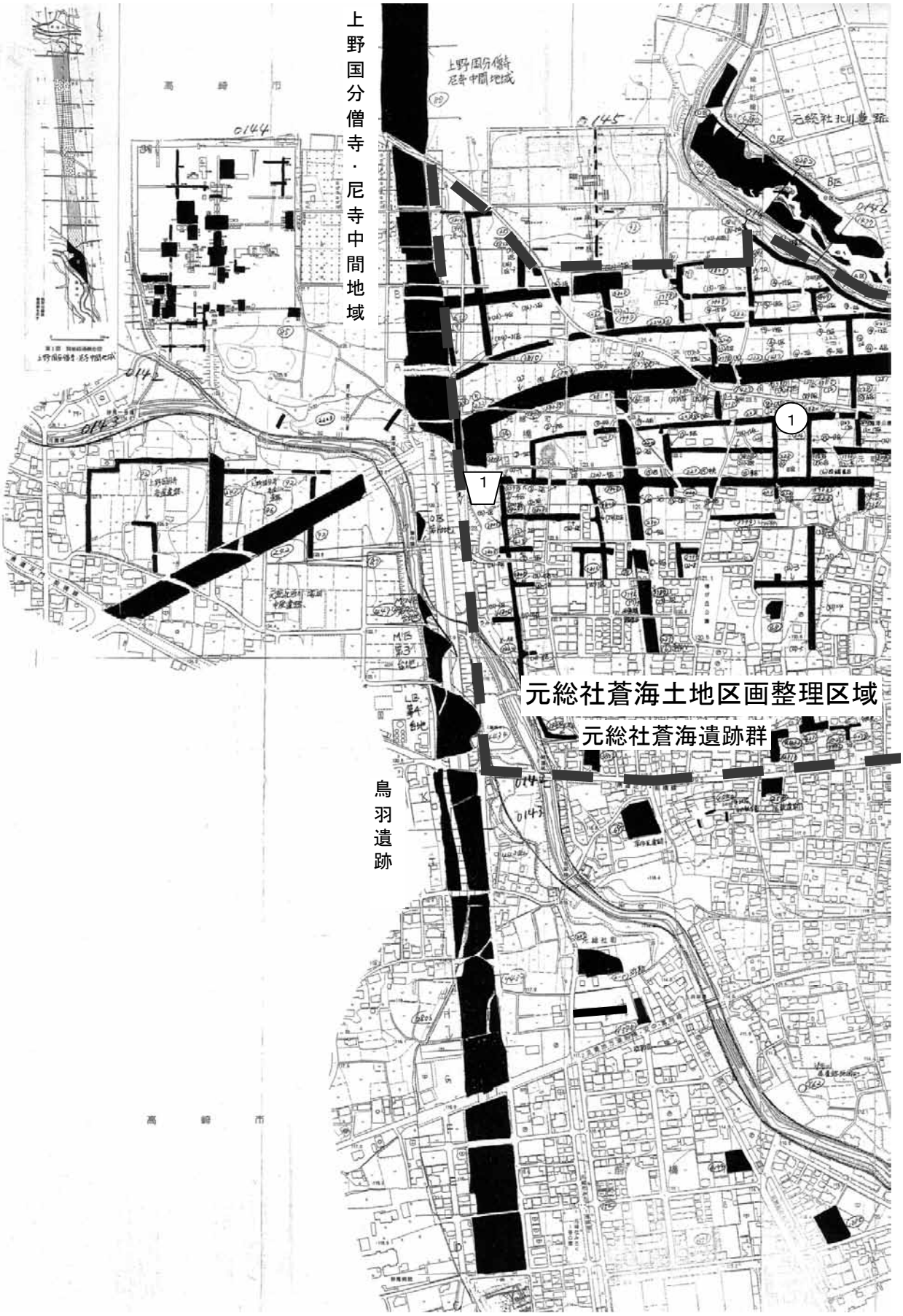

凡例
1 青磁
1 白磁
1 三彩
1 銅椀
国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

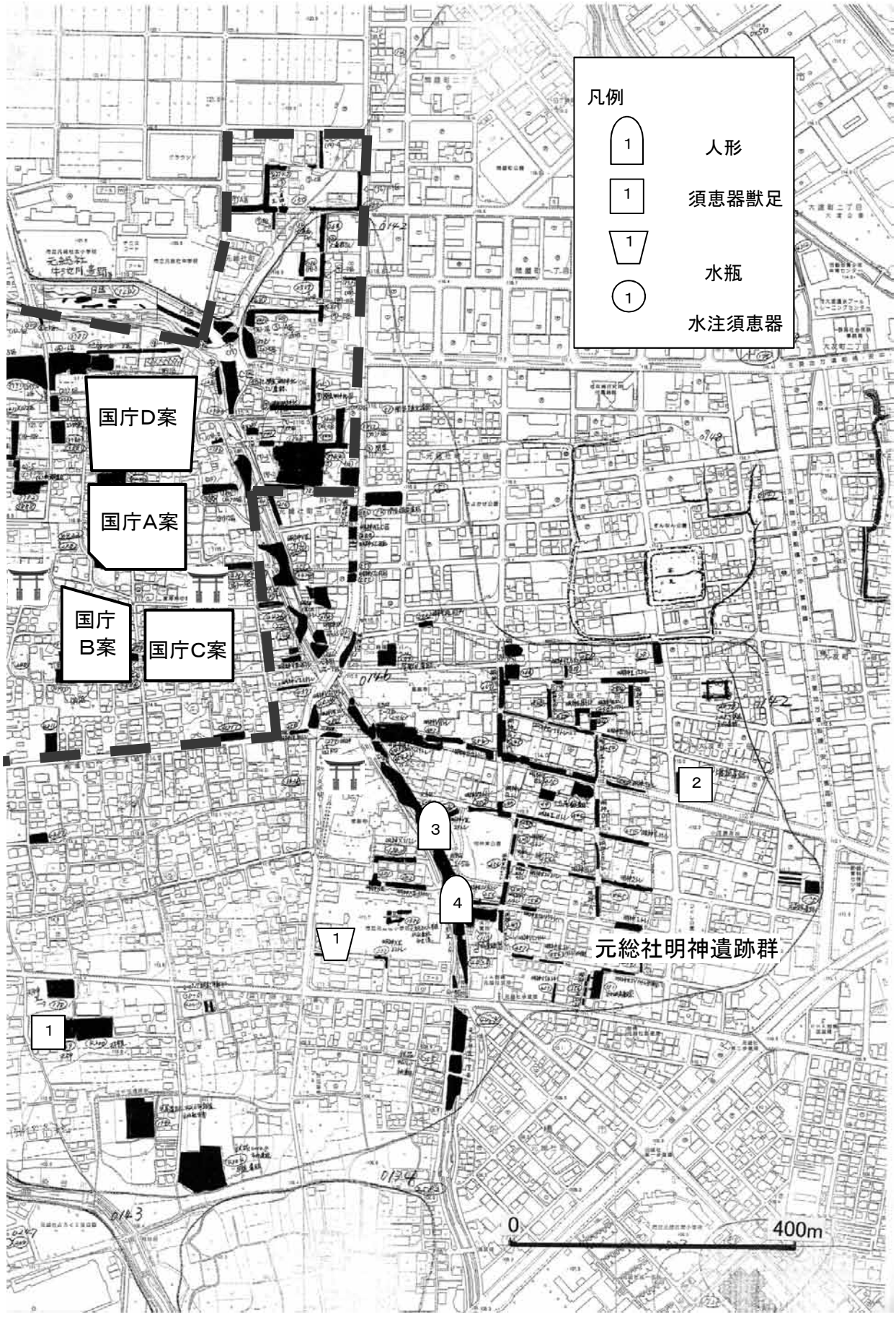
18, 19, 20 特殊金属製品の分布図



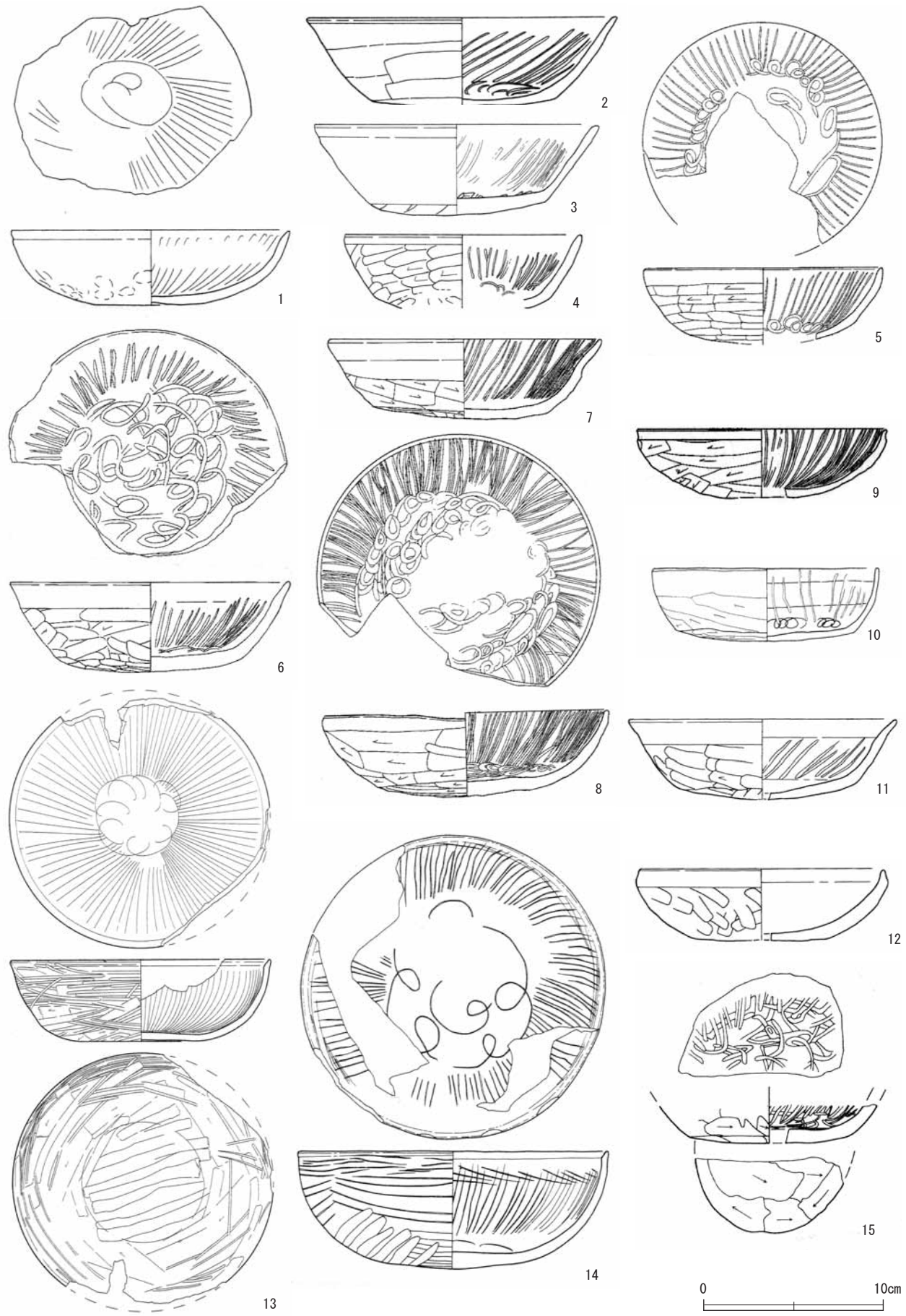

凡例
1 鉄製品
1 銅製品
1 金銅製品
国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

21, 22, 23, 24 その他貴重遺物の分布図



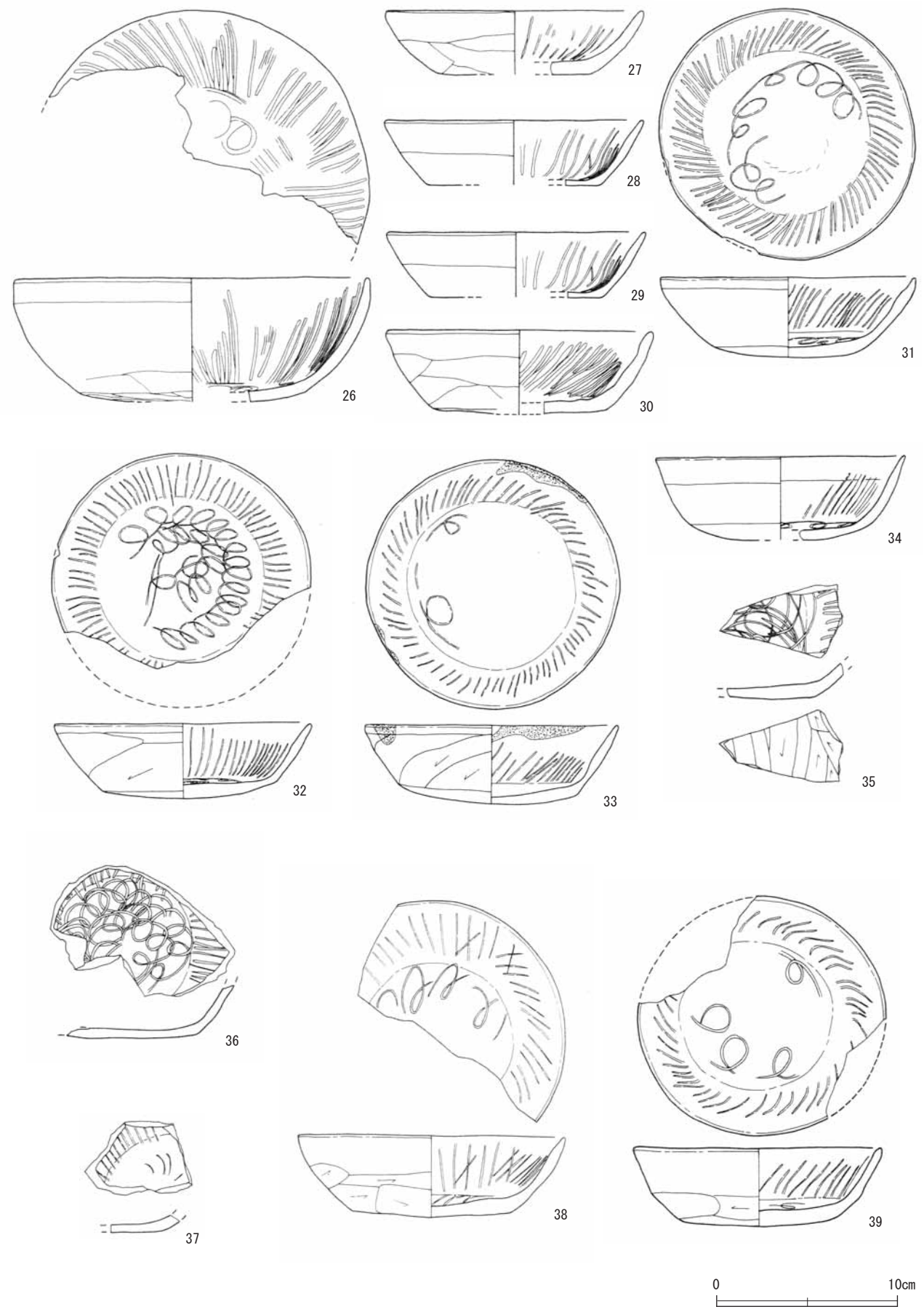

凡例
1
人形
1
須恵器獣足
1
水瓶
1
水注須恵器
国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

螺旋状暗紋を有する坏形土器 (1)

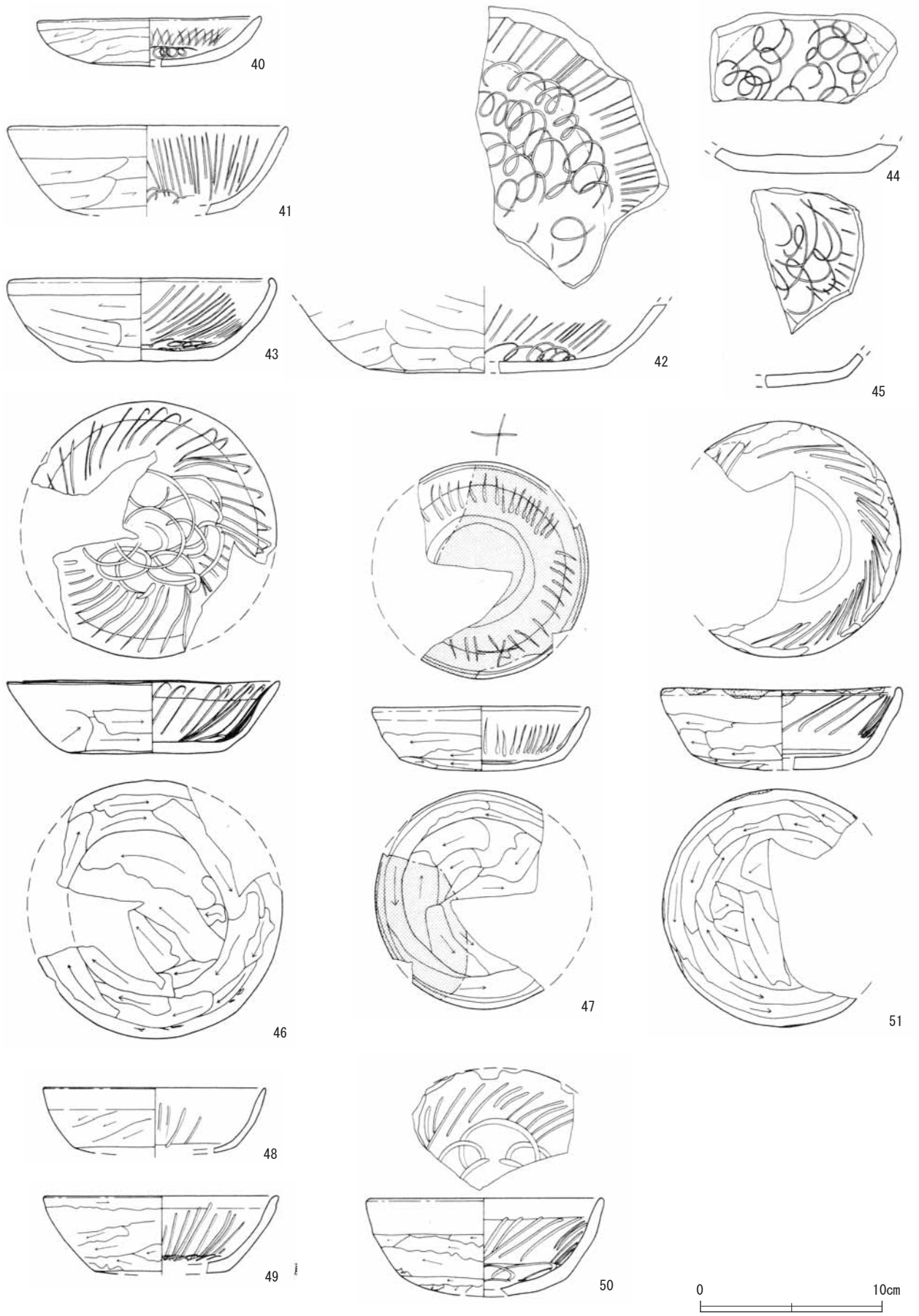


螺旋状暗紋を有する坏形土器 (2)

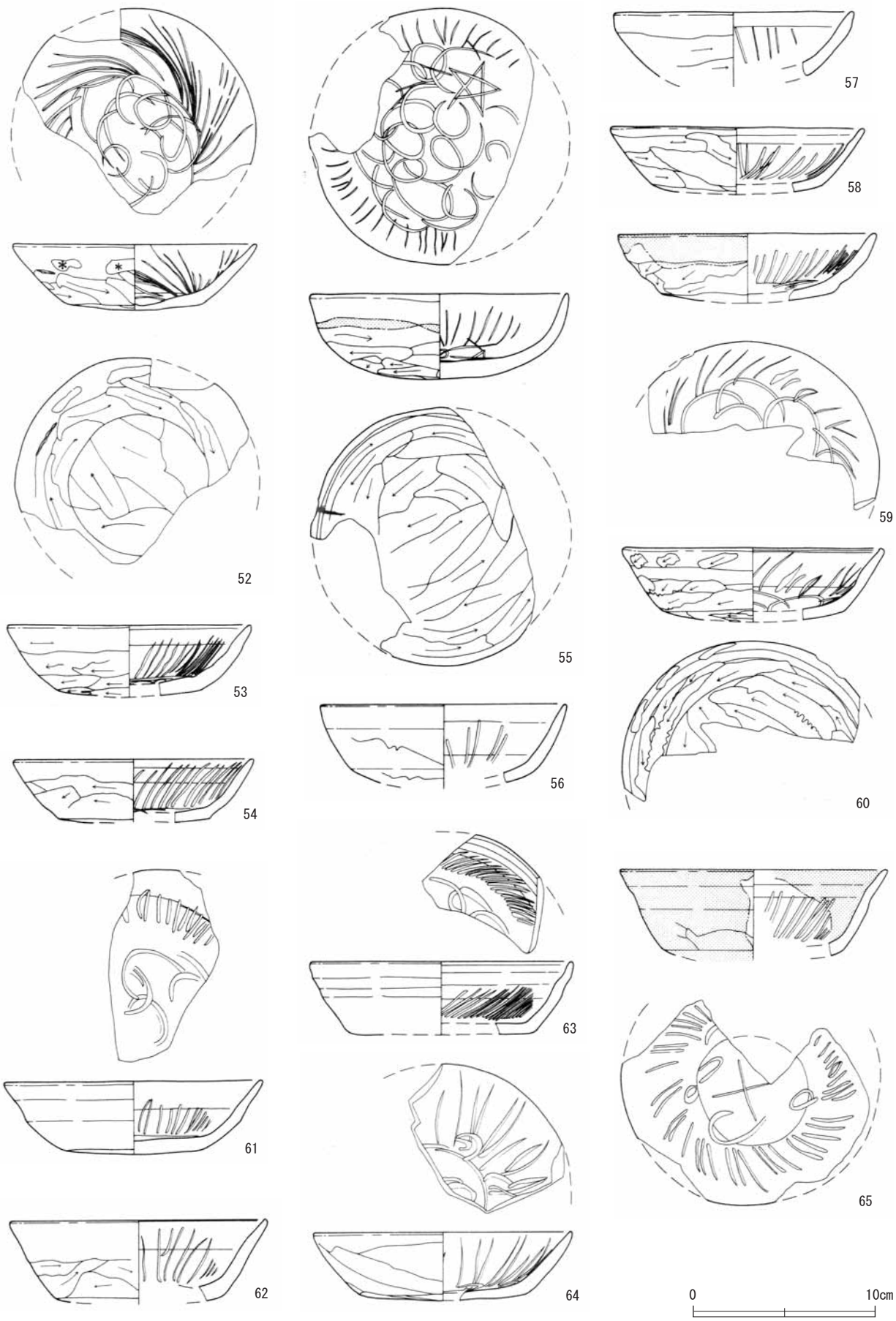
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (3)



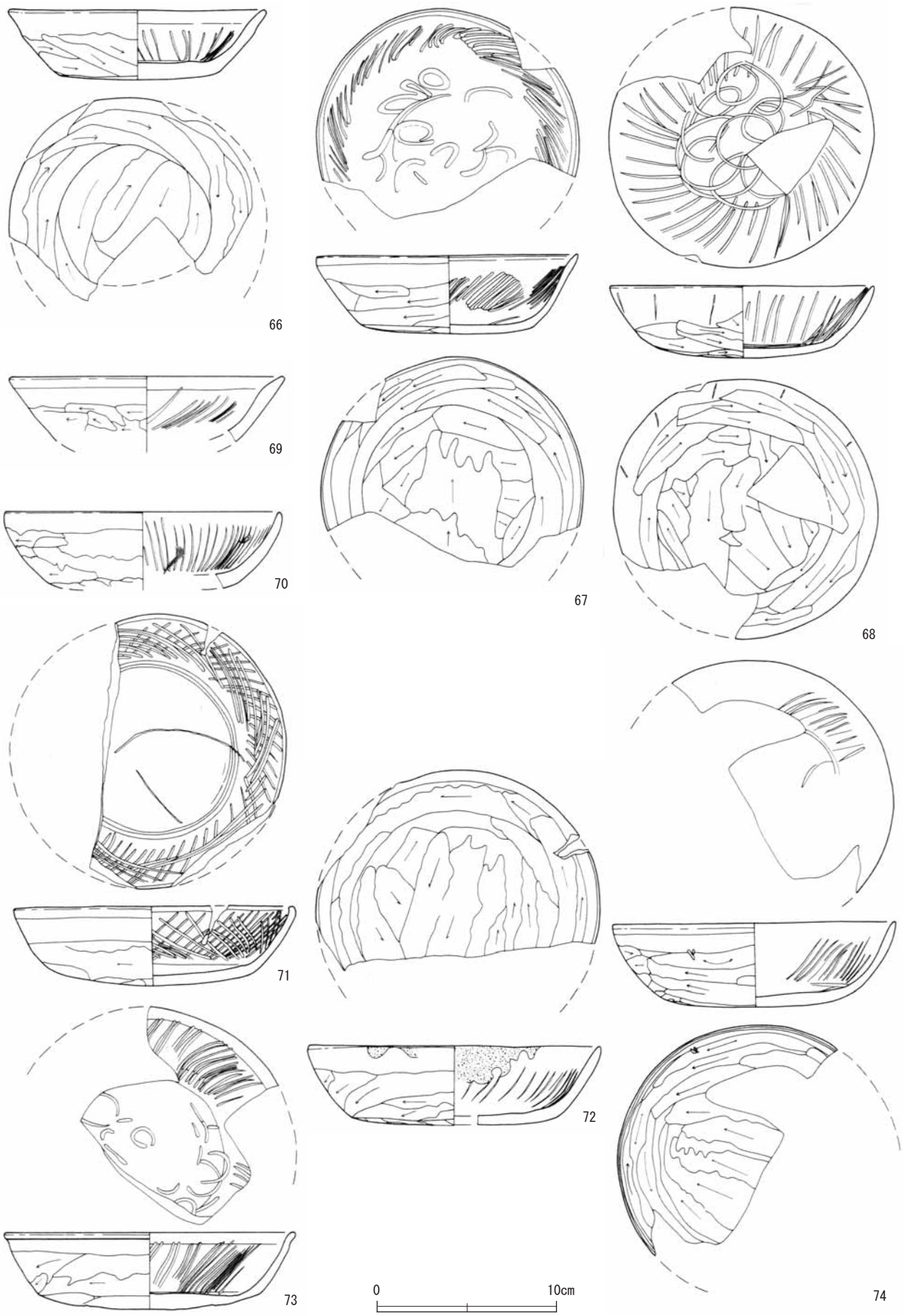
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (4)



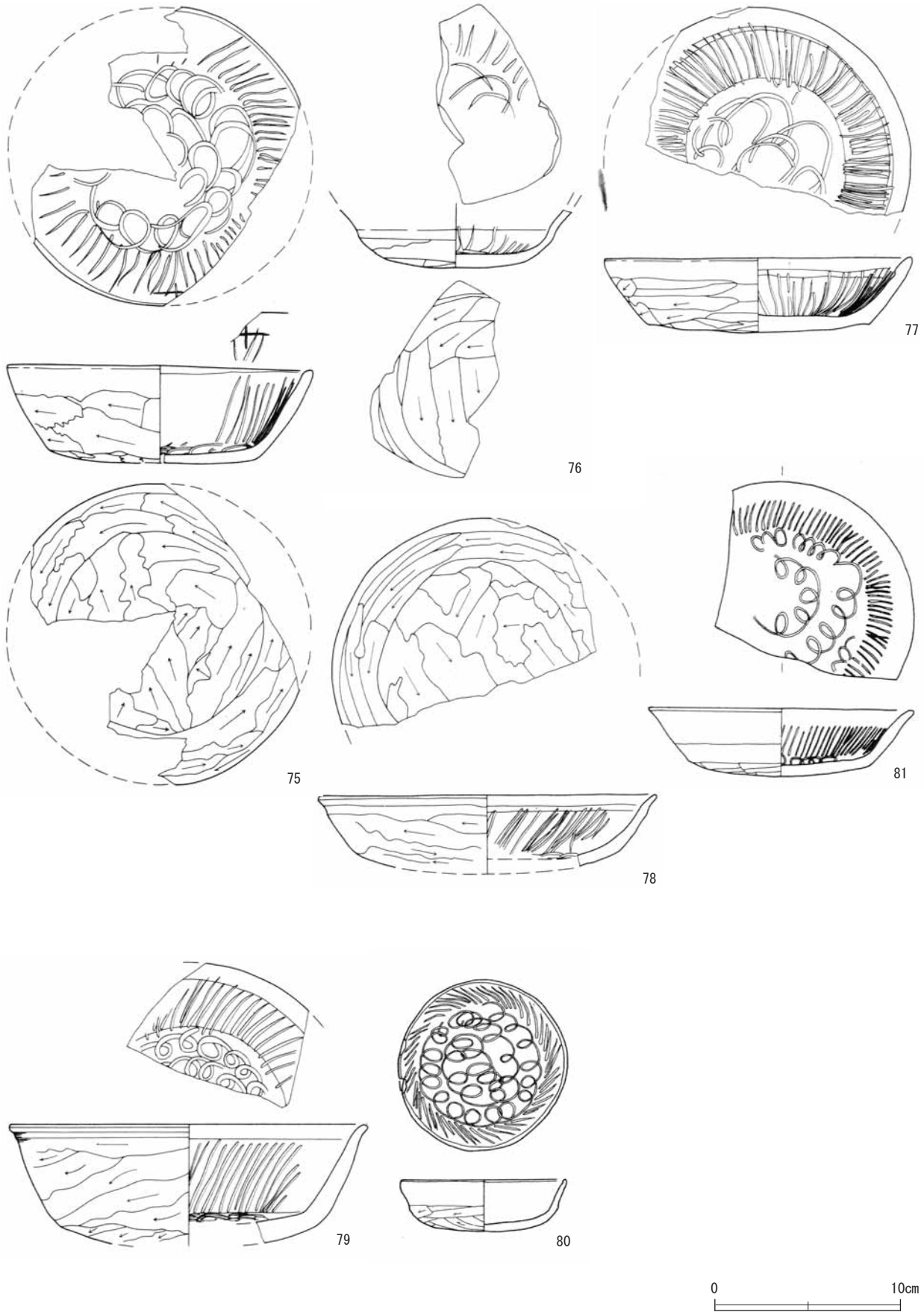
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (5)



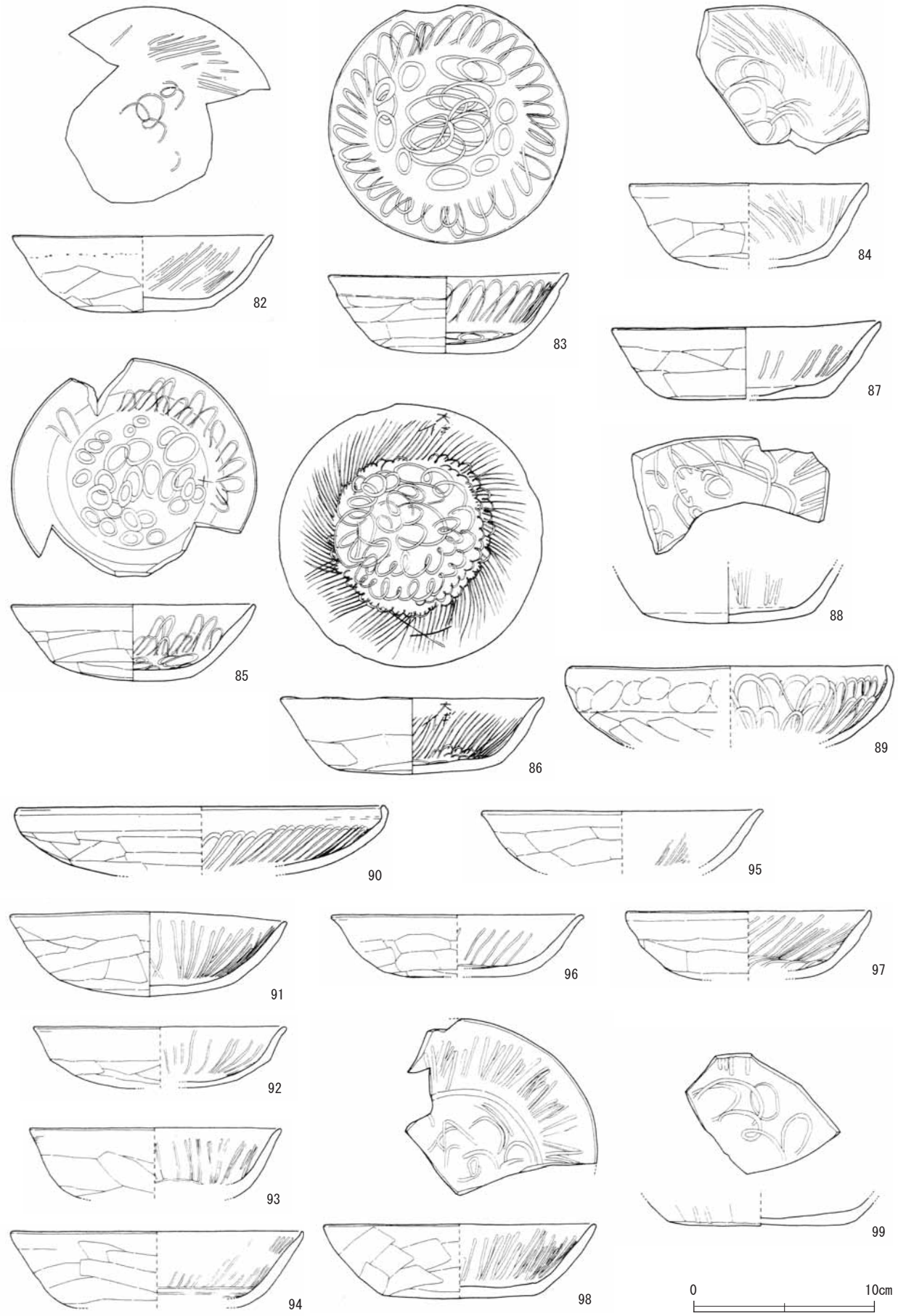
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (6)



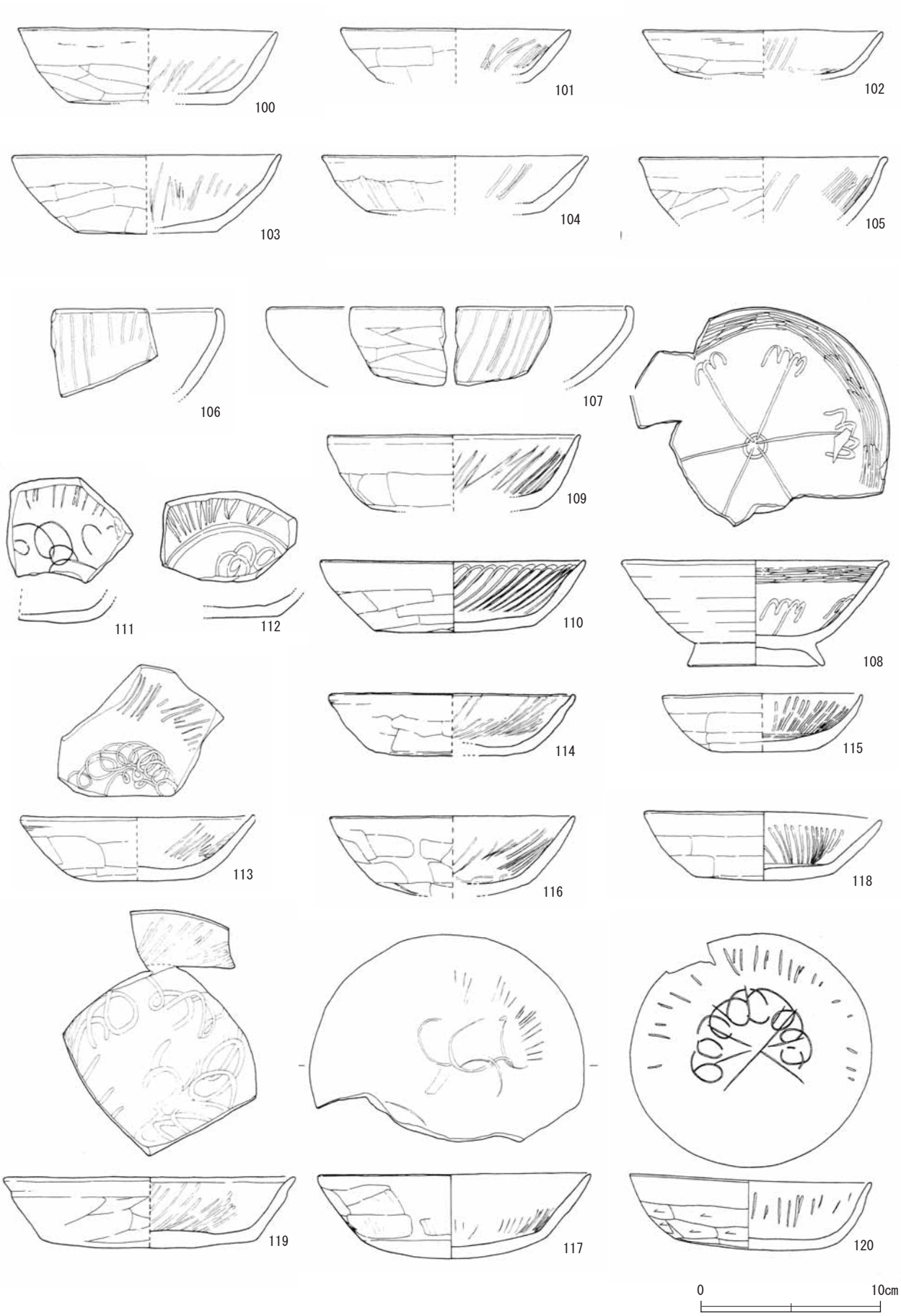
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (7)



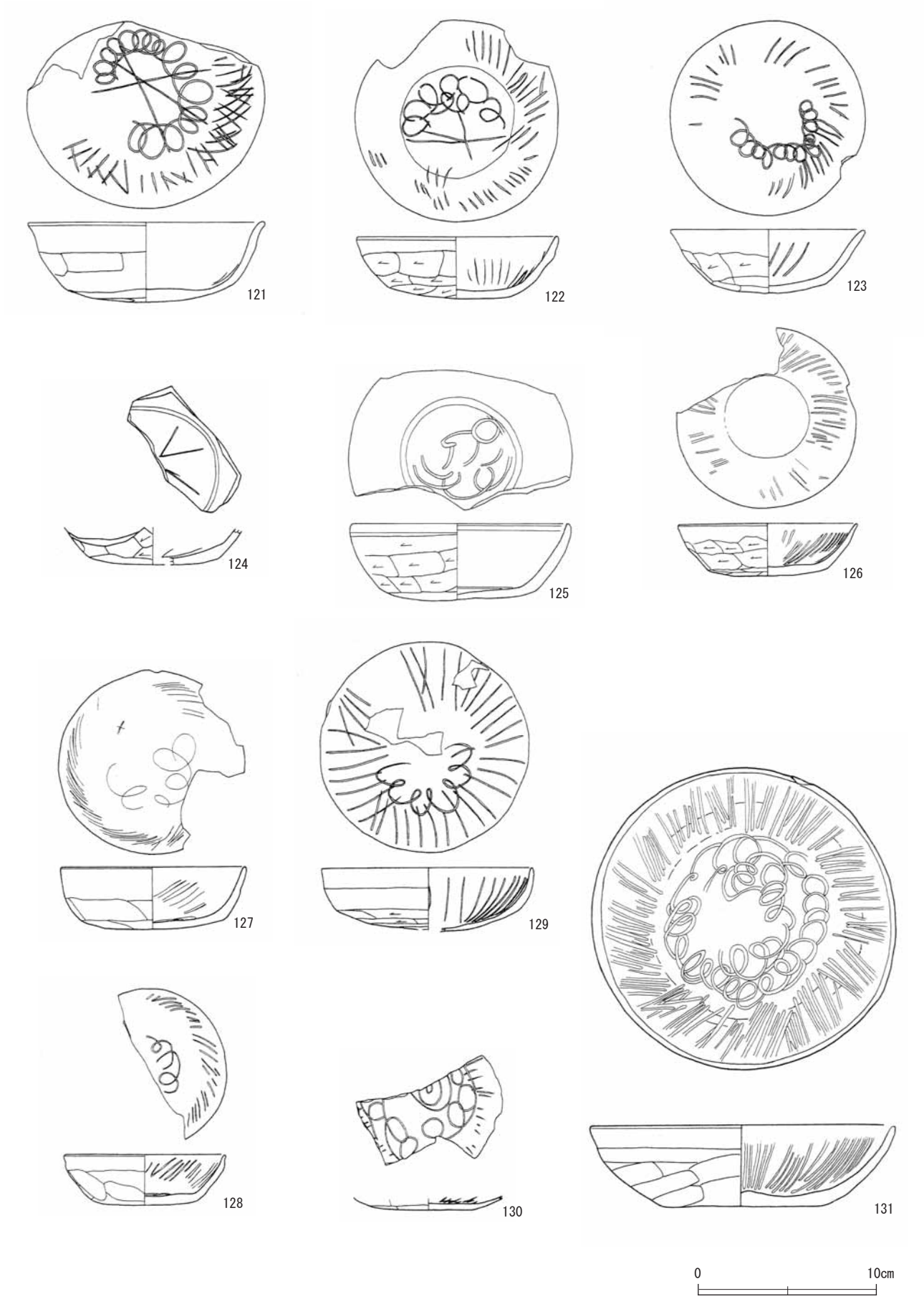
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (8)



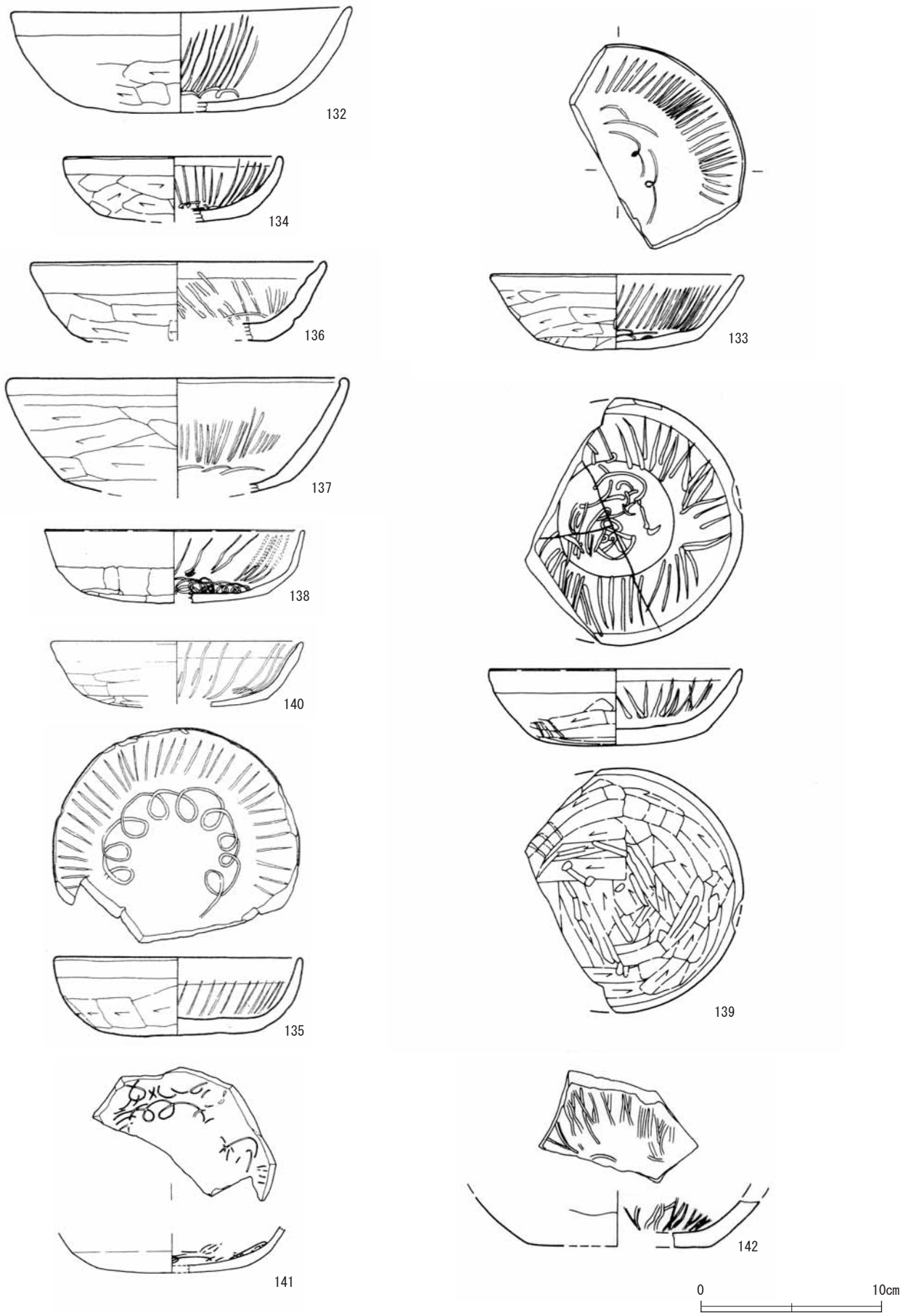
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (9)



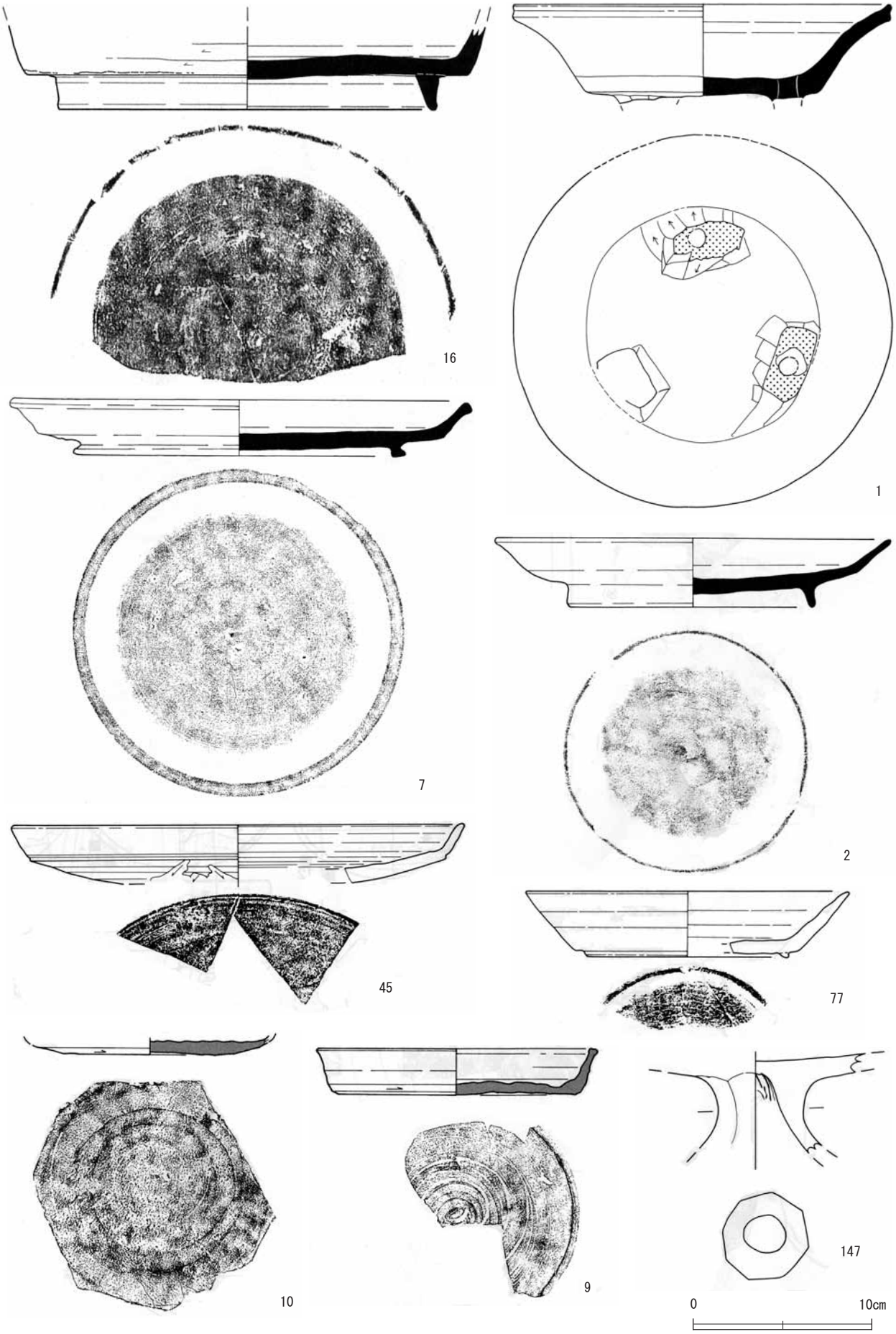
螺旋状暗紋を有する坏形土器 (10)



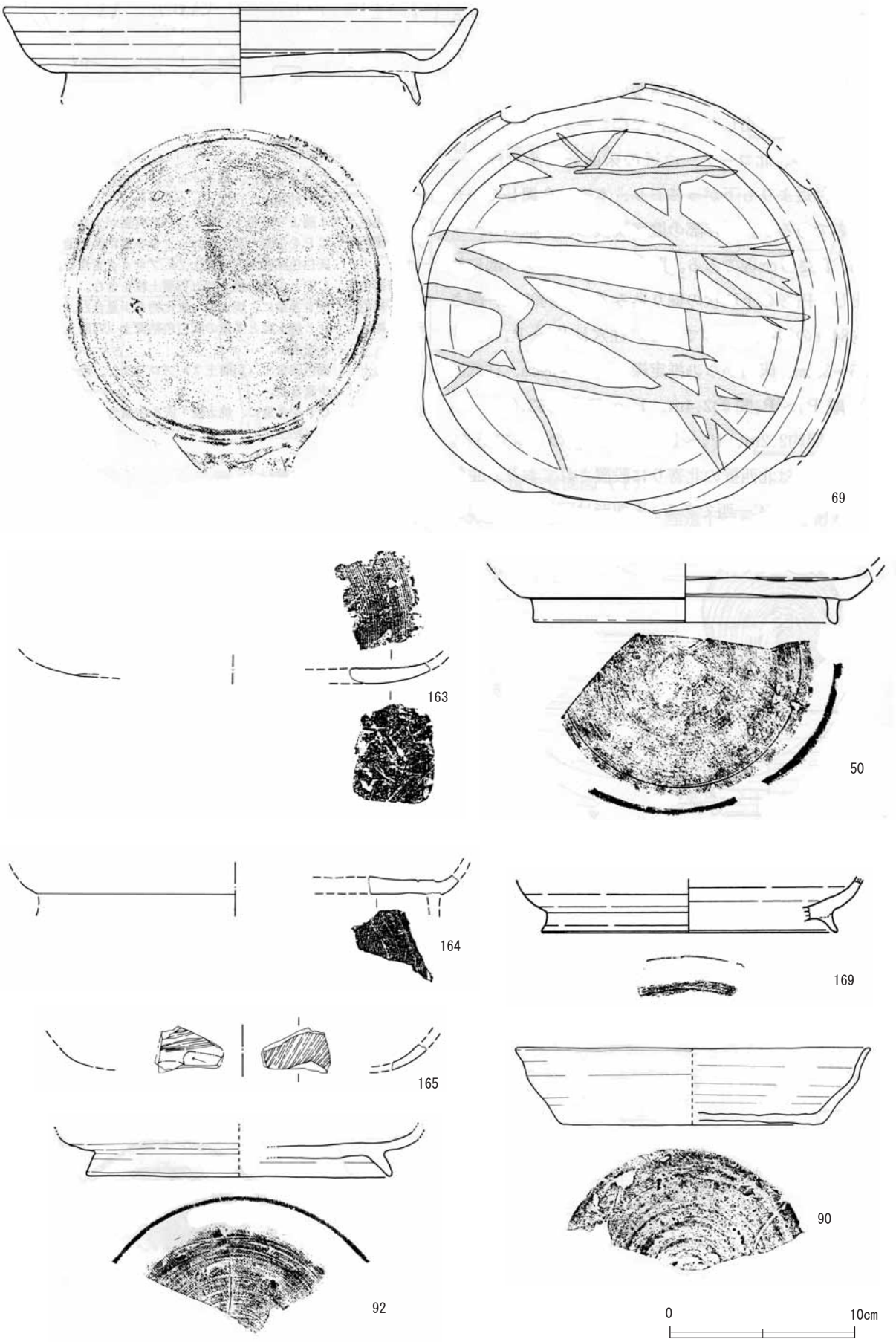
螺旋状暗紋を有する坏形土器（11）



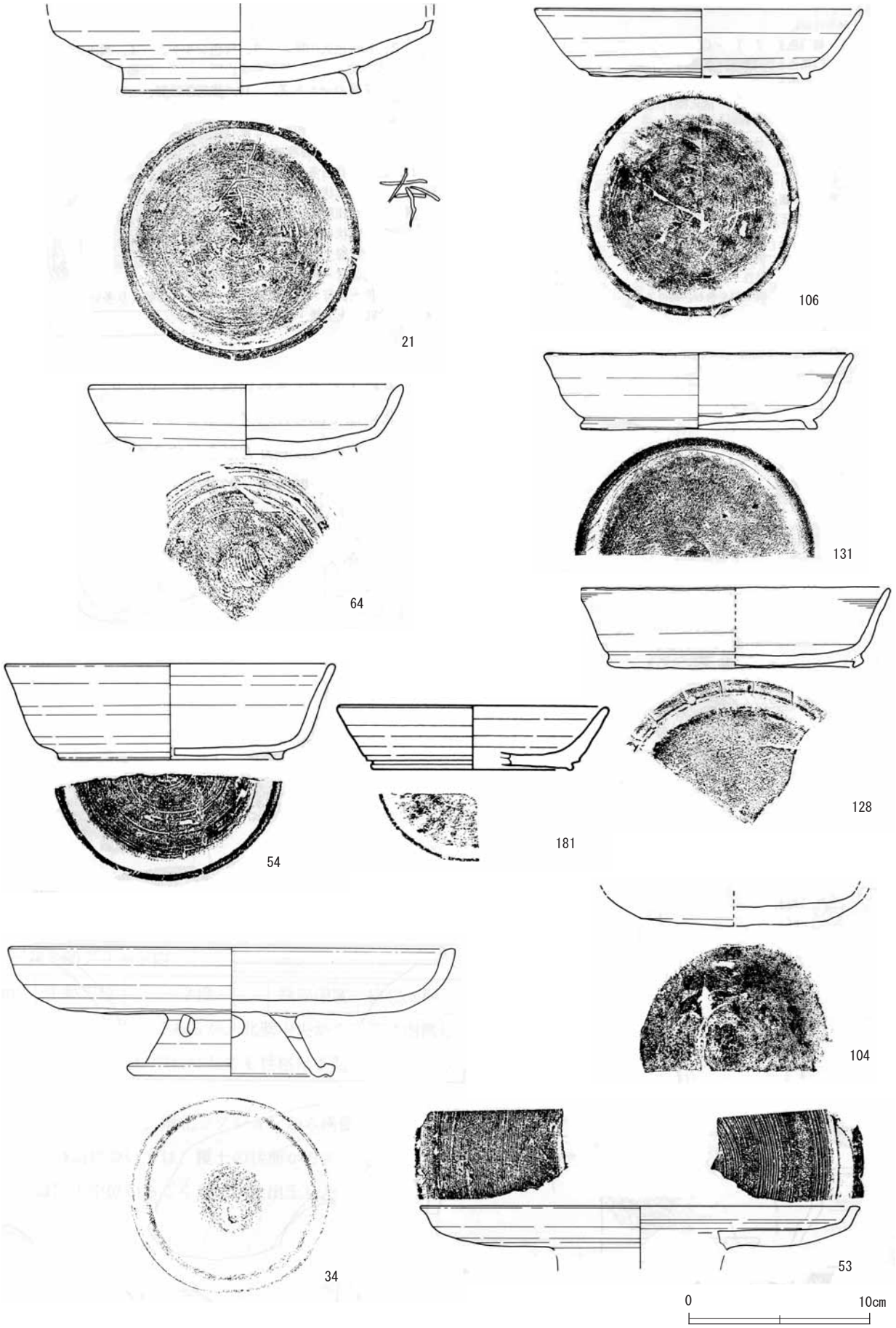
盤・高盤形土器 (1)



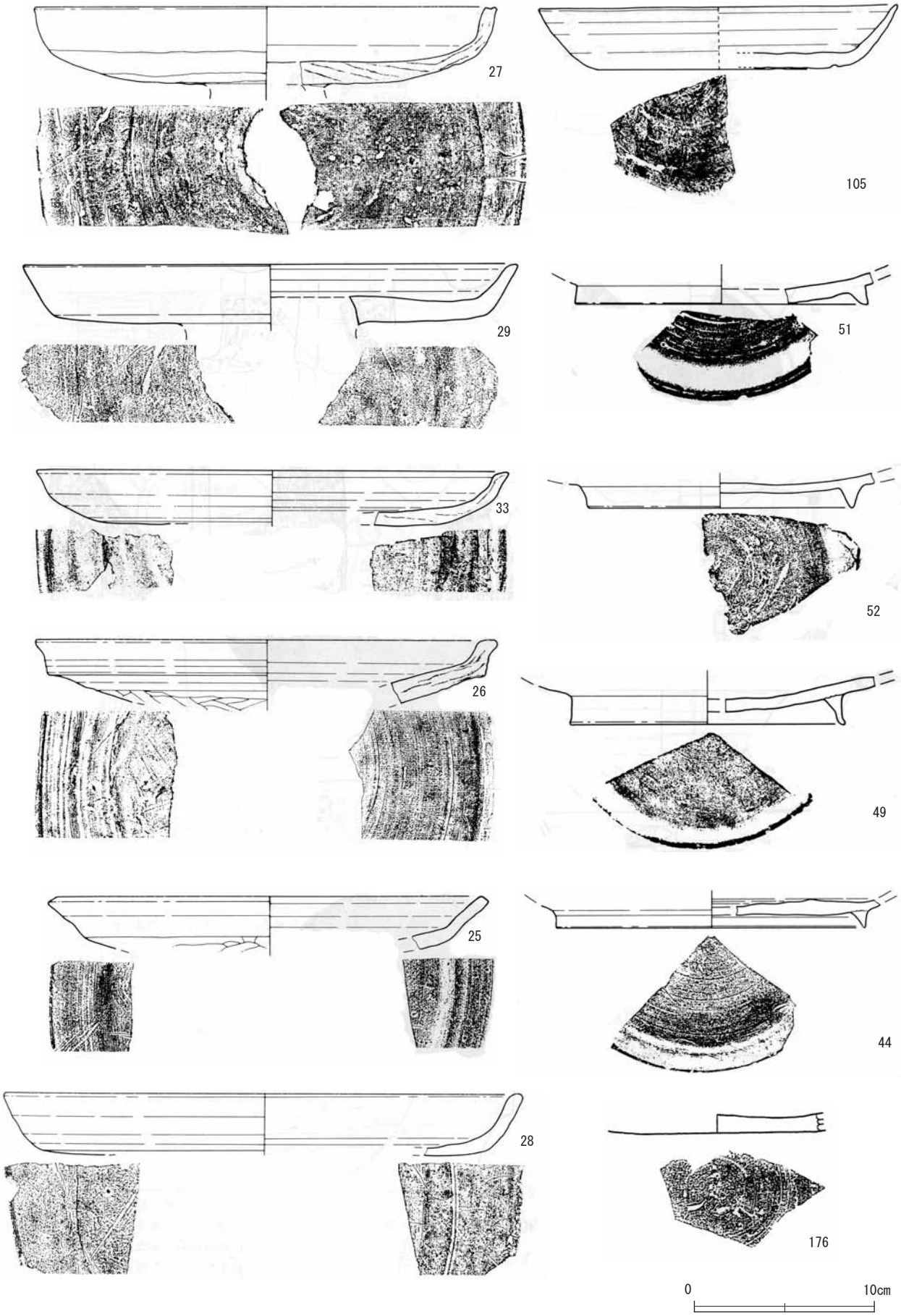
盤・高盤形土器 (2)



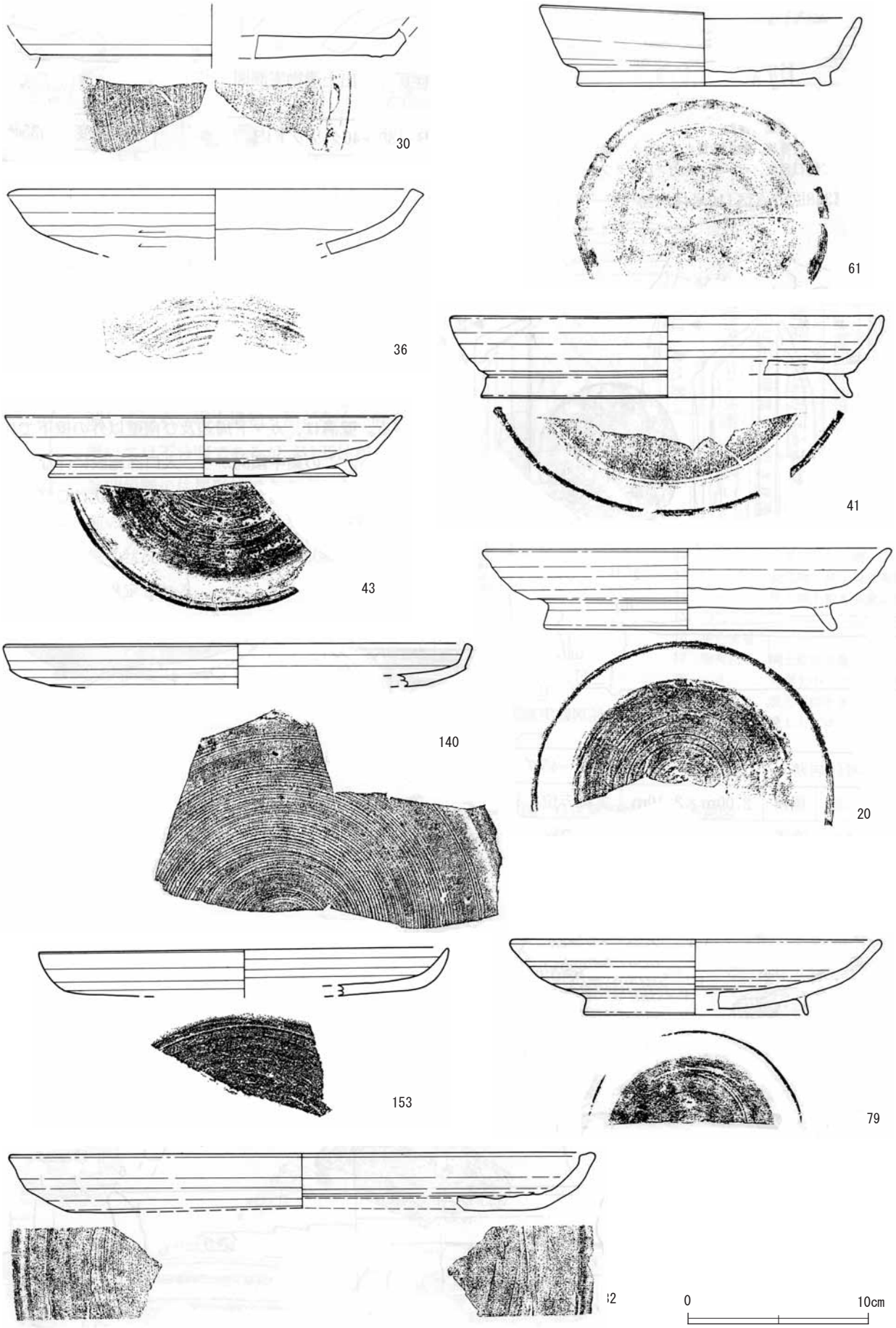
盤・高盤形土器 (3)



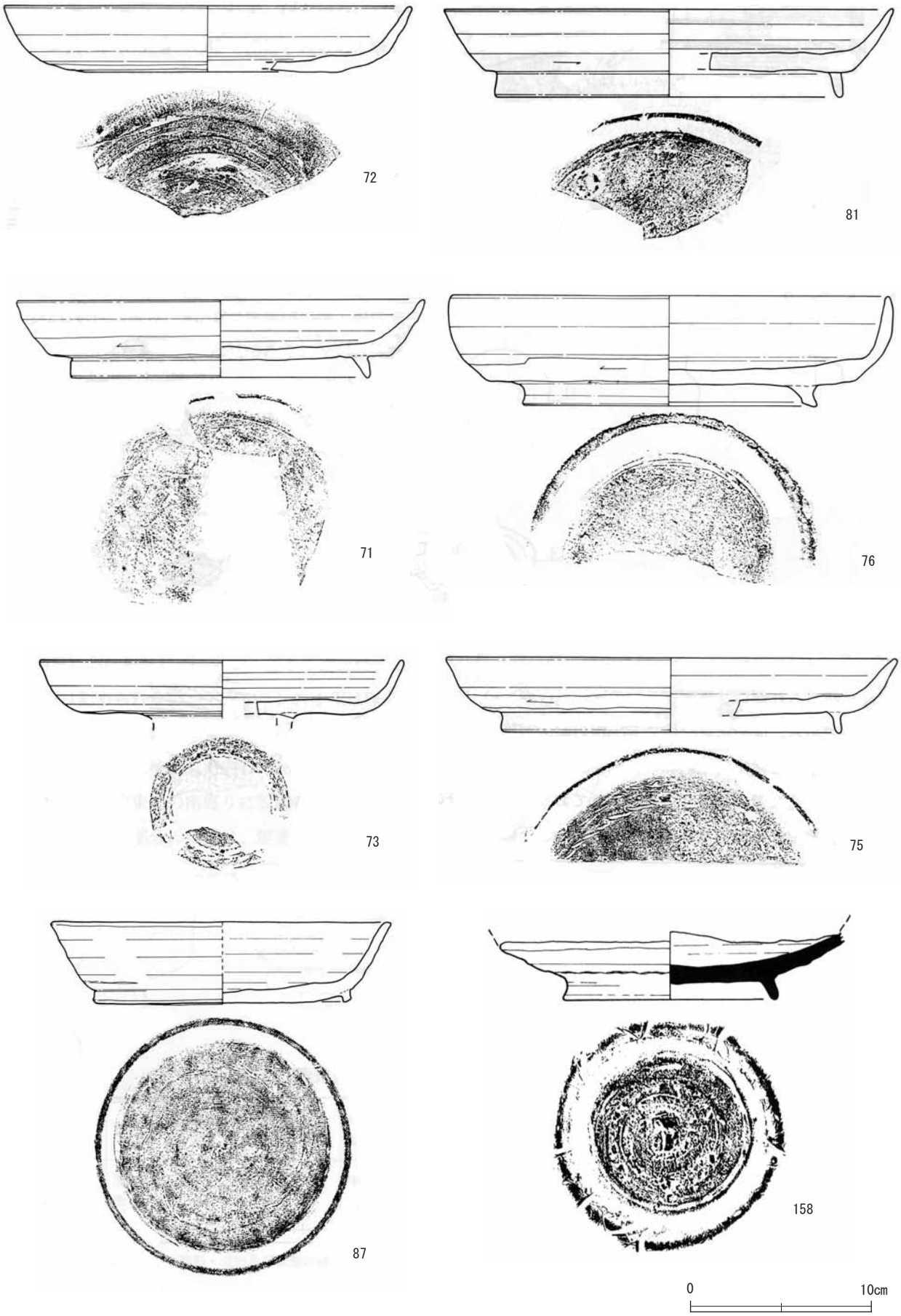
盤・高盤形土器 (4)



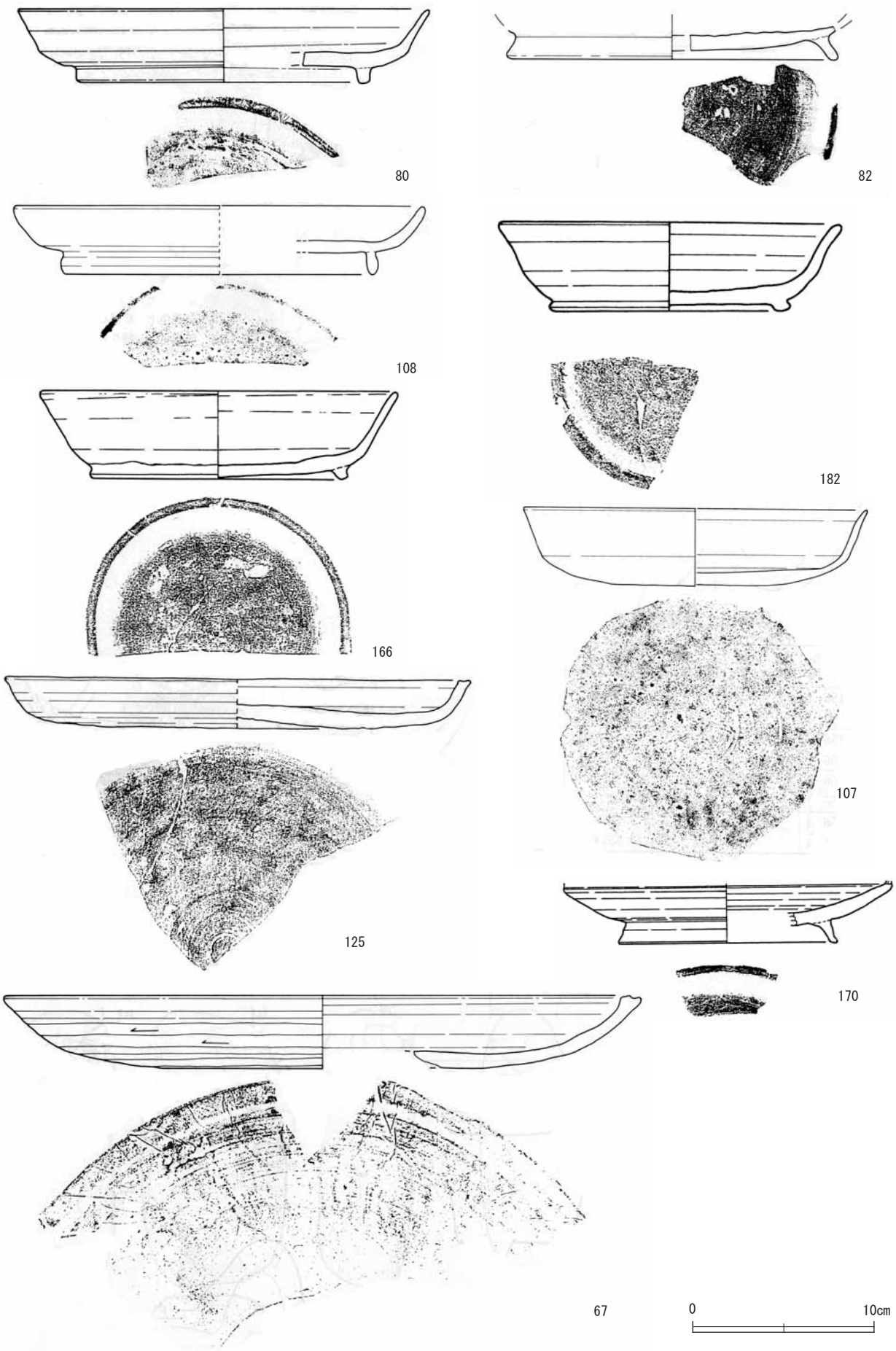
盤・高盤形土器 (5)



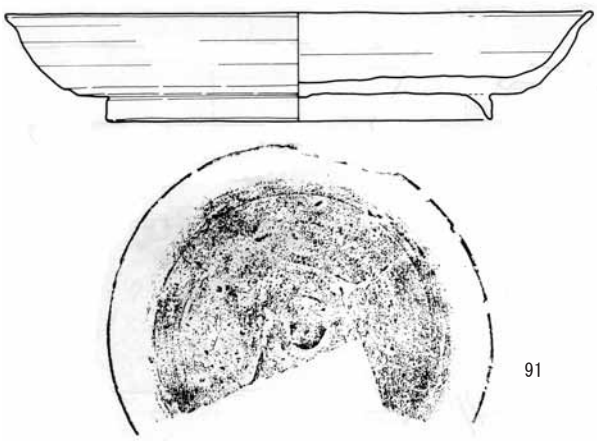
盤・高盤形土器 (6)

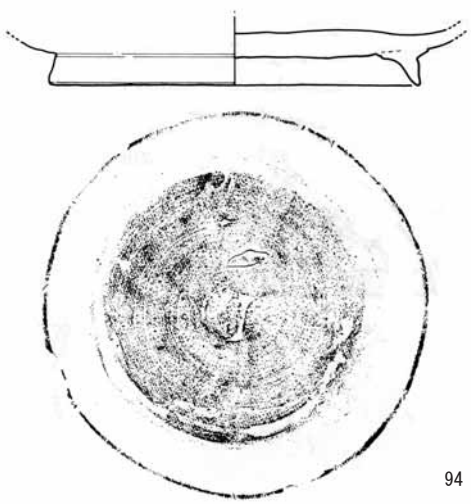


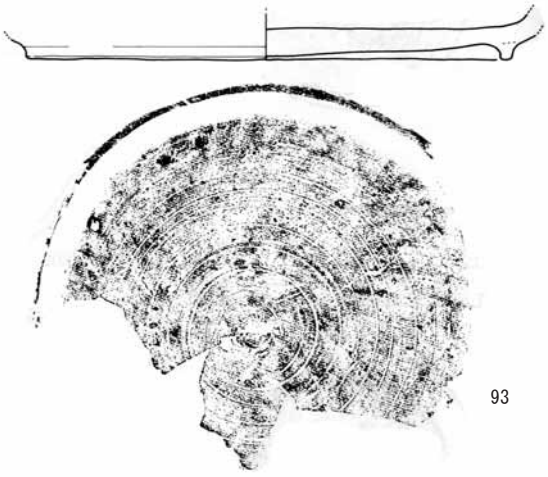
盤・高盤形土器 (7)

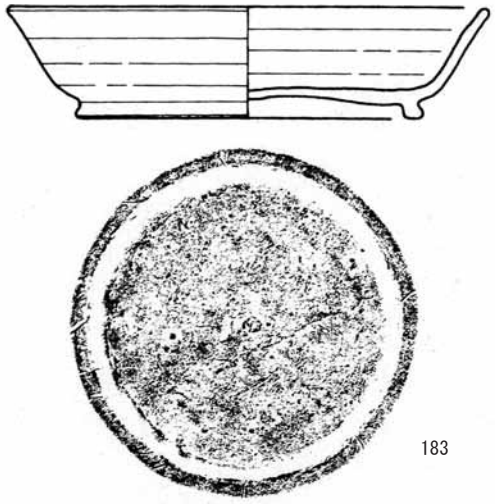


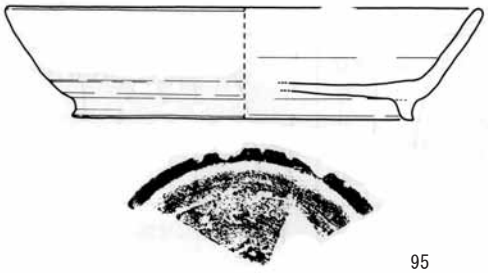
盤・高盤形土器 (8)

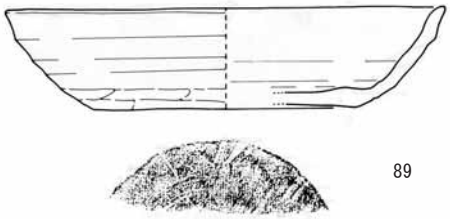


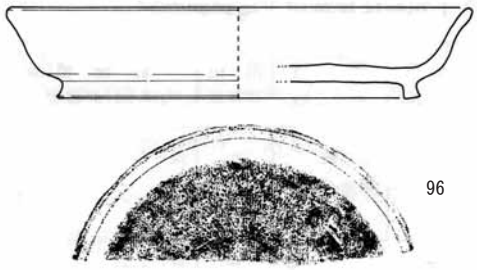


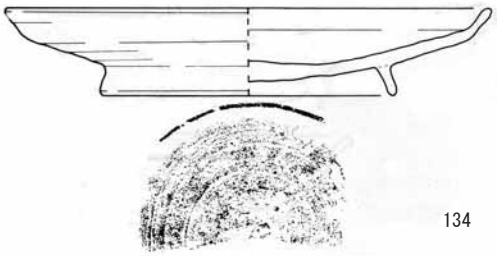






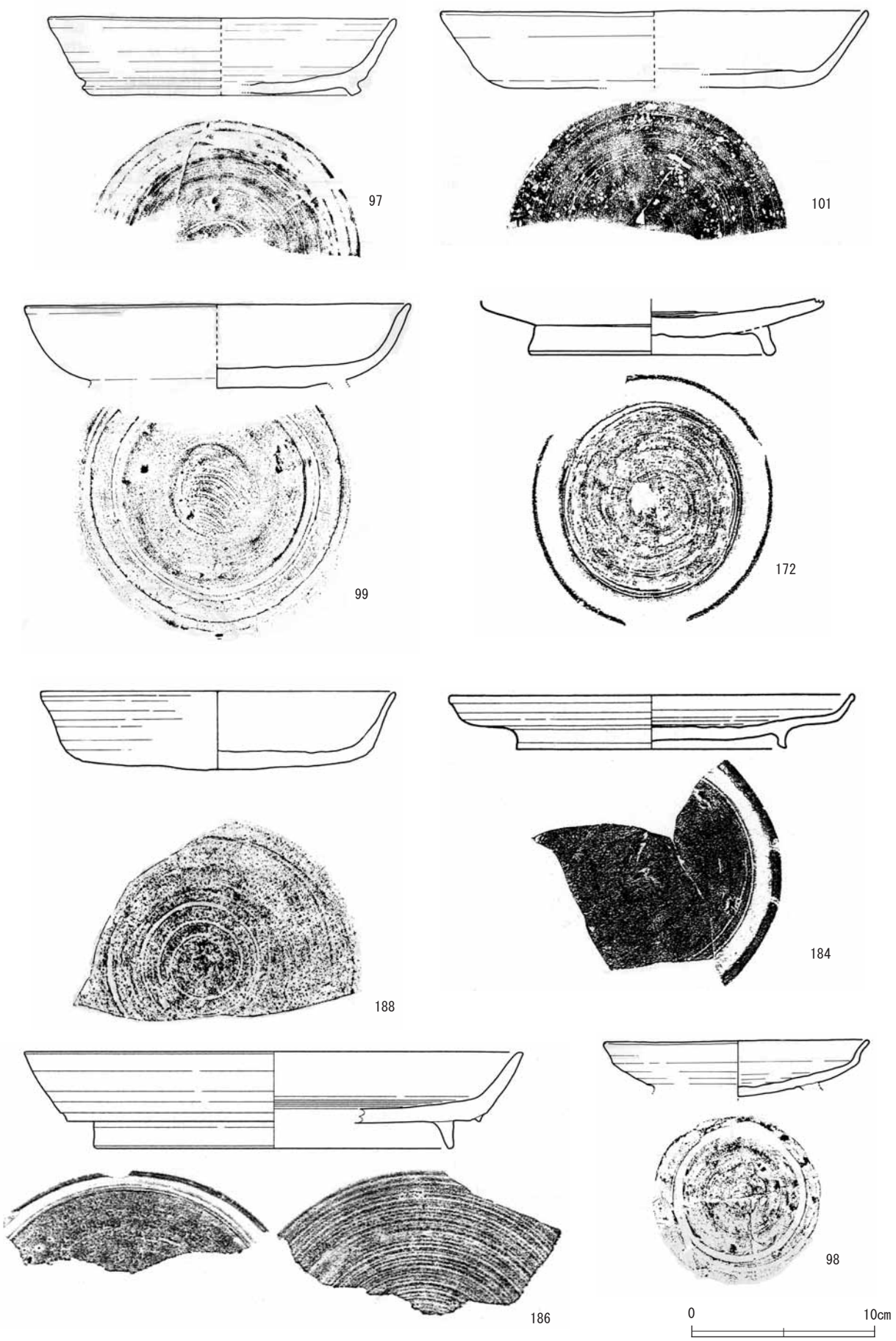




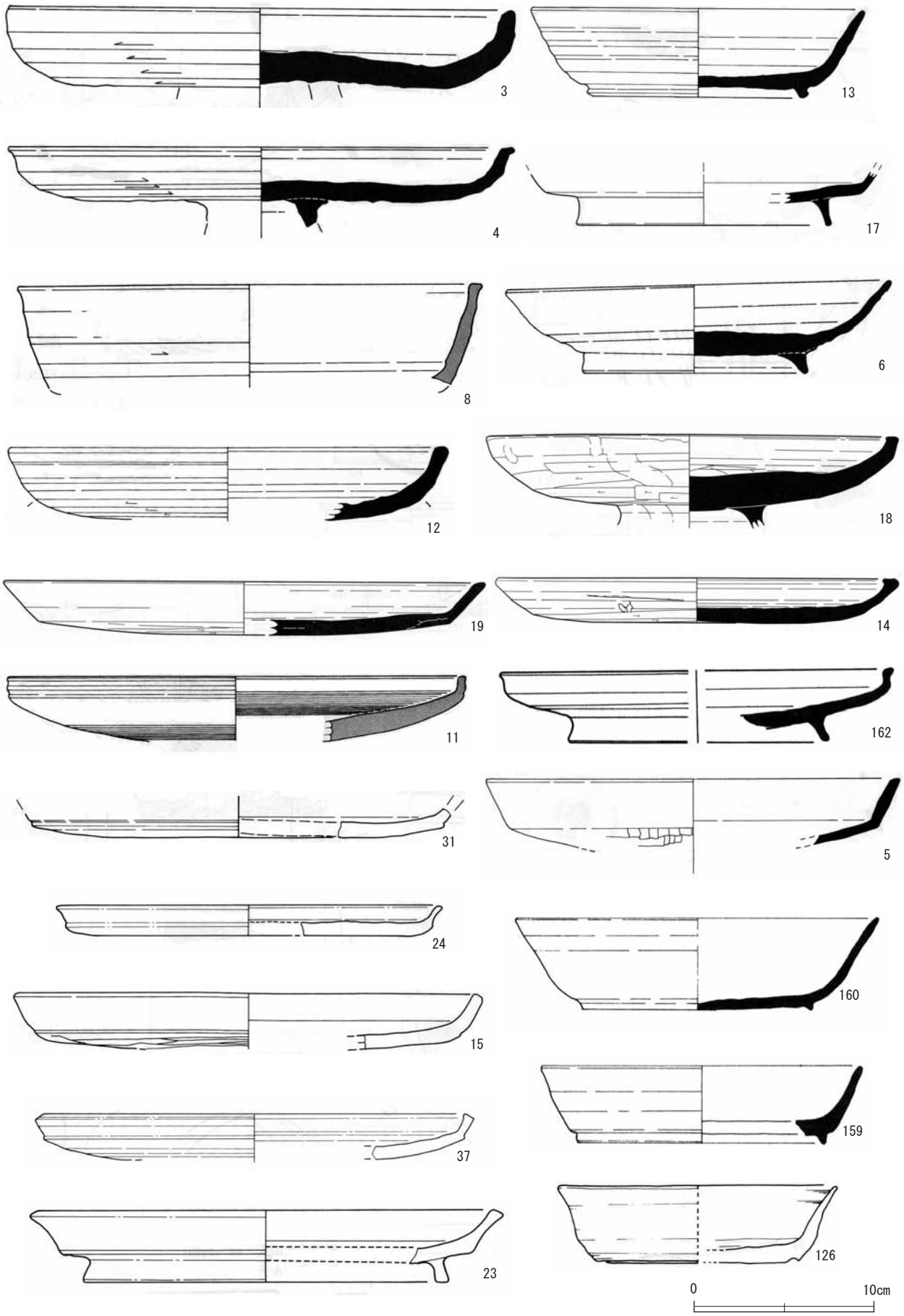


0　10cm

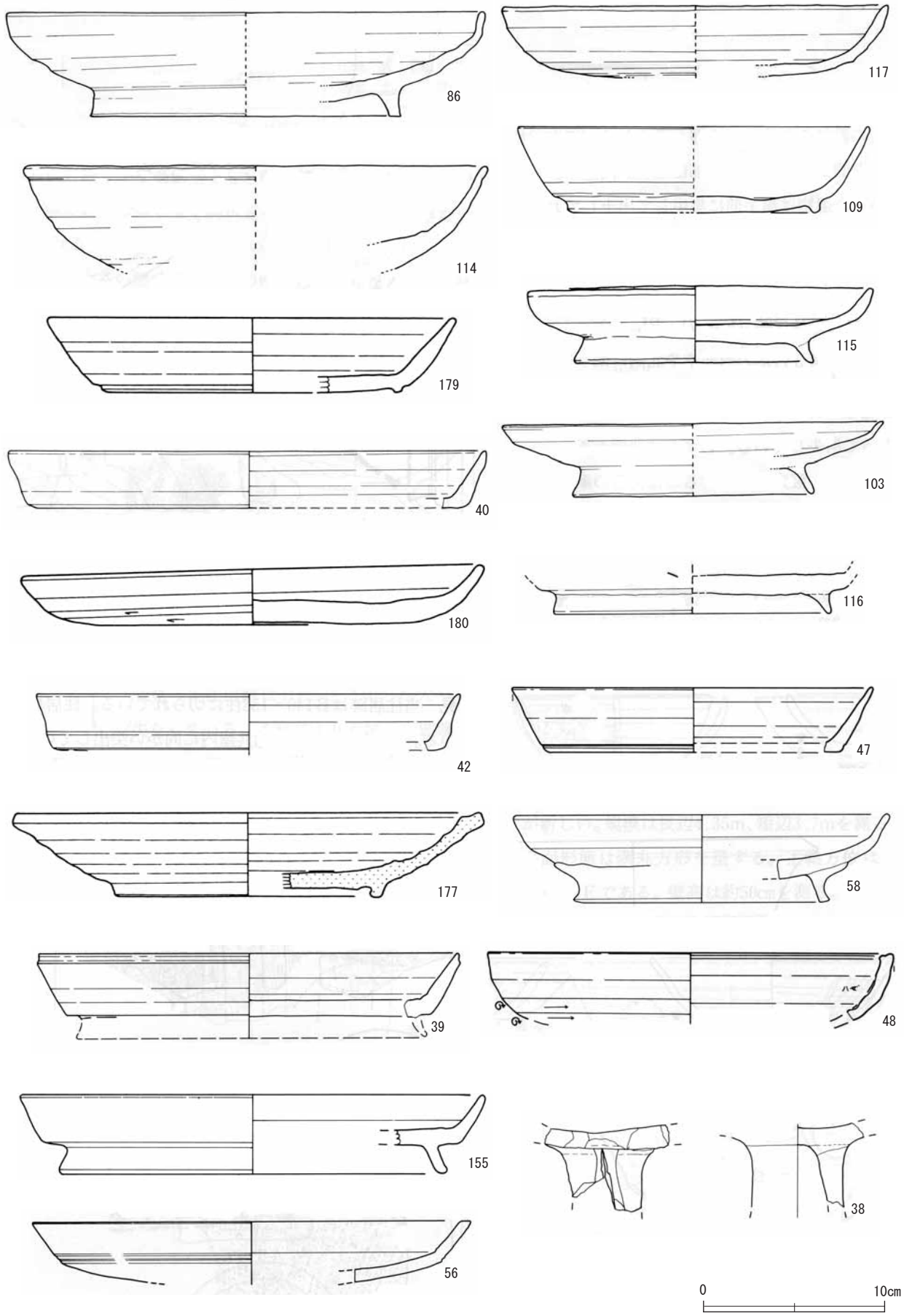
盤・高盤形土器 (9)



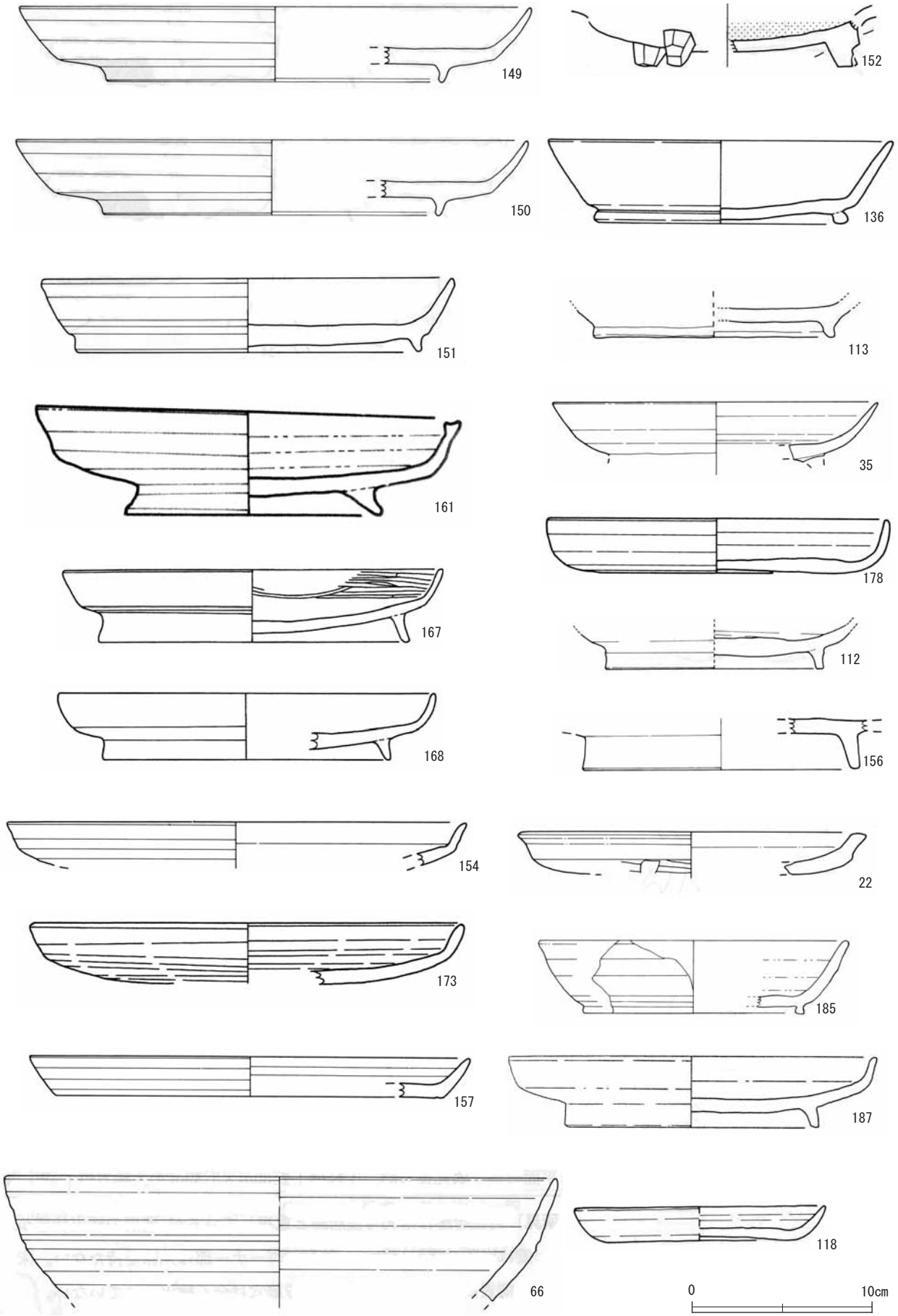
盤・高盤形土器 (10)



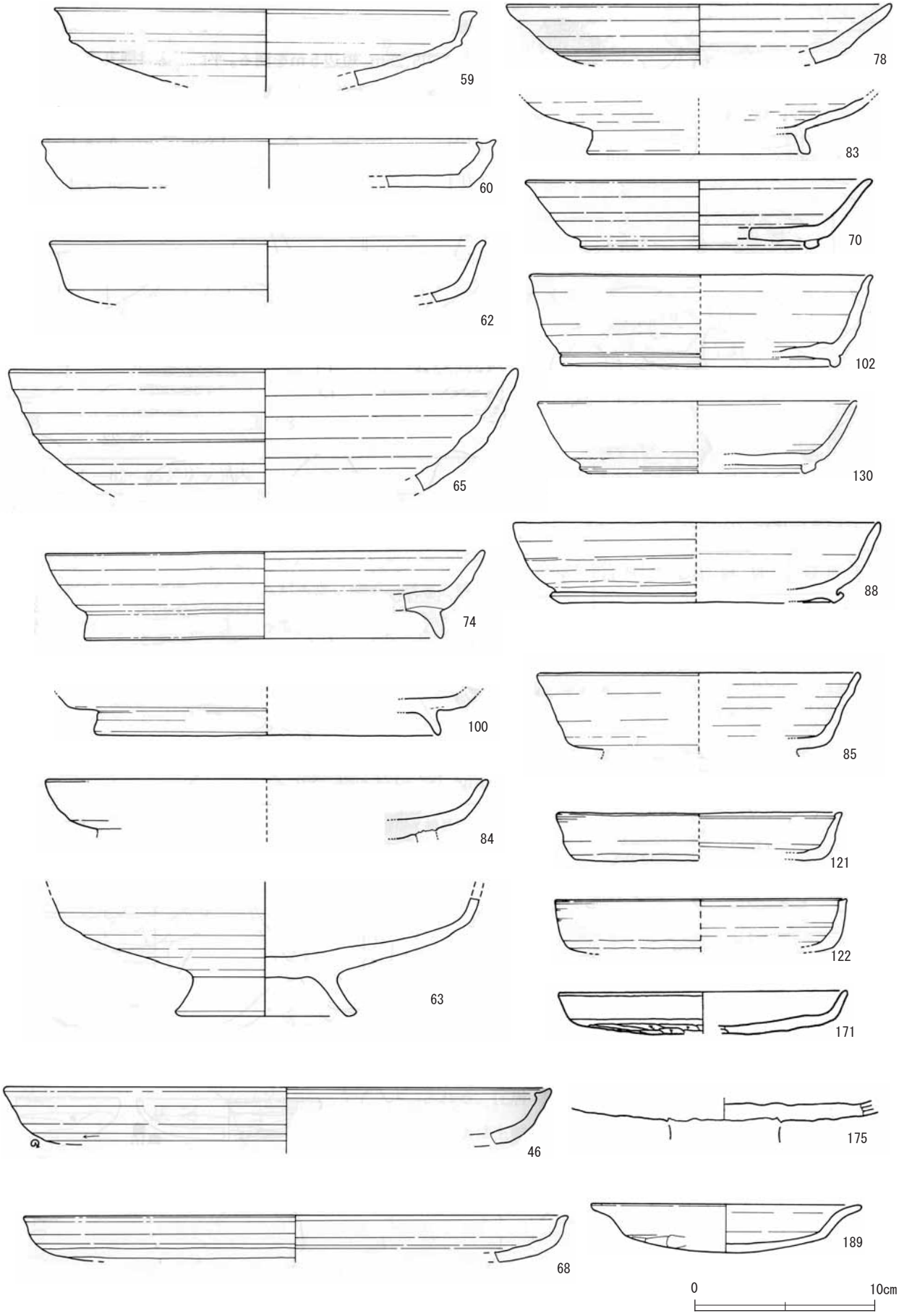
盤・高盤形土器 (11)


86
117
114
109
179
115
40
103
180
116
42
47
177
58
39
48
155
38
56
0
10cm

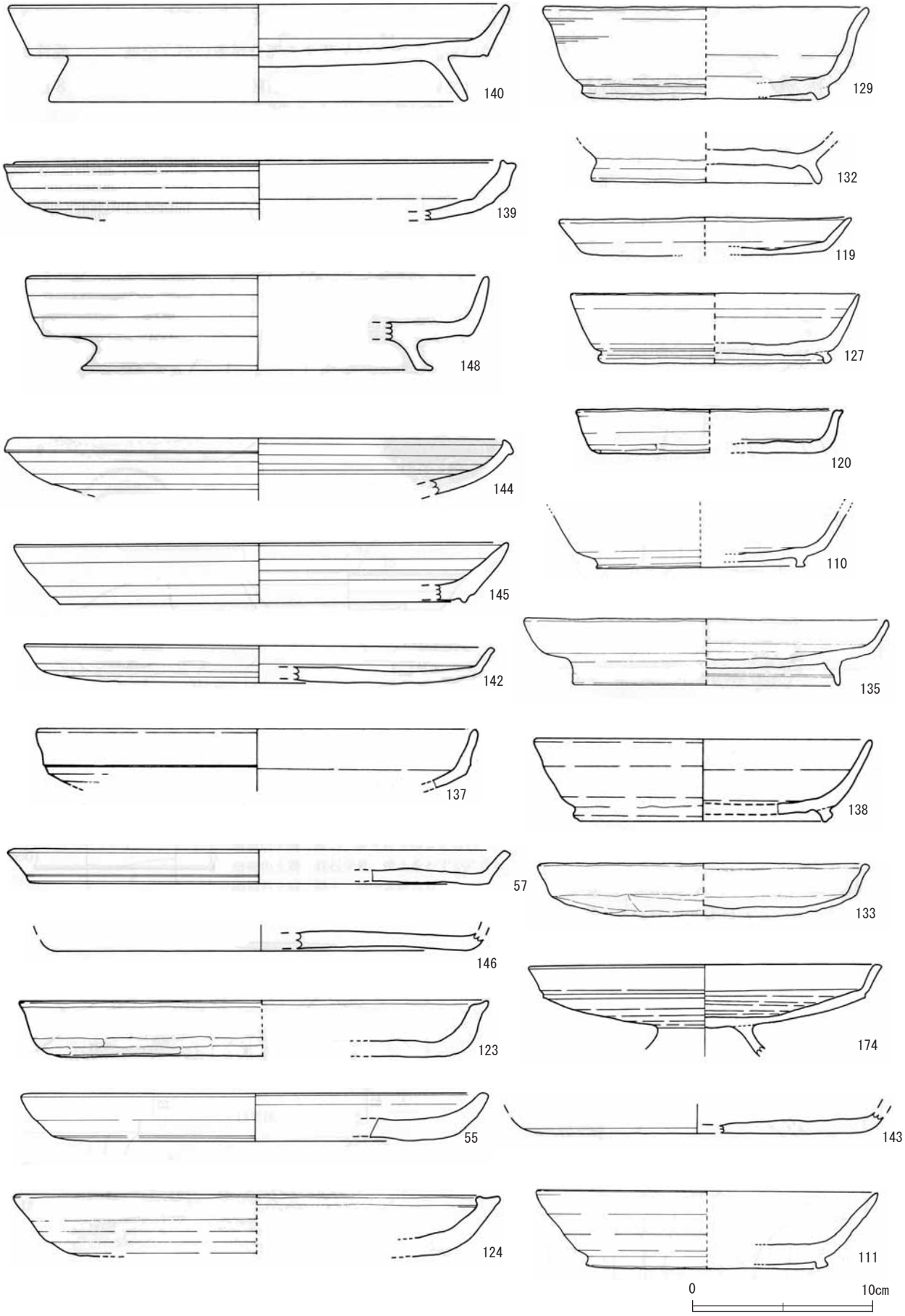
盤・高盤形土器 (12)


149
152
150
136
151
113
161
35
178
167
112
168
156
154
22
173
185
157
187
66
118
0
10cm

盤・高盤形土器 (13)

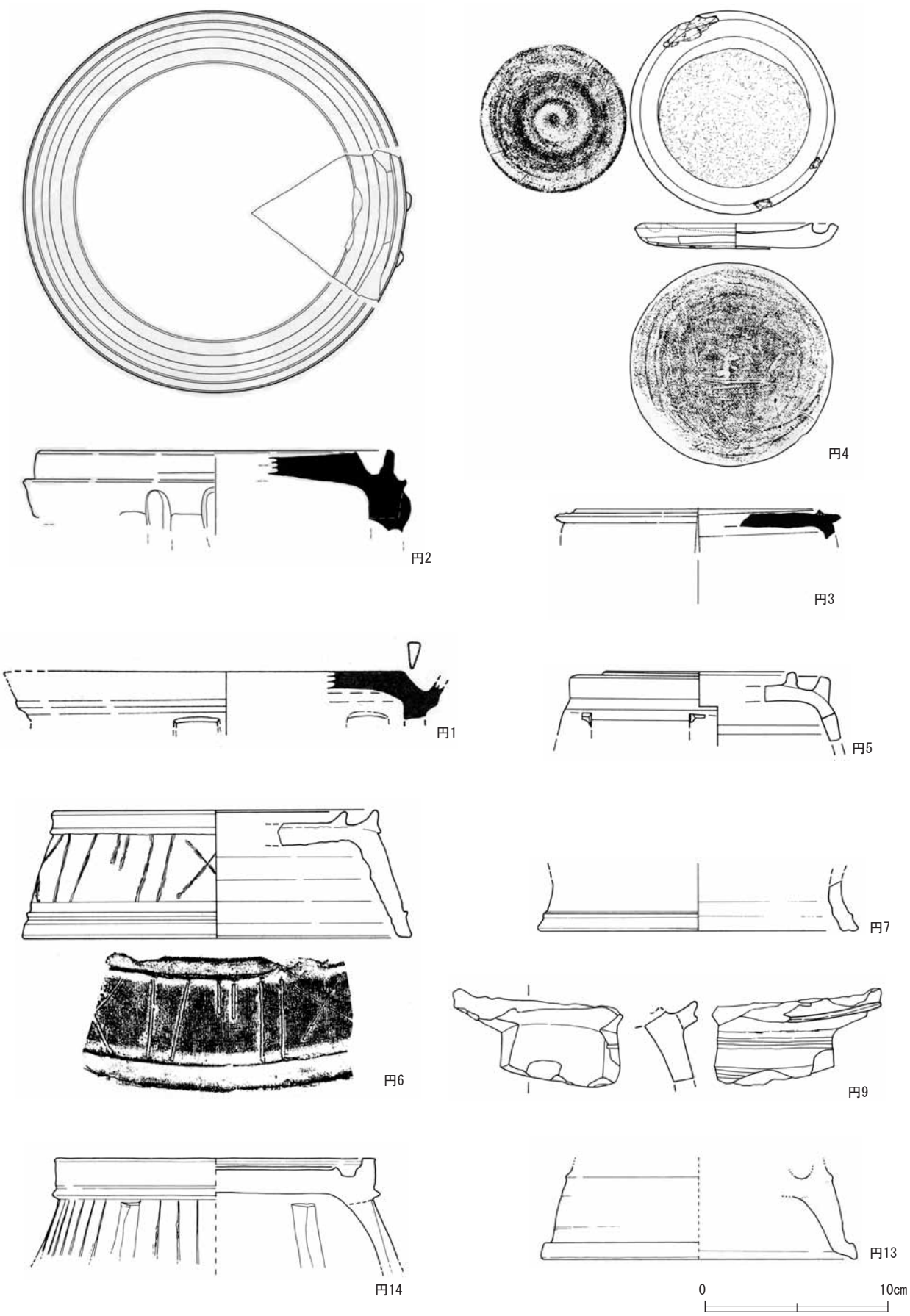

59
60
62
65
74
100
84
63
46
68
78
83
70
102
130
88
85
121
122
171
175
189
0
10cm

盤・高盤形土器（14）

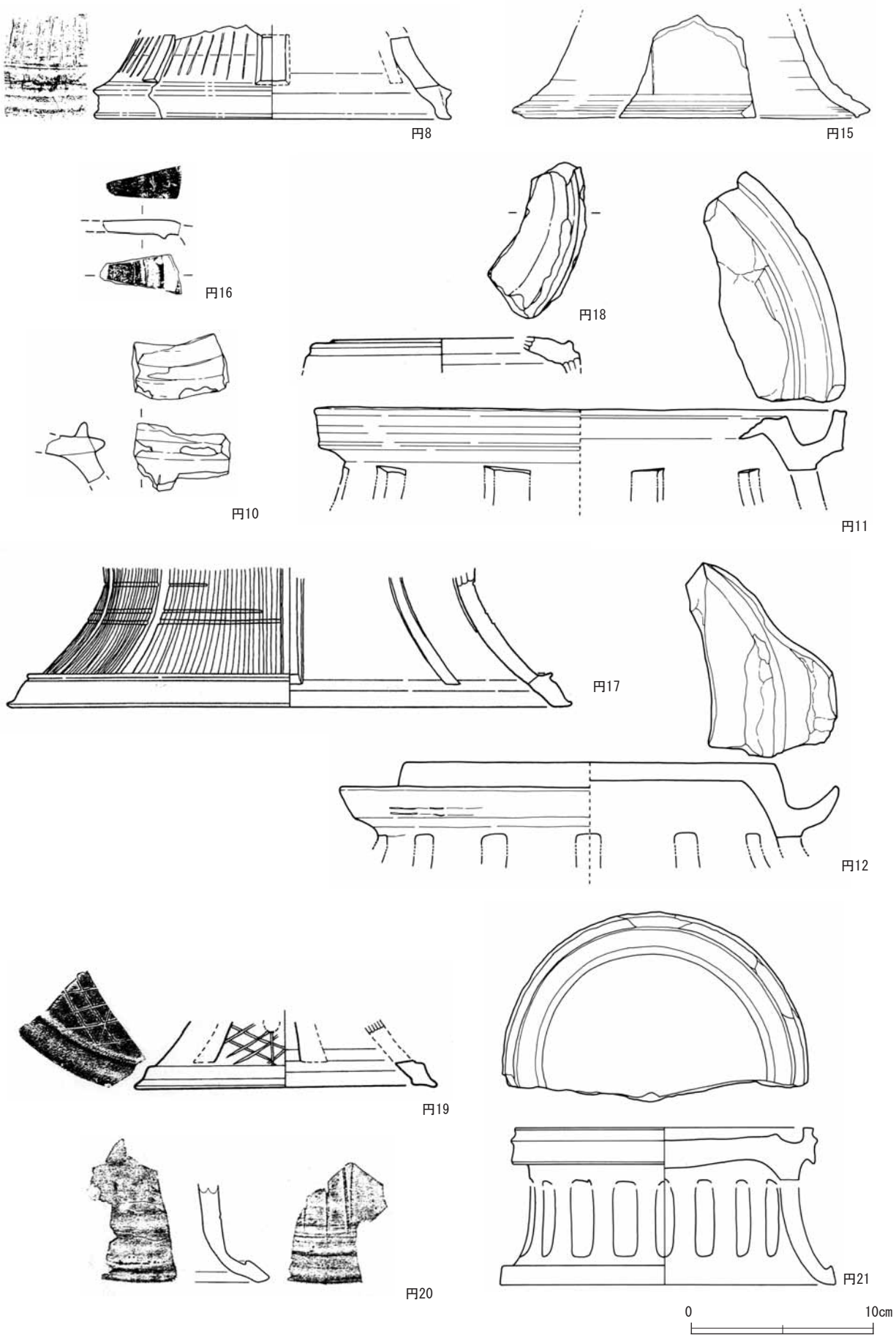

140
129
139
132
119
148
127
120
144
110
145
135
142
137
138
57
133
146
174
123
143
55
124
111
0
10cm

硯 (1)

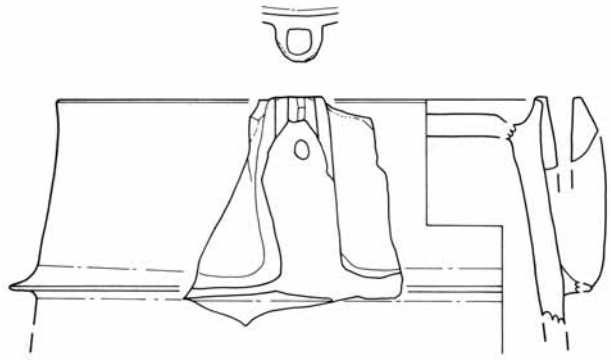
円面硯



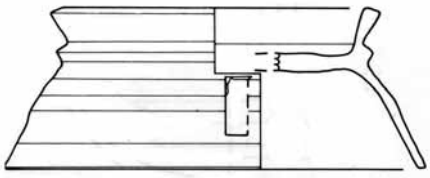
硯 (2)



硯 (3)

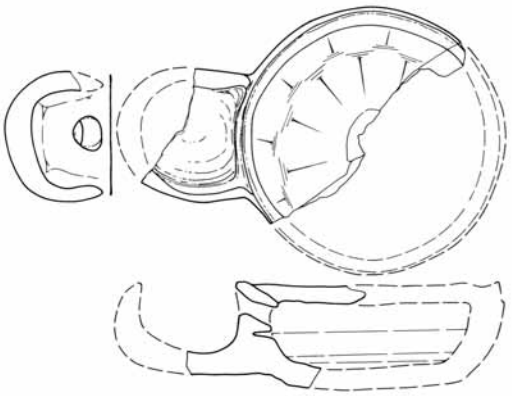


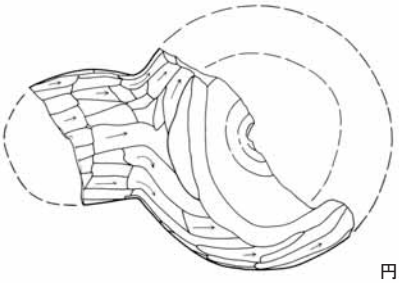
円22



円23

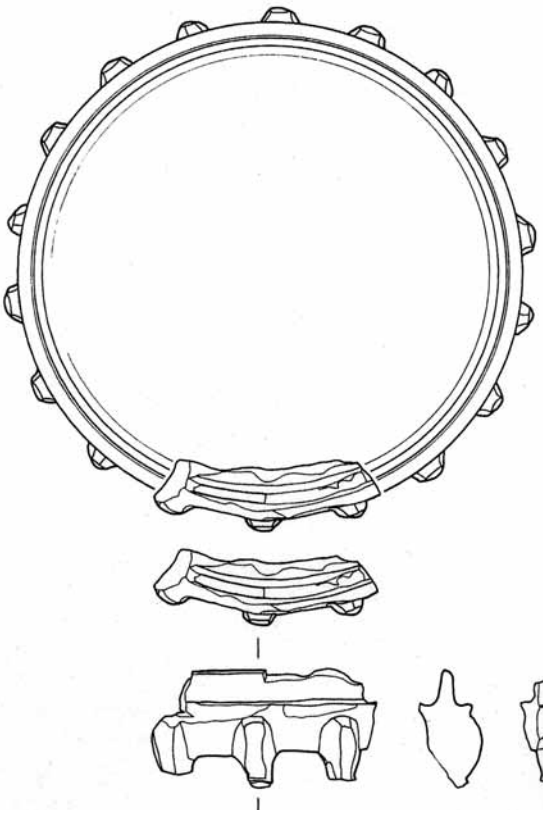
円24



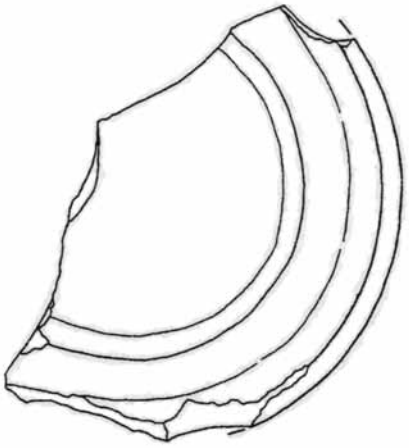


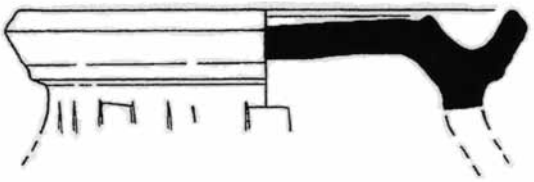
円25

蹄脚硯



蹄1



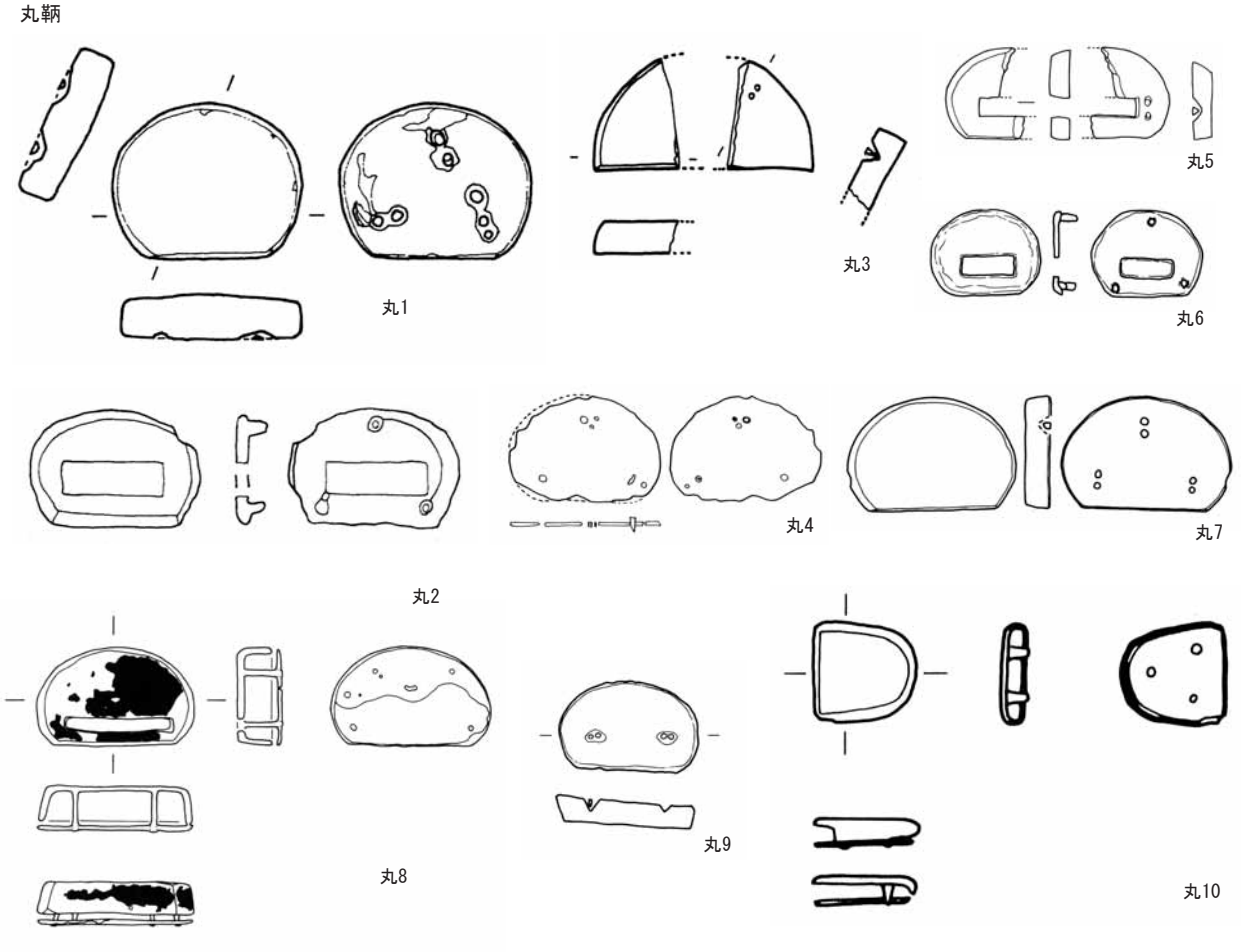


円26

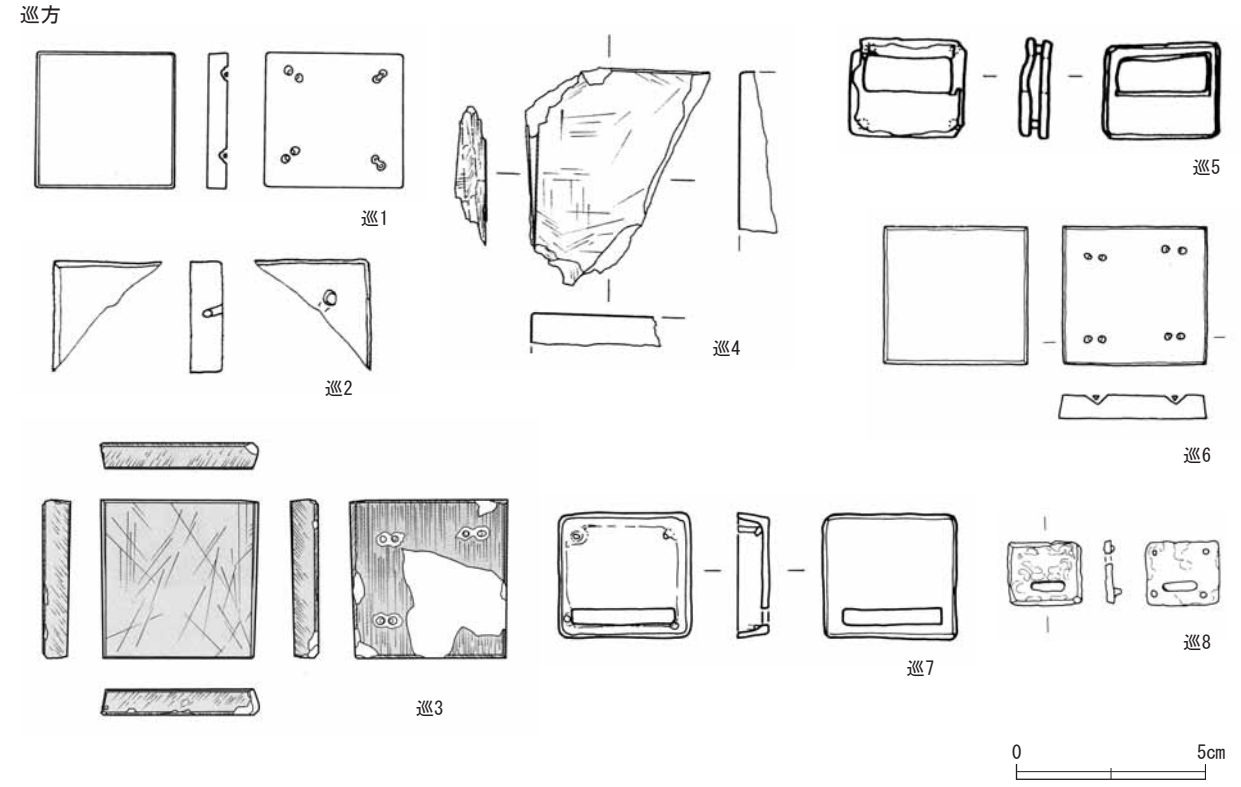
0　10cm

腰帯具（石・金属）(1)

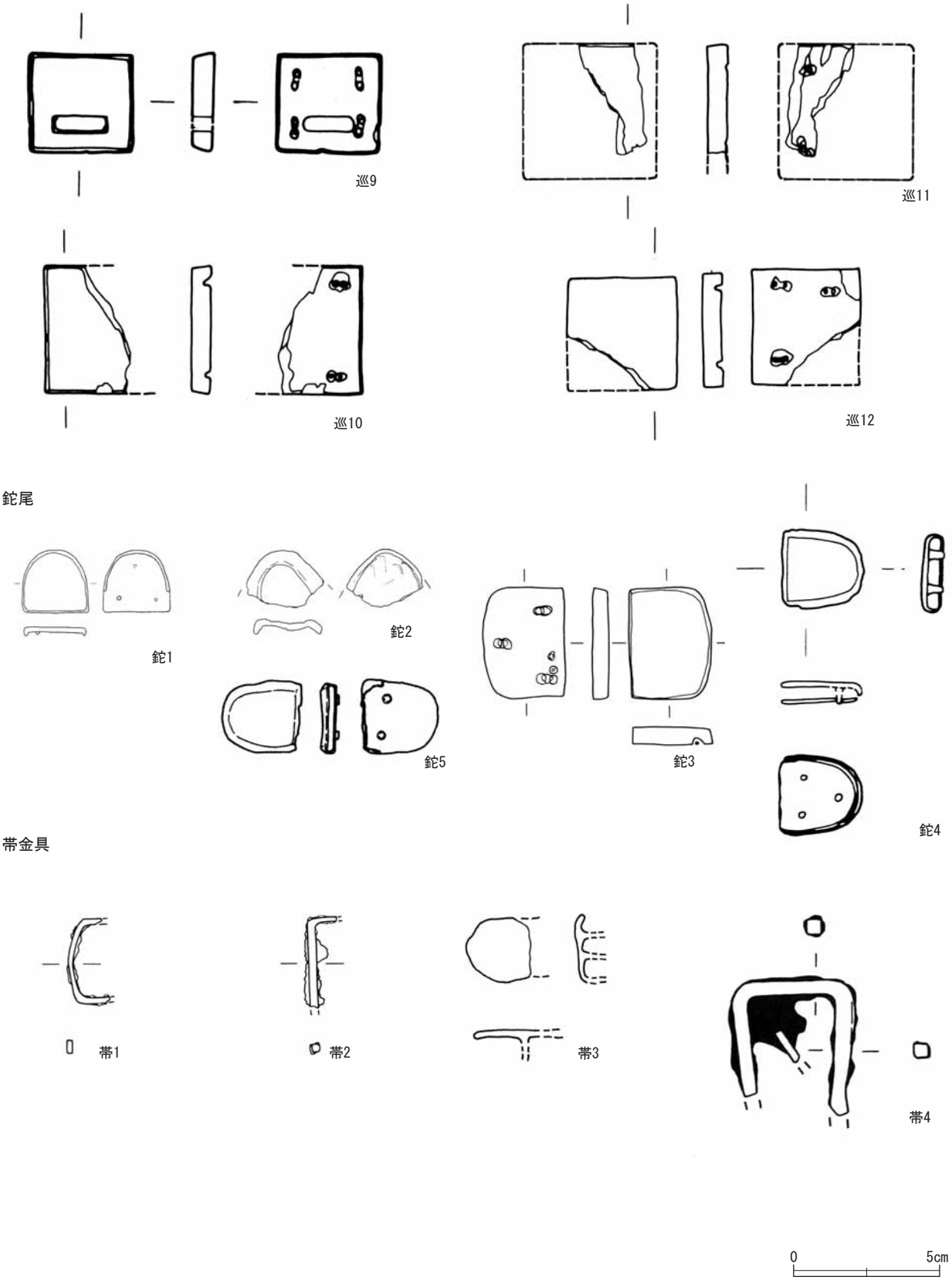
丸鞆



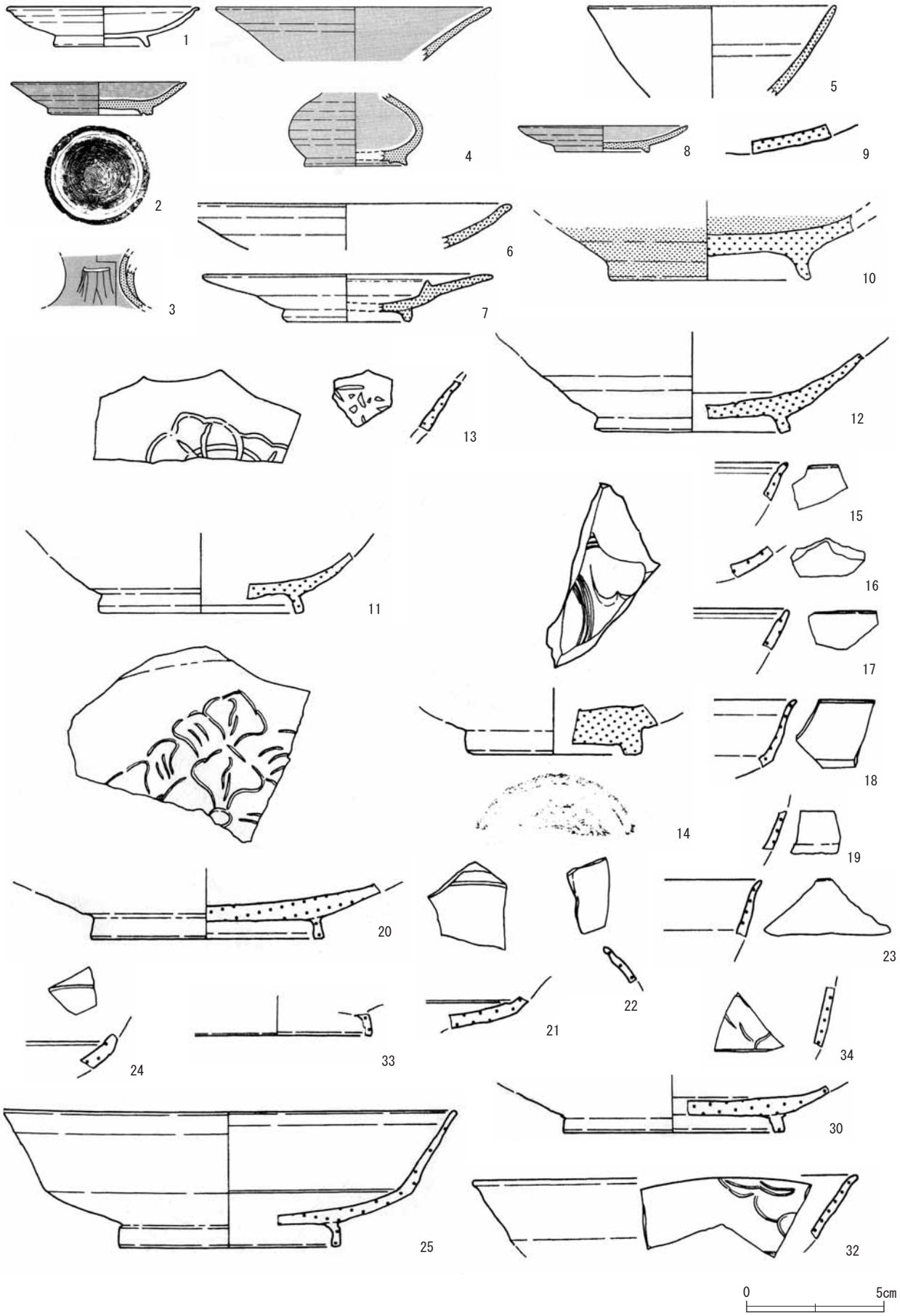
巡方



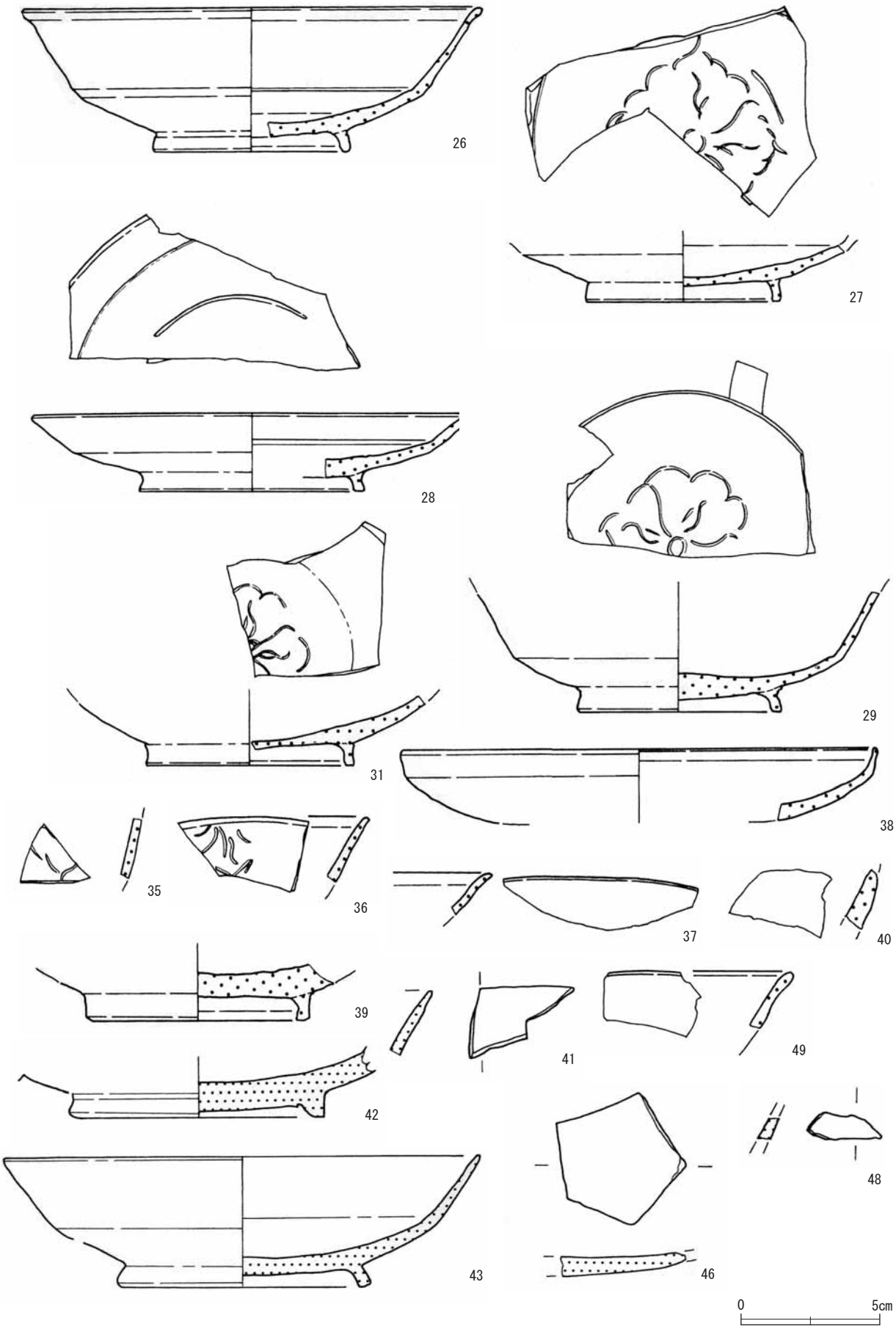
腰帯具（石・金属）(2)



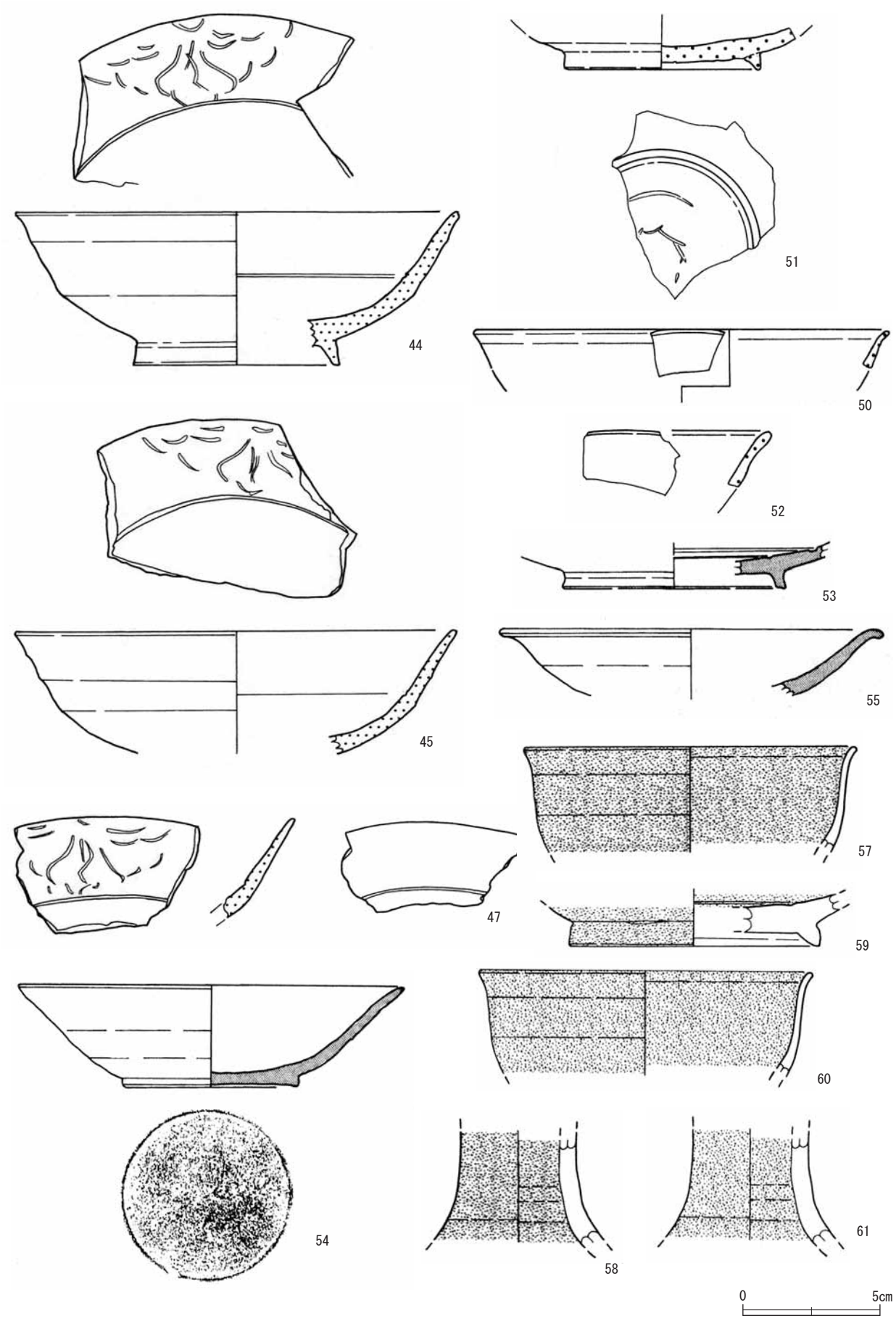
緑釉陶器（1）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
30
32
33
34
0
5cm

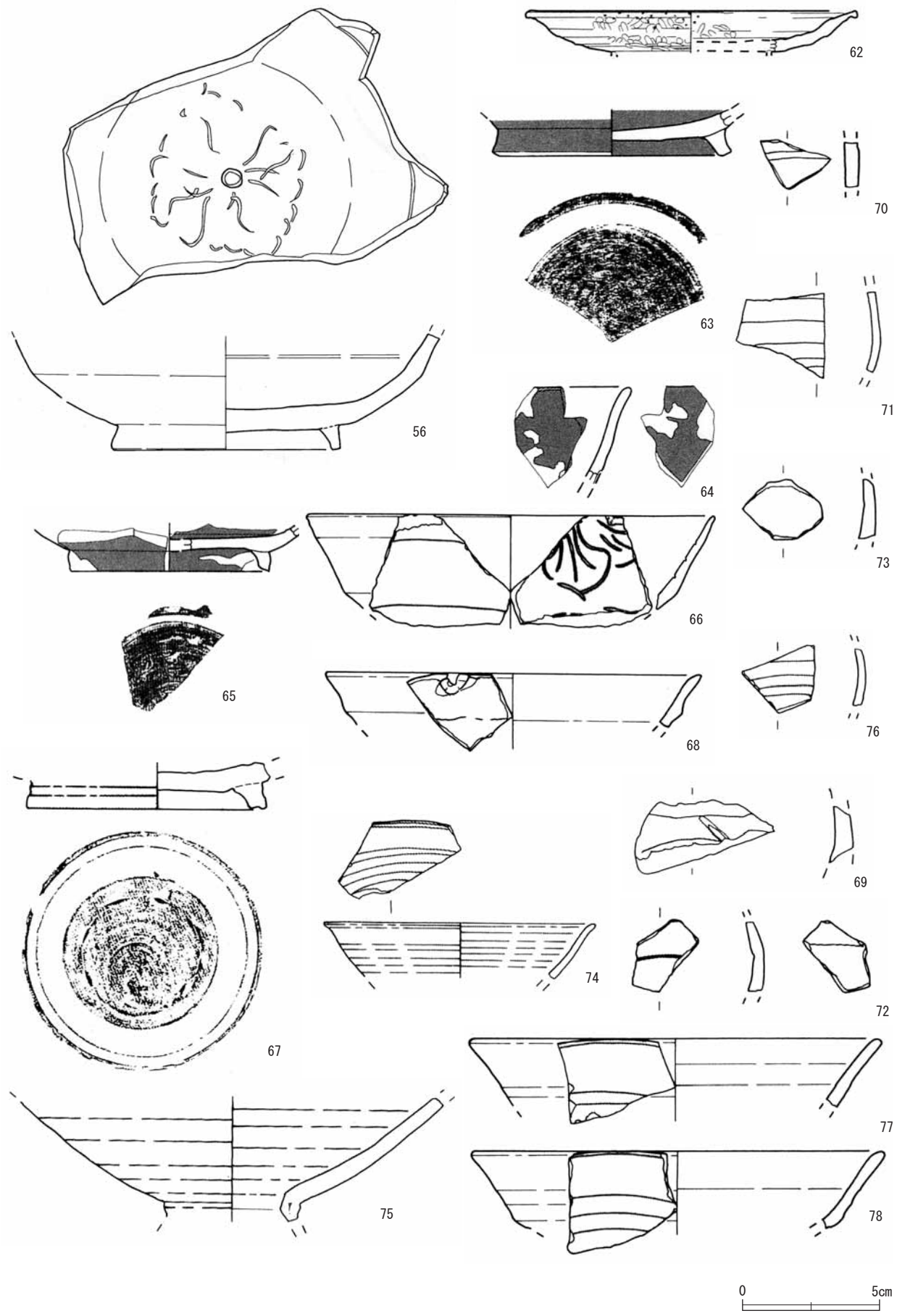
緑釉陶器 (2)



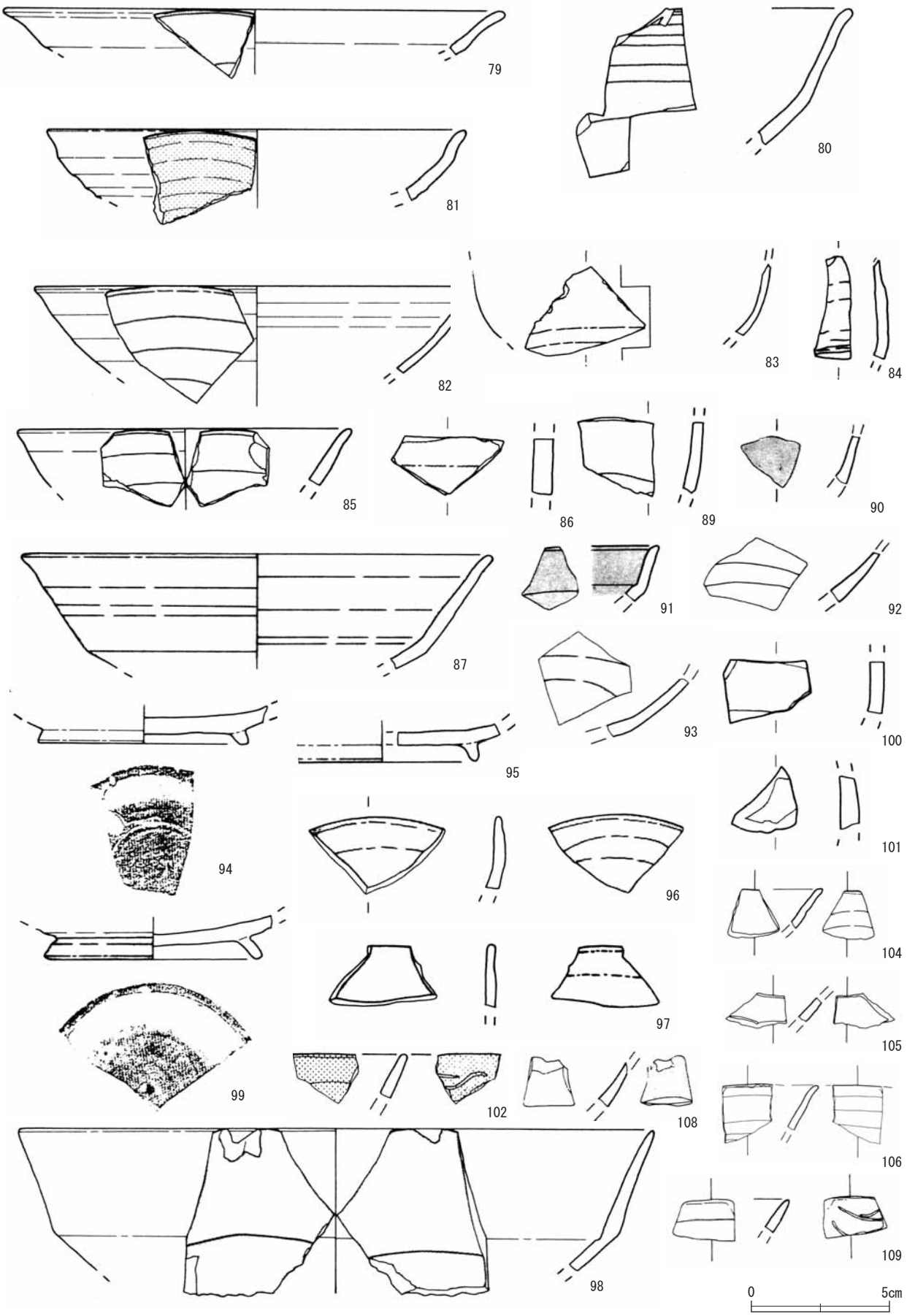
緑釉陶器 (3)



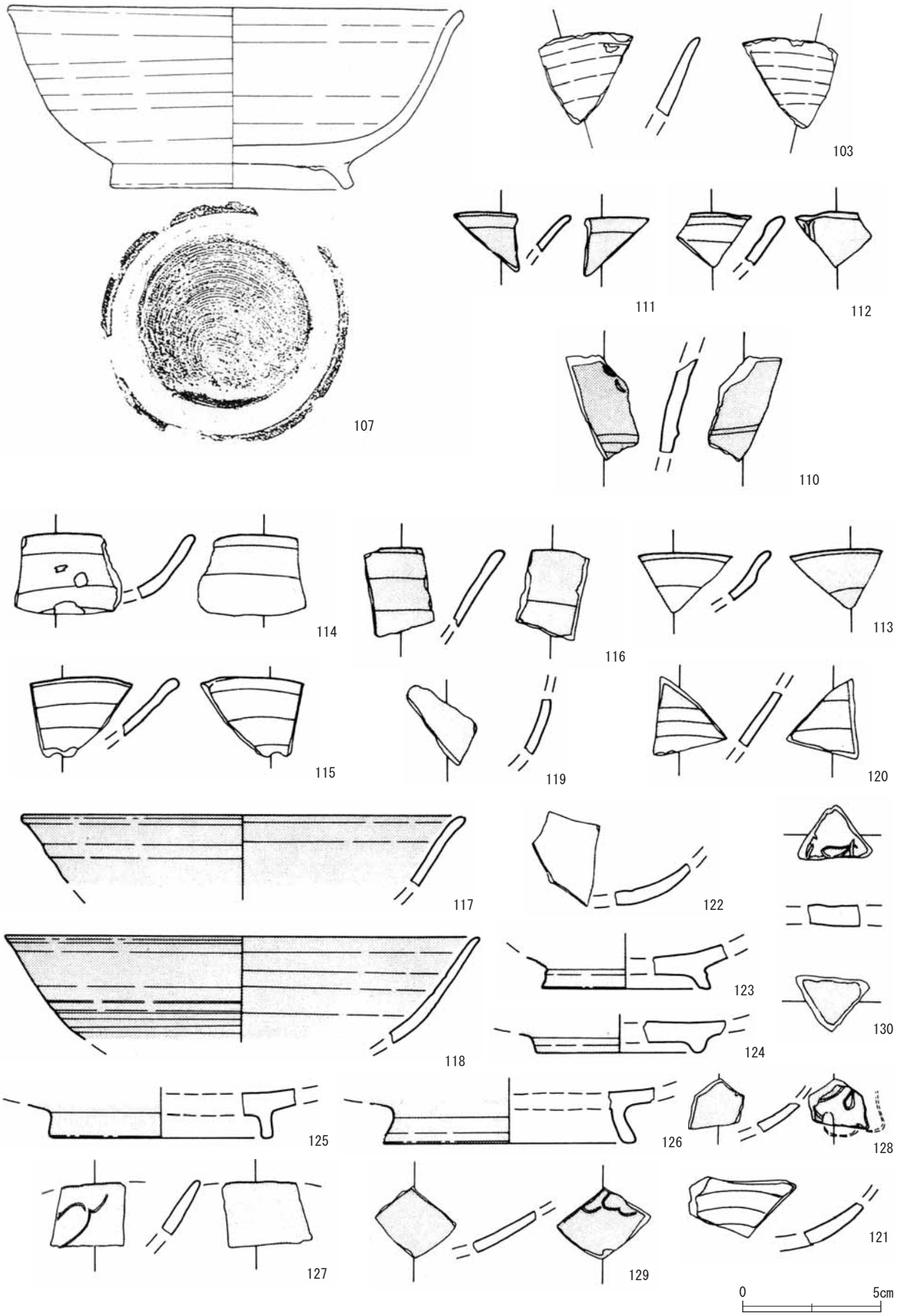
緑釉陶器（4）



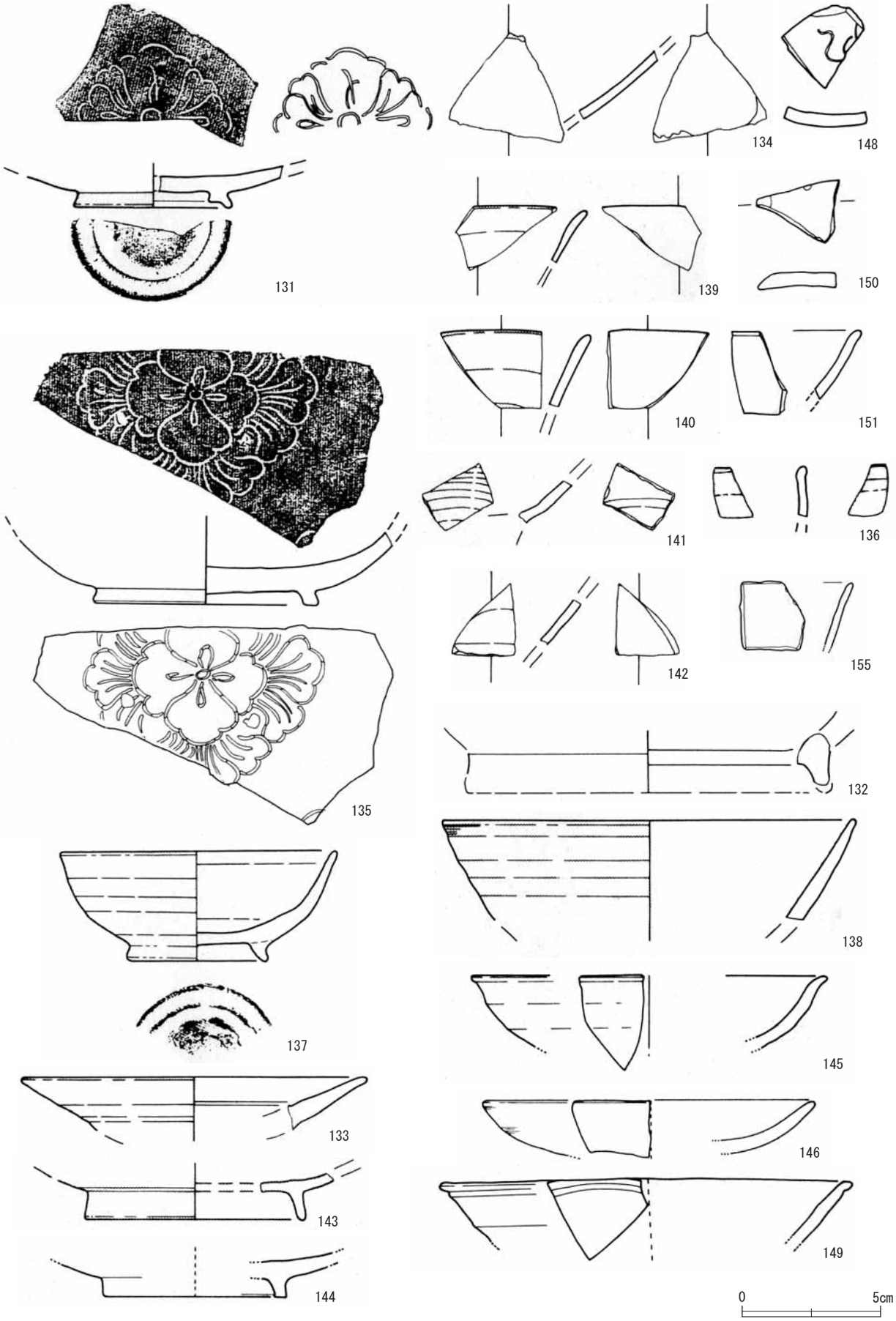
緑釉陶器（5）


79
80
81
82
83
84
85
86
89
90
91
92
87
93
100
95
94
101
96
104
97
105
99
102
108
106
98
109
0
5cm

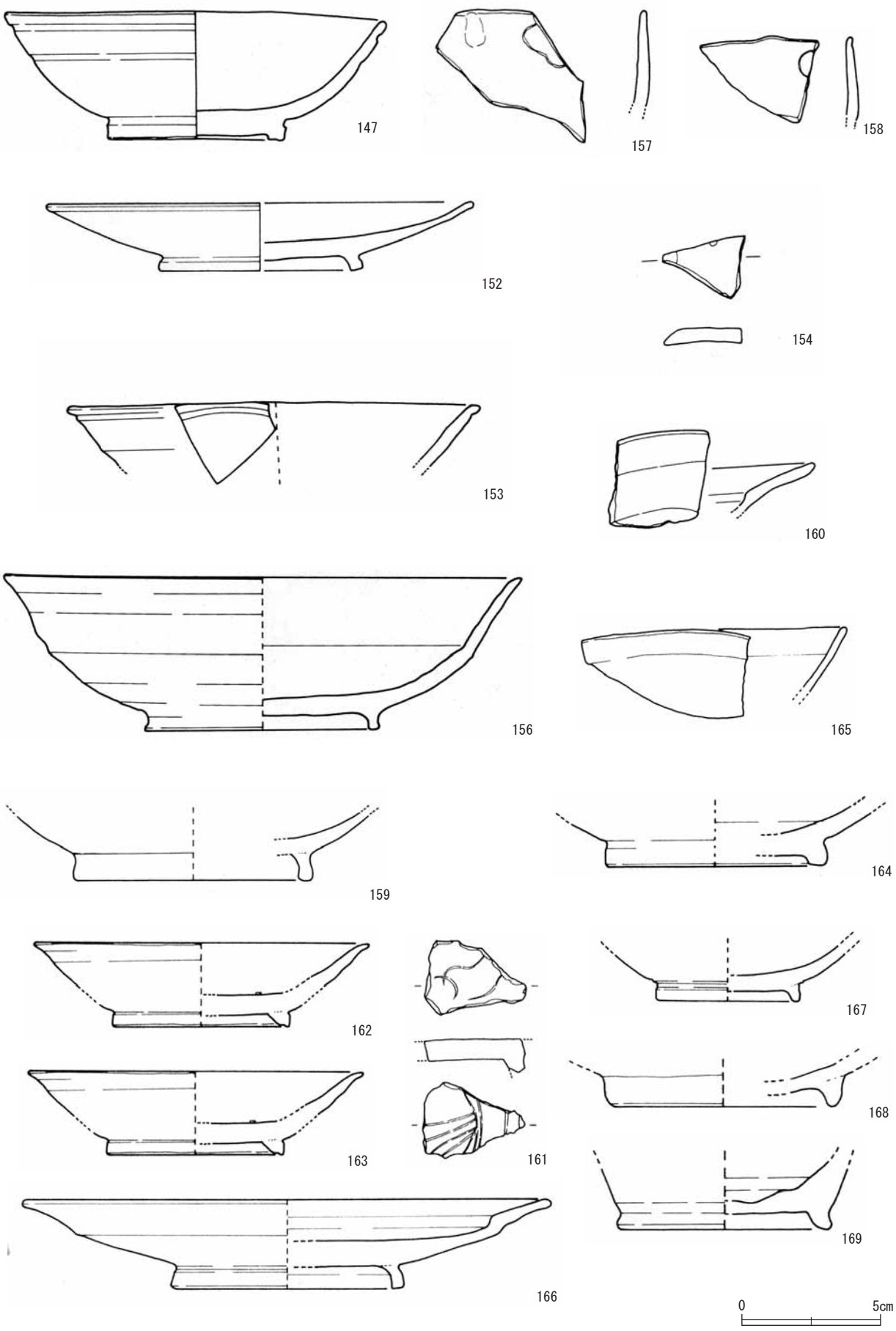
緑釉陶器（6）


103
111
112
107
110
114
116
113
115
119
120
117
122
118
123
124
130
125
126
128
127
129
121
0
5cm

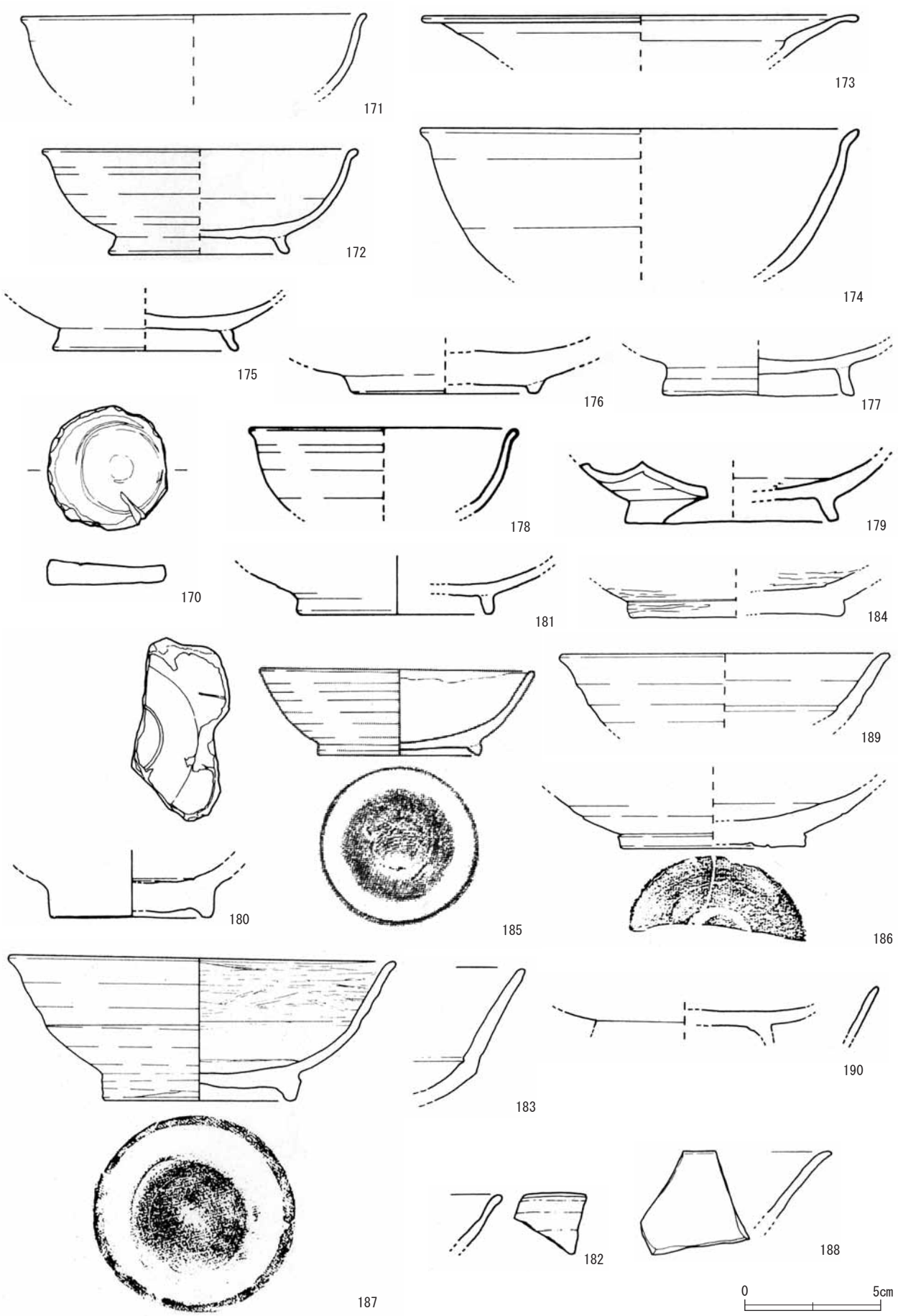
緑釉陶器（7）


134
148
131
139
150
140
151
141
136
142
155
132
135
138
137
145
133
146
143
149
144
0
5cm

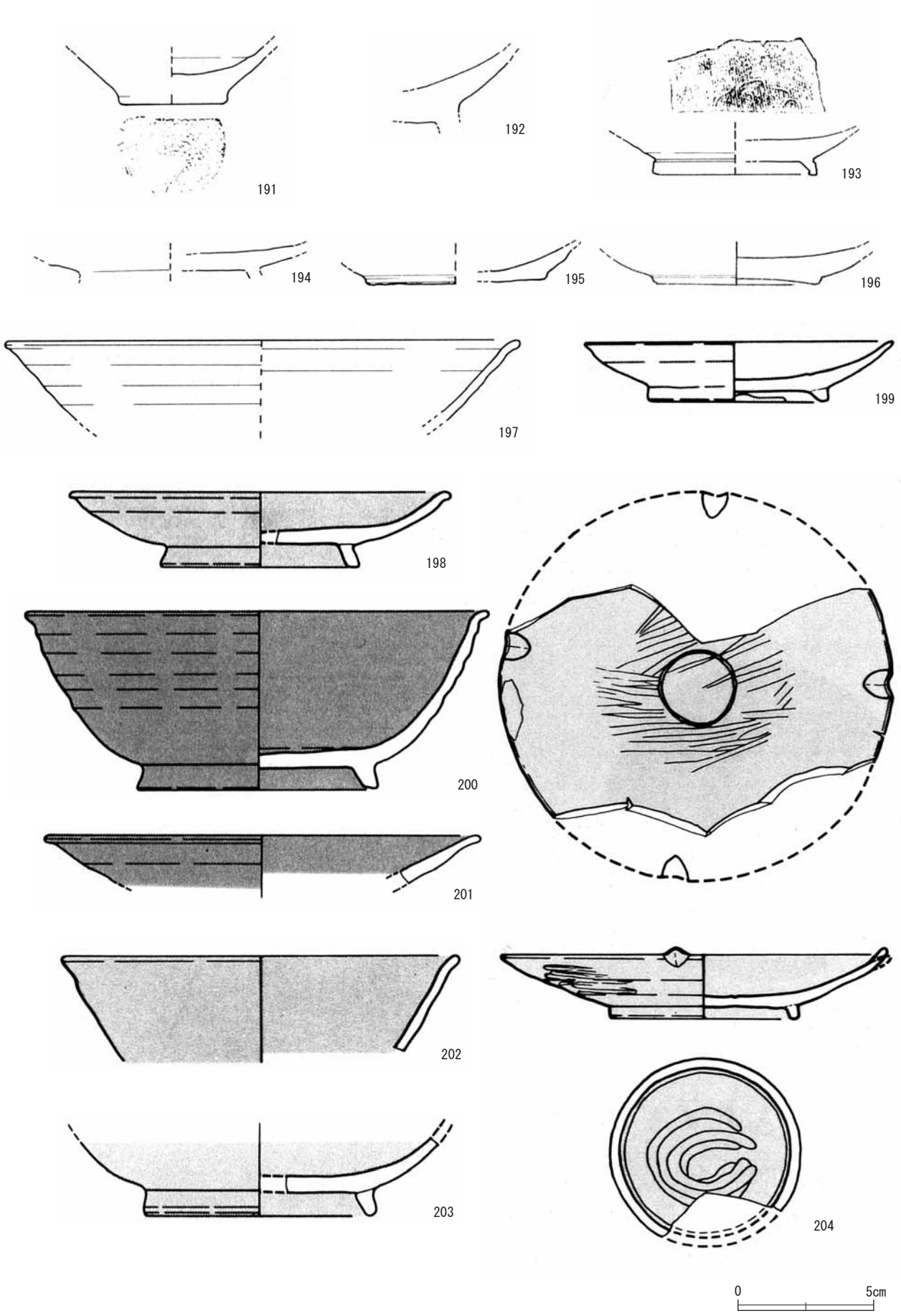
緑釉陶器（8）


147
157
158
152
154
153
160
156
165
159
164
162
167
168
163
161
169
166
0
5cm

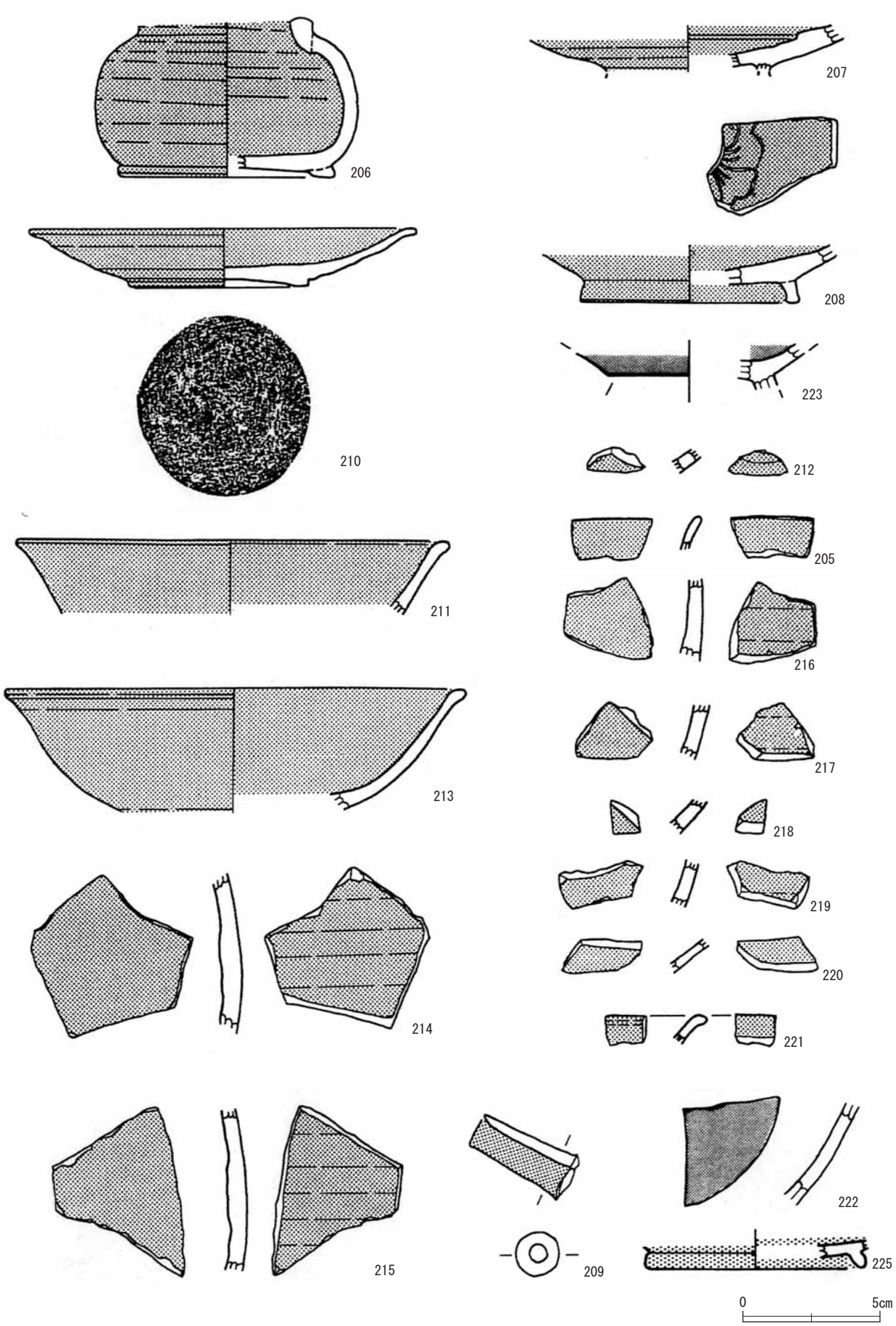
緑釉陶器（9）


171
173
172
174
175
176
177
178
179
170
181
184
189
180
185
186
183
190
187
182
188
0
5cm

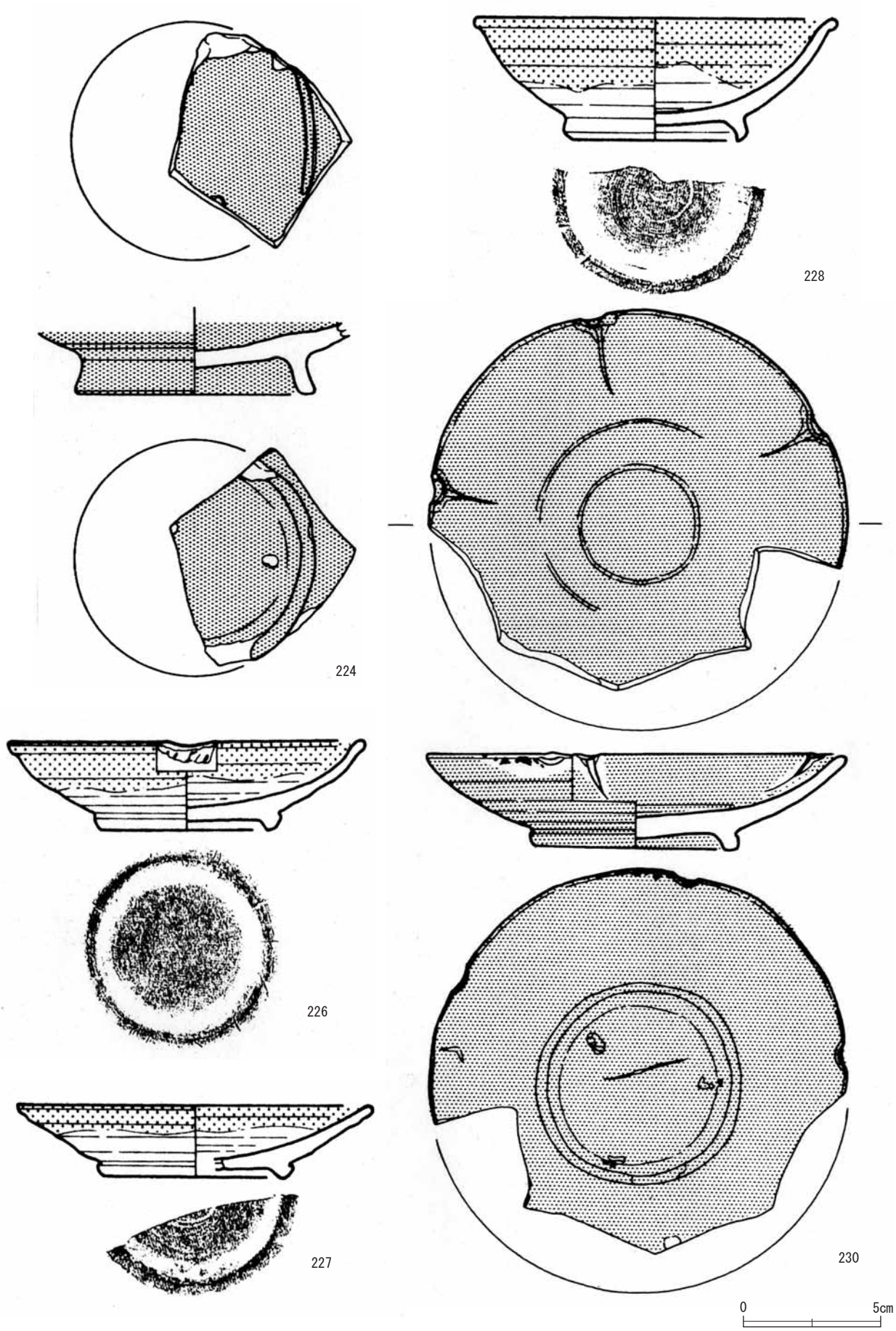
緑釉陶器（10）



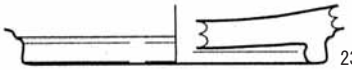
緑釉陶器（11）

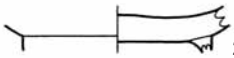

206
207
208
210
223
212
211
205
216
213
217
218
214
219
220
221
215
209
222
225
0
5cm

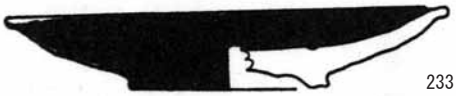
緑釉陶器 (12)

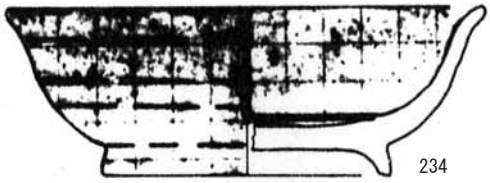


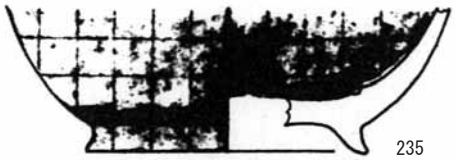
緑釉陶器（13）

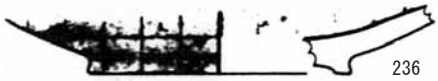

231


232


233


234

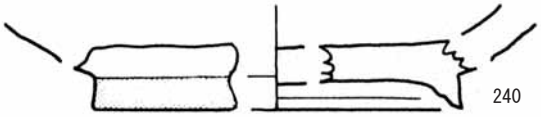

235

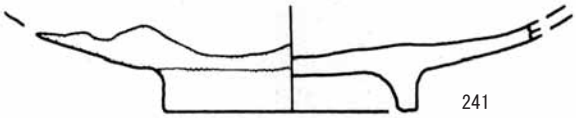

236

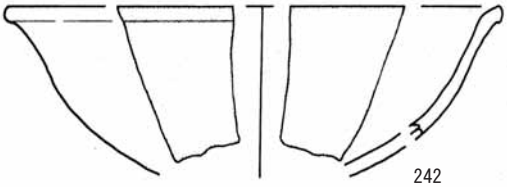
237

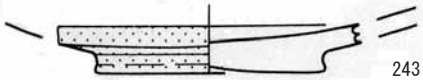
238

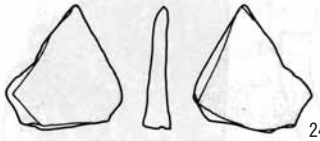
239

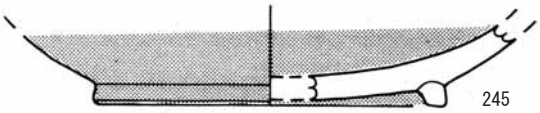

240

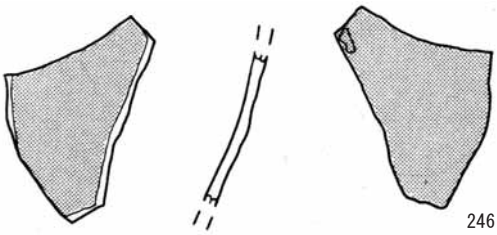

241

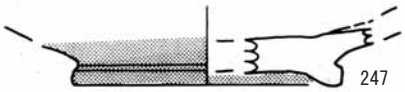

242

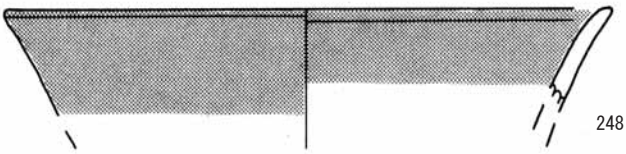

243


244


245

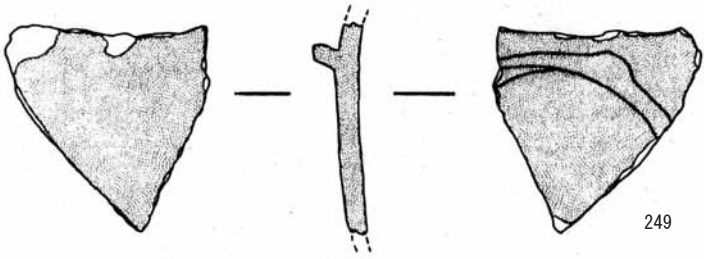

246

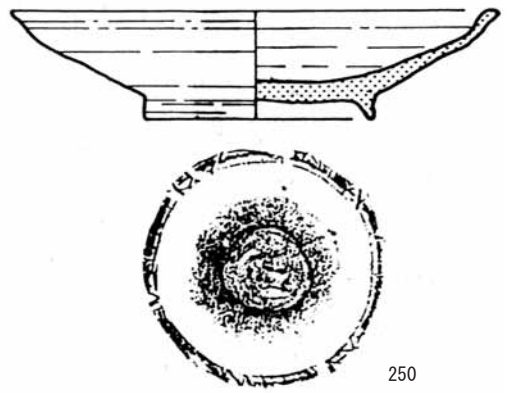

247

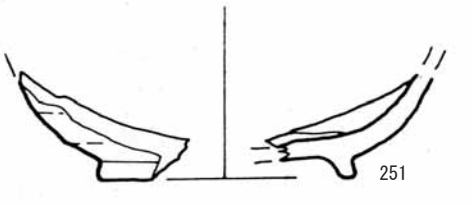

248

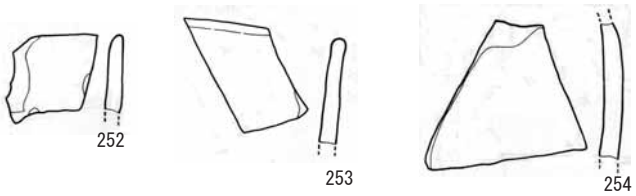
0　5cm

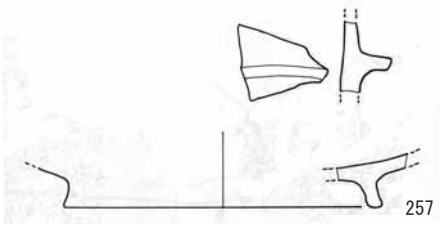
緑釉陶器（14）

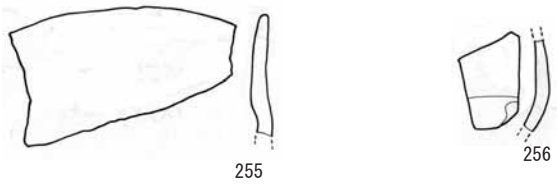

249

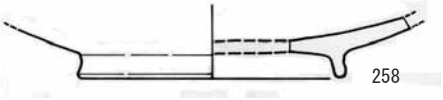

250

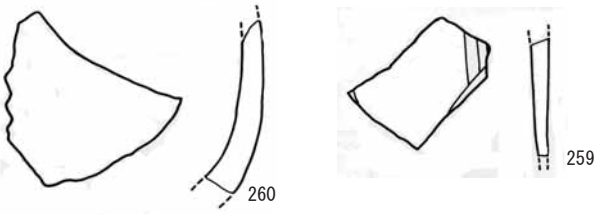

251

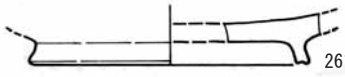

252
253
254


257

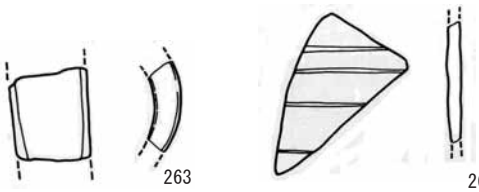

255
256

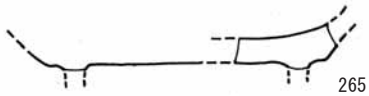

258


260
259

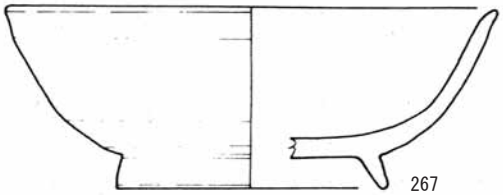

261

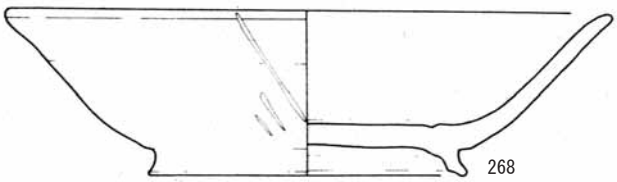
262


263
264


265

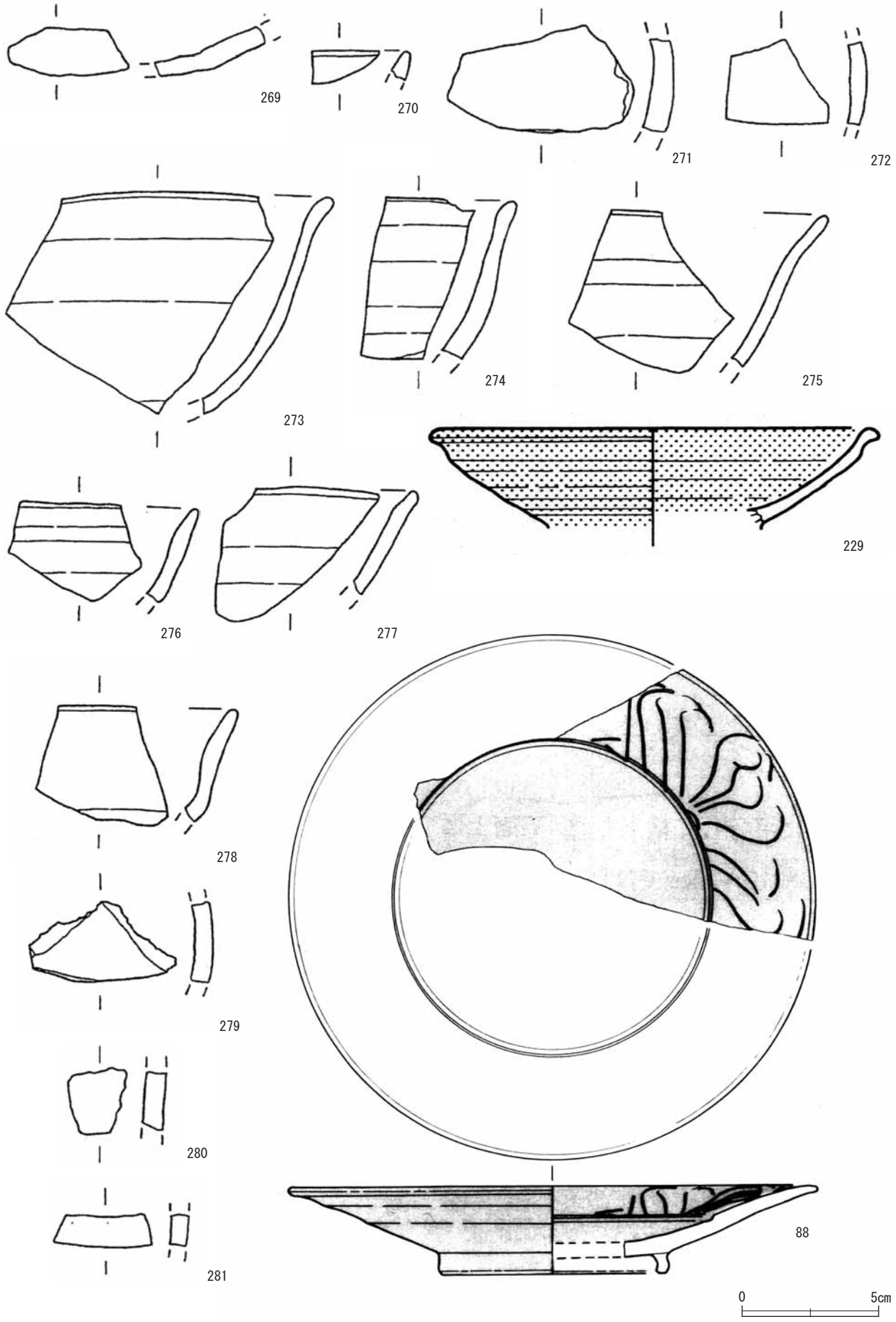
266


267

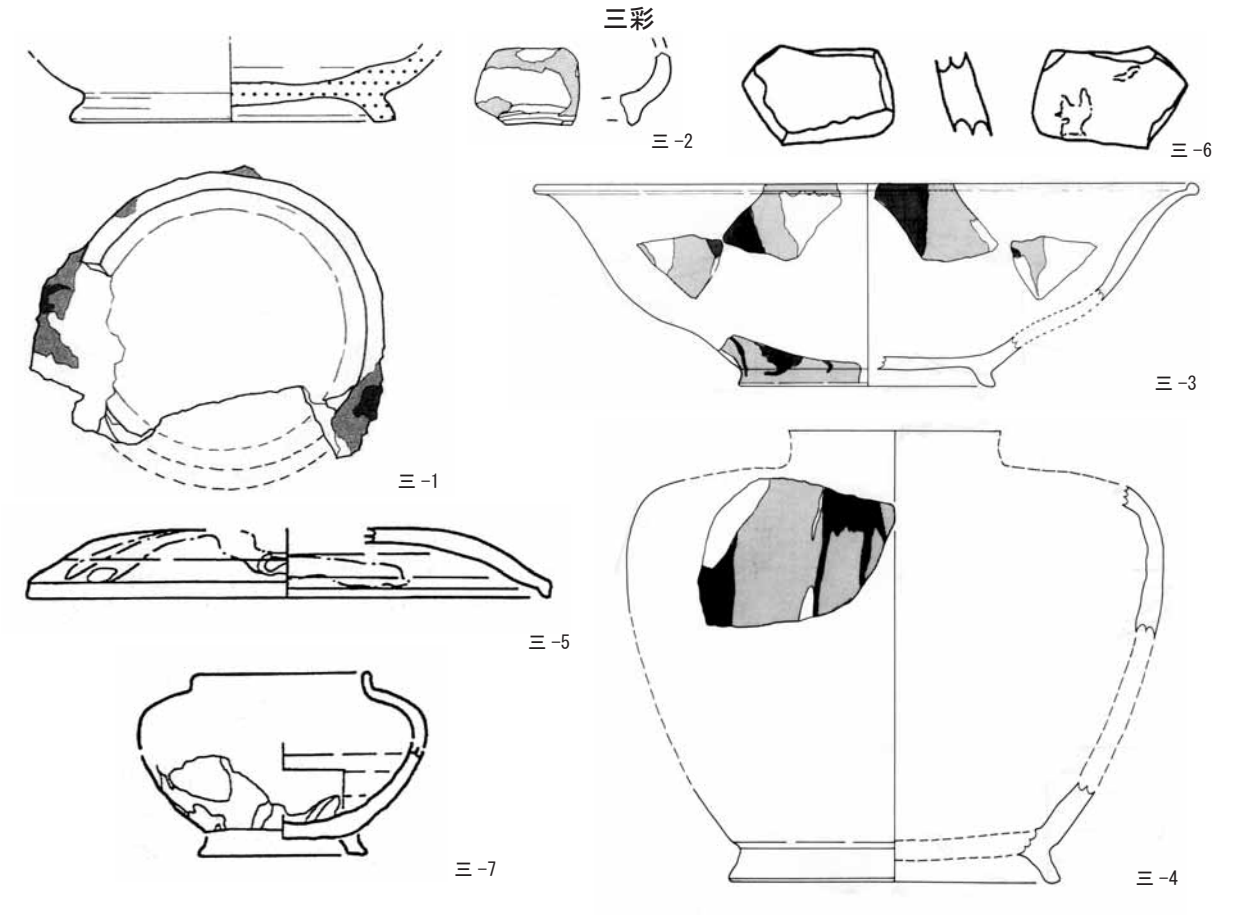

268

0　5cm

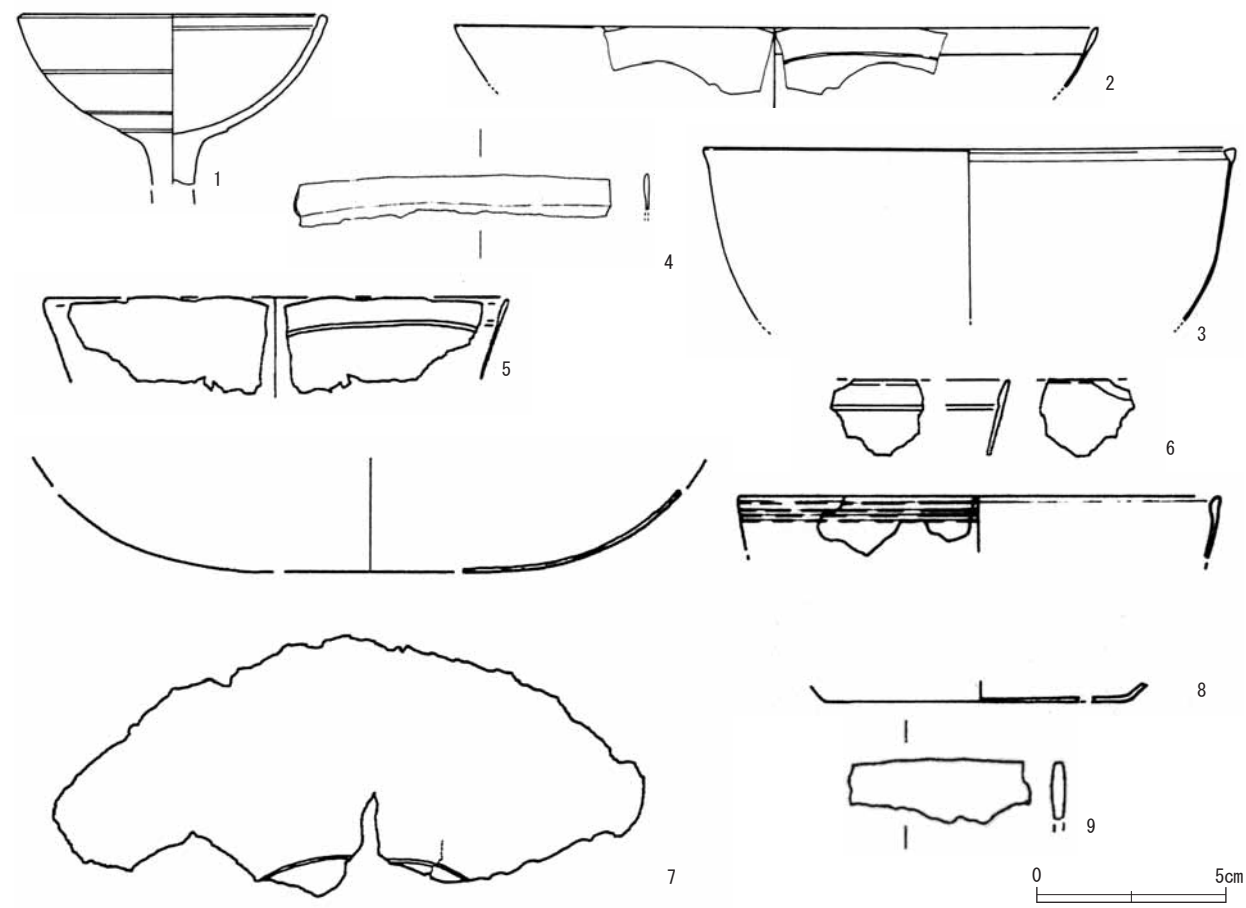
緑釉陶器（15）



三彩



銅椀



種類	No.	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
螺旋坏	1	元総社蒼海遺跡群⑥元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡	２区	H―14	
螺旋坏	2	元総社蒼海遺跡群⑥元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡	３区	H―１	
螺旋坏	3	元総社蒼海遺跡群（５）	東区中央	H―13	
螺旋坏	4	元総社蒼海遺跡群（11）	A区	H―７	
螺旋坏	5	元総社蒼海遺跡群（20）	５区	H―３	
螺旋坏	6	元総社蒼海遺跡群（20）	７区	H―２	
螺旋坏	7	元総社蒼海遺跡群（20）	９区	H―９	
螺旋坏	8	元総社蒼海遺跡群（20）	９区	H―９	
螺旋坏	9	元総社蒼海遺跡群（20）	９区	H―９	
螺旋坏	10	元総社蒼海遺跡群（22）	８区	D―24	
螺旋坏	11	元総社蒼海遺跡群（26）	５区	H―１	
螺旋坏	12	元総社蒼海遺跡群（26）	５区	H―１	
螺旋坏	13	元総社蒼海遺跡群（35）	１区	H―18	
螺旋坏	14	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	J区	H―14	
螺旋坏	15	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―54	
螺旋坏	16	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―57	
螺旋坏	17	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―57	
螺旋坏	18	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―59	
螺旋坏	19	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―73	
螺旋坏	20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―129	
螺旋坏	21	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―150	
螺旋坏	22	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―150	
螺旋坏	23	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	B区	H―164	
螺旋坏	24	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	A区	H―７	
螺旋坏	25	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	A区	H―71	
螺旋坏	26	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	A区	H―97	
螺旋坏	27	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	A区	H―141	
螺旋坏	28	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Z区	H―５	
螺旋坏	29	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Z区	H―12	
螺旋坏	30	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Z区	H―59	
螺旋坏	31	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―43	
螺旋坏	32	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―43	
螺旋坏	33	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―43	
螺旋坏	34	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―81	
螺旋坏	35	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―183	
螺旋坏	36	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―208	
螺旋坏	37	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―208	
螺旋坏	38	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	H―230	
螺旋坏	39	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	土坑	
螺旋坏	40	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	W―18	
螺旋坏	41	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	W―18	
螺旋坏	42	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	W―18	
螺旋坏	43	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	遺構外	
螺旋坏	44	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	遺構外	
螺旋坏	45	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	I区	遺構外	
螺旋坏	46	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷　２・３区	暗褐黒褐色土中	
螺旋坏	47	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	48	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	49	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	50	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	51	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	52	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	53	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	54	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	55	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	56	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	57	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	58	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	59	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	60	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	61	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	62	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	63	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	64	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	65	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	66	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	67	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	68	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	69	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	70	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	71	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	72	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	

種類	№	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
螺旋坏	73	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	74	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	75	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	76	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	77	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	78	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	79	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
螺旋坏	80	元総社明神遺跡Ⅻ	調査区東端	Ｈ－７	
螺旋坏	81	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	５号河道	
螺旋坏	82	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｇ区	Ｈ－64	
螺旋坏	83	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｈ－19	
螺旋坏	84	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－10・11	
螺旋坏	85	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－10・11	
螺旋坏	86	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－10・11	
螺旋坏	87	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－10・11	
螺旋坏	88	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－10・11	
螺旋坏	89	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－10・11	
螺旋坏	90	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－10・11	
螺旋坏	91	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	92	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	93	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	94	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	95	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	96	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	97	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	98	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	99	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	100	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	101	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	102	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	103	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	104	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	105	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	106	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	107	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	108	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｈ区	Ｗ－12	
螺旋坏	109	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｉ区	Ｈ－98	
螺旋坏	110	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｉ区	Ｈ－103	
螺旋坏	111	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－36	
螺旋坏	112	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－41	
螺旋坏	113	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－158	
螺旋坏	114	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－189	
螺旋坏	115	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
螺旋坏	116	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
螺旋坏	117	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
螺旋坏	118	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
螺旋坏	119	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
螺旋坏	120	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－５	
螺旋坏	121	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－５	
螺旋坏	122	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－５	
螺旋坏	123	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－５	
螺旋坏	124	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－５	
螺旋坏	125	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－12	
螺旋坏	126	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－12	
螺旋坏	127	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－17	
螺旋坏	128	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－18	
螺旋坏	129	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－88	
螺旋坏	130	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－123	
螺旋坏	131	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	ＭＫ区	遺構外	
螺旋坏	132	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ区	Ｈ－16	
螺旋坏	133	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ区	Ｈ－19	
螺旋坏	134	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ区	Ｈ－28Ａ	
螺旋坏	135	国府南部遺跡群Ⅴ	Ｄ区	Ｈ－29	
螺旋坏	136	国府南部遺跡群Ⅴ	Ｄ区	Ⅰ－２	
螺旋坏	137	国府南部遺跡群Ⅴ	Ｄ区	Ｈ－21	
螺旋坏	138	史跡　上野国分寺跡	SA01		
螺旋坏	139	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｗ－４	
螺旋坏	140	堰越遺跡		Ｈ－10	
螺旋坏	141	堰越遺跡		３Ｄ	
螺旋坏	142	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－76	
盤・高盤	1	元総社蒼海遺跡群⑤　元総社小見Ⅱ遺跡	西区	Ｈ－28Ａ	三足盤
盤・高盤	2	元総社蒼海遺跡群⑨　元総社小見Ⅳ遺跡		Ｈ－26	

種類	No.	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
盤・高盤	3	元総社蒼海遺跡群⑫　元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	Ａ区	Ｈ－３	台付盤・須恵器
盤・高盤	4	元総社蒼海遺跡群⑫　元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	Ａ区	Ｈ－８	
盤・高盤	5	元総社蒼海遺跡群⑬　元総社小見内Ⅳ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	Ｂ区	Ｈ－10	
盤・高盤	6	元総社蒼海遺跡群⑭　元総社小見Ⅵ遺跡		Ｈ－47	高台盤
盤・高盤	7	元総社蒼海遺跡群（１）	２トレ	Ｈ－21	
盤・高盤	8	元総社蒼海遺跡群（16）		Ｈ－10	
盤・高盤	9	元総社蒼海遺跡群（16）		Ｈ－10	
盤・高盤	10	元総社蒼海遺跡群（16）		Ｈ－11	
盤・高盤	11	元総社蒼海遺跡群（18）	Ａ区	Ｉ－３	
盤・高盤	12	元総社蒼海遺跡群（22）	８区	Ｈ－16	
盤・高盤	13	元総社蒼海遺跡群（22）	８区	Ｔ－４	
盤・高盤	14	元総社蒼海遺跡群（24）	31区	Ｈ－13	
盤・高盤	15	元総社蒼海遺跡群（28）		Ｗ－17	
盤・高盤	16	元総社蒼海遺跡群（29）	２区	Ｈ－７	
盤・高盤	17	元総社蒼海遺跡群（29）	２区	Ｈ－８	
盤・高盤	18	元総社蒼海遺跡群（35）	１区	Ｈ－１	
盤・高盤	19	元総社蒼海遺跡群（35）	１区	Ｈ－15	
盤・高盤	20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－27	
盤・高盤	21	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｄ区	Ｉ－３	
盤・高盤	22	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｈ区	Ｈ－125	
盤・高盤	23	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｈ区	Ｉ－４	
盤・高盤	24	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｈ区	遺構外	
盤・高盤	25	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－９	
盤・高盤	26	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－９	
盤・高盤	27	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－９	
盤・高盤	28	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－９	
盤・高盤	29	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－99	
盤・高盤	30	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｂ区	Ｈ－44	
盤・高盤	31	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	
盤・高盤	32	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	
盤・高盤	33	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｂ区	土坑群	
盤・高盤	34	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｊ区	Ｈ－５	
盤・高盤	35	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｊ区	Ｈ－５	
盤・高盤	36	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｊ区	Ｈ－５	
盤・高盤	37	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｊ区	Ｈ－５	
盤・高盤	38	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｊ区	Ｈ－５	
盤・高盤	39	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－77	
盤・高盤	40	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－82	
盤・高盤	41	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－82	
盤・高盤	42	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－150	
盤・高盤	43	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－150	
盤・高盤	44	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－150	
盤・高盤	45	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ａ区	Ｈ－179	
盤・高盤	46	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ａ区	Ｈ－179	
盤・高盤	47	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｉ－４	
盤・高盤	48	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｉ－４	
盤・高盤	49	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｉ－４	
盤・高盤	50	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｉ－４	
盤・高盤	51	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｉ－４	
盤・高盤	52	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	遺構外	
盤・高盤	53	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	遺構外	
盤・高盤	54	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ａ区	遺構外	
盤・高盤	55	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－８	
盤・高盤	56	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－９	
盤・高盤	57	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－19	
盤・高盤	58	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－82	
盤・高盤	59	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－87	
盤・高盤	60	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－123	
盤・高盤	61	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－123	
盤・高盤	62	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－120	
盤・高盤	63	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－120	高盤
盤・高盤	64	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ｚ区	Ｈ－24	
盤・高盤	65	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－34	
盤・高盤	66	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－40	
盤・高盤	67	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－60	
盤・高盤	68	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－60	
盤・高盤	69	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－264	
盤・高盤	70	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－196	
盤・高盤	71	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－208	
盤・高盤	72	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－230	
盤・高盤	73	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－230	
盤・高盤	74	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－230	

種類	№	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
盤・高盤	75	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	Ｈ―230	
盤・高盤	76	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	Ｂ―17	
盤・高盤	77	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	Ⅰ―４	
盤・高盤	78	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	Ⅰ―４	
盤・高盤	79	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	遺構外	
盤・高盤	80	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	遺構外	
盤・高盤	81	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	遺構外	
盤・高盤	82	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	河川敷	包含層	
盤・高盤	83	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｇ区	Ｈ―22	
盤・高盤	84	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｇ区	Ｈ―60	
盤・高盤	85	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｇ区	Ｈ―74	
盤・高盤	86	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｇ区	Ｈ―90	
盤・高盤	87	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｈ―50	
盤・高盤	88	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｈ―53	
盤・高盤	89	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ―10	
盤・高盤	90	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ―10	
盤・高盤	91	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ―12	
盤・高盤	92	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ―12	
盤・高盤	93	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ―12	
盤・高盤	94	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ―12	
盤・高盤	95	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―34	
盤・高盤	96	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―35	
盤・高盤	97	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―56	
盤・高盤	98	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―61	
盤・高盤	99	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―61	
盤・高盤	100	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―61	
盤・高盤	101	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―95	
盤・高盤	102	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―109	
盤・高盤	103	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ⅰ区	Ｈ―113	
盤・高盤	104	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ―18	
盤・高盤	105	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ―66	
盤・高盤	106	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ―66	
盤・高盤	107	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ―70	
盤・高盤	108	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ―76	
盤・高盤	109	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ―92	
盤・高盤	110	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	工房跡	12号	
盤・高盤	111	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ⅰ区	Ａ地点	
盤・高盤	112	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ⅰ区	その他	
盤・高盤	113	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ⅰ区	その他	
盤・高盤	114	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ区	Ｈ―７	
盤・高盤	115	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ区	Ｈ―26	
盤・高盤	116	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｏ区	竈　採掘溝	
盤・高盤	117	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	118	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	119	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	120	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	121	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	122	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	123	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	124	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	125	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	126	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	127	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	128	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	129	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	130	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ・Ｎ区	第２台地下	
盤・高盤	131	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｊ区	表採	
盤・高盤	132	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｋ区	表採	
盤・高盤	133	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｅ区	Ｈ―119	
盤・高盤	134	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｆ区	Ｈ―12	
盤・高盤	135	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｅ区		
盤・高盤	136	中尾遺跡（遺物編）	Ｄ区	Ｈ―98	
盤・高盤	137	中尾遺跡（遺物編）	Ｄ区	Ｈ―113	
盤・高盤	138	中尾遺跡（遺物編）	Ｄ区	Ｈ―83	
盤・高盤	139	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	ＭＫ区	遺構外	
盤・高盤	140	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	土坑	
盤・高盤	141	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	Ⅲ層	
盤・高盤	142	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	Ⅲ層	
盤・高盤	143	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	Ⅲ層	
盤・高盤	144	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	Ⅲ層	
盤・高盤	145	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	Ⅲ層	
盤・高盤	146	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	２号河道	

種類	№	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
盤・高盤	147	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	３号河道	高盤
盤・高盤	148	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	３号河道	
盤・高盤	149	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	３号河道	
盤・高盤	150	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	４号河道	
盤・高盤	151	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	５号河道	
盤・高盤	152	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	河道	
盤・高盤	153	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	河道	
盤・高盤	154	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	河道	
盤・高盤	155	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	河道	
盤・高盤	156	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	河道	
盤・高盤	157	元総社寺田遺跡Ⅲ	ⅥＢ区	Ｗ－１	
盤・高盤	158	元総社明神遺跡Ⅱ	６トレ	Ｗ－８	
盤・高盤	159	元総社明神遺跡Ⅵ	６トレ	Ｗ－11	
盤・高盤	160	元総社明神遺跡Ⅵ	６トレ	Ｗ－11	
盤・高盤	161	元総社明神遺跡Ⅻ	33トレ	Ｈ－７	
盤・高盤	162	元総社明神遺跡Ⅻ	34トレ		
盤・高盤	163	上野国分尼寺跡・上野国分二寺中間地域	尼寺跡	講堂	
盤・高盤	164	上野国分尼寺跡・上野国分二寺中間地域	尼寺跡	東門	
盤・高盤	165	上野国分尼寺跡・上野国分二寺中間地域	Ｍ６区	耕作土	畿内産
盤・高盤	166	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－１	
盤・高盤	167	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－６	
盤・高盤	168	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－19	
盤・高盤	169	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－97	
盤・高盤	170	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－107	
盤・高盤	171	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－166	
盤・高盤	172	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｗ－17	
盤・高盤	173	元総社西川・塚田中原遺跡	表土		
盤・高盤	174	元総社西川・塚田中原遺跡	表土		
盤・高盤	175	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－74	
盤・高盤	176	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－90	
盤・高盤	177	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ａ－３区	Ⅰ－１	
盤・高盤	178	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ｂ－３区	Ｈ－19	
盤・高盤	179	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ｂ－３区	Ｈ－28Ｂ	
盤・高盤	180	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ｂ－１区	Ｈ－36	
盤・高盤	181	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ｂ－１区	Ⅰ－１	
盤・高盤	182	国府南部遺跡群Ⅲ	Ｂ区	Ｈ－１	
盤・高盤	183	国府南部遺跡群Ⅳ		Ｈ－１	
盤・高盤	184	国府南部遺跡群Ⅴ	Ｄ区	井戸	
盤・高盤	185	天神Ⅱ遺跡		Ｈ－１	
盤・高盤	186	天神Ⅲ遺跡		Ｈ－７	
盤・高盤	187	寺田遺跡	第３調査区	Ｆ－８－Ｊ	
盤・高盤	188	堰越Ⅱ遺跡		Ｗ－４	
盤・高盤	189	樋越遺跡		Ｄ－３	
円面硯	1	元総社蒼海遺跡群②　元総社小見遺跡	３区	Ｈ－11	
円面硯	2	元総社蒼海遺跡群（３）元総社小見Ⅶ遺跡		Ｗ－１	
円面硯	3	元総社蒼海遺跡群（26）	３区	Ｗ－３	
円面硯	4	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－54	秋間系
円面硯	5	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－124	吉井系
円面硯	6	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－25	
円面硯	7	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－83	
円面硯	8	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	Ｈ－184	
円面硯	9	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	Ⅰ－９	
円面硯	10	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ⅰ区	第４号溝状遺構	
円面硯	11	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ－12	圏足
円面硯	12	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ⅰ	Ｈ区	Ｗ－12	圏足
円面硯	13	鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ－11	
円面硯	14	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｊ・Ⅰ区	Ｗ－１	
円面硯	15	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｊ区	表採	
円面硯	16	上野国分尼寺跡・上野国分二寺中間地域	尼寺跡	講堂調査区	
円面硯	17	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－58	
円面硯	18	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	Ｂ－１区	Ｈ－35	
円面硯	19	国府南部遺跡群Ⅴ	Ｃ区	Ｗ－３	
円面硯	20	天神Ⅲ遺跡		確認面	
円面硯	21	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	土坑	
円面硯	22	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	Ⅲ層	
円面硯	23	元総社寺田遺跡Ⅲ	Ⅵ区	３号河道	
円面硯	24	元総社明神遺跡Ⅻ		Ｈ－５	
円面硯	25	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－124	
円面硯	26	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	Ｈ－14	９・10世紀の住居34軒
蹄脚硯	1	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ－41	
丸鞆	1	元総社蒼海遺跡群④　元総社小見内Ⅲ遺跡	13区	遺構外	石
丸鞆	2	元総社蒼海遺跡群（１）	２トレ	Ｈ－14	銅

種類	No.	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
丸鞆	3	鳥羽遺跡G・H・I	G区	H―17	石
丸鞆	4	鳥羽遺跡I・J・K	K区	H―9	金銅
丸鞆	5	鳥羽遺跡I・J・K	K区	H―31	蛇紋岩
丸鞆	6	鳥羽遺跡I・J・K	K区	H―90	銅
丸鞆	7	鳥羽遺跡L・M・N・O	L区	H―68	変玄武岩
丸鞆	8	鳥羽遺跡L・M・N・O	M・N区	第2台地下	銅　黒漆塗り
丸鞆	9	鳥羽遺跡L・M・N・O	L区	第4台地	結晶片岩
丸鞆	10	中尾遺跡（遺物編）			石
巡方	1	元総社蒼海遺跡群④　元総社小見内Ⅲ遺跡	13区	遺構外	花崗岩類
巡方	2	元総社蒼海遺跡群（1）	2トレ	表採	蛇紋岩
巡方	3	元総社蒼海遺跡群（24）	31区	H―10	黒色頁岩
巡方	4	元総社蒼海遺跡群（29）	1区	W―1	黒色頁岩
巡方	5	鳥羽遺跡G・H・I	G区	H―7	銅
巡方	6	鳥羽遺跡L・M・N・O	L区	H―67	変玄武岩
巡方	7	鳥羽遺跡L・M・N・O	G区		銅
巡方	8	鳥羽遺跡L・M・N・O	H区		銅
巡方	9	中尾遺跡（遺物編）	D区	H―66	石
巡方	10	中尾遺跡（遺物編）	C区	H―37	石
巡方	11	中尾遺跡（遺物編）	C区	H―37	石
巡方	12	中尾遺跡（表採）	C区	H―37	石
蛇尾	1	元総社蒼海遺跡群（20）	11区	H―4	鉄
蛇尾	2	元総社蒼海遺跡群（26）	7区	H―5	鉄
蛇尾	3	上野国分僧寺・尼寺中間地域（3）	D区	H―1	石
蛇尾	4	中尾遺跡（遺物編）	D区	H―148	銅
蛇尾	5	天神遺跡		H―24	銅
帯金具	1	元総社蒼海遺跡群⑧　元総社小見内Ⅳ遺跡	C区	D―88	鉄
帯金具	2	元総社蒼海遺跡群⑧　元総社小見内Ⅳ遺跡	C区	D―128	鉄
帯金具	3	元総社蒼海遺跡群⑬元総社小見内Ⅸ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	A区	H―4	金銅製
帯金具	4	上野国分僧寺・尼寺中間地域（7）	I区	H―40	鉄
緑釉陶器	1	元総社蒼海遺跡群②　元総社小見遺跡	8区	遺構外	皿
緑釉陶器	2	元総社蒼海遺跡群④　元総社小見内Ⅲ遺跡	9区	H―3	皿
緑釉陶器	3	元総社蒼海遺跡群⑤　元総社小見Ⅱ遺跡		H―28B	手付小瓶
緑釉陶器	4	元総社蒼海遺跡群⑤　元総社小見Ⅱ遺跡		H―35	唾壺
緑釉陶器	5	元総社蒼海遺跡群⑤　元総社小見Ⅱ遺跡		遺構外	椀
緑釉陶器	6	元総社蒼海遺跡群⑤　元総社小見Ⅱ遺跡		遺構外	皿
緑釉陶器	7	元総社蒼海遺跡群⑤　元総社小見Ⅱ遺跡		遺構外	
緑釉陶器	8	元総社蒼海遺跡群⑥　元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡	2区	DB-1	
緑釉陶器	9	元総社蒼海遺跡群⑪　元総社小見内Ⅶ遺跡	X92	Y98	
緑釉陶器	10	元総社蒼海遺跡群⑬　元総社小見内Ⅳ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	小見内Ⅳ　A区	H―3	
緑釉陶器	11	元総社蒼海遺跡群⑭　元総社小見Ⅵ遺跡		H―38	高台椀
緑釉陶器	12	元総社蒼海遺跡群⑭　元総社小見Ⅵ遺跡		H―38	高台椀
緑釉陶器	13	元総社蒼海遺跡群（2）	5トレ	H―5	
緑釉陶器	14	元総社蒼海遺跡群（4）		W―1	高台椀
緑釉陶器	15	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―8	椀
緑釉陶器	16	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―8	椀
緑釉陶器	17	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―17	椀
緑釉陶器	18	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―25	稜椀
緑釉陶器	19	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―27	椀
緑釉陶器	20	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―29	皿
緑釉陶器	21	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―29	耳皿
緑釉陶器	22	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―29	稜椀
緑釉陶器	23	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	H―29	稜椀
緑釉陶器	24	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	グリッド覆土	稜椀
緑釉陶器	25	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	26	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	27	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	28	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	29	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	30	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	31	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	32	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	33	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	高台
緑釉陶器	34	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	35	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜皿
緑釉陶器	36	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜椀
緑釉陶器	37	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	O―1	稜皿
緑釉陶器	38	元総社蒼海遺跡群（8）	A区	W―5	皿
緑釉陶器	39	元総社蒼海遺跡群（8）	X38	Y209	椀
緑釉陶器	40	元総社蒼海遺跡群（12）		H―53	
緑釉陶器	41	元総社蒼海遺跡群（13）	1区	H―3	椀
緑釉陶器	42	元総社蒼海遺跡群（13）	1区	H―4	椀
緑釉陶器	43	元総社蒼海遺跡群（13）	1区	H―4	稜椀

種類	№	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
緑釉陶器	44	元総社蒼海遺跡群（13）	５区	Ｈ－１	稜椀
緑釉陶器	45	元総社蒼海遺跡群（13）	５区	Ｈ－１	稜椀
緑釉陶器	46	元総社蒼海遺跡群（13）	５区	Ｈ－１	皿
緑釉陶器	47	元総社蒼海遺跡群（13）	５区	Ｈ－１	稜椀
緑釉陶器	48	元総社蒼海遺跡群（13）	11区	Ｈ－20	稜椀
緑釉陶器	49	元総社蒼海遺跡群（13）	11区	Ｋ－１	長頸壺
緑釉陶器	50	元総社蒼海遺跡群（14）（19）	４トレ	表採	椀
緑釉陶器	51	元総社蒼海遺跡群（14）（19）	４トレ	グリッド	高台椀
緑釉陶器	52	元総社蒼海遺跡群（14）（19）	５トレ	グリッド	椀
緑釉陶器	53	元総社蒼海遺跡群（22）	８区	Ｈ－23	皿
緑釉陶器	54	元総社蒼海遺跡群（22）	８区	Ｄ－24	埦
緑釉陶器	55	元総社蒼海遺跡群（22）	８区	Ｄ－24	皿
緑釉陶器	56	元総社蒼海遺跡群（26）	７区	Ｈ－12	稜椀
緑釉陶器	57	元総社蒼海遺跡群（27）	２区	遺構外	碗
緑釉陶器	58	元総社蒼海遺跡群（27）	２区	遺構外	長頸壺
緑釉陶器	59	元総社蒼海遺跡群（28）		Ｈ－36	碗
緑釉陶器	60	元総社蒼海遺跡群（28）		遺構外	碗
緑釉陶器	61	元総社蒼海遺跡群（28）		遺構外	長頸壺
緑釉陶器	62	元総社蒼海遺跡群（36）	３区	Ｈ－10	高台付皿
緑釉陶器	63	元総社蒼海遺跡群（37）	１区	Ｈ－23	埦
緑釉陶器	64	元総社蒼海遺跡群（37）	１区	Ｄ－35	埦
緑釉陶器	65	元総社蒼海遺跡群（37）	２区	Ｈ－３	埦
緑釉陶器	66	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｆ区	Ｈ－23	稜椀
緑釉陶器	67	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｆ区	Ｈ－46	埦
緑釉陶器	68	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－３	稜皿
緑釉陶器	69	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－23	埦
緑釉陶器	70	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－25	埦
緑釉陶器	71	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－49	埦
緑釉陶器	72	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－59	皿
緑釉陶器	73	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－59	埦
緑釉陶器	74	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－61	埦
緑釉陶器	75	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－61	瘞壺
緑釉陶器	76	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－61	埦
緑釉陶器	77	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－71	皿
緑釉陶器	78	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－71	稜埦
緑釉陶器	79	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－71	段皿
緑釉陶器	80	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－71	稜埦
緑釉陶器	81	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－79	稜皿
緑釉陶器	82	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－134	稜皿
緑釉陶器	83	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－114	埦
緑釉陶器	84	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｈ－136	埦
緑釉陶器	85	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｄ－156	埦
緑釉陶器	86	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｉ－４	埦
緑釉陶器	87	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｉ－６	稜埦
緑釉陶器	88	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｆ区	Ｗ－10	段皿
緑釉陶器	89	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	Ｇ区	Ｗ－26	埦
緑釉陶器	90	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｄ区	Ｈ－１	埦
緑釉陶器	91	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｄ区	Ｈ－１	皿
緑釉陶器	92	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｄ区	Ｈ－７	埦
緑釉陶器	93	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｃ区	Ｈ－４	埦
緑釉陶器	94	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｈ区	Ｈ－９	埦
緑釉陶器	95	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｈ区	Ｈ－98	埦
緑釉陶器	96	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｈ区	Ｈ－98	埦
緑釉陶器	97	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｈ区	Ｈ－157	埦
緑釉陶器	98	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｆ区	第Ⅲ層	美濃系埦
緑釉陶器	99	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｆ区	Ｗ－３	美濃系埦
緑釉陶器	100	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｇ区	表土	埦
緑釉陶器	101	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	Ｇ区	表土	埦
緑釉陶器	102	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－22	劃花文碗
緑釉陶器	103	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－29	輪花文碗
緑釉陶器	104	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－67	埦
緑釉陶器	105	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－67	埦
緑釉陶器	106	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－77	埦
緑釉陶器	107	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－80	埦
緑釉陶器	108	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－99	埦
緑釉陶器	109	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－135	輪花文碗
緑釉陶器	110	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	Ｈ－150	劃花文碗
緑釉陶器	111	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	112	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	113	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	114	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	115	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗

種類	No.	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
緑釉陶器	116	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	117	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	118	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	119	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	120	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	121	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	122	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	123	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	124	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	125	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	126	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	127	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	128	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	129	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	130	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	131	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｃ区	遺構外	碗
緑釉陶器	132	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	Ｂ区	Ｗ－１	碗
緑釉陶器	133	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ａ区	Ｈ－22	近江美濃
緑釉陶器	134	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	Ｂ区	Ｈ－51	破片
緑釉陶器	135	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	Ａ区	Ｈ－88	碗
緑釉陶器	136	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｈ－210	碗
緑釉陶器	137	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	Ｉ区	Ｄ－61	小碗
緑釉陶器	138	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	染谷川河川敷部	階段状遺構	埦
緑釉陶器	139	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	Ｃ区	Ｈ－21	
緑釉陶器	140	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	Ｃ区	Ｈ－21	
緑釉陶器	141	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	Ｃ区	Ｈ－79	
緑釉陶器	142	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	Ｃ区	Ｈ－79	
緑釉陶器	143	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	Ｃ区	Ｈ－79	埦
緑釉陶器	144	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｇ区	Ｈ－４	皿
緑釉陶器	145	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｉ区	Ｈ－13	埦
緑釉陶器	146	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｉ区	Ｈ－19	皿
緑釉陶器	147	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｉ区	Ｈ－52	椀
緑釉陶器	148	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｉ区	Ｈ－52	椀
緑釉陶器	149	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ	Ｉ区	Ｈ－52	
緑釉陶器	150	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ－６	椀
緑釉陶器	151	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ－34	口縁部
緑釉陶器	152	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｊ区	Ｈ－95	皿
緑釉陶器	153	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－10	段皿
緑釉陶器	154	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－10	椀
緑釉陶器	155	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－27	小片
緑釉陶器	156	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－90	椀
緑釉陶器	157	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－122	輪花椀
緑釉陶器	158	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－122	輪花椀
緑釉陶器	159	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－122	椀
緑釉陶器	160	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－150	段皿
緑釉陶器	161	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－157	
緑釉陶器	162	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｋ区	Ｈ－157	皿
緑釉陶器	163	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｉ区	１号工房跡	皿
緑釉陶器	164	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｉ区	工房関連Ａ	椀
緑釉陶器	165	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｉ区	工房関連Ｂ	椀
緑釉陶器	166	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｉ区	その他	段皿
緑釉陶器	167	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ	Ｉ区	その他	椀
緑釉陶器	168	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－84	椀
緑釉陶器	169	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－73	瓶
緑釉陶器	170	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－77	椀
緑釉陶器	171	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－87	
緑釉陶器	172	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－121	椀
緑釉陶器	173	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－121	段皿
緑釉陶器	174	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－121	椀
緑釉陶器	175	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－121	
緑釉陶器	176	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	Ｈ－183	皿
緑釉陶器	177	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｍ区	第３台地	椀
緑釉陶器	178	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	第４台地	椀
緑釉陶器	179	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｌ区	第４台地	椀
緑釉陶器	180	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｊ区	Ｗ－１	皿
緑釉陶器	181	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ	Ｋ区	Ｗ－８	皿
緑釉陶器	182	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｅ区	Ｈ－１	椀
緑釉陶器	183	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｅ区	Ｈ－９	稜椀
緑釉陶器	184	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｆ区	Ｈ－６	椀
緑釉陶器	185	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区	16号墓	椀
緑釉陶器	186	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区	Ｗ－405	椀
緑釉陶器	187	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区	Ｗ－405	椀

種類	№	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
緑釉陶器	188	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区	Ｗ―289	椀
緑釉陶器	189	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区	Ｗ―405	段皿
緑釉陶器	190	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｃ区	表土	東海産
緑釉陶器	191	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区		小椀
緑釉陶器	192	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区		椀
緑釉陶器	193	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区		皿
緑釉陶器	194	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｄ区		皿
緑釉陶器	195	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｅ区		椀
緑釉陶器	196	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｅ区		椀
緑釉陶器	197	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ	Ｆ区		椀
緑釉陶器	198	中尾遺跡（遺物編）	Ｃ区	Ｈ―30	高台付皿
緑釉陶器	199	中尾遺跡（遺物編）	Ｃ区	Ｈ―32	高台付皿
緑釉陶器	200	中尾遺跡（遺物編）	Ｃ区	Ｈ―32	高台付椀
緑釉陶器	201	中尾遺跡（遺物編）	Ｃ区	Ｈ―32	高台付皿
緑釉陶器	202	中尾遺跡（遺物編）	Ｃ区	Ｈ―105	高台付椀
緑釉陶器	203	中尾遺跡（遺物編）	Ｅ区	Ｈ―31	高台付椀
緑釉陶器	204	中尾遺跡（遺物編）	115Ｃ―18	グリッド	高台付皿
緑釉陶器	205	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｉ―11	皿
緑釉陶器	206	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｗ―23	唾壺
緑釉陶器	207	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―71	段皿
緑釉陶器	208	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―80	高台付皿
緑釉陶器	209	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―101	水瓶
緑釉陶器	210	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―124	皿
緑釉陶器	211	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―141	椀
緑釉陶器	212	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―147	椀
緑釉陶器	213	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―151	椀
緑釉陶器	214	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―151	手付瓶
緑釉陶器	215	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―154	手付瓶
緑釉陶器	216	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―155	手付瓶
緑釉陶器	217	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―155	手付瓶
緑釉陶器	218	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―163	埦
緑釉陶器	219	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―168	埦
緑釉陶器	220	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―170・171	埦
緑釉陶器	221	元総社西川・塚田中原遺跡		Ｈ―194	埦
緑釉陶器	222	国府南部遺跡群Ｉ・II	Ｂ―４区	Ｈ―８	埦
緑釉陶器	223	国府南部遺跡群Ｉ・II	Ｂ―１区	Ｉ―４	
緑釉陶器	224	国府南部遺跡群III	Ｂ区	Ｗ―６	埦
緑釉陶器	225	国府南部遺跡群III	Ｅ区	Ｈ―１	埦
緑釉陶器	226	国府南部遺跡群IV		Ｈ―９	埦
緑釉陶器	227	国府南部遺跡群IV		Ｈ―９	埦
緑釉陶器	228	国府南部遺跡群IV		Ｈ―16	埦
緑釉陶器	229	国府南部遺跡群IV		Ｈ―15	埦
緑釉陶器	230	国府南部遺跡群Ｖ	Ｅ区	Ｈ―49	皿
緑釉陶器	231	天神III遺跡		Ｈ―１	埦
緑釉陶器	232	天神III遺跡		遺構外	埦
緑釉陶器	233	天神遺跡		Ｈ―12	
緑釉陶器	234	天神遺跡		Ｈ―15	
緑釉陶器	235	天神遺跡		Ｈ―17	
緑釉陶器	236	天神遺跡		Ｈ―22	
緑釉陶器	237	天神遺跡		Ｈ―22	
緑釉陶器	238	天神遺跡		Ｈ―30	
緑釉陶器	239	天神遺跡		Ｈ―30	
緑釉陶器	240	元総社寺田遺跡Ｉ	II区１面	グリッド	
緑釉陶器	241	元総社寺田遺跡Ｉ	IV区１面	Ｗ―４	
緑釉陶器	242	元総社寺田遺跡Ｉ	Ｖ区１面	Ｗ―５	
緑釉陶器	243	元総社寺田遺跡Ｉ	IV区２面	グリッド	
緑釉陶器	244	元総社寺田遺跡Ｉ	Ｖ区２面	Ｗ―８	
緑釉陶器	245	元総社寺田遺跡III	VI区	III層	
緑釉陶器	246	元総社寺田遺跡III	VI区	３号河道	
緑釉陶器	247	元総社寺田遺跡III	VI区	３号河道	
緑釉陶器	248	元総社寺田遺跡III	VII区	台地	
緑釉陶器	249	元総社明神遺跡Ｉ	８トレ	Ｈ―９	高台皿
緑釉陶器	250	元総社明神遺跡II	５トレ	Ｈ―18	皿
緑釉陶器	251	元総社明神遺跡II	９トレ	Ｗ―３	
緑釉陶器	252	元総社明神遺跡VIII	Ｙトレ		
緑釉陶器	253	元総社明神遺跡VIII	Ｙトレ		
緑釉陶器	254	元総社明神遺跡VIII	Ｙトレ		
緑釉陶器	255	元総社明神遺跡VIII	Ｙトレ		
緑釉陶器	256	元総社明神遺跡VIII	Ｙトレ		
緑釉陶器	257	元総社明神遺跡VIII	27トレ		
緑釉陶器	258	元総社明神遺跡IX	29トレ		
緑釉陶器	259	元総社明神遺跡IX	29トレ		

種類	№	報　告　書　名	区　名	出土地	備　考
緑釉陶器	260	元総社明神遺跡IX	29トレ		
緑釉陶器	261	元総社明神遺跡IX	29トレ		
緑釉陶器	262	元総社明神遺跡IX	29トレ		
緑釉陶器	263	元総社明神遺跡IX	29トレ		
緑釉陶器	264	元総社明神遺跡IX	29トレ		
緑釉陶器	265	元総社明神遺跡XI	C区	表採	
緑釉陶器	266	元総社明神遺跡XII	β トレンチ	D―57	高台椀
緑釉陶器	267	堰越遺跡		D―39	埦
緑釉陶器	268	堰越遺跡		D―39	埦
緑釉陶器	269	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―４	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	270	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―14	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	271	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―19	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	272	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	表採	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	273	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―19	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	274	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―19	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	275	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―26	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	276	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―21	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	277	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―７	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	278	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―13・14	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	279	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	H―13・14	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	280	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	不明	９・10世紀の住居34軒
緑釉陶器	281	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	不明	９・10世紀の住居34軒
三彩	1	元総社蒼海遺跡群（13）	１区	H―３	小壺
三彩	2	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	G区	H―22	薬壺
三彩	3	史跡　上野国分寺跡	５トレ	表土	盤
三彩	4	史跡　上野国分寺跡	19次	表土	薬壺
三彩	5	元総社西川・塚田中原遺跡		D―219	蓋
三彩	6	元総社西川・塚田中原遺跡		表土	壺
三彩	7	元総社西川・塚田中原遺跡		H―154	小壺
銅椀	1	元総社蒼海遺跡群（18）	A区	H―７	外面に沈線２ヶ所
銅椀	2	鳥羽遺跡G・H・I	I区	H―103	銅
銅椀	3	鳥羽遺跡G・H・I	I区	H―103	
銅椀	4	鳥羽遺跡L・M・N・O	M区	H―42	口縁部小片
銅椀	5	元総社西川・塚田中原遺跡		H―123	
銅椀	6	元総社西川・塚田中原遺跡		H―123	
銅椀	7	元総社西川・塚田中原遺跡		H―123	５と同一個体か
銅椀	8	天神遺跡		H―24	
銅椀	9	弥勒（３）遺跡　年報36集　平成17年度文化財調査報告書	トレンチ調査	不明	９・10世紀の住居34軒

報告書一覧

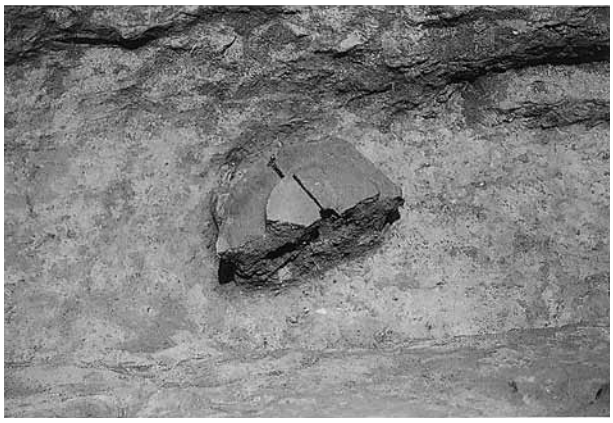
番号	書　　名	発行年月日	発行機関
1	元総社蒼遺跡群①総社閑泉明神北遺跡	2000年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
2	元総社蒼遺跡群②元総社小見遺跡	2001年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
3	元総社蒼遺跡群③総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡	2002年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
4	元総社蒼遺跡群④元総社小見内III遺跡	2002年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
5	元蒼遺跡群⑤元総社小見II遺跡	2003年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
6	元蒼遺跡群⑥元総社小見III遺跡・元総社草作V遺跡	2003年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
7	元蒼遺跡群⑦総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡	2003年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
8	元蒼遺跡群⑧元総社小見内IV遺跡	2003年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
9	元蒼遺跡群⑨元総社小見IV遺跡	2004年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
10	元蒼遺跡群⑩元総社小見V遺跡　元総社小見内VI遺跡	2004年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
11	元蒼遺跡群⑪元総社小見内VII遺跡	2004年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
12	元蒼遺跡群⑫元総社小見内VIII遺跡・総社甲稲荷塚大道西IV遺跡	2004年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
13	元蒼遺跡群⑬元総社小見内IX遺跡・総社閑泉明神北V遺跡	2005年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
14	元蒼遺跡群⑭元総社小見VI遺跡	2005年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
15	元蒼遺跡群⑮元総社小見内X遺跡	2005年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
16	元総社蒼遺跡群（１）	2006年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
17	元総社蒼遺跡群（２）	2006年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
18	元総社蒼遺跡群（３）元総社小見VII遺跡	2006年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
19	元総社蒼遺跡群（４）	2006年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
20	元総社蒼遺跡群（５）	2006年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
21	元総社蒼遺跡群（６）	2006年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
22	元総社蒼遺跡群（７）	2006年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
23	元総社蒼遺跡群（８）	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
24	元総社蒼海蒼遺跡群（９）・(10)	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
25	元総社蒼海遺跡群（11）	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
26	元総社蒼海遺跡群（12）	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
27	元総社蒼海遺跡群（13）	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
28	元総社蒼遺跡群（14）・(19)	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
29	元総社蒼遺跡群（15）	2008年２月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
30	元総社蒼遺跡群（16）	2008年２月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
31	元総社蒼遺跡群（17）	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団

番号	書　　名	発行年月日	発行機関
32	元総社蒼遺跡群（18）	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
33	元総社蒼遺跡群（20）	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
34	元総社蒼遺跡群（21）	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
35	元総社蒼遺跡群（22）	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
36	元総社蒼遺跡群（23）	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
37	元総社蒼遺跡群（24）	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
38	元総社蒼遺跡群（25）	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
39	元総社蒼遺跡群（26）	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
40	元総社蒼遺跡群（27）	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
41	元総社蒼遺跡群（28）	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
42	元総社蒼遺跡群（29）	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
43	元総社蒼遺跡群（30）	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
44	元総社蒼遺跡群（31）	2010年12月	前橋市教育委員会
45	元総社蒼遺跡群（32）（33）	2011年３月	前橋市教育委員会
46	元総社蒼遺跡群（34）	2011年３月	前橋市教育委員会
47	元総社蒼遺跡群（35）	2011年２月	前橋市教育委員会
48	元総社蒼遺跡群（36）	2011年３月	前橋市教育委員会
49	元総社蒼遺跡群（37）	2012年３月	前橋市教育委員会
50	草作遺跡	1980年５月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
51	天神遺跡	1987年３月	前橋市教育委員会
52	天神Ⅱ遺跡	1989年１月	前橋市教育委員会
53	天神Ⅲ遺跡	2008年８月	前橋市教育委員会
54	弥勒遺跡	1990年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
55	弥勒遺跡Ⅱ	1996年３月	前橋市教育委員会
56	弥勒遺跡Ⅲ　年報　第36集　平成17年度文化財調査報告書	2006年９月	前橋市教育委員会
57	上野国分寺参道遺跡	1997年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
58	上野国分尼寺寺域確認調査	2000年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
59	元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ	2001年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
60	元総社明神遺跡Ⅰ	1983年３月	前橋市教育委員会
61	元総社明神遺跡Ⅱ	1984年３月	前橋市教育委員会
62	元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ	1986年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
63	元総社明神遺跡Ⅴ	1987年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
64	元総社明神遺跡Ⅵ	1988年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
65	元総社明神遺跡Ⅶ	1989年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
66	元総社明神遺跡Ⅷ	1990年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
67	元総社明神遺跡Ⅸ	1991年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
68	元総社明神遺跡Ⅹ	1992年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
69	元総社明神遺跡Ⅺ	1993年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
70	元総社明神遺跡Ⅻ	1994年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
71	元総社明神遺跡ⅩⅢ	1997年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
72	樋越遺跡	1986年３月	前橋市教育委員会
73	閑泉樋南遺跡	1986年３月	前橋市教育委員会
74	屋敷遺跡	1987年２月	前橋市教育委員会
75	屋敷Ⅱ遺跡	1996年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
76	寺田遺跡	1987年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
77	堰越遺跡	1988年３月	前橋市教育委員会
78	堰越Ⅱ遺跡	1988年６月	前橋市教育委員会
79	上野国分僧寺・尼寺中間地域（１）	1987年２月	群馬県教育委員会・群埋文
80	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	1988年３月	群馬県教育委員会・群埋文
81	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	1989年３月	群馬県教育委員会・群埋文
82	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	1990年３月	群馬県教育委員会・群埋文
83	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	1991年３月	群馬県教育委員会・群埋文
84	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	1992年２月	群馬県教育委員会・群埋文
85	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	1992年２月	群馬県教育委員会・群埋文
86	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	1992年３月	群馬県教育委員会・群埋文
87	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ区	1986年10月	群馬県教育委員会・群埋文
88	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ区	1988年３月	群馬県教育委員会・群埋文
89	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ区	1990年３月	群馬県教育委員会・群埋文
90	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｅ・Ｆ区	1992年３月	群馬県教育委員会・群埋文
91	中尾（遺物篇）	1984年３月	群馬県教育委員会・群埋文
92	史跡　上野国分寺跡	1989年３月	群馬県教育委員会
93	上野国分寺跡・上野国分二寺中間地域	1993年３月	群馬県教育委員会・群埋文
94	元総社西川遺跡	2001年12月	群馬県教育委員会・群埋文
95	元総社寺田遺跡Ⅰ	1993年３月	群馬県教育委員会・群埋文
96	元総社寺田遺跡Ⅲ	1996年３月	群馬県教育委員会・群埋文
97	元総社西川・塚田中原遺跡	2003年11月	群馬県教育委員会・群埋文
98	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	2007年３月	群馬県前橋土木事務所・群埋文
99	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	2000年３月	群馬町教育委員会
100	国府南部遺跡群Ⅲ	2001年３月	群馬町教育委員会
101	国府南部遺跡群Ⅳ	2002年３月	群馬町教育委員会
102	国府南部遺跡群Ⅴ	2003年３月	群馬町教育委員会
103	上野国分尼寺跡北辺遺跡	2002年３月	群馬町教育委員会

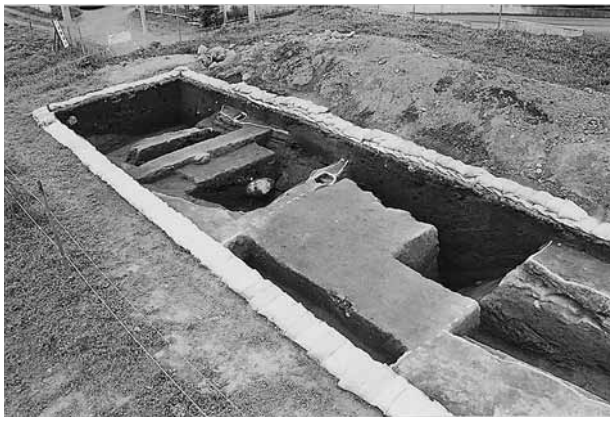
写　真　図　版

１　８トレンチ全景（東から）

２　８トレンチＷ－１号溝跡全景（南から）

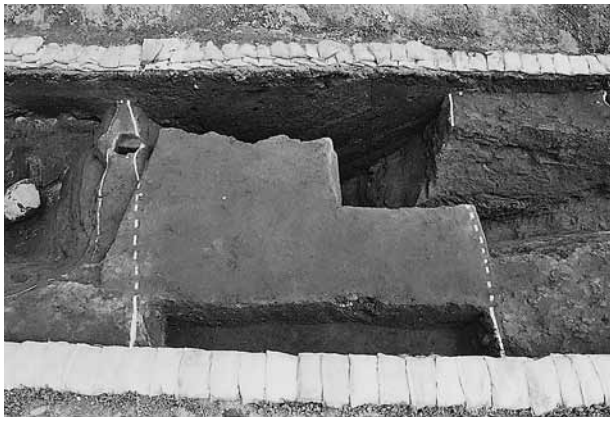


３　８トレンチＷ－１号溝跡遺物出土状況（南から）



４　８トレンチ西端　溝跡全景（南東から）

５　８トレンチＷ－２号・３号溝跡全景（西から）



６　８トレンチＷ－４号溝跡全景（南から）

７　８トレンチ　Ｉ－１号井戸全景（西から）

１　８トレンチ　中・近世遺構全景（東から）

２　９トレンチ調査前（西から）

３　９トレンチ全景（西から）

４　９トレンチＨ－１号住居跡全景（東から）

５　９トレンチＷ－２号溝跡全景（南東から）

６　10トレンチ全景（南から）

１　10トレンチＨ－１号住居跡全景（西から）

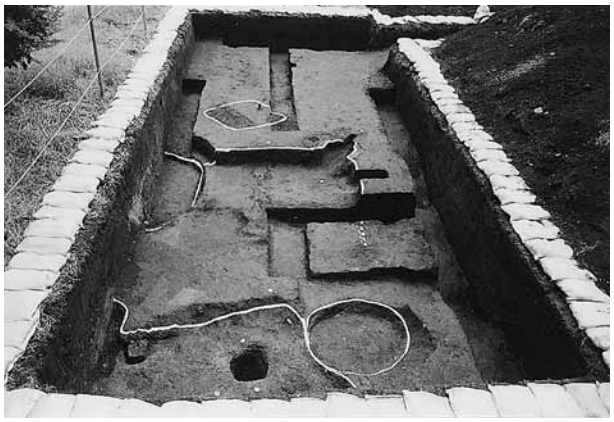
２　10トレンチＨ－２号住居跡全景（南西から）

３　10トレンチＨ－３号住居跡全景（西から）

４　10トレンチＨ－４号住居跡全景（南から）

５　11トレンチ全景（北から）

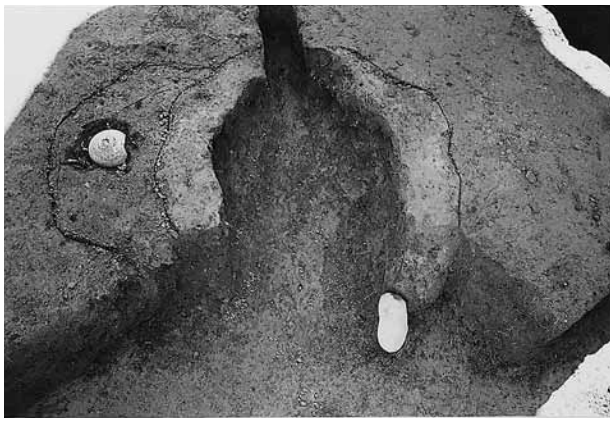
６　11トレンチＷ－１号溝跡全景（南西から）



１　12トレンチ全景（西から）

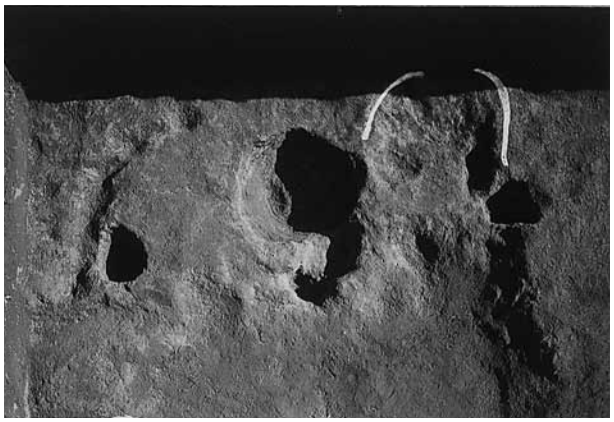
２　12トレンチＨ－１号住居跡全景（西から）

３　12トレンチＨ－２号住居跡全景（北西から）



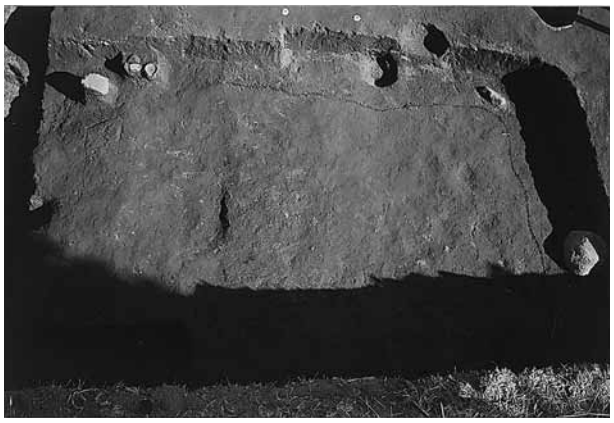
４　12トレンチＨ－２号住居跡竈全景（西から）

５　13トレンチ全景（南から）



１　13トレンチＨ－１号住居跡全景（西から）

２　13トレンチＨ－２・３号住居跡全景（西から）

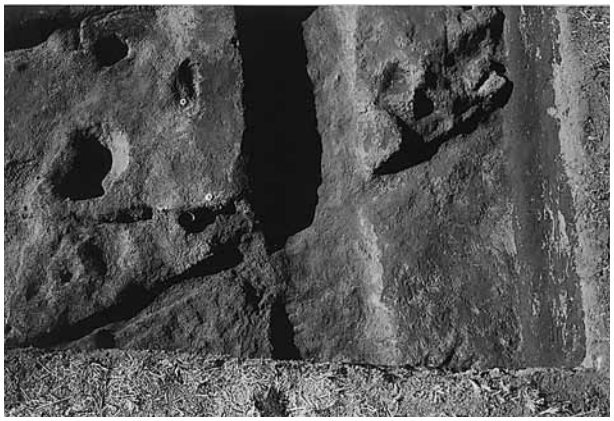


３　13トレンチＨ－４号住居全景（西から）

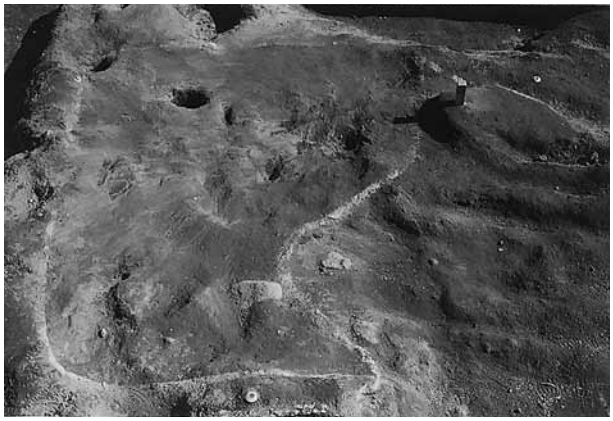
４　13トレンチＨ－５号住居跡全景（西から）

５　13トレンチＨ－６号住居跡全景（西から）

６　13トレンチＨ－７号住居跡全景（西から）



７　13トレンチＨ－８号住居跡全景（東から）



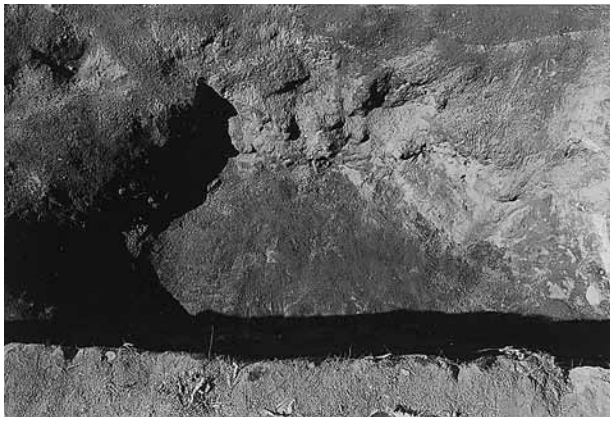
８　13トレンチＨ－９号住居跡全景（西から）

１　13トレンチＨ－10号住居跡全景（東から）

２　13トレンチＨ－11号住居跡全景（東から）

３　13トレンチＨ－13号住居跡全景（東から）

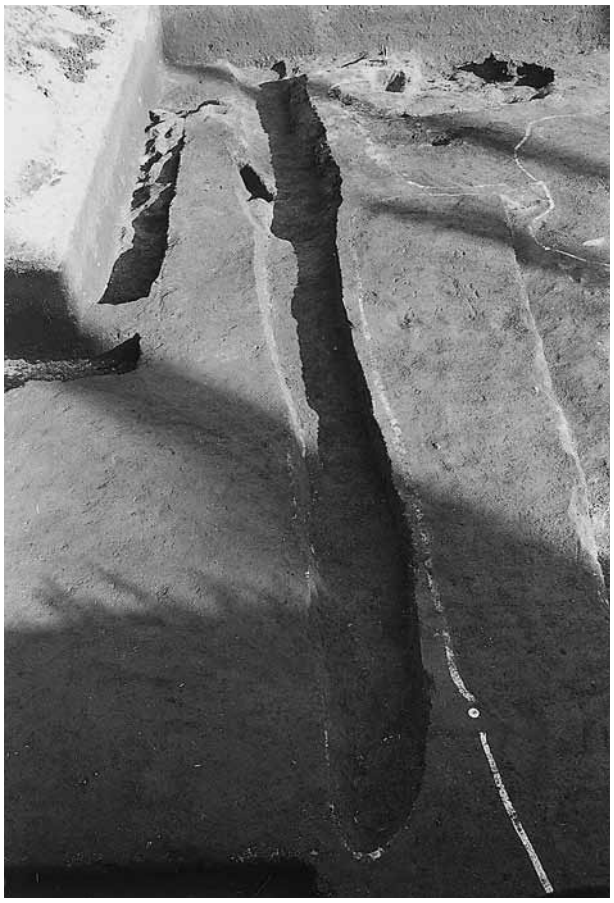
４　13トレンチＨ－13号住居跡竈全景（北東から）



５　13トレンチＤ－１号土坑全景（東から）

７　13トレンチＷ－１号溝跡土層堆積状況（南から）

６　13トレンチＷ－１号溝跡全景（南から）

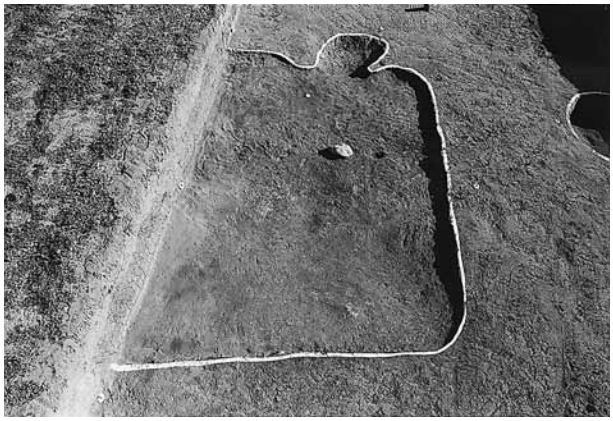


１　13トレンチＷ－２号溝跡全景（西から）

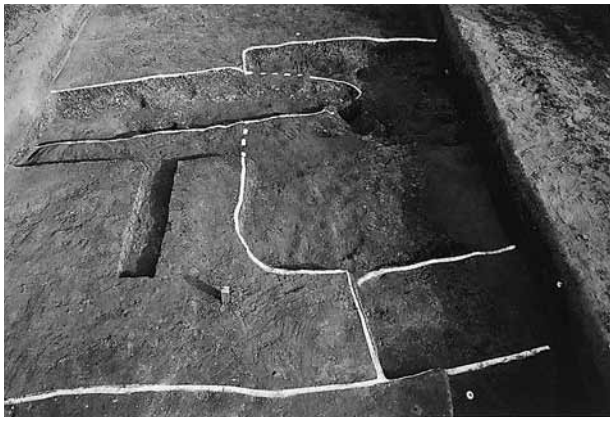
２　14トレンチ全景（北東から）

３　14トレンチＷ－１号溝跡土層堆積状況（西から）

４　15トレンチ全景（西から）



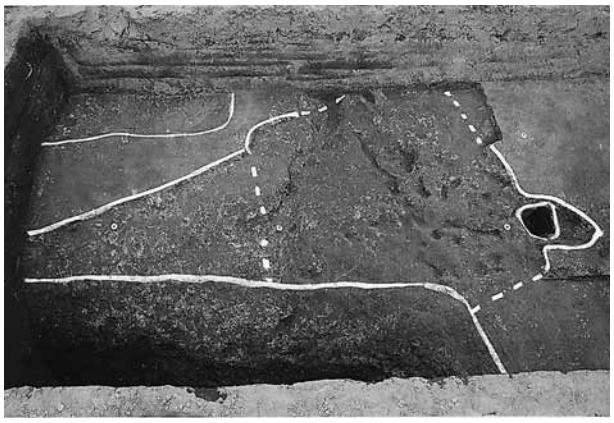
５　15トレンチＨ－１号住居跡全景（西から）



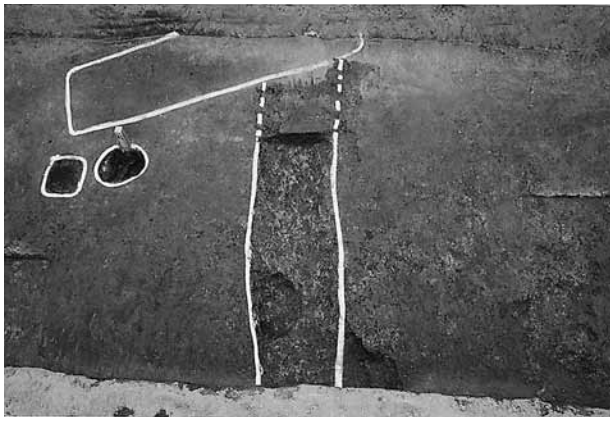
６　15トレンチＨ－２・３、Ｗ－１全景（西から）

１　15トレンチ中世造成面・ピット群全景（南西から）

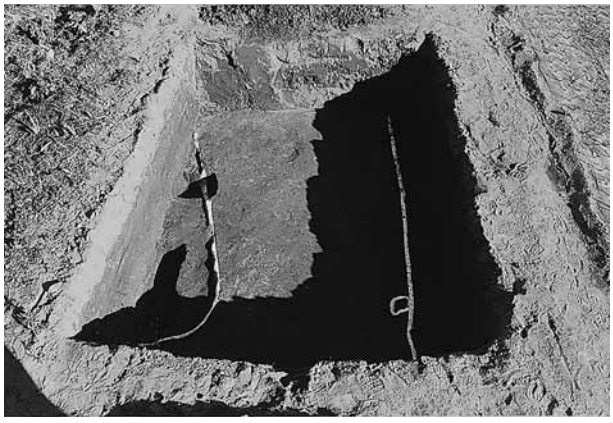
２　16トレンチ全景（西から）



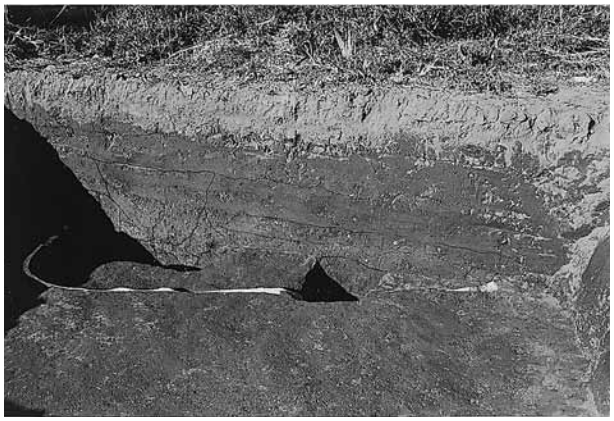
３　16トレンチＨ－１・２・３、Ｗ－１全景（南から）



４　16トレンチＷ－２、Ｄ－１全景（南から）



５　16トレンチ拡張部全景（西から）



６　16トレンチＨ－４号住居跡全景（南から）

７　調査風景

10-2

10-4

10-6

10-7

12-1

13-1

13-2

13-3

13-4

13-5

13-7

13-8

13-9

13-10

13-11

13-12

15-2

16-1

各トレンチ出土遺物

抄　録

フリガナ	スイテイコウズケコクフ
書名	推定上野国府
副書名	平成24年度発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	上野国府等範囲内容確認調査報告書
シリーズ番号	II
編著者名	阿久澤智和・並木勝洋・寺内勝彦・眞下　晃
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2013年12月13日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
スイテイコウズケコク フ 推定上野国府	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町2115-1ほか	10201	24A147	36°23′23″	139°02′06″	20120702 ～ 20130208	705㎡	範囲内容調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な検出遺構	主な出土遺物	特記事項
推定上野国府	集落跡 官衙 城館跡	古墳時代 奈良・平安時代 中世・近世	住居跡７軒 住居跡20軒、溝跡１条 溝跡11条、井戸５基、 ピット群、整地面	土師器、須恵器　他 土師器、須恵器、瓦　他 軟質土器、石製品　他	

上野国府等範囲内容確認調査報告書II

推定上野国府　平成24年度調査報告

2013年12月10日　印刷
2013年12月13日　発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課
印刷／松本印刷株式会社